文学部教育学科

講義概要・授業計画

令和７年度
（2025）

高野山大学

本誌の利用に際して

この「講義概要・授業計画」は、令和６年度に開講される授業科目の講義内容を掲載したものです。

学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により、当該科目のページを開くことで見ることができます。

総　目　次

文学部教育学科 ･･ 1
シラバスを活用しよう！･･ 2
履修登録と見方･･ 3
◆目次について
◆講義コードについて
◆受講登録について
◆出席票について
◆ＧＰＡについて
◆科目ナンバリングについて
◆シラバス「他」欄について
入学から卒業までの履修について（教育学科）･･･ 8
◆卒業認定・学位授与に関する方針（教育学科ディプロマ・ポリシー ＤＰ）
◆教育課程の編成・実施方針（教育学科カリキュラム・ポリシー）
◆必修科目
◆選択科目
◆自由科目
カリキュラムマップ
文学部教育学科科目目次･･･ 15
講義概要・授業計画･･･ 22

文　学　部

教　育　学　科

シラバスを活用しよう！

大学教育と高校までの教育との違いの一つに、学習の自己管理があります。高校までは、基本的に学校が作った時間割で学習しますが、大学ではいつどの科目をとるのかは、自分で決めます。だから、皆さんがどの科目を選択するのか決める際に、その科目の学習内容など、授業についての詳しい情報がなければ困ります。こうした情報を、教員が示したものが、シラバスというものです。

シラバスには、授業の目的や概要、到達目標、授業計画、テキスト、評価方法などが記されています。今年度の授業は、これに沿って進められますので、シラバスを大切にして学修を進めてください。

また、本学はＧＰＡ制度を導入しています。ＧＰＡは後の頁に説明がありますが、分かりにくければ、教務担当の事務職員に何度でも尋ねてください。シラバスについても、ＧＰＡについても、大事なことですから、十分に理解してください。

これからの１年間、意義ある学びをしていただくように期待しています。

履修登録と見方

◆目次について

この『令和７度文学部教育学科講義概要・授業計画』では、まず目次で開講科目を確認し、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

ターム	曜日	時限	講義コード	科　目　名	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	5	63501	空海の思想入門	松長潤慶	2	１年次	－		

開講時期
曜日
時間

講義コード

科目名

担当教員名

履修年次
（記載年次以上の年次の学生が履修できます）

履修制限や開講地についても記載しています。

シラバス
ページ番号

◆講義コードについて

講義コードは５ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。

6　1　1　0　1

課程

５＝密教・人間学科共通
６＝教育学科
８＝別科生用
９＝大学院生用

曜日

１＝月曜日
２＝火曜日
３＝水曜日
４＝木曜日
５＝金曜日
６＝土曜日
７＝集中講義
８＝実習
９＝論文

時限

１＝１講時
２＝２講時
３＝３講時
４＝４講時
５＝５講時
６＝６講時
７＝７講時

通し番号

01 ～ 49 ＝前期授業
　および通年授業（河内長野キャンパス）

51 ～ 99 ＝後期授業
　および通年授業（河内長野キャンパス）

◆受講登録について

1 受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、**4月7日（月）から4月11日（金）午後5時まで**に河内長野キャンパス事務室へ提出してください。

2 履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。

② 学籍番号（※身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入してください。

② 履修登録欄には、今年度に受講するすべての授業科目を、『令和7年度文学部教育学科講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（卒業論文も含む）を記入してください。

※1年間に履修登録できるのは、必修科目・選択科目を合わせて48 単位までです。（自由科目は除く。）
但し、基礎ゼミ科目・課題探求科目・教育実習科目・体験実習科目は含まれません。

3 履修登録票を河内長野キャンパス事務室へ提出した学生は、**4月22日（火）から4月25日（金）午後5時まで**に、河内長野キャンパス事務室で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。

この時に学生証（身分証明書）が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、河内長野キャンパス事務室へ提出してください。

4 最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、1年間保管してください。

5 履修を取り消したい科目がある場合は、**前期は5月30日（金）まで、後期は 10 月31日（金）まで**受け付けますので河内長野キャンパス事務室に申し出てください。（※ただし、1～2年次配当の必修科目は履修取り消しができません。）

6 後期（9月22日開講）授業科目の追加及び登録変更は、**9月30 日（金）午後5時まで**の後期履修登録変更期間に、河内長野キャンパス事務室へ申し出てください。ただし、通年科目の追加・変更・取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第1回目から第4回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の3分の2以上の出席がないと「失格」(999) になりますので留意してください。

◆ＧＰＡについて

１　ＧＰＡとは

ＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のＧＰ（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

２　目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的・意欲的に学修することを目的としています。

３　ＧＰＡの計算方法

履修登録した各科目の成績（ＧＰ）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第３位は四捨五入。

合否	評点	評語	ＧＰ	判定基準
合　格	90 点以上	S	4	授業の到達目標を達成し特に優れた成績である
	89 点～80 点	A	3	授業の到達目標を達成し優れた成績である
	79 点～70 点	B	2	授業の到達目標を概ね達成している
	69 点～60 点	C	1	授業の到達目標を最低限達成している
不合格	59 点以下	D	0	授業の到達目標を達成していない
失　格	999	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認　定	888	N	対象外	編入等で単位を認定した

４　ＧＰＡに参入されない科目

他大学等で取得するなどし、本学にて認定された「Ｎ」評価の科目。

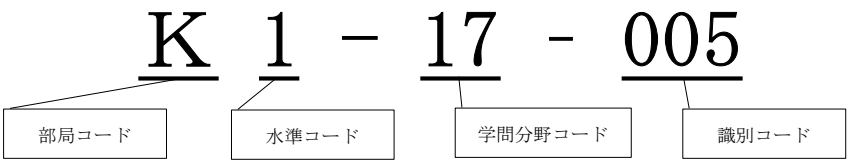
５　履修取り消し

前期は５月 30 日（金）まで、後期は 10 月 30 日（金）までと履修辞退期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、ＧＰＡ算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

◆科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

＜高野山大学科目ナンバリングの形式＞



＜各コードの定義について＞

1　部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するための項目です。

＜部局コード分類表＞

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
N	人間学科
K	教育学科
B	別科
D	大学院

2　水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学1年生を対象とした授業（大学1年次レベル）
2	主に大学2年生を対象とした授業（大学2年次レベル）
3	主に大学3年生を対象とした授業（大学3年次レベル）
4	主に大学4年生を対象とした授業（大学4年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

３　学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字２ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	08	哲学	15	数学	22	社会福祉学
02	仏教学	09	法学	16	キャリア教育	23	家政学
03	宗教学	10	心理学	17	教育学	24	環境教育
04	文学	11	社会学	18	博物館学	25	論文指導
05	国語学	12	歴史学	19	教育社会学	26	その他
06	書道	13	情報学	20	教科教育学		
07	外国語	14	統計学	21	保育学		

４　識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字３ケタで表記しています。

◆シラバス「他」欄について

こちらの欄については、その他の授業の性質について表記しています。「Ａ」は、アクティブ・ラーニングを実施する科目、「Ｉ」については、ＩＣＴを用いて実施する科目を表しています。

入学から卒業までの履修について(教育学科)

◆卒業認定・学位授与に関する方針（教育学科ディプロマ・ポリシー ＤＰ）(令和６年度入学生まで)

文学部教育学科のカリキュラムにおいて卒業要件を満たす単位を取得し、初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力を身につけると共に、次の資質・能力を備えた学生に学士（教育学）の学位を授与する。

１．教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力

（1）授業構成力、教材開発力を身につけ、学習活動を適切に運営できる力を有する。(DP1)

（2）子どもたちに寄り添い、適切なコミュニケーション能力や仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を有する。(DP2)

（3）子どもたちの悩みを受けとめ、適切なカウンセリングなど心理ケアに関する知識・能力を有する。(DP3)

２．地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力

（1）地域社会および生活文化を大切にし、ケアの心で人々を支援できる知識・能力を有する。(DP4)

（2）地域の人々と協力し合って活動し、地域活性化に貢献できる知識・能力を有する。(DP5)

◆卒業認定・学位授与に関する方針（教育学科ディプロマ・ポリシー ＤＰ）(令和７年度入学生から)

文学部教育学科のカリキュラムにおいて卒業要件を満たす単位を取得し、初等教育や中等英語教育に関わる基礎的な知識・能力を身につけると共に、次の資質・能力を備えた学生に学士（教育学）の学位を授与する。

１．教育の現場で活躍しうる実践力・人間力

（1）授業構成力、教材開発力を身につけ、学修活動を適切に運営できる力を有する。(DP1)

（2）子どもたちに寄り添い、適切なコミュニケーション能力や仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を有する。(DP2)

（3）子どもたちの悩みを受けとめ、適切なカウンセリングなど心理ケアに関する知識・能力を有する。(DP3)

２．地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力

（1）地域社会および生活文化を大切にし、ケアの心で人々を支援できる知識・能力を有する。(DP4)

（2）地域の人々と協力し合って活動し、地域活性化に貢献できる知識・能力を有する。(DP5)

◆教育課程の編成・実施方針（教育学科カリキュラム・ポリシー）(令和６年度入学生まで)

文学部教育学科では、卒業するためには 124 単位以上を取得する必要があります（履修規程第３条)。

教育学科の科目は、大きく必修科目と選択科目にわかれています。必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の内、中・高教諭（英語）関係科目、小学校教諭関係科目、幼稚園教諭関係科目、体験サポート科目は、その中から履修科目を選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計 94 単位以上を取得してください。また、必修科目以外に、選択科目の中から 30 単位を取得する必要があります。ただし、１年間に履修できるのは 50 単位までです。(自由科目を除く。ただし、前年度の GPA が 3.0 以上の人は 58 単位まで履修可能です。）教育学科の学生は、必修科目 94 単位と選択科目 30 単位の合計 124 単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	２単位	教養科目	12 単位	体験実習科目	８単位
基礎ゼミ科目	８単位	教職専門科目	14 単位	課題探求科目	16 単位
外国語コミュニケーション科目	４単位	中・高教諭（英語）/小学校教諭/幼稚園教諭関係科目	20 単位 選択必修		
キャリア科目	４単位	体験サポート科目	６単位 選択必修	必修科目合計	94 単位
				選択科目合計	30 単位
				合計	124 単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が 2 回生以上と指定されている科目は、1 回生は履修できません。卒業後にどのようになりたいのか、どの資格を取得したいのか、そのためにはどの科目を学べばよいのかを考えてください。

河内長野キャンパスで学んでいる学生は、高野山キャンパスで開講されている科目を履修することができます（1 部科目を除く）。ただし、高野山キャンパスや学外で行う科目を 60 単位までしか認定されません。

◆教育課程の編成・実施方針（教育学科カリキュラム・ポリシー）（令和 7 年度入学生から）

文学部教育学科では、卒業するためには 124 単位以上を取得する必要があります（履修規程第３条）。

本学の教育理念と教育目的に基づき、大きく「専門科目」群、「基礎科目」群とでカリキュラムを編成し、「専門科目」の中に、「理論的科目」群と「体験的科目」群を置く。「理論的科目」群には、「教職関連科目」や「心理関係科目」に加えて、「体験レポート科目」群を特別に配置する。「体験サポート科目」群は、「体験的科目」の学びと、「理論的科目」の学びを繋ぎ、体験と理論的な学び、経験と知識との結合を図るために配する。

1．「理論的科目」群には、教職や心理関係についての専門的知識・技能を育み、実践力のある教師や社会人としての資質・能力の育成を目指す。
2．「体験的科目」は、本学の最も特長的な科目群であり、教員に必要な資質・能力を育成するために設定した科目群である。1 年次から、学校や地域において多様な体験を積み重ね、地域での様々な年齢層・職種の人々とのふれあいを通して、相手の話に耳を傾け、分かりやすく伝えられるコミュニケーション力や、相手の気持ちに寄り添うことのできる能力、困難にぶつかってもやり遂げられる力、仲間と協力してものごとを完成させる実践力などを育むことを目的とする。
3．「体験サポート科目」によって、実践と理論をつなぎ、大学での学びを確かに内実化することを目指す。
4．「基礎科目」は、建学の精神に則った本学の特長的な科目や、教養科目、僧侶科目などを配し、「いのち」や、社会、文化について理解し、人間を含む世界への豊かで多様な視点を育むことを目指す。

上記、カリキュラム・ポリシーに従い、合計 96 単位以上を取得してください。また、必修科目以外に、選択科目の中から 28 単位を取得する必要があります。ただし、1 年間に履修できるのは 48 単位までです。（自由科目を除く。ただし、前年度の GPA が 3.0 以上の人は 58 単位まで履修可能です。）教育学科の令和 7 年度入学生は、必修科目 96 単位と選択科目 28 単位の合計 124 単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	2 単位	教養科目	12 単位	体験実習科目	8 単位
基礎ゼミ科目	8 単位	教職専門科目	14 単位	課題探求科目	16 単位
外国語コミュニケーション科目	4 単位	中・高教諭（英語）/小学校教諭/幼稚園教諭関係科目	22 単位 選択必修		
キャリア科目	4 単位	心理・体験関係科目	6 単位 選択必修	必修科目合計	96 単位
				選択科目合計	28 単位
				合計	124 単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が 2 回生以上と指定されている科目は、1 回生は履修できません。卒業後にどのようになりたいのか、どの資格を取得したいのか、そのためにはどの科目を学べばよいのかを考えてください。

河内長野キャンパスで学んでいる学生は、高野山キャンパスで開講されている科目を履修することができます（1 部科目を除く）。ただし、高野山キャンパスや学外で行う科目を 60 単位までしか認定されません。

講　義　概　要
・
授　業　計　画

文 学 部 教 育 学 科 科 目　目 次

「備考・履修条件」欄について
選択必修科目・・・
卒業要件として一定の単位数を要する。
履修規程を確認すること。
日　　付　・・・集中講義開催日（詳細は掲示確認）

1　必修科目(選択必修含)

［基礎科目］

1）「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	5	63501	空海の思想入門	松長潤慶	2	1年次	－		

2）基礎ゼミ科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	63101	基礎ゼミⅠ	本山司	2	1年次	－		
後期	水	2	63251	基礎ゼミⅡ	村尾聡	2	1年次	－		
前期	金	2	65204	基礎ゼミⅢ	奥田修一郎	2	2年次	－		
後期	水	2	63252	基礎ゼミⅣ	溝渕淳	2	2年次	－		

3）外国語コミュニケーション科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	3	63351	English Communication Ⅰ	門田修平	2	1年次	教職基礎/保育士必修		
通年	水	1	63151	English Communication Ⅱ	上村政文	2	2年次	教職基礎/保育士必修		

4）キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	67101	キャリアデザインⅠ	高田綾子	2	1年次	－		
前期	集中	集中	67103	キャリアデザインⅡ	高田綾子	2	2年次	－		

5）教養科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	4	65401	ほとけの世界	森崎雅好	2	1年次	保育士必修		
前期	金	2	65201	日本国憲法	山本雅一	2	1年次	教職基礎/保育士必修		
前期	木	4	64401	情報と教育	森大樹	2	1年次	教職基礎/保育士必修		
前期	木	4	64403	生涯学習論	山田正行	2	3年次	保育士必修		
前期	水	4	63402	平和教育	山田正行	2	3年次	保育士必修		
後期	木	4	64453	人権と社会	奥田修一郎	2	3年次	保育士必修		
通年	水	4	63452	日本語	河岸厚彦	2	1年次	保育士必修		

［専門科目］

1）教職専門科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	金	5	65551	教育原理	鈴木晴久	2	1年次	小幼免・保育士必修/社福主事		
前期	金	3	65301	教職入門	今西幸蔵	2	1年次	小幼免必修		
後期	水	4	63453	教育と社会	山田正行	2	2年次	小幼免必修		
前期	木	4	64402	教育心理学	南亜紀子	2	2年次	小幼免必修		
前期	水	5	63502	教育心理学	岡田英作	2	2年次	小幼免必修		
前期	集中	集中	67111	特別支援教育	小田浩伸	2	2年次	小幼免必修/保育士選択		
前期	集中	集中	67110	教育方法論・ICT活用論	佐々木聡	2	3年次	小幼免必修		
後期	木	4	64452	教育相談	南亜紀子	2	2年次	小幼免必修		
後期	金	5	65552	教育相談	岡田英作	2	2年次	小幼免必修		

2）小学校教諭関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	2	64201	国語科内容論	村尾聡	2	1年次	小免必修	選択必修科目	
後期	木	3	64351	社会科内容論	奥田修一郎	2	1年次	小免必修	選択必修科目	
後期	金	2	65255	算数科内容論	吉田明史	2	2年次	小免必修	選択必修科目	
前期	木	5	64501	理科内容論	笠潤平	2	1年次	小免必修	選択必修科目	
前期	木	3	64301	生活科内容論	善野八千子	2	2年次	小免必修	選択必修科目	
前期	木	1	64101	音楽科内容論	寄ゆかり	2	1年次	小免必修/保育士選択	選択必修科目	
後期	集中	集中	67154	図画工作科内容論		2	2年次	小免必修/保育士選択	選択必修科目	
前期	月	2	61201	家庭科内容論	井出康子	2	1年次	小免必修	選択必修科目	
後期	火	4	62453	体育科内容論	本山司	2	2年次	小免必修/保育士選択	選択必修科目	
前期	水	2	63201	初等英語科内容論	上村政文	2	1年次	小免必修	選択必修科目	
後期	月	4	61451	国語科指導法	村尾聡	2	2年次	小免必修	選択必修科目	
前期	水	3	63301	社会科指導法	奥田修一郎	2	2年次	小免必修	選択必修科目	
前期	金	2	65202	算数科指導法	吉田明史	2	3年次	小免必修	選択必修科目	
後期	木	5	64551	理科指導法	笠潤平	2	2年次	小免必修	選択必修科目	
後期	木	2	64251	生活科指導法	善野八千子	2	3年次	小免必修	選択必修科目	
後期	木	1	64152	音楽科指導法	寄ゆかり	2	2年次	小免必修	選択必修科目	
後期	集中	集中	67158	図画工作科指導法		2	3年次	小免必修	選択必修科目	
前期	月	4	61401	家庭科指導法	井出康子	2	2年次	小免必修	選択必修科目	
前期	金	4	65406	体育科指導法	本山司	2	3年次	小免必修	選択必修科目	
後期	火	3	62352	初等英語科指導法	上村政文	2	2年次	小免必修	選択必修科目	
前期	集中	集中	67104	授業実践研究Ⅰ（初等教材開発）	笠潤平	2	2年次	小免選択	選択必修科目	
ー	ー	ー	ー	授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）	不開講	2	2年次	小免選択	選択必修科目	
前期	金	3	65302	音楽Ⅱ(表現技法)	岡本文音	1	2年次	小幼免選択/保育士選択	選択必修科目	

3）幼稚園教諭関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	金	4	65451	幼児と人間関係	溝渕淳	2	1年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	
前期	集中	集中	67109	幼児と環境	坂本渉	2	2年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	
前期	木	1	64102	幼児と言葉	香田健治	2	2年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	
前期	金	4	65403	幼児と表現	寄ゆかり	2	2年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	
後期	金	1	65152	保育内容の指導法（健康）	本山司	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	
後期	木	1	64155	保育内容の指導法（人間関係）	溝渕淳	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	
後期	集中	集中	67156	保育内容の指導法（環境）	坂本渉	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	
前期	木	2	64203	保育内容の指導法（言葉）	香田健治	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	
後期	水	4	63454	保育内容の指導法（造形表現）	原田昌幸	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	
後期	金	3	65353	保育内容の指導法（音楽表現）	寄ゆかり	2	3年次	幼免必修/保育士必修	選択必修科目	

4）体験サポート科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	62101	地域体験基礎	奥田修一郎	2	1年次	－	－	
前期	月	3	61301	文学	村尾聡	2	1年次	－	選択必修科目	
後期	木	4	64451	日本文化(茶道)	岡本文音	2	1年次	－	選択必修科目	
後期	木	1	64151	書学入門(書道)	野田悟	2	1年次	小免必修	選択必修科目	
後期	月	1・2	61153	地域体験特論	奥田修一郎	2	2年次	－	選択必修科目	

5）体験実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1・2	62151	学校現場体験Ⅰ	善野八千子他	2	1年次	小幼免選択		
後期	火	1・2	62152	学校・保育現場体験Ⅱ	善野八千子他	2	2年次	小幼免選択		
前期	火	2・3・4	62201	地域体験Ⅰ	本山司	2	1年次	－		
前期	火	2・3・4	62202	地域体験Ⅲ	奥田修一郎	1	2年次	－		
前期	火	2・3・4	62303	地域体験Ⅳ	奥田修一郎	1	2年次	－		

6）課題探求科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
－	－	－	別紙	専門基礎演習Ⅰ	各担当	2	3年次	－		
－	－	－	別紙	専門基礎演習Ⅱ	各担当	2	3年次	－		
－	－	－	別紙	専門演習Ⅰ	各担当	2	4年次	－		
－	－	－	別紙	専門演習Ⅱ	各担当	2	4年次	－		
後期	木	3	64355	教職実践演習（幼・小）	善野・村尾	2	4年次	－		
後期	水	3	63356	保育実践演習	溝渕淳	2	4年次	－		
－	－	－	69833	卒業研究	各担当	8	4年次	－		

2　選択科目

1）外国語コミュニケーション科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
				English CommunicationⅢ	開講	1	3年次	中・高免（英）必修		
－	－	－	－	高野山国際ガイド体験	不開講	1	2年次	中・高免（英）選必		
－	－	－	－	中国語	不開講	2	2年次	－		

2）キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	67157	キャリアデザインⅢ(インターンシップ)	不開講	1	3年次	－		

3）教養科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	金	3	65355	体育の理論と実技	本山司	2	1年次	教職基礎/保育士必修		
ー	ー	ー	ー	数学の世界	不開講	2	1年次	ー		
ー	ー	ー	ー	AIと世界	不開講	2	1年次	ー		
後期	集中	集中	67152	世界遺産と観光	宗田好史	2	1年次	ー		
後期	金	4	65453	死生観	森崎雅好	2	3年次	ー		
後期	金	1	65153	ダンス入門	範衍麗	1	1年次	保育士選択		
ー	ー	ー	ー	常用経典	不開講	2	3年次	僧侶資格		
ー	ー	ー	ー	声明	不開講	2	3年次	僧侶資格		
ー	ー	ー	ー	法式	不開講	2	3年次	僧侶資格		
ー	ー	ー	ー	布教	不開講	2	3年次	僧侶資格		

4）教職専門科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	5	61553	教育課程論	鈴木晴久	2	2年次	小免必修/保育士必修		
後期	水	3	63355	保育教育課程論	石上浩美	2	3年次	幼免必修/保育士必修		
後期	水	5	63551	道徳教育の理論と方法	岡田英作	2	2年次	小免必修		
前期	月	1	61103	総合的な学習の時間	奥田修一郎	2	3年次	小免必修		
前期	金	3	65303	特別活動の指導法	松田忠喜	2	3年次	小免必修		
後期	金	1	65151	生徒指導論	今西幸蔵	2	2年次	小免必修		
前期	金	4	65402	進路指導・キャリア教育	松田忠喜	2	2年次	小免必修		
前期	木	3	64303	教師力養成特講Ⅰ（HRマネジメント）	大西誠子	2	3年次	ー		
ー	ー	ー	ー	教師力養成特講Ⅱ（学校理解）	不開講	2	3年次	ー		
ー	ー	ー	ー	教職とICT	不開講	2	3年次	ー		

5）保育士関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	61202	保育原理	石上浩美	2	2年次	保育士必修/社福主事		
後期	月	4	61452	子ども家庭福祉	溝渕淳	2	2年次	保育士必修/社福主事		
前期	月	1	61101	社会福祉論	溝渕淳	2	1年次	保育士必修/社福主事		
前期	月	4	61402	子ども家庭支援論	溝渕淳	2	3年次	保育士必修		
前期	火	1	62103	社会的養護Ⅰ	溝渕淳	2	3年次	保育士必修		
前期	集中	集中	67107	保育の心理学	佐々木聡	2	2年次	保育士必修		
後期	集中	集中	67153	子ども家庭支援の心理学	佐々木聡	2	2年次	保育士必修		
前期	月	3	61303	子どもの食と栄養	井出康子	2	3年次	保育士必修		
前期	木	2	64202	保育内容総論	明神規子	2	2年次	保育士必修		
前期	木	3	64302	乳児保育Ⅰ	明神規子	2	2年次	保育士必修		
後期	木	3	64352	乳児保育Ⅱ	明神規子	2	2年次	保育士必修		
後期	木	2	64252	子どもの健康と安全	本山司	2	2年次	保育士必修		
後期	火	2	62253	社会的養護Ⅱ	溝渕淳	2	3年次	保育士必修		
後期	火	1	62153	子育て支援	溝渕淳	2	3年次	保育士必修		
後期	金	4	65452	表現技術（ピアノ）	寄ゆかり	2	2年次	保育士選択		
後期	水	3	63354	表現技術（造形）	原田昌幸	2	2年次	保育士選択		

6）心理関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
―	―	―	―	発達心理学	不開講	2	2年次	―		
―	―	―	―	カウンセリング論	不開講	2	2年次	―		
―	―	―	―	学校臨床心理学	不開講	2	2年次	―		
―	―	―	―	心理身体論Ⅰ	不開講	2	3年次	―		
―	―	―	―	心理身体論Ⅱ	不開講	2	3年次	―		

7）教育実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	3	68104	教育実習Ⅰ（小）	善野八千子/村尾聡	4	3年次	小免必修		
通年	火	4	68105	教育実習Ⅱ（幼1）	溝渕淳	2	3年次	幼免必修		
通年	月	3	68106	教育実習Ⅲ（幼２）	溝渕淳	2	3年次	幼免必修		
通年	火	3	68110	保育実習Ⅰ（保育所）	本山司	2	3年次	保育士必修		
通年	火	5	68111	保育実習Ⅰ（福祉施設）	溝渕淳	2	3年次	保育士必修		
通年	水	3	63353	教育実習の研究Ⅰ（小・事前事後指導）	善野八千子/村尾聡	1	3年次	小免必修		
通年	火	4	62452	教育実習の研究Ⅱ（幼1・事前事後指導）	溝渕淳	1	3年次	幼免必修		
通年	火	3	62351	保育実習指導Ⅰ（保育所）	本山司	1	3年次	保育士必修		
通年	火	5	62551	保育実習指導Ⅰ（福祉施設）	溝渕淳	1	3年次	保育士必修		
通年	月	5	68114	保育実習Ⅱ	溝渕淳	2	4年次	保育士選択必修	Ⅱ又はⅢのいずれか選択必修	
通年	月	5	61551	保育実習指導Ⅱ	溝渕淳	1	4年次	保育士選択必修		
通年	月	5	68115	保育実習Ⅲ	溝渕淳	2	4年次	保育士選択必修	Ⅱ又はⅢのいずれか選択必修	
通年	月	5	61552	保育実習指導Ⅲ	溝渕淳	1	4年次	保育士選択必修		

8）体験実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	68102	学校・保育現場ボランティア	村尾聡	1	3年次	小幼免選択		
通年	集中	集中	68103	地域体験ボランティア	本山司	1	3年次	―		
集中	集中	集中	67112	海外留学体験	門田修平	4	2年次	中・高免（英）選必		

9）中・高教諭（英語）関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	金	3	65352	第二言語習得概論	門田修平	2	2年次	中・高免（英）必修		
後期	金	2	65252	Phonetics in Education	門田修平	2	1年次	中・高免（英）必修		
前期	火	1	62102	Intensive Reading	上村政文	2	2年次	中・高免（英）必修		
後期	火	1	62154	Critical Thinking and Creative Writing	上村政文	2	1年次	中・高免（英）必修		
前期	集中	集中	67102	British Literature	松田正貴	2	1年次	中・高免（英）必修		
後期	集中	集中	67151	American Literature	松田正貴	2	1年次	中・高免（英）必修		
前期	月	1	61102	異文化理解Ⅰ	佐藤雅之	2	2年次	中・高免（英）必修		
後期	月	1	61152	異文化理解Ⅱ	佐藤雅之	2	2年次	中・高免（英）選必		
前期	月	3	61302	英語科指導法Ⅰ	佐藤雅之	2	2年次	中・高免（英）必修		
後期	月	3	61354	英語科指導法Ⅱ	佐藤雅之	2	2年次	中・高免（英）必修		
後期	集中	集中	67108	英語科指導法Ⅲ	尾上利美	2	3年次	中・高免（英）必修		
後期	集中	集中	67155	英語科指導法Ⅳ	尾上利美	2	3年次	中・高免（英）必修		

科目名	空海の思想入門S【OD】							学期	前期
副題	弘法大師空海と密教				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M1-01	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山大学は弘法大師空海によって伝えられた密教の教えを建学の精神としている。平安時代初期に活躍した空海は、釈尊の教えである仏教の発展形態である密教を当時の唐で学び日本にもたらした。この授業では、弘法大師空海の生涯のみならず、空海の学んだ密教とはいかなるものか、釈尊が開いた仏教とはいかなるものかに関して網羅的に取り扱う。

授業の到達目標

弘法大師空海と密教の全体像を理解する

授業計画

1. 釈尊の生涯とその教え
2. 密教の教えの概要（1）
3. 密教の教えの概要（2）
4. 弘法大師空海の生涯（前半）
5. 弘法大師空海の生涯（後半）
6. 弘法大師空海の社会活動
7. 弘法大師空海の著作（1）
8. 弘法大師空海の著作（2）
9. 密教の流伝　真言八祖
10. 密教の流伝　シルクロード
11. 曼荼羅の世界
12. 弘法大師空海の入定
13. 現代社会と空海の教え（1）
14. 現代社会と空海の教え（2）
15. 現代社会と空海の教え（3）

準備学習（予習・復習）・時間

授業内容に関しての読書等の復習（60分）

テキスト

必要に応じて授業で配布する

参考書・参考資料等

松長有慶『密教』『高野山』『空海』岩波新書

学生に対する評価

試験（80%）　授業への参加意欲（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義内容が理解できる
（B）講義内容が自分の言葉で表現できる
（A）専門用語を理解したうえで自分の言葉・文章で表現できる
（S）興味のある部分について自分で探求し、文章にできる

課題に対するフィードバックの方法

指紋や意見は授業中に対応する

その他

受講生の積極的な参加を必要とするアクテイブラーニング授業である

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持っているか、どのような授業内容か）

高野山の住職、高野山大学学長が建学の精神の根幹である弘法大師空海の教えを講義する

科目名	基礎ゼミⅠ						学期	前期
ナンバリング	K1-17-002	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	本山　司	
科目の概要	(授業のテーマ) 大学の教育理念である「いのち・文化・創造」を理解することを目的に、多様な研究の成果を学ぶことによって「いのちを活かす」人材となることをめざす。 (授業の概要) 教育学科生として教育の意義と役割を考える初年次教育の機会となる。専門領域の内容を学ぶために、レポート・論文の書き方、学生生活における時間管理、プレゼン等の技法、学問修得に向けた動機付け、そして自分が何を学びたいのかを考える機会(キャリア)を得る。授業は講義をふまえて演習を行い、スタディスキルを高めることにより教育目標の達成を図る。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	大学教育で学ぶ教育の意義と役割について理解できる。	1-(1)d),1-(2)b)
イ	多様な研究に生かせる学修の基本的な知識やスキルを習得することができる。	1-(1)a)
ウ	さまざまな演習の機会をとおして、学んだ成果を自分の問題として捉えることができる。	1-(1)f)

回	授業内容	授業外の学修
1	本授業全体に関するオリエンテーション(大学で何を学ぶのか)	シラバスを読む(30分)、授業の復習・整理(60分)。
2	自己紹介、他己紹介、興味・関心や将来像を考える	事前に整理しておく(90分)、授業の復習・整理(60分)。
3	高野山大学の理解(教育理念、学部・学科)、大学生活における学習の基本	事前に大学のホームページを確認(60分)、授業の復習・整理(60分)。
4	講義の受け方、ノートのとり方	授業テーマ・用語の確認(60分)、授業の復習・整理(60分)。
5	ノート・テイキングの実際	授業テーマ・用語の確認(60分)、授業の復習・整理(90分)。
6	テキストの読み方	授業テーマ・用語の確認(60分)、授業の復習・整理(60分)。
7	学術論文を読むためのスキルアップ演習	授業テーマ・用語の確認(60分)、授業の復習・整理(90分)。
8	リサーチスキルと情報検索(大学図書館、インターネットなど)	授業テーマ・用語の確認(60分)、授業の復習・整理(60分)。
9	レポートの書き方①(作成手順、論文作法)	授業テーマ・用語の確認(60分)、授業の復習・整理(120分)。
10	レポートの書き方②(ワープロを使った作成術)	授業テーマ・用語の確認(60分)、授業の復習・整理(120分)。
11	資料作成と視覚的なプレゼンテーション(資料作成の基本)	授業テーマ・用語の確認(60分)、授業の復習・整理(120分)。
12	プレゼンテーションの実際	発表準備(120分)、発表の振り返り(60分)。
13	自己理解とキャリア教育①(自分の強み、価値観、興味、スキルを理解し、将来のキャリアにどう繋げるか)	自己分析・目標設定(90分)、振り返り・改善策考察(90分)。
14	自己理解とキャリア教育②(時間管理、問題解決能力、リーダーシップ)	自己分析・目標設定(90分)、振り返り・改善策考察(90分)。
15	本授業全体のまとめ	15回の学びの振り返り、次への課題をまとめる(90分)。

テキスト
各回ごとに資料を配布する。

参考書・参考資料等
適宜紹介する。

成績評価
授業への取り組み(20%)、プレゼンテーション(20%)、課題とレポート(60%)で総合的に評価する。

履修要件及び履修上の注意事項
毎回の参加と学修の積み重ねが重要である。テーマに基づいたグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの手法を用いることがある。今後の大学生活に大いに関係する授業なので、主体的に受講してほしい。

卒業必修科目。
課題に対する指導 質問や意見等に対しては授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。
オフィスアワー・連絡先 水曜日のお昼休みに研究室で対応する。 メール:t_motoyama@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア①	教育の基本的な目的や価値を理解し、大学教育が社会における役割を果たすことを認識している。
ア②	教育の意義と役割について、自分の価値観や実践的な視点を持ち、論理的に議論することができる。
イ	研究の準備段階で使用する基本的なツールや技術を適切に選択できる。
ウ	自分が学んだ成果を日常の課題に適用し、改善点や反省をする姿勢が見られる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容 中学校保健体育教員の経験をいかして、体育学の視点から基礎的なスキル習得方法を講義する。

科目名	基礎ゼミⅡ						学期	後期
ナンバリング	K1-17-003	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	村尾 聡	
科目の概要	1. 基礎ゼミⅡの目的は、基礎ゼミⅠの学修を受けて、「文章表現力の向上」と「教育の諸問題についての関心を深める」ことをめざす。 2.「論文」とはどのようなものか、その書き方を説明する。 3.教育の諸問題についての評論や論文を読み、教育についての関心を深める。 4. 論文、評論を要約し、自分の意見をふまえて簡単な論文を作成する演習を行う。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	教育についての問題意識を持つことができる。	1-(2)l)
イ	論文の書き方を理解できる。	1-(2)j)
ウ	論文や評論を要約し、自分の意見をふまえながら小論文を作成できる。	1-(2)j)

回	授業内容	授業外の学修
1	学級づくりについて（学級開きの会）演習	シラバスを事前に読んでおく（30 分） 資料の通読と要点整理（90 分）
2	文字の書き方	復習のプリントで学修する（60 分）
3	小論文の書き方①（論文の形式）	資料の通読と要点整理（90 分）
4	小論文の書き方②（一文一義、常体、段落）	資料の通読と要点整理（90 分）
5	小論文の書き方③（小論文演習）	小論文演習（90 分）
6	文章の要約の仕方	資料の通読と要点整理（90 分）
7	文章の要約（演習）	論文の要約（180 分）
8	自らの将来を考える①（討論）	資料の通読と要点整理（90 分）
9	自らの将来を考える②（まとめ）	資料の通読と要点整理（90 分）
10	大学の理念について学ぶ	資料の通読と要点整理（90 分）
11	教育問題の小論文作成（いじめ問題）	資料の通読と要点整理（90 分）
12	教育問題の小論文作成（校則について）	資料の通読と要点整理（90 分）
13	教育問題の小論文作成（道徳教育について）	資料の通読と要点整理（90 分）
14	教育問題の小論文作成（自らの問題意識）	発表準備（180 分）
15	教育問題の小論文作成発表	15 回の学びの復習（90 分）

テキスト

授業中に資料を配付する

参考書・参考資料等

戸田山和久『論文の教室』NHK 出版、2022 年

成績評価

小レポート（50%）

発表（40%）

授業への参加態度（10%）

履修要件及び履修上の注意事項

30 分以上の遅刻は欠席、3 回の遅刻で欠席 1 回とする。

卒業必修科目。

課題に対する指導

小レポートに書かれた質問にはコメントを書いて返却する。全体の学びにつながるものは、次の授業のはじめに全員で共有する。	
オフィスアワー・連絡先 前期水曜 2 限、後期月曜 3 限に対応する。相談がある場合は事前の連絡をお願いしたい。murao@koyasan-u.ac.jp	
評価	満足できる状況
ア	小論文の書き方が理解できる
イ	論文、評論の要約ができる
ウ	小論文の形式、授業で学んだ書き方をふまえた小論文を書くことができる
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務した経験を生かし、現在の教育の状況を考える機会を提供していきたい。	

科目名	基礎ゼミⅢ						学期	2年前期
ナンバリング	K2-17-004	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	奥田 修一郎	

科目の概要	・教育の現状と課題，特に子どもの人権に関わる問題について理解し、現代の学校の諸問題を考察する。そのために、テキスト，新聞，雑誌記事，配布資料を丹念に読み込み，問いをつくり，自ら探究できる力をつける。また，授業では，学生相互の真摯な討論によって読解力やコミュニケーション能力を高める。 ・グループワークを含めながら授業を進行する。学生が事前にレジュメや資料を用意し、プレゼンテーションを行い、相互批判をとおして認識を深める。事前の周到な準備と授業への積極的な参加・参画が重要である。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	教育・人権に関わる問題を学術的に理解し、他の人に説明できる。	1-(1)a)
イ	テキスト、新聞，雑誌記事，配布資料から人権・教育の問題だと思われる課題を見つけ，問いをつくり探究することができる。	1-(2)h)
ウ	他の人の発表を聞き、それに対する良さや改善点を適切に表現できる。	1-(2)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	学校の中での人権に関した問題から考察する。	シラバスを事前に読んでおくこと。配布資料の復習（90 分）
2	子どもの権利条約の内容を，ワークショップを通じて学ぶ。	指定された参考資料から調べ，配布資料での復習（90 分）
3	新聞・雑誌記事から問いをつくり議論で深める。①	発表するための準備をする。（120 分）
4	新聞・雑誌記事から問いをつくり議論で深める。②	発表するための準備をする。（120 分）
5	メディア・リテラシーとは何かを考える。①（ネット上のトラブル）	事前に課題を調べておく。（60 分）
6	キャリア教育 ① 調べ学習と話し合い 学習指導要領で期待される学び①	事前に課題を調べておく。（60 分）
7	キャリア教育 ② 聞き取りと話し合い 学習指導要領で期待される学び②	考えたことをまとめておく。（60 分）
8	大学の理念を学ぶ。ある絵本作家の描くもの （研究のテーマの決め方）	指定された参考資料から調べておく。（60 分）
9	その作家の絵本を分析する。	発表するための準備をする。（120 分）
10	絵本で取り扱われるテーマから考える。	指定された参考資料から調べておく。（60 分）
11	各自で選んだ絵本を分析し紹介する。	発表するための準備をする。（120 分）
12	あるサブカル作家の描くもの	指定された参考資料から調べておく。（60 分）
13	各自で選んだサブカル教材を分析・紹介する。	発表するための準備をする。（120 分）
14	ボードゲームの教育効果を考える。 小テスト	小テストのための準備をする。（90分）
15	研究倫理について考える。（インタビューやアンケートの取り方）	15 回の学びを振り返り，次への課題をまとめる。（60 分）

テキスト：使用しない。 授業中に適宜，配布する。	成績評価 課題レポート[作品も含む](60%)、小テスト(15%)、ワークシート。授業内課題の記述内容と授業での討論内容(25%)
参考書・参考資料等：山口富子，2023，『インタビュー調査法』ミネルヴァ書房	

履修要件及び履修上の注意事項

・必修科目である。発表が何回かあり，事前準備がもとめられる。3 回生からのゼミにつながる科目である。

課題に対する指導

・授業での振り返りワークシート(提出された課題も)に書いた疑問・意見については，コメントを書き，個々に返すとともに，全体の学びにつながるものは，次の授業のはじめで共有し深めるようにする。

オフィスアワー・連絡先

・月の3，4限目　研究室で対応する。相談がある場合，事前の連絡をお願いしたい。

評価	概ね満足できる状況
ア	教育・人権に関わる問題を学術的に理解し、他の人に説明できる。
イ	テキスト、新聞，雑誌記事，配布資料から人権・教育の問題だと思われる課題を見つけ，問いをつくり探究することができる。
ウ	他の人の発表を聞き、それに対する良さや改善点を適切に表現できる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 ・ペアワークとグループワークを行う。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ・学習指導上で期待される学びから考える（例　プログラミング思考）

担当教員の実務経験の内容

中学校教員時では，市の人権教育協議会の事務局長として，校内や小中連携の人権教育カリキュラムづくりに携わった。その経験と人とのつながりを生かした講義の構成を行いたい。

科目名	基礎ゼミⅣ						学期	後期
ナンバリング	K2-17-005	実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	基礎ゼミⅢの学修成果をふまえて、今日の教育の分野で発生するさまざまな問題や課題について多面的に分析する力を身につけ、多様なプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を習得する。その上で、３年次からの「専門基礎演習」の下地をつくっていく。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連 DP
ア	今日の教育をめぐるさまざまな課題について理解できる。	1-(2)h)
イ	自分の感想や意見を、エビデンスに基づいて述べることができる。	1-(2)g)
ウ	多種多様なツールを活用し、適切なプレゼンテーションを実施できる。	1-(2)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）
2	教育を取り巻く諸問題にふれる①各自の興味・関心の共有	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）
3	教育を取り巻く諸問題にふれる②興味・関心をふくらませる	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）
4	教育を取り巻く諸問題にふれる③文献にあたる	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）
5	教育を取り巻く諸問題にふれる④資料の選択	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）
6	プレゼンテーションの組み立てについて	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）
7	現時点での自らのキャリアについて考える	自らのキャリア展望の書き出しと今後の活動のとりまとめ(180分)
8	自己理解と他者理解	内容のふりかえりと、自己紹介のための書類作成(180分)
9	高野山大学における学びに触れる	あらかじめ配布した資料の通読とふりかえりレポート(180分)
10	いま興味のあることがらについて調べ、発表する①オリエンテーション	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）
11	いま興味のあることがらについて調べ、発表する②資料収集	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）
12	いま興味のあることがらについて調べ、発表する③プレゼン準備	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）
13	いま興味のあることがらについて調べ、発表する④発表と評価	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）
14	いま興味のあることがらについて調べ、発表する⑤発表と評価	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）
15	まとめとふりかえり　自らの発表についてのコメントと議論	発表の情報収集・整理、自らの学び・展望の書き出し（180分）

テキスト
適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等
適宜紹介する。

成績評価
授業への参加の度合い（40%）
２回の発表の内容およびプレゼンテーション技術(60%)

履修要件及び履修上の注意事項
授業内容に関するグループディスカッションや、教育課題に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を多用する。また、メディア教材や ICT 教材を用いることもある。
卒業必修科目。

課題に対する指導
毎回のリアクションペーパーの内容や質問について、次回授業の冒頭にコメントしたり追加の解説を行ったりする。

オフィスアワー・連絡先	
前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限	アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	日常的に教育を取り巻く諸問題をキャッチし、その背景や解決方法を追求しようとすることができる。
イ	適切な文献等を調べることができ、自らの感想や意見の裏付けとし、責任をもって主張することができる。
ウ	言語表現に頼らない多様なコミュニケーションによるプレゼンテーションを展開することができる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
特になし。

科目名	English Communication I						学期	通年(後期)
ナンバリング	K1-07-006	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	門田 修平	
科目の概要	本授業では、英語によるリスニング、シャドーイング、スピーキングにより、受講生に英語の音声コミュニケーション能力、特に双方向的な相互交流(インタラクション)のための基礎能力を身につけることを目指す。そのために、①ディクテーションを含むリスニング、②聞き取った音声英語をそのまま繰り返すシャドーイング、③さらに、その英文の意味内容を相手(他者)に向かって話すリテリング(再話)や、皆さんの関心事などのプレゼン、といったスピーキング練習を実施する。また、必要に応じて、文字と発音とを結びつける音読練習も行い、その上で、自身の学習過程を振り返るニター能力を養う。これに必要な英語学習に関する知識もあわせて提供する。							

目標(この科目を通して獲得をさせたい力)		関連 DP
ア	音声英語を理解し発話するための前段である英語のリスニングができる。	1－(2)b)
イ	聞き取った音声英語をそのまま繰り返して記憶するシャドーイングができる。	1－(2)b)
ウ	シャドーイング学習した英文のリテリングができる。	1－(2)b)
エ	自己紹介、自身の関心事などについて英語でプレゼンができる。	1－(2)b)
オ	自身の学習状況を把握する振り返り(モニタリング)ができる。	1－(2)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	会話文のリスニング(ディクテーション)、シャドーイングおよび教科書 Unit7 後半の内容理解を行う	事前:教科書 Unit7 後半の音声素材の予習(意味理解) 事後:実施済のリスニング素材、シャドーイング素材の復習、Unit7 後半の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶(計 180 分)
2	会話文のリスニング(ディクテーション)、シャドーイングおよび教科書 Unit8 前半の内容理解を行う	事前:教科書 Unit8 前半の音声素材の予習(意味理解) 事後:実施済のリスニング素材、シャドーイング素材の復習、Unit8 前半の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶(計 180 分)
3	会話文のリスニング(ディクテーション)、シャドーイングおよび教科書 Unit8 後半の内容理解を行う	事前:教科書 Unit8 後半の音声素材の予習(意味理解) 事後:実施済のリスニング素材、シャドーイング素材の復習、Unit8 後半の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶(計 180 分)
4	自己紹介・その他についての英語プレゼン、および教科書 Unit Unit9 前半の内容理解を行う	事前:英語プレゼン準備、教科書 Unit9 前半の音声素材の予習(意味理解) 事後:Unit9 前半の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶 (計 180 分)
5	自己紹介・その他についての英語プレゼン、および教科書 Unit9 後半の内容理解を行う	事前:英語プレゼン準備、教科書 Unit9 後半の音声素材の予習(意味理解) 事後:Unit9 後半の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶 (計 180 分)
6	自己紹介・その他についての英語プレゼン、および教科書 Unit10 前半の内容理解を行う	事前:英語プレゼン準備、教科書 Unit10 前半の音声素材の予習(意味理解)

		事後:Unit10 前半の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶 (計 180 分)
7	自己紹介・その他についての英語プレゼン、および教科書 Unit10 後半の内容理解を行う	事前:英語プレゼン準備、教科書 Unit10 後半の音声素材の予習(意味理解) 事後:Unit10 後半の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶 (計 180 分)
8	会話文のリスニング(ディクテーション)、シャドーイングおよび教科書 Unit12 前半の内容理解を行う	事前:教科書 Unit12 前半の音声素材の予習(意味理解) 事後:実施済のリスニング素材、シャドーイング素材の復習、Unit12 前半の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶 (計 180 分)
9	会話文のリスニング(ディクテーション)、シャドーイングおよび教科書 Unit12 後半の内容理解を行う	事前:教科書 Unit12 後半の音声素材の予習(意味理解) 事後:実施済のリスニング素材、シャドーイング素材の復習、Unit12 後半の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶 (計 180 分)
10	会話文のリスニング(ディクテーション)、シャドーイングおよび教科書 Unit13 前半の内容理解を行う	事前:教科書 Unit13 前半の音声素材の予習(意味理解) 事後:実施済のリスニング素材、シャドーイング素材の復習、Unit13 前半の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶 (計 180 分)
11	会話文のリスニング(ディクテーション)、シャドーイングおよび教科書 Unit13 後半の内容理解を行う	事前:教科書 Unit13 後半の音声素材の予習(意味理解) 事後:実施済のリスニング素材、シャドーイング素材の復習、Unit13 後半の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶 (計 180 分)
12	会話文のリスニング(ディクテーション)、シャドーイングおよび教科書 Unit14 の内容理解を行う	事前:教科書 Unit14 の音声素材の予習(意味理解) 事後:実施済のリスニング素材、シャドーイング素材の復習、Unit14 の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶 (計 180 分)
13	会話文のリスニング(ディクテーション)、シャドーイングおよび教科書 Unit15 の内容理解を行う	事前:教科書 Unit15 の音声素材の予習(意味理解) 事後:実施済のリスニング素材、シャドーイング素材の復習、Unit15 の音声素材の復習:語句・文法・表現の理解と記憶 (計 180 分)
14	授業内最終試験	事前:授業内最終試験準備 事後:不要 (計 180 分)
15	授業内最終試験の解答と解説、フィードバック	事前:不要 事後:不要

テキスト Tadokoro, Mary. (2011)『ニューヨークの仲間たち-DVD 付-(CitiPals in NY)』朝日出版 および関連プリントを作成・配布	成績評価 授業内最終試験(30%)、英語プレゼン評価(30%)、リスニング(ディクテーション)・シャドーイングのパフォーマンス評価(30%)、その他(10%)
参考書・参考資料等 門田修平(2024)『AI フル活用!英語発信力トレーニング』コスモピア	

門田修平・監修(2022)『言語学者と考えた中学英語が1番身につく本』学研	

履修要件及び履修上の注意事項

授業への30分以上の遅刻を欠席とし、3回の遅刻で欠席1回とみなす。

卒業必修科目。

課題に対する指導

実施した課題(プレゼンなど)にはその都度、さらに小テストには、次の授業時にて、解説等を行う。

14回目に実施した最終試験の総評を15 回目に行い、復習すべき点、および多くの学生が不正解であった問題を中心に解説する。

オフィスアワー・連絡先

水曜 11:30～13:00(個人研究室) ※前日中に、shuheikadota@gmail.com までメール連絡にてアポイントをとること。

評価	概ね満足できる状況
ア	基本的な音声英語のリスニングができるようになる。
イ	聞き取った音声英語をそのまま繰り返して記憶するシャドーイングがほぼできるようになる。
ウ	シャドーイング学習した英文のリテリングがほぼできるようになる。
エ	自己紹介、自身の関心事などについて英語でプレゼンができる。
オ	自身の学習状況を把握する振り返り(モニタリング)ができるようになる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☑PBL (問題解決型学習)

□反転授業 (知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業)

□ディスカッション、ディベート

☑プレゼンテーション

□実習、フィールドワーク

☑その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

ペアでの双方向的な英語シャドーイングの活動を、シャドーイングタスクの一部として導入する。

授業での ICT 活用

☑双方向型授業に活用

☑自主学習支援に活用

その他 ICT 活用に関する特記事項

ChatGPT との、双方向的な英語音声インタラクションの活動も含める。

担当教員の実務経験の内容

大学教員として、および英語コーチング企業の顧問としての勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、英語コミュニケーション能力育成への対応を指導する。

科目名	English Communication II						学期	通年
ナンバリング	K2-07-007	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	上村　政文	
科目の概要	英語の総合的な力をつける。基本的な文法を学び語彙を増やすとともに Dialogue や Essay を読みこなし、音声教材を利用しながら、英語のスピーキング力、やライティングの力を高める。 講義内では、英語のプレゼンテーションやディスカッションを行い、総合的な力をつける講義である。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	基本的な文法事項が理解できる。	1 (1) a)
イ	英会話、リーディング、ライティングに必要な知識を身につけることができる。	1 (1) a)
ウ	エッセイを読みこなすことができる。	1 (1) a)
エ	英語でのプレゼンテーションができる。	1 (1) a),1 (2) b)
オ	英語によるディスカッションができる。	1 (1) a),1 (2) b)

回	授業内容	授業外の学修
1	Unit 1 Friends (Present Tense)	事前:Unit1 の Essay の翻訳、事後:Unit1 Dialogue の音読（90 分）
2	Unit 2 Warming up 2 (grammar focus)	事前:Unit2 の Essay の翻訳、事後:Unit2 Dialogue の音読（90 分）
3	Unit 1/2 の Review Test & Presentation	事前:テストと Presentation の準備（90 分）
4	Unit 3 Commuting (How Questions)	事前:Unit3 の通読、事後:Unit3Essay の音読（90 分）
5	Unit 4 Fashion (Present Continuous)	事前:Unit4 の通読、事後:Unit4Essay の音読（90 分）
6	Unit 3/4 の Review Test & Discussion	事前:Test と Discussion の準備（90 分）
7	Unit 5 Personality (Comparative and Superlative	事前:Unit5 の Essay の通読、事後:Unit5 の Dialogue の音読（90 分）
8	Unit 6 Sleep (Preposition of Time)	事前:Unit6 の Essay の翻訳、事後:Unit6 の Dialogue の音読（90 分）
9	Unit 5/6 の Review Test & Presentation	事前:Test と Presentation の準備（90 分）
10	Unit 7 Travel (Future Tense)	事前:Unit7 の通読、事後:Unit7 の Essay の音読（90 分）
11	Unit 8 Diets (Present Perfect Tense)	事前:Unit8 の通読、事後:Unit8 の Essay の音読（90 分）
12	Unit 7/8 の Review Test & Discussion	事前:Test と Discussion の準備（90 分）
13	Unit 9 (Auxiliary Verb)	事前:Unit9 の Essay の翻訳、事後:Unit9 の Dialogue の音読（90 分）
14	Unit 10 E-books (Inanimate Subject)	事前:Unit10 の Essay の翻訳、事後:Unit10 の Dialogue の音読（90 分）
15	前期試験、Presentation	前期試験と Presentation の準備（90 分）
16	Unit 11 Online Friends (Reported Speech)	事前:Unit11 の通読、事後:Unit11 の Essay の音読（90 分）
17	Unit 12 Productivity (Adjectives and Adverbs)	事前:Unit12 の通読、事後:Unit12 の Essay の音読（90 分）
18	Unit11/12 の Review Test & Discussion	事前:Test と Discussion の準備（90 分）
19	Unit13 Pets (Prepositions of Place)	事前:Unit13 の Essay の翻訳、事後:Unit13 の Dialogue の音読（90 分）
20	Unit14 Made by Hand (Passive Voice)	事前:Unit14 の Essay の翻訳、事後:Unit14 の Dialogue の音読（90 分）
21	Unit13/14 の Review Test & Presentation	事前:Test と Presentation の準備（90 分）
22	Unit 15 Writing (Conjunctions)	事前:Unit15 の通読、事後:Unit15 の Essay の音読（90 分）
23	Unit 16 Food Culture (Relative Pronouns)	事前:Unit16 の通読、事後:Unit16 の Essay の音読（90 分）
24	Unit 15/16 の Review Test & Discussion	事前:Test と Discussion の準備（90 分）
25	Unit 17 Stress (Conditional Mood)	事前:Unit17 の Essay の翻訳、事後:Unit17 の Dialogue の音読（90 分）

26	Unit 18 Ghosts (Past and Present Perfect Tense)	事前:Unit18 の Essay の翻訳、事後:Unit18 の Dialogue の音読（90 分）
27	Unit 17/18 の Review Test & Presentation	事前:Test と Presentation の準備（90 分）
28	Unit 19 Housing (Participial Adjectives)	事前:Unit19 の通読、事後:Unit19 の Essay の音読（90 分）
29	Unit 20 Gender Equality (Indirect Questions)	事前:Unit20 の通読、事後:Unit20 の Essay の音読（90 分）
30	後期試験、Discussion	後期試験と Discussion の準備（90 分）

テキスト

Companion to English Communication Nan'un-do

By Esther WAER, UCHIDA Msakatsu, KAMEYAMA Hiroyuki 2023

(生協で購入)

参考書・参考資料等

Input - Output (Handbook of Everyday English Communication

NAN'UN-DO　By Mika Yanase, Faith L. Green 2017

資料等は講義中に紹介また配布する。

成績評価

課題、レポートや小テスト(40%)

プレゼンテーション・ディスカッション(30%)

試験(30%)

履修要件及び履修上の注意事項

・英和辞典等の辞書を準備すること。

・「30 分以上の遅刻を欠席」、「3 回の遅刻で欠席 1 回」とみなす。

・卒業必修科目。

課題に対する指導

・単元ごとに講義中に適宜実施する。

・毎回、授業の感想や授業への要望等を書くための用紙を配布、収集する。

オフィスアワー・連絡先

・質問等については授業の前後の時間に教室にて対応する。

・相談がある場合は事前に連絡をすること。

評価	満足できる状況
ア	基本的な文法事項が理解している。
イ	簡単な英会話、リーディング、ライティングができる。
ウ	300 語程度の英語のエッセイを読むことができる。
エ	英語でプレゼンテーションができる。
オ	英語によるディスカッションができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☐PBL（問題解決型学習）

☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業）

☑ディスカッション、ディベート

☑プレゼンテーション

☐実習、フィールドワーク

☐その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

・ペアワークやグループワークを行う。

授業での ICT 活用

	☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容 高等学校英語教員、短期大学の英語講師、専門学校の英語講師としての指導経験がある。その経験を生かしてこの科目の指導に当たり、学生の Critical Thinking and Creative Writing の能力をつけさせる。

科目名	キャリアデザインⅠ						学期	集中
ナンバリング	K1-16-008	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	高田 綾子	
科目の概要	① 自分自身を見つめ、キャリアデザインのための自己理解を深める。 ② アセスメントを活用しながら自分の興味関心、能力を認識するとともに、さらに自分の置かれた環境を分析し、職業選択を含めた自分の生き方を考える。 ③ グループワークを通して、人間関係形成・社会形成能力やコミュニケーション能力を高める。 ④ 主体性、コミュニケーション能力など、社会人になる前段階として必要な基本スキルを、体感ワークを通じて身につけていく。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	キャリアデザインに必要な能力・スキルを理解できる。	1-(2)g)
イ	興味・関心・価値観などの自己理解を深め自分らしさについて考えることができる。	1-(2)h)
ウ	人間関係形成・社会形成能力に必要なコミュニケーションの基本スキルを身につける。	1-(2)b)、2-(2)c)

回	授業内容	授業外の学修
1	自己理解とキャリアデザインについて考える	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)
2	自分らしさについて考える①(自分らしさを表現する)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)
3	自分らしさについて考える②(自己概念)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)
4	自分らしさについて考える③(性格)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)
5	自分らしさについて考える④(価値観)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)
6	自分らしさについて考える⑤(興味)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)
7	自分らしさについて考える⑥(行動特性)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)
8	コミュニケーション力をつける①(傾聴)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)
9	コミュニケーション力をつける②(伝える)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)
10	コミュニケーション力をつける③(プレゼンテーション)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)
11	コミュニケーション力をつける④(アンガーマネジメント)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

12	コミュニケーション力をつける⑤(アサーション)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
13	コミュニケーション力をつける⑥(チーム・ビルディング)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
14	キャリアデザインに必要な考え方・行動(機会の創出)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
15	キャリアプランを作り実行する	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

① 大山雅嗣『キャリアデザインワークブック 15 講』2013(公益財団法人日本生産性本部)

② 齊藤博・上本裕子『大学1年からのキャリアデザイン実践』2017(八千代出版)

③ 平木典子『アサーション・トレーニング―さわやかな〈自己表現〉のために』2009(金子書房) 他は授業中で紹介する。

成績評価

レポート(40%)、発表(30%)、授業への参加度・学習態度(30%)

履修要件及び履修上の注意事項

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。 受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。 各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。卒業必修科目。

課題に対する指導

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

オフィスアワー・連絡先　授業の終了後

メール　t-takada@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。
イ	傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解した上で、他人の意見を尊重して聞き、正しく理解し、 自分の意見を分かりやすく表現できる。
ウ	キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。 また、グループワークでわかりすく他者に説明することができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☐PBL (問題解決型学習)

☐反転授業 (知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業)

☑ディスカッション、ディベート

☑プレゼンテーション

☐実習、フィールドワーク

☐その他

	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容 社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	キャリアデザインⅡ						学期	集中
ナンバリング	K2-16-009	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	高田　綾子	
科目の概要	グループディスカッション等を通じて実践しながら社会人基礎力について考える。近年の働き方や生き方の変化に伴い提唱されている新たな社会人基礎力について学ぶことにより、より中長期的な視点に立った必要な能力について考える。 ① 産業・業種・職業の定義を理解し、産業と職業の関係を考える。 ② 労働法を理解し、グループワークを通じて望ましい労働環境と働き方について考える。 ③ 社会保険及び税金制度を理解するとともに、ライフステージに応じたマネープランについて考える。 ④ 志望する業界や職種の研究と自己分析を通じて就職に対する意識を高め、社会に対する視野を広げる。 ⑤ 社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力の重要性を知り、インターンシップに向けた自信を身につける。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	社会人として必要な基礎的な力について、理解するだけにとどまらず、行動に繋げることができる。	2-(2)e)
イ	現代社会における多様な働き方と必要な制度について理解する。	1-(2)g)
ウ	自分自身の生き方をデザインするために役立つ知識を理解する。	1-(2)h)
エ	ストレスマネジメントを理解する。	1-(2)e)

回	授業内容	授業外の学修
1	社会人の心構えと求められる能力を考える	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
2	社会人基礎力(前に踏み出す力)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
3	社会人基礎力(考え抜く力)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
4	社会人基礎力(チームで働く力)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
5	社会人基礎力(チームで働く力②)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
6	働く意味を考える	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
7	産業・仕事・組織を理解する	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
8	職業探索	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
9	労働関係の法律・制度(労働契約のルール)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
10	労働関係の法律・制度(仕事と育児・介護の両立)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

11	福利厚生と社会保険の仕組み	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
12	ライフステージとマネープラン	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
13	健康に働く(ストレスマネジメント)	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
14	SDGs からみる社会課題	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)
15	人生 100 年時代のキャリアデザイン	・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト	成績評価
山﨑紅『求められる人材になるための社会人基礎力講座 第 2 版』(日経BP社、2018) 教員作成の資料	レポート(40%)、発表(30%)、授業への参加度・学習態度(30%)
参考書・参考資料等 ① 村山昇『働き方の哲学』(ディスカバー・トゥエンティワン、2018) ② 井下千以子『思考を鍛える大学の学び入門 第 2 版』(慶応義塾大学出版会、2020) ③ リンダ・グラットン・アンドリュー・スコット『LIFE SHIFT−100年時代の人生戦略』(東洋経済新報社、2016) 他は授業中で紹介する。	

履修要件及び履修上の注意事項

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。 受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。 各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。卒業必修科目。

課題に対する指導

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

オフィスアワー・連絡先 授業の終了後

メール t-takada@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	社会人基礎力について理解でき、積極的な意見の発表、質問ができる。
イ	キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、内容を適切な文章で表現できる。
ウ	自分自身のキャリアについて具体的に考えることができる。
エ	自分自身のストレスマネジメントの方法を具体的に考えることができる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL (問題解決型学習) □反転授業 (知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業) ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。	

科目名	ほとけの世界							学期	後期
副題	ほとけさまの心「慈愛(じあい)」に基づく教育とは				授業方法	講義	担当者	高橋成明	
ナンバリング	K1-02-010	実務経験の有無	有	関連DP	4,5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
21世紀は「心の時代」といわれている。物質的な進歩が見られた反面、自然環境の変化・感染症等による世界的な国難ともいえる状況が発生した。私たちを取り巻く社会状況が変化していく中で日々の生活をどう生きていくのか、を「豊かな心を育む」ともいわれる仏教の教えを中心に、なるべく平易な言葉・表現を用いながら皆さんと共に考える。

授業の到達目標
父・母をご縁としてこの世に生まれた私たちが、楽しく心地よく生きていくためのヒントを見い出すことができる。また、ほとけさまの説く自然観や真理に触れ、子供たちに「生命尊重・思いやりの心・感謝の心・正しい道徳性の芽生え」を育てていく「教育」はどうあるべきか、について考えることができる。

授業計画
1.お釈迦さまと仏教思想1
2.お釈迦さまと仏教思想2
3.仏さまの説く死生観(ししょうかん) 1 ー私たちはこの世に生まれ何処に向かうのかー
4.仏さまの説く死生観(ししょうかん) 2 ー子供は親を選んで生まれてくるー
5.仏教から学ぶ1ー生命尊重ー
6.仏教から学ぶ2ー共同自立、自主的精神の芽生えー
7.仏教から学ぶ3ー正しい言葉遣いと努力する心ー
8.仏教から学ぶ4ーよき社会人をつくるー
9.仏教から学ぶ5ー仏教に学ぶ教育の原点ー
10.生かせ　いのちーすべての<いのち>はつながっているー
11.ほとけさまの慈悲(じひ)・慈愛(じあい) について
12.ありがとうー恩に報い、感謝の心でー
13.ありがとうー自利・利他を生きるー
14.光り輝く心を持つ人は、その笑顔で人々を和ませ自らも幸せの道を歩む
15.楽しく幸せに生きるー我々の目指すべき理想像ー

準備学習(予習・復習)・時間
配布プリントを再読し、レポート提出に向けて自身の考えや意見をまとめておくこと (90分程度)。

テキスト
配布プリント

参考書・参考資料等
「子どもは親を選んで生まれてくる」池川　明　日本文教社 「いのちの木(ポプラせかいの絵本)」ポプラ社

学生に対する評価
レポート提出 (100%)　　授業で取り上げた課題について自分の意見を述べるレポートを1回実施する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 仏教に関する基礎的な語彙を理解している。
(B) 仏教の基本的な考えを理解している。
(A) 仏教の思想ついて基礎的な理解を有し、説明できる。
(S) 仏教の思想を理解し自らの生活・人生に活かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法
レポート提出後に生徒一人一人に対してコメントを返す。

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、授業内容に関する事例検討とPBLなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材やICT教材を用いることもある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
高野山真言宗の僧侶である教員がその経験を踏まえ、仏教と自然・人・社会との関わりについて考え、「人を育てる」ということについて講じる。

科目名	日本国憲法						学期	前期・金・2
ナンバリング	K1-09-011	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	山本 雅一	

科目の概要	基本的人権の保障と統治機構から構成されている日本国憲法の理念と基本原理、および憲法解釈の基本について概説する。また、現代社会の事例に対する司法判断や判例にみられる法律の適用・解釈から、法的なものの見方・考え方を学ぶ。さらに法演習を通して、争点となっている事例から憲法上の問題を指摘するとともに、法的なものの見方・考え方を活かして、事例の課題解決に取り組む。

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連DP
ア	憲法の理念と基本原理、および憲法解釈の基本について理解し、説明することができる。	2－(1) a)
イ	憲法に関係する事例の司法判断、判例から、法的なものの見方・考え方を身につけることができる。	2－(1) b)
ウ	現代社会における様々な事例から憲法上の問題や争点を的確に指摘し、法的な課題解決を提示することができる。	2－(2) a)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション　憲法学習の意義	シラバスを事前に読んでおく。
2	国民主権と象徴天皇制	国民主権と象徴天皇制の関係をまとめる。
3	平和主義　第9条の理念と日本の安全保障	日本の安全保障の実態を調べておく。
4	基本的人権における法理論の展開	基本的人権の歴史を調べておく。
5	平等権　法の下の平等と社会問題	法演習「平等権」に取り組む。
6	自由権(1)　精神の自由(思想・良心、信教、学問、表現の自由)	前回の法演習をまとめる。法演習「精神の自由」に取り組む。
7	自由権(2)　人身の自由(奴隷的拘束・苦役からの自由、適正手続の保障)	前回の法演習をまとめる。法演習「人身の自由」に取り組む。
8	自由権(3)　経済の自由(職業選択、居住・移転の自由、財産権)	前回の法演習をまとめる。法演習「経済の自由」に取り組む。
9	社会権(1)　生存権（第25条と日本の社会福祉・社会保障・公衆衛生）	前回の法演習をまとめる。法演習「生存権」に取り組む。
10	社会権(2)　教育を受ける権利	前回の法演習をまとめる。法演習「教育問題」に取り組む。
11	社会権(3)　労働基本権	前回の法演習をまとめる。法演習「労働基本権」に取り組む。
12	統治機構(1)　国会と立法権	前回の法演習をまとめる。
13	統治機構(2)　内閣と行政権	国会・内閣・裁判所における権力の抑制と均衡をまとめる。
14	統治機構(3)　裁判所と司法権	出身市町村の行政上の課題を事前に確認しておく。
15	地方自治　地方自治の原則と地方自治体	憲法の学習をふりかえる。

テキスト

使用しない。適宜、授業レジュメ、資料を配付する。

参考書・参考資料等

芦部信喜 著　高橋和之 補訂『憲法 第八版』 岩波書店 2023年

本 秀紀 編　『憲法講義 第3版』 日本評論社 2022年

成績評価

試験(70%)

授業での法演習のレポートと発表の内容(30%)

履修要件及び履修上の注意事項
卒業必修科目。

課題に対する指導
質問や意見については、毎回の授業内でふりかえりを行う。法演習を実施した際には、次の講義にて講評、解説等を行う。

オフィスアワー・連絡先
授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア	憲法の理念と基本原理、および憲法解釈の基本について理解し、事例を通して憲法の理念等を説明することができる。
イ	法的なものの見方・考え方を働かせ、社会における対立や不正等の課題を追究したり解決したりすることができる。
ウ①	現代社会における様々な事例から憲法上の問題や争点を的確に指摘し、法的な論点を整理することができる。
ウ②	事例の課題解決に向け、憲法の基本原理と解釈に基づいて、具体的な法的解決を提示することができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☒ディスカッション、ディベート ☒プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

科目名	情報と教育						学期	前期・木・4
ナンバリング	K1-13-012	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	森 大樹	
科目の概要	インターネットやメール、文書作成、プレゼンテーションなどコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業においても大切な要素のひとつである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやクラウドなど、ICT 環境の運用能力も必要とされるようになった。教育職員免許法第 5 条第 1 項, 別表 1 の 4 に定められている「情報機器の操作」に該当する内容を学習する。 [目的]本科目の目的は ICT 機器の活用方法を習得することである。ワードやグーグルクラスルーム、表計算を使って具体的な課題の演習をおこない、情報リテラシーを自然と身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力を習得する。 [概要]次の授業計画に示したように、グーグルクラスルームやワード等の持つそれぞれの基本機能について演習をおこないながら、コンピュータの基礎的な技能が自然に身につくように構成してある。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	各自持参するノート PC の使用方法が習得できる	1-(1)i)
イ	グーグルクラスルームを使うことができる	1-(1)i)
ウ	グーグルドキュメント、グーグルスライドのソフトウエアを操作できる	1-(1)i)
エ	ワード、エクセル、パワーポイントのソフトウエアを操作できる	1-(1)h)
オ	情報リテラシーを身に付ける	1-(2)g)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション、情報モラル	教科書を事前に読み予習をすること。授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。
2	ノート PC 環境、メール、ブラウザの設定	教科書を事前に読み予習をすること。授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。
3	グーグルクラスルームの使い方	教科書を事前に読み予習をすること。授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。
4	グーグルミート、グーグルドライブの使い方	教科書を事前に読み予習をすること。授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。
5	タイピング課題	授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと
6	情報処理の基礎・情報検索・図書館利用法	授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと
7	自己紹介文作成と印刷	授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと
8	文書作成演習(1)ページ設定、文字列操作	授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと
9	文書作成演習(2)表の作成、印刷	授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと
10	文書作成演習(3)画像挿入、図形描画	授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと
11	おたより作成	授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと
12	表計算(1)関数による統計処理と情報分析	授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと
13	表計算(2)グラフ作成	授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと
14	パワーポイントを活用したプレゼンテーション資料の作成	授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと
15	総合演習問題	授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと

テキスト	成績評価
『これからの保育のための ICT リテラシー＆メディア入門』株式会社みらい 2022 年 4 月発刊 ISBN:978-4-86015-578-0 価格:3,300 円(税込)	受講態度(40%)、課題等(60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。

参考書・参考資料等	
講義時に適宜紹介	

履修要件及び履修上の注意事項

自分専用のノートPCを各自購入し、授業に各自持参すること。大学生協モデルも販売するので、どの機種を買っていいか迷う場合は生協モデルを購入してください。もしくは、高野山大学のキーボード付きiPadを借りて持参するのも可。

ノートPC推奨スペック→グーグルクロームが動作するもの。画面10インチ以上。キーボード付き。

卒業必修科目。

課題に対する指導

質問や意見については、授業内にて対応する。授業時間外の質問は電子メールにて対応する。

課題については、提出されたものをすべて評価した後、必要な場合にはフィードバックを行う。

オフィスアワー・連絡先

火曜～金曜昼休み・7階704森研究室 mori@chiyoda.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	各自持参するノートPCが適切に使用できる。
イ	グーグルクラスルームが適切に使える。
ウ	グーグルドキュメント、グーグルスライドのソフトウエアの操作が適切にできる。
エ	ワード、エクセル、パワーポイントのソフトウエアの操作が適切にできる。
オ	情報リテラシーを身に付けている。

授業の特徴	
	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート ✓プレゼンテーション ✓実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 グーグルスライドを使って、自己紹介をクラスにむかって発表する。
	授業でのICT活用 ✓双方向型授業に活用 ✓自主学習支援に活用
	その他ICT活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

図書館司書として目録システムのデータベースを作成することができる担当者が、情報リテラシーもあわせ、適切なICT機器の活用方法を伝える。

科目名	生涯学習論						学期	後期・水・4
ナンバリング	K3-17-013	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	山田正行	
科目の概要	グローバリゼーションにおいて国や郷土の伝統・文化の修得が求められ，アイデンティティが確立してこそ多文化共生社会で自律・自立できるとの観点から生涯学習の過去・現在・未来(歴史・現状・展望・課題)、社会教育と学校教育の連携、生涯発達に即した学習・教育の内容や方法を講義。、アクティブ・ラーニングと組み合わせ体験学習などに繋げる。知識基盤社会(knowledge-based society)の時代において超スマート社会(Society 5.0)に向けた人材育成を基軸に生涯学習をテーマとし、地域にしっかりと立脚して持続可能な発展／開発に資する生涯学習の基礎的実践的理解を得ることを目標とする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	生涯にわたる広い視角から子供の学習を指導できる実践力	1-(2)h)
イ	アイデンティティ形成を視程に収めて子供の発達を支援できる認識力	1-(3)b)
ウ	グローバリゼーションにおける日本の教育的課題を論理的に把握できる才知	2-(2)a)

回	授業内容	授業外の学修
1	授業の構成、進め方、目標、評価の基準などの説明	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
2	生涯学習・生涯教育・生涯発達の相互連関	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
3	グローバリゼーションにおけるアイデンティティ形成のための生涯学習	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
4	多文化共生と日本の伝統文化に即した生涯学習	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
5	日進月歩の生涯学習社会における社会教育と学校教育の連携	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
6	胎児期と胎教、乳児期と家庭教育・保育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
7	幼児期と家庭教育・保育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
8	少年期と家庭教育・保育・早期教育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
9	学童期と初等教育、前期中等教育・社会教育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
10	青年期と後期中等教育、高等教育・社会教育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
11	若い成人期と高度情報社会、知識基盤社会における継続教育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
12	成人期と継続教育、若い世代の育成・愛育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
13	老年期とライフサイクルの完結、叡智のためのデス・エデュケーション	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
14	超スマート社会(Society 5.0)に向けて AI と協働する生涯学習	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180 分）
15	授業のまとめ、振り返り、フィードバック	総復習（180 分）

テキスト

最新の研究成果（『綜芸・学科紀要』掲載論文等）や情報をまとめたレジュメを適宜配付する。

参考書・参考資料等

波多野『生涯教育論』(小学館)、宮原編『生涯学習』(東洋経済新報社)、

山田他「叢書生涯学習」全 10 巻(雄松堂)、『文部科学省白書』最新版

成績評価

授業への積極性（発言・質問）—２０％

中間レポート—２０％

中間プレゼンテーション—２０％

期末レポート—４０％

履修要件及び履修上の注意事項 事実を客観的に考えつつ我がことに引き付け主体的に発言するなど主客を統合したアクティブ・ラーニングに努める。 卒業必修科目。	
課題に対する指導 授業を対話的に進め個別最適的かつ協働的な＝「一人はみんなのために，みんなは一人のために」の精神で指導する。	
オフィスアワー・連絡先 授業の前後。連絡先のメールアドレスは授業で指示。	
評価	満足できる状況
ア	学習を教育・形成・発達とのインタラクションで理解し，論理的思考に基づき子供の指導に応用できる。
イ	個性や環境を踏まえてアイデンティティ形成を理解し，論理的思考に基づき子供の支援に応用できる。
ウ	世界の内の日本，世界と日本について課題意識をもって論理的に考え，建設的な意見を持てる。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 大学のアドレスのメールやグーグル・クラスルームをみるのは必須。平常点に関わる。
担当教員の実務経験の内容 無	

科目名	平和教育						学期	前期・水・4
ナンバリング	K3-17-014	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	山田正行	
科目の概要	平和教育を、平和に関する教育（education about peace）と平和のための教育（education for peace）から講義し、平和の構築・維持、安全保障を積極的に考え、取り組む人間の育成をテーマにする。グローバリゼーションにおいて世界各国・地域の関係がますます緊密になる一方、リスクも高まっているという現状における平和教育の実践や課題を解説する。人権意識や多文化共生へと導く教育実践の方法や内容の基礎を修得するため、様々な教科に関連づけ総合的学習としてカリキュラム化でき、また平和というグローバルで普遍的な課題について子供の身近な興味、関心、疑問からいのちの尊さ、他者を大切にすること、異なる文化を理解することへと導く教育実践の方法や内容の基礎を修得することを目標とする。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連 DP
ア	戦争の現実の認識に立脚した平和教育の実践力	1-(2)h)
イ	世界の内で、世界と共に日本が平和のために果たす役割の認識力	1-(3)b)
ウ	平和を多文化共生や相互理解と論理的に関連づけられる才知	2-(2)a)

回	授業内容	授業外の学修
1	授業の構成、進め方、目標、評価の基準などの説明	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
2	平和教育の思想的な基礎ー不殺生、ヒューマニズム、永遠平和	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
3	国際的動向（国連、ユネスコ，NGOなど）と平和教育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
4	日本の外交政策や民間交流と生涯学習	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
5	持続可能な開発／発展の教育（ＳＤＥ）と政府開発援助（ＯＤＡ）	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
6	平和教育とエンパワーメントー生きる力の総合的学習のために	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
7	パワーポリティクスにおける複合的暴力＝戦争の認識と抑止	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
8	ソフトパワー，人間の安全保障と平和教育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
9	国際緊急・人道支援、クラスター制度と平和教育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
10	パブリック・ディプロマシー（広報文化外交）と平和教育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
11	高度情報化と平和のためのメディア・リテラシー	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
12	平和教育と家庭教育ー生涯学習とチーム学校（1）	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
13	平和教育と社会教育ー生涯学習とチーム学校（2）	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
14	平和教育とボランティアー生涯学習とチーム学校（3）	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
15	授業のまとめ、振り返り、フィードバック	総復習（180分）

テキスト	成績評価
最新の研究成果（『綜芸・学科紀要』掲載論文等）や情報をまとめたレジュメを適宜配付する。	授業への積極性（発言・質問）—２０％ 中間レポート—２０％ 中間プレゼンテーション—２０％ 期末レポート—４０％
参考書・参考資料等：外務省『外交青書』最新版，山田正行『平和教育の思想と実践』、『「わだつみのこえ」に耳を澄ませる』，『慰安婦と兵士の愛と死：限界状況において絡み合うエロスとタナトスの心理歴史的研究』	

履修要件及び履修上の注意事項
事実を客観的に考えつつ我がことに引き付け主体的に発言するなど主客を統合したアクティブ・ラーニングに努める。 卒業必修科目。
課題に対する指導
授業を対話的に進め個別最適的かつ協働的な「一人はみんなのために，みんなは一人のために」の精神で指導する。
オフィスアワー・連絡先
授業の前後。連絡先のメールアドレスは授業で指示。

評価	満足できる状況
ア	平和を切り口にいのちの大切さ、人権の尊重を理解し，論理的思考に基づき様々な授業で応用できる。
イ	グローバルな視角で日本，地域で生きることの意味を理解し，論理的思考に基づき様々な授業で応用できる。
ウ	異なる国や民族との共生・共創を理解し，論理的思考に基づき様々な授業で応用できる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 大学のアドレスのメールやグーグル・クラスルームをみるのは必須。平常点に関わる。

担当教員の実務経験の内容
無

科目名	人権と社会						学期	3年後期
ナンバリング	K3-17-015	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	奥田 修一郎	

科目の概要	・グローバル化が急激に進む中、これまでの人権論では想定できない新たな人権課題の分野にも関心が高まっている。その中にあって「多様性」を生かしつつ差別を克服してきた歴史や動きを知るとともに、個々がどのように他者や社会に働きかけるのか、解決に向けての具体的な方法を身に付けられるようにする。また、現代の課題である子どもの貧困、虐待、学校現場でのいじめなどを考察していく。また，身近な人権をテーマにした映像，ドラマ，絵本，サブカルチャーから，各自，問いをつくり議論で深めるようにしていく。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	社会にある人権に関する諸問題や解決に向けた動きを，理論や概念から理解することができる。	1-(1)a)
イ	人権へのアプローチとして，自分の社会的立場の認識を深め，他者と協働して問題に取り組み解決する具体的な方法を考えることができる。	1-(2)c)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション，人権とは何か？	シラバスをよく読み込み，人権に関したトピックをまとめる。(60 分)
2	自分自身の人権を振り返る。多様性と人権	自分自身の人権についてふりかえる。(90 分)
3	平等って何だろうか。みんな同じは平等なのか？	事前に配布した資料を読み込む。(60 分)
4	多数派と少数派，社会構造から考える。	事前に配布した資料を読み込み，気になったところを抜き出す(60 分)
5	特権とは何か。立場理論から考える。	授業で学んだことが自分の周りではどんな事なのかをまとめる。(60分)
6	マイクロアグレッションって何だろうか。小さなトゲを考える。	事前に課題を調べておく。(60 分)
7	外国にルーツのある子どもに向き合うために必要なこととは？	事前配布の資料を読み込む。(60 分)
8	障害者って誰のことだろうか。障害の社会モデルから捉える。	学んだことを用いて身近な事象を捉え返してまとめる。(90 分)
9	偏見から自由になるためにどうすればいいのかを考える。	学んだことを用いて身近な事象を捉え返してまとめる。(90 分)
10	ジェンダー視点で教育を見直してみる。 各自の発表①	それぞれの発表に向けての教材研究と準備，リハーサル(180 分)
11	子どもの権利条約を知ろう。　各自の発表①	
12	子どもの貧困とヤングケアラー　各自の発表②	それぞれの発表に向けての教材研究と準備，リハーサル(180 分)
13	部落問題と日本の歴史　各自の発表③	
14	ジェンダー平等から考える。	小テストに向けての復習(90
15	差別解消に向けた取組を知る。アライとは誰のこと？	15 回の学びを振り返り，次への課題をまとめる。(60 分)

テキスト：使用しない。適宜，資料を配布する。 参考書・参考資料等：齋藤純一，2021，『平等ってなんだろう？』平凡社，荒井裕樹，2022，『障害者ってだれのこと？』など，授業中に適宜紹介する。	成績評価 ・レポート[教材、作品も含む](50%) ・小テスト(20%)、授業でのワークシート記述(20%)、討論の内容と発表の内容(10%)

履修要件及び履修上の注意事項

・必修科目である。

課題に対する指導 ・授業での振り返りワークシート(提出された課題も)に書いた疑問・意見については，コメントを書き，個々に返すとともに，全体の学びにつながるものは，次の授業のはじめで共有し深めるようにする。資料や授業で使用したパワポ資料は classroom に提示していく。また，レポート作成課題に対しては，適宜，参考資料を提示する。	
オフィスアワー・連絡先 ・月の3，4限目　研究室で対応する。相談がある場合，事前の連絡をお願いしたい。	
評価	概ね満足できる状況
ア	社会にある人権に関する諸問題や解決に向けた動きを，自分の経験（当事者意識）と絡ませて，理論や概念から理解することができる。
イ	自分という軸に振り返り，他者として協働して解決に向けた取り組み方法を考えることができる。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 ・アクティブ・ラーニングを多く取り入れた科目である。特に，受講者同士の対話的な学びを重視する。人権をテーマにした映像，ドラマ，絵本，サブカルチャー教材を使い理解を深めていけるようにする。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ・Google Classroom を使って，発表を行う。
担当教員の実務経験の内容 中学校教員時では，市の人権教育協議会の事務局長として，校内や小中連携の人権教育カリキュラムづくりに携わった。その経験と人とのつながりを生かした講義の構成を行いたい。	

科目名	日本語						学期	通年・水・4
ナンバリング		実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	河岸 厚彦	
科目の概要	日本語能力検定試験 N2 受験対策講義 1. N2 文法 習得した文法を日常使える文型に体得させる 2. N2 文字・語彙 熟語の理解と和語に親しませる 3. N2 読解 正答 につながる、本文に書かれていないニュアンスを読み取れる能力を養う 4. N2 聴解 並行して日本語の発音とアクセントを正しく習得していく 5. N2 漢字 訓読に音読み、慣用的用法を中心に指導する 6. カタカナ語彙 中上級を対象にしたカタカナ語彙を学習							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	自立した言語使用者たることを目指す	
イ	1) 自分の専門分野の議論、複雑なテキストの主要な内容を理解	
ウ	2) お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやりとりできる	
エ	社会的、学問的、職業上の目的に応じた言葉遣いができる	
オ	JLPT N2 合格を目指す	

回	授業内容		授業外の学修
1	N3 の総復習	4/9	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
2	N2 文法 1回目	4/16	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
3	N2 文字・語彙	4/23	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
4	N2 読解	4/30	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
5	N2 聴解	5/7	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
6	N2 漢字・カタカナ語彙 1回目	5/14	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
7	N2 文法 2回目	5/21	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
8	N2 文字・語彙 2回目	5/28	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
9	N2 読解 2回目	6/4	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
10	N2 聴解 2回目	6/11	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
11	N2 漢字・カタカナ語彙 2回目	6/18	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
12	N2 文法 3回目	6/25	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
13	N2 文字・語彙 3回目	7/2	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
14	N2 読解 3回目	7/9	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示
15	N2 聴解 3回目	7/16	授業中の不理解箇所と別途課題を宿題提示

テキスト	成績評価
① ポイント&プラクティス N2 文法 ⑥ 漢字ワーク N2 ② ポイント&プラクティス N2 読解 ⑥ 分野別カタカナ語彙トレーニング ③ ポイント&プラクティス N2 聴解 ④ ドリル&ドリル N2 文字・語彙	

参考書・参考資料等 特になし	

履修要件及び履修上の注意事項

要件：N３所持相当の日本語能力を備えている前提のシラバス　カリキュラム　受講者能力を勘案する

学生が希望する JLPT　N２受験の時期に合わせた受験対策の講義スケジュールとする

課題に対する指導

評価に記載

オフィスアワー・連絡先

評価	満足できる状況
最上1	習得率 80%以上　JLPT 合格の段階に入っていると考えられる
最上２	習得率 70%以上　未習得学習項目の制覇を要する
最上３	習得率 50%以上　～70%以下　復習の反復を要する
最上４	習得率 25%以上　～50%以下　未習得が多い。再度学習を要する
最上５	習得率 25%以上　徹底したやり直しを要する

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

科目名	教育原論							学 期	後 期
副 題	教育とは何かを多面的に考察する				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G1-17	実務経験の有無	無	関連DP	-	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

1、教育の基本的概念
2、教育思想の歴史
3、教育の営みの歴史を学び、教育の本質に関する理解を深める

授業の到達目標

教員として教育にかかわっていくための基礎となる知識を身につける。

授業計画

1. 教育の基本的意味
2. 人間特有の現象としての教育
3. 学ぶことと教えること
4. こころとからだを育てる
5. 道徳性の発達
6. 教育思想の原点１（ソクラテス）
7. 教育思想の原点２（プラトン）
8. 近代の教育思想１（ロック）
9. 近代の教育思想２（ルソー）
10. 現代の教育思想（デューイ）
11. 家庭・地域・学校
12. 近代学校の性格
13. 日本における学校の歴史
14. 子どもの権利と教育への権利
15. 現代教育の課題定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

シラバスに予告されている講義内容に該当する教科書部分を研究しておく（予習）。講義内容を振り返る（復習）（計90分以上）。

テキスト

田嶋一著『やさしい教育原理』有斐閣

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義の内容を理解している
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる
（A）講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる
（S）講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

その他

ＩＣＴ機器を活用するとともに、アクティブラーニング型の授業形式を取り入れる。

科目名	教職入門						学期	1年前期
ナンバリング	K1-17-017	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	今西　幸蔵	
科目の概要	1　教職に関する基礎的知識を習得し、自らの教員像を考える契機とする。 2　教育行政としての学校のあり方について学び、社会との関係を理解する。 3　児童・生徒理解をとおして、学校教育のあり方や進め方を考える。 4　授業に対する認識を深め、教員として何を学ぶべきかを考える。 5　学校生活における児童・生徒に対する具体的な指導について考える。 6　地域社会と学校との関係をどう発展させるかを考える。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	教職とは何かを知り、教員養成の仕組みを理解し、教員としての使命感を持っている。	1-(1)a)・i)
イ	教員として求められている資質・能力について認識した上で、自らの教員像を作ることができ、理想の教員をめざす意欲を持っている。	1-(2)g)・h)
ウ	学校や教員に関係する法規などについて理解し、社会との関係性について考えることができる。	1-(1)a)・b)・c),2-(1)・(2)
エ	児童・生徒を発達する存在として理解し、いのちと安全について配慮した指導ができる。	1-(1)l)
オ	教員として必要とされる教科等の学習指導に取り組む力がある。	1-(1)d)・e)・j)・k)

回	授業内容	授業外の学修
1	教職課程の概要と教員免許制度について理解する。	入学時のオリエンテーションで学んだことを整理する。(60分)
2	教職の意味・意義を理解し、教員の役割について考える。	教科書を読み、配付資料で復習する。(90分)
3	教育行政の仕組みと教員採用の現状について知る。	講義ノートを整理し、問題点を明確にする。(90分)
4	学校における校務について知り、教員の仕事を考える。	教科書を読み、配付資料で復習する。(90分)
5	授業の質向上と教材研究の意味と方法について知る。	教科書を読み、配付資料で復習する。(90分)
6	教員の諸権利と義務を知り、各自のあり方を考える。	講義ノートを整理し、問題点を明確にする。(90分)
7	児童・生徒の文化と個々の生活について考える。	与えられた課題について予習・復習を行う。(120分)
8	児童・生徒のいのちと健康、安全・安心について考える。	与えられた課題について予習・復習を行う。(120分)
9	児童・生徒指導の進め方と組織的な対応策を考える。	与えられた課題について予習・復習を行う。(120分)
10	教員に求められている服務を理解し、研修について知る。	講義ノートを整理し、問題点を明確にする。(90分)
11	児童・生徒から求められている教員像について考える。	与えられた課題について予習・復習を行う。(120分)
12	教員に必要とされる資質・能力について考える。	与えられた課題について予習・復習を行う。(120分)
13	地域社会と学校の連携・協力の必要性について理解する。	講義ノートを整理し、問題点を明確にする。(90分)
14	家庭との関係やコミュニティスクールについて理解する。	講義ノートを整理し、問題点を明確にする。(90分)
15	学校の歴史から未来の学校を考える。	与えられた課題レポートを作成する。(120分)

テキスト：今西幸蔵・古川治・矢野裕俊編著『教職に関する基礎知識（三訂版）』八千代出版	成績評価：課題小レポート(70%)、最終レポート(30%)
参考書・参考資料等：毎時資料を配付する。	
履修要件及び履修上の注意事項	

教員免許法で定められた必修科目。1年生前期（入学直後）の学生が対象であり、教職課程全体について理解するための科目である。教育実習を履修するための必須科目でもある。	
課題についてはすべて評価の対象とする。課題小レポートは適時実施し、その後の授業でふりかえる。	
オフィスアワー・連絡先：金曜日（前期は午後・後期は午前）出校しており、教室にて対応する。急ぎの相談その他がある場合は次のアドレスに連絡すること。yiu68461@nifty.com	
評価	満足できる状況
ア	教職とは何か、その意味と意義を理解し、具体的に教員養成の仕組みについて理解している。
イ	教員として求められている資質・能力について認識している。自らの理想とする教員像を作ることができ、目標に向かって努力する意欲を持っている。
ウ	学校や教員が社会的制度に基づいて成り立っていることや、関係する法規などについて理解するとともに、社会に開かれた学校であることについて考え、説明することができる。
エ	発達心理学に基づいた児童・生徒理解に努め、根底に生命維持と人権があることを認識し、教員として適切な言動をすることができる。
オ	学校教育の核である授業を大切にし、教員として必要とされる学習指導や生徒指導に取り組むための自己研修力がある。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング☑ ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ☑その他：アクティブ・ラーニングの内容：ディベートやグループワークを実施する。
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項：授業において視聴覚教材を使用する。
担当教員の実務経験：高等学校教員 16 年間、中学校教員 3 年間、教育委員会事務局主任指導主事の職を 8 年間務めた。高等学校においては、教頭と生徒指導部員を経験している。	

科目名	教育と社会						学期	前期・水・2
ナンバリング	K2-17-018	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	山田正行	
科目の概要	教育と社会の関連性を、教育の社会に対する機能や意義、社会の教育への影響や作用を基軸に学校や教師の機能、役割、課題を講義する。子供が社会の持続可能で公正な開発／発展を進め、超スマート社会(Society 5.0)を担える者となれる学力・体力・徳性・生きる力を習得させる授業実践を解説する。日本再生や教育再生など具体的課題に即してアクティブ・ラーニングを組み入れ、理論や知識を実践力に結実させる。体験学習やフィールドワークと連動させ人間が安心して生きられる安全な社会を基盤とし、またそれを支える教育のあり方、そのための学校と教師の役割を実践的に理解し、論理的思考で応用して子供を地域の持続的な発展の担い手として育成できる教育的力量の向上を目標とする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	社会の発展と人間の発達を持続させる教育の実践力	1-(2)h)
イ	超スマート社会に向けた教育の役割や課題の認識力	1-(3)b)
ウ	教育の諸課題を論理的思考に基づき授業に組み入れられる才知	2-(2)a)

回	授業内容	授業外の学修
1	授業の構成、進め方、目標、評価の基準などの説明	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
2	教育と社会と捉える視座—学校と地域の角度から	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
3	学校の基盤としての安全な地域—安全教育の役割と課題	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
4	児童生徒の家庭生活の理解—学校教育と家庭教育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
5	教師と親・保護者の協力—ＰＴＡなど学社連携	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
6	子供会・少年団の教育的な機能—形成と教育	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
7	総合的学習とボランティア活動—アクティブ・ラーニングの指導	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
8	地域のグローバル化と学校の役割—外国にルーツのある児童生徒との相互理解の指導	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
9	地域の伝統文化を活用した授業—多文化共生と日本的アイデンティティ	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
10	地域の人材を活用した授業—生涯学習の成果の還元・活用	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
11	学校開放とセーフティーネットの構築—安全教育の実践	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
12	「教育再生」における学校や教師の役割—レジリエンス、生きる力の育成	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
13	超スマート社会に向けた学校や教師の役割—明日を担う子供を教え育てる授業研究のアクション・リサーチ	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
14	学校の基盤としての安全の保障—防災防犯防疫防衛の安全教育の課題	授業の復習，及びシラバスに即した予習・自習（180分）
15	授業のまとめ、振り返り、フィードバック	総復習（180分）

テキスト：最新の研究成果（『綜芸・学科紀要』掲載論文等）や情報をまとめたレジュメを適宜配付する。	成績評価 授業への積極性（発言・質問）—２０％ 中間レポート—２０％ 中間プレゼンテーション—２０％ 期末レポート—４０％
参考書・参考資料等：ジョン・デューイ『学校と社会』。稲垣・岩井・佐藤編著『社会と教育』。『文部科学省白書』。山田「公共性の実践的構造転換と学習の認識論・I—「叢書生涯学習」(1987-1992 年)	

の発展のために―」『大阪教育大学紀要』第68巻、『SDGsと教育・学習』I～IV	

履修要件及び履修上の注意事項

事実を客観的に考えつつ我がことに引き付け主体的に発言するなど主客を統合したアクティブ・ラーニングに努める。

卒業必修科目。

課題に対する指導

授業を対話的に進め個別最適的かつ協働的な「一人はみんなのために，みんなは一人のために」の精神で指導する。

オフィスアワー・連絡先

授業の前後。連絡先のメールアドレスは授業で指示。

評価	満足できる状況
ア	社会の発展と人間の発達を持続させる教育を理解し，論理的思考に基づき様々な授業で応用できる。
イ	超スマート社会に向けた教育の役割や課題を理解し，論理的思考に基づき様々な授業で応用できる。
ウ	現代社会の教育の諸課題を理解し，論理的思考に基づき様々な授業で応用できる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業でのICT活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他ICT活用に関する特記事項 大学のアドレスのメールやグーグル・クラスルームをみるのは必須。平常点に関わる。

担当教員の実務経験の内容

無

科目名	教育心理学						学期	前期・木・4
ナンバリング		実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	南　亜紀子	
科目の概要	教育心理学とは、『教育』という事象を理論的・実証的に明らかにし、教育の改善に資するための学問である。教職に関する科目「教育の基礎理論に関する科目」に相当し、教育活動を心理学の立場から研究して、より効果的な教育活動を行うための、新たな知見や技術を提供する心理学の一分野である。本授業では発達と教育に関する概念・理論を学び、教育実践の基礎的スキルを習得する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	学校現場で必要な教育心理学の専門的知識を習得できる	1-(1)l)

回	授業内容	授業外の学修
1	教育心理学の内容　歴史や概念	事前:テキスト第1章「教育心理学の内容」を通読(60分)、事後:ふりかえり(30分)
2	発達の理論　子どもの発達を促す要因と理論	事前:テキスト第2章「発達の理論」を通読(30分)、事後:ふりかえり(30分)
3	身体・運動の発達　子どもの発育と運動能力の発達	事前:テキスト第3章「身体・運動の発達」を通読(30分)、事後:ふりかえり(30分)
4	認知・言語の発達　子どもの思考と言語の発達	事前:テキスト第4章「認知・言語の発達」を通読(30分)、事後:ふりかえり(30分)
5	社会性・道徳性の発達　仲間関係や共感性の発達	事前:テキスト第5章「社会性・道徳性の発達」を通読(30分)、事後:ふりかえり(60分)
6	思春期・青年期の発達　アイデンティティ確立と親子関係	事前:テキスト第6章「思春期・青年期の発達」を通読(30分)、事後:ふりかえり(30分)
7	個性の理解　パーソナリティ理論と知能について、レポート課題	事前:テキスト第7章「個性の理解」を通読(30分)、小レポート(次回提出、60分)
8	学習の理論　行動の獲得と変容のメカニズム	事前:テキスト第8章「学習の理論」を通読(30分)、事後:ふりかえり(30分)
9	記憶と知識　記憶のメカニズムと記憶方略	事前:テキスト第9章「記憶と知識」を通読(30分)、事後:ふりかえり(30分)
10	学習の方法　個々の学習者に焦点を当てた学習法	事前:発表の準備(90分)、事後:発表のふりかえりとまとめ(90分)
11	動機付け　自己決定理論と原因帰属、レポート課題	事前:テキスト第11章「動機付け」を通読(30分)、小レポート(次回提出、60分)
12	教育評価　目的と歴史	事前:テキスト第12章「教育評価」を通読(30分)、事後:ふりかえり(60分)
13	学級集団　児童生徒の行動や心理、教師の役割	事前:テキスト第13章「学級集団」を通読(30分)、事後:ふりかえり(30分)

14	教育相談　教育相談のための児童生徒の理解と小テストを実施	事前:テキスト第 14 章「教育相談」を通読(30 分)および小テストのための予習(90 分)、事後:ふりかえり(30 分)
15	特別支援教育　歴史と障害の理解と小テストの解説	事前:テキスト第 15 章「特別支援教育」を通読(30 分)、事後:ふりかえり(30 分)

テキスト

市川優一郎・宇部弘子・若尾良徳・齋藤雅英編『教育心理学』、中山書店、2024 年(生協で購入)。

参考書・参考資料等

石井正子・中村徳子編著『教職に生かす教育心理学』、みらい、2018 年

その他は、授業中で紹介する。

成績評価

試験(50%)、レポート(30%)、発表(20%)

履修要件及び履修上の注意事項

30 分以上の遅刻を結成、3 回の遅刻で欠席 1 回と見なす。

卒業必修科目。

課題に対する指導

質問や意見については、毎回の授業内でふりかえりを行う。

提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。

オフィスアワー・連絡先

授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア①	教育に係る理論を、自らの言葉で説明できる。
ア②	教育に係る理論を、実際の臨床場面で活用することができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☐PBL（問題解決型学習）

☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業）

☑ディスカッション、ディベート

☑プレゼンテーション

☐実習、フィールドワーク

☐その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

授業での ICT 活用

☐双方向型授業に活用

☐自主学習支援に活用

	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

臨床心理士として、幼稚園から大学までのスクールカウンセリング、精神科クリニックでの心理士をしてきた臨床経験から、学校現場における教育心理学に基づく児童生徒支援の実際、教師としてのメンタルヘルスを維持するためのストレスマネージメントについて、事例を交えながら具体的な知識を提供する。

科目名	教育心理学							学 期	前 期
副 題	児童生徒の心身の発達及び学習の過程				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	G2-10	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学校現場での生徒の課題や問題解決に必要な知識を習得するとともに、より有効な教授・学習方法について理解を深めていく。具体的には、(1) 生徒の成長・発達を理解することで、より効果的な学習ができるように、人間の発達段階について、(2) 学習内容をより効果的に習得できるように、動機づけや記憶、条件付けについて、さらに (3) 学習の評価について学ぶ。(4) 特別な配慮や支援を必要とする生徒についての理解を深める。

授業の到達目標

人間の発達を理解し、生徒の心身の発達と認知機能や言語の発達とを関連づけて理解する。学習のメカニズムと過程を理解し、教育活動において一層効果的に指導し、良い結果を得るための心理学的知見を知る。学習と評価の問題について理解を深める。発達障害を持つ生徒や特別支援教育との関連からの生徒理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の概要と授業計画の説明）／教育心理学とは
2. 発達を促す①―発達とは何か／発達を規定する要因―
3. 発達を促す②―発達段階と発達課題―
4. やる気を高める―動機づけ・学習意欲・無気力―
5. 学習のメカニズム―条件づけ・記憶・問題解決―
6. 授業の心理学―学習指導の理論・協働的な学び・主体的な学び―
7. 教育評価を指導に生かす
8. 知的能力を考える―知的能力・創造性・学力と学業不振―
9. パーソナリティを理解する
10. 社会性を育む①―向社会的行動・道徳性・親子関係・仲間関係―
11. 社会性を育む②―向社会的行動と利他―
12. 学級の心理学―学級集団・教師と子ども・子ども同士―
13. 不適応と心理臨床―ストレス・精神的な不調・生徒指導の重要課題・心理療法―
14. 障害児の心理と特別支援教育
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、必ずテキストの該当箇所を読んでおくこと(90分)。事後学習として、専門用語を中心として自分で学習内容をノートにまとめ、問題集形式のプリントを解答しておくこと（90分）。

テキスト

桜井茂男編『たのしく学べる最新教育心理学―教職に関わるすべての人に―（改訂版）』図書文化社、2017（小堀南岳堂書店で購入）。上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

伊藤良高・永野典詞・大津尚・中谷彪編『子ども・若者政策のフロンティア』晃洋書房、2012。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

ディベートなど授業参加の積極性（30%）、学期末試験（70%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

（C）人間の発達段階と発達課題を説明できる。
（B）学習意欲と学習成果との関連を説明できる。
（A）学習のメカニズム各論を説明できる。
（S）特別な配慮や支援を必要とする生徒について理解している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①テキストは初回までに必ず購入すること。②20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。③ディベートなど受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持っているか、どのような授業内容か)

高等学校の教科「宗教」の担当教員としての経験を活かし、生徒がやる気を持てるような指導や学級の雰囲気作りについて、理論を学ぶと同時に実践的な事例を伝える授業にする。

科目名	教育方法論・ICT 活用論						学期	前期・火・2
ナンバリング	K3-17-021	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	佐々木 聡	
科目の概要	これからの社会を生きる生徒の資質・能力を育成するために必要な教育の方法と技術に関する基礎的なことがらについて説明し、演習(学習指導案の作成を含む)を行う。また、情報通信技術を活用した学習指導や校務運営、ならびに生徒の情報活用能力の育成に関する基礎的なことがらについて説明し、演習を行う。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	教育の方法および技術に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。	1－(1) g)
イ	情報通信技術を活用した教育に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。	1－(1) i)

回	授業内容	授業外の学修
1	導入(教育方法の理論、情報通信技術活用の意義)	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
2	学習をめぐる理論	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
3	授業を構成する要件	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
4	授業の基礎技術	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
5	デジタルコンテンツの特長	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
6	評価の理論と方法	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
7	主体的・対話的で深い学びを実現する授業	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
8	個別最適化された学びと ICT	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
9	各教科等と情報活用能力	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
10	学習指導案の作成方法	事前:資料の通読(90 分)、事後:指導案作成(90 分)
11	情報モラルを中心とした情報活用能力の内容とその指導法	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
12	特別支援教育における ICT 活用	事前:資料の通読(90 分)、事後:教材作成(90 分)
13	ICT による学びの保障	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
14	校務の情報化と教育データの活用	事前:資料の通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
15	ICT 活用のための校内体制と外部連携	事後:最終レポートの作成(180 分)

テキスト

田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『改訂版 新しい時代の教育方法』、有斐閣、2019 年 ／ 稲垣忠・佐藤和紀『ICT 活用の理論と実践 DX 時代の教師をめざして』、北大路書房、2021 年

参考書・参考資料等

「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)」、「中学校学習指導要領(平成 29 年告示)」、「高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)」

成績評価

授業中の課題への取組(20%)

教材・指導案(40%)

最終レポート(40%)

履修要件及び履修上の注意事項

・オンデマンド授業で行う場合には、各回の授業において期限までに課題が提出されたことをもって出席を確認する。

・卒業必修科目。

課題に対する指導 ・質問や意見については、毎回の授業内で振り返りを行う。	
オフィスアワー・連絡先 連絡はLMSを通じて行い、質問等もLMSを通じて受け付ける。	
評価	満足できる状況
ア①	教育の方法やその背景理論について説明できる。
ア②	適切な学習指導案を作成することができる。
イ①	情報通信技術を活用した学習指導や校務運営について説明できる。
イ②	児童生徒の情報活用能力を育成する指導方法を考えることができる。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ☑その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 学習指導案等を実際に作成してもらい、それを材料として授業を展開する。
	授業でのICT活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他ICT活用に関する特記事項 LMSを利用して双方向型の授業を実施する。
担当教員の実務経験の内容 中学校・高等学校国語科教諭（16年）の経験を活かし、理論を実際にどのような形で生かすのかを伝える授業にする。	

科目名	教育相談						学期	後期・木・4
ナンバリング	K2-17-022	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	南　亜紀子	
科目の概要	学校現場で生じるトラブルを解決するには、教師が子どもを理解する力が必要となる。虐待、不登校、いじめ問題、保護者間トラブルなど児童生徒を取り巻く社会が、複雑化するだけでなく、子どもの育ちにとても困難と辛さを抱えることが大きくなってきている。そんな中、教育相談への必要性が高まっている。本授業では、学校現場における教育相談について、スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーなどの多職種との連携、および、行政機関との協働という点も踏まえて、教育相談に係る技法を学び、教育相談の高度なスキルを習得する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	児童・生徒の悩みを受けとめることができる。	1-(3)a)
イ	児童・生徒の悩みに対して、適切な教育相談を展開できるスキルが身につく。	1-(3)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	学校教育における教育相談　オリエンテーション	事前:テキスト第1章「学校教育における教育相談」を通読(60分)、事後:ふりかえり(30分)
2	教師に求められるカウンセリングスキル	事前:テキスト第2章「教師に求められるカウンセリングスキル」を通読(60分)、事後:ふりかえり(30分)
3	カウンセリングの基礎的知識と思考のワークと小レポート	事前:テキスト第3章「カウンセリングの基礎的知識」を通読(60分)、小レポート(次回提出、60分)
4	個人へのカウンセリングの演習　傾聴のワークとロールプレイ	事前:テキスト第4章「カウンセリングの演習-個人でのアプローチ」を通読(30分)、事後:ふりかえり(60分)
5	集団へのカウンセリングの演習　SST のワークとロールプレイ	事前:テキスト第5章「カウンセリングの演習-グループでのアプローチ」を通読(30分)、事後:ふりかえり(60分)
6	カウンセリングの方法と演習	事前:テキスト第6章「カウンセリングの方法と演習」を通読(60分)、事後:ふりかえり(30分)
7	発達障害・特別支援教育　子どもへの声かけワーク	事前:テキスト第7章「発達障害・特別支援教育」を通読(60分)、事後:ふりかえり(30分)
8	思春期の心理的問題	事前:テキスト第8章「思春期の心理的問題」を通読(60分)、事後:ふりかえり(30分)
9	不登校　レポート課題	事前:テキスト第9章「不登校」を通読(30分)、小レポート(次回提出、60分)
10	いじめへの対応	事前:テキスト第10章「いじめへの対応」を通読(60分)、事後:ふりかえり(30分)
11	学級運営に関する困難	事前:テキスト第11章「学級運営に関する困難」を通読(60分)、事後:ふりかえり(30分)
12	保護者への対応	事前:テキスト第12章「保護者への対応」を通読(60分)、事後:ふりかえり(30分)

13	多職種、他機関との連携と支援のあり方	事前:テキスト第 13 章「多職種、他機関との連携と支援のあり方」を通読(60 分)、事後:ふりかえり(30 分)
14	教育相談における事例演習および小テスト	小テストのための予習(90 分)、事後:ふりかえり(30 分)
15	教職員のメンタルヘルスと目指す教師像　小テスト解説	事前:テキスト第 14 章「教職員のメンタルヘルスと目指す教師像」を通読(60 分)、事後:ふりかえり(30 分)

テキスト 大前玲子編著『体験型ワークで学ぶ教育相談』、大阪大学出版、2017 年(生協で購入)。	成績評価 試験(50%)、レポート(30%)、発表(20%)
参考書・参考資料等 三森啓文著『教師のための「ペップトーク」入門』、明治図書、2018 年 イラスト版子どものストレスに対応するコツ』、安川禎亮・吉川和代著、合同出版、2018 年 その他は、授業中で紹介する	

履修要件及び履修上の注意事項
30 分以上の遅刻を結成、3 回の遅刻で欠席 1 回と見なす。
卒業必修科目。

課題に対する指導
質問や意見については、毎回の授業内でふりかえりを行う。
提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。

オフィスアワー・連絡先
授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア①	教育相談に係るカウンセリング技法を、自らの言葉で説明できる。
ア②	教育相談に係るカウンセリング技法を、ロールプレイで実践することができる。
イ	教育相談に係るカウンセリング技法を、実際の臨床場面で活用することができる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用

	□自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容 臨床心理士として、幼稚園から大学までのスクールカウンセリング、精神科クリニックでの心理士をしてきた臨床経験から、学校現場における教育相談の実際、および、教師としてのメンタルヘルスを維持するためのストレスマネージメントについて、事例を交えながら具体的な知識を提供する。

科目名	教育相談							学 期	後 期
副 題	教育相談の理論及び方法					授業方法	講義	担当者	岡田英作
ナンバリング	G3-17	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

教育相談とは、様々な悩みや問題を抱えている生徒への重要な支援のひとつである。生徒が直面する諸課題である、いじめ、不登校、少年非行、発達障害などを中心とした支援の方法、さらには教師のメンタルヘルスの問題について学んでゆく。その上で、生徒の相談に応じ、援助していくためのスキルとしてカウンセリングマインドを身につける。加えて、校内連携ならびに専門機関や地域との連携の意義と必要性を理解する。

授業の到達目標

教育相談の目標と意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論や技法について知り、学校における諸課題（いじめ、不登校など）とその対応について説明できるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の概要と授業計画の説明）／教育相談とは
2. カウンセリングの理論
3. カウンセリングの技法
4. 学校における諸課題とその対応①いじめ
5. 学校における諸課題とその対応②不登校
6. 学校における諸課題とその対応③虐待、自殺、いのちの教育への対応
7. 学校における諸課題とその対応④少年非行への対応
8. 学校における諸課題とその対応⑤発達障害への対応
9. 学校における諸課題とその対応⑥心の病への対応
10. 校内連携・専門機関や地域との連携
11. 教育相談におけるアセスメント①行動観察法・面接法
12. 教育相談におけるアセスメント②心理検査法の理解
13. 家庭の理解と保護者への支援
14. キャリア教育と進路相談
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、テキストを読んで、分からないところをチェックしておく（90分）。事後学修として、専門用語を中心にテキストから重要なところを自分でノートにまとめておく（90分）。

テキスト

森田健宏・吉田佐治子編著『教育相談［第2版］』よくわかる！教職エクササイズ3、ミネルヴァ書房、2024（小堀南岳堂書店で購入）。

参考書・参考資料等

①河村茂雄編著『教育相談の理論と実際―改訂版―』図書文化社、2019、②滝口俊子『スクールカウンセリング』放送大学、2010、③春日井敏之・伊藤美奈子編『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房、2011。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

ディベートなど授業参加の積極性（30%）、定期試験（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教育相談の目標と意義を説明できる。
（B）教師の教育相談としてのカウンセリングと一般的なカウンセリングとの違いを理解している。
（A）発達障害にはどのようなものがあるのかを説明できる。
（S）教育相談の地域連携について理解している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①テキストは初回までに必ず購入すること。②20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。③ディベートなど受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持っているか、どのような授業内容か）

高等学校の教科「宗教」の担当教員として勤め、生徒や担任からの相談に応じてきた経験を活かして、専門的な知識を、個々の生徒の個性や家庭の事情などに配慮しながら活用していけるように、授業を展開する。

科目名	国語科内容論						学期	前期
ナンバリング	K1-20-035	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	村尾　聡	
科目の概要	国語科内容論は、①学習指導要領国語科における目標や内容についての理解を深める。②国語科における詩、物語、小説などの文学教材、説明文教材、作文指導等の指導内容についての理解を深める③文学教材、説明文教材の分析・解釈ができるようになることをめざす。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	学習指導要領に示された国語科における目標、内容を理解できる。	1-(1)a)
イ	詩、物語、小説などの文学教材、説明文教材、作文指導等の指導内容を理解できる。	1-(1)a)
ウ	文学教材、説明文教材の分析・解釈のしかたを理解できる。	1-(1)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	国語教育の目的と内容（学習指導要領国語科）	シラバスを事前に読んでおく（30 分） 資料の通読と要点整理（90 分）
2	文学作品の読み方（低学年・中学年）	資料の通読と要点整理（90 分）
3	文学作品の読み方（中学年・高学年）	資料の通読と要点整理（90 分）
4	文芸学の基本用語、詩の指導（低学年）	資料の通読と要点整理（90 分）
5	詩の指導（中学年・高学年）	資料の通読と要点整理（90 分）
6	物語教材の指導（低学年「おおきなかぶ」）	資料の通読と要点整理（90 分）
7	物語教材の指導（中学年「ごんぎつね」）	資料の通読と要点整理（90 分）
8	物語教材の指導（高学年「海の命」前半）	資料の通読と要点整理（90 分）
9	物語教材の指導（高学年「海の命」後半）	資料の通読と要点整理（90 分）
10	説明文の指導（低学年「どうぶつの赤ちゃん」）	資料の通読と要点整理（90 分）
11	説明文の指導（中学年「すがたを変える大豆」）	資料の通読と要点整理（90 分）
12	寓話の指導（「だからわるい」）	資料の通読と要点整理（90 分）
13	作文指導	資料の通読と要点整理（90 分）
14	絵本の指導（「りんごがたべたいねずみくん」、漢字指導	資料の通読と要点整理（90 分）
15	物語、詩、説明文の指導について（講義のまとめ）	15 回の学びの復習（90 分）

テキスト

文部科学省『学習指導要領解説国語編』東洋館出版

小学校国語教科書『国語上かがやき』光村図書、令和 6 年

小学校国語教科書『国語下はばたき』光村図書、令和 6 年

その他授業中に資料を配付する

参考書・参考資料等

西郷竹彦監修、文芸教育研究協議会『新国語教育事典』明治図書、2005 年

成績評価

小レポート（40%）

大レポート（50%）

授業への参加態度（10%）

履修要件及び履修上の注意事項
30 分以上の遅刻は欠席、3 回の遅刻で欠席 1 回とする。 小学校一種資格取得の際選択必修。
課題に対する指導
小レポートに書かれた質問にはコメントを書いて返却する。全体の学びにつながるものは、次の授業のはじめに全員で共有する。
オフィスアワー・連絡先
前期水曜 2 限、後期月曜 3 限に対応する。相談がある場合は事前の連絡をお願いしたい。murao@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	国語科の目標、内容を説明することができる。
イ	文芸学の基本的な用語を説明することができる。
ウ	教材を文芸学(教育的認識論)の理論を使って分析・解釈できる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 模擬授業形式で授業を実施
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務し、文芸教育研究協議会で国語教育について 26 年間、実践と研究を重ねてきた経験から、国語科教材をどのように分析し、解釈するのかを指導していきたい。

科目名	社会科内容論						学期	1年後期
ナンバリング	K1-20-036	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	奥田 修一郎	
科目の概要	・社会科教育の内容の理解と時事問題の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を身に付ける。また，本講義では、小学校の社会科の学習内容と学年間の系統性について理解するとともに、教科書を手掛かりとして、「社会」に関する基礎的な知識を、様々な角度から考察する。本講義を通して、受講者が持続可能な社会の在り方に関心がもてるようにする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	学習指導要領における社会科の目標及び主な内容並びに全体構造と個別の指導上の留意点を理解している。	1-(1)a)
イ	社会科の学習評価の考え方を理解している。	1-(1)c)
ウ	小学校社会科の背景となる学問領域との関係を理解し，教材研究に活用できる。	1-(1)h)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション， 今までの社会科の学びを振り返る。	シラバスを事前に読んでおくこと。配布資料の復習(90分)
2	学習指導要領の内容「生きる力と資質・能力」(教育課程の学力観)を理解する。	学習指導要領及び解説を事前に熟読と用語調べ(180分)・
3	学習指導要領の内容「主体的・対話的で深い学び」の位置づけと概念を理解する。	
4	教科書の性格、役割、構成。教材とは何かを考察する。	事前に配布した資料を読み込み，小レポートにする。(90分)
5	第3学年の内容と評価について理解する。「身近な地域」	自分の住んでいる地域について事前に調べる。(90分)
6	第3学年の内容と評価について理解する。「生産と販売」	取材したことを事後にレポートしてまとめる。(60分)
7	第4学年の内容と評価について理解する。デジタル地図帳の授業活用を考える。	デジタル教科書の使い方を復習する。(60分)
8	第4学年の内容と評価について理解する。「自然災害から人々を守る活動」	防災に関した教材を事前に調べる。(60分)
9	第5学年の内容と評価について理解する。「国土の様子」 ICT活用	教育支援システムの使い方を復習しておく。(90分)
10	第5学年の内容と評価について理解する。「日本の食糧生産」，「日本の工業生産」	グループでの模擬授業に向けて教材研究(180分)
11	第5学年の内容と評価について理解する。「産業と情報との関わり」 指導略案作成	
12	第6学年の内容と評価について理解する。「日本の政治の動き」 教材研究と準備	グループでの模擬授業に向けての準備(180分)
13	第6学年の内容と評価について理解する。「日本の歴史」 グループ模擬授業①	
14	グループ模擬授業② 小テスト	小テストに向けての復習(90分)
15	第6学年の内容と評価について理解する。「グローバル化する世界と日本」	15回の学びを振り返り，次への課題をまとめる。(60分)

テキスト

『小学校 学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』 日本文教出版(生協で購入)

参考書・参考資料等：原田智仁編著，2022,『初等社会科教育の理論と実践ー学びのレリバンスを求めてー』教育情報出版

成績評価

レポート[作品や授業略案も含む](30%)、小テスト(20%)、ワークシート記述内容(30%)，積極的参加度・発表[模擬授業も含む](20%)

履修要件及び履修上の注意事項

・初等教科教育科目である。

課題に対する指導 ・授業での振り返りワークシート(提出された課題も)に書いた疑問・意見については，コメントを書き，個々に返すとともに，全体の学びにつながるものは，次の授業のはじめで共有し深めるようにする。
オフィスアワー・連絡先 ・月の3，4限目　研究室で対応する。相談がある場合，事前の連絡をお願いしたい。

評価	概ね満足できる状況
ア①	学習指導要領における社会科の目標及び主な内容を，現行社会科の背景と特質から説明できる。
ア②	「主体的・対話的で深い学び」の位置づけとこの学びの実現に必要なことを理解している。
イ	学習評価での大切な目的と，社会科の学習評価に関する課題が理解できている。
ウ	「社会的な見方・考え方」を働かせる学習の理解ができており，模擬授業に生かそうとしている。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 ・ペアワークとグループワークを行う。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ・ロイロノートなどの授業支援システムの活用とデジタル教科書（地図帳）の活用の仕方を学ぶ。

担当教員の実務経験の内容 　中学校教員及び地域支援教育コーディネーターとして勤務した教員が，その経験を活かして，子どもが意欲的に学ぶ授業づくりができるように指導する。

科目名	算数科内容論						学期	後期
ナンバリング	K2-20-037	実務経験の有無		単位数	2	担当者	吉田　明史	

科目の概要	数学の７つの側面を概観し、小学校算数の内容の意味や意義を理解する。 また、小学校学習指導要領における算数科の内容について、幼児期の学びとの接続、中学校数学への接続を見通し、各領域からいくつかの重要な項目を取り上げ、その背景にある「数学」を知り、理解する。 さらに、数学的な見方・考え方、数学的な説明と証明について理解する。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	数学がもっている７つの側面を説明できる。	1－(1)a
イ	幼稚園の保育と、小学校算数との接続を説明できる。	1－(1)a
ウ	各領域のポイントなる内容について、その数学的な背景を説明できる。	1－(1)a
エ	数学的な見方・考え方について、具体例を挙げて説明できる。	1－(1)b
オ	数学的推論について、具体例を挙げて説明できる。	1－(1)b

回	授業内容	授業外の学修
1	数学がもっている７つの側面	各側面について事例をまとめる(60分)。
2	算数の視点から見た幼小接続と、その後の学び	「遊び」の中の数学をまとめる(60分)。
3	十進位取り記数法	ANNA数について調べる(60分)。
4	乗法と除法	比例数直線を用いた演算の説明をまとめる(60分)。
5	演算決定のためのモデル	教科書でどのようなモデルが使われているか調べる(60分)。
6	有理数の順序構造	稠密性と連続性についてわかりやすくまとめる(60分)。
7	偶数と奇数	6を法とする剰余類の四則演算について調べる(60分)。
8	比較と測定	メートル法の歴史について調べる(60分)。
9	面積と体積	平面図形の面積公式が導出される過程を調べる(60分)。
10	単位量あたりの大きさ	どちらが被除数になっているか、その理由を調べる(60分)。
11	合同と相似	相似の定義について調べる(60分)。
12	文字の式	ポーランド記法について調べる(60分)。
13	統計グラフ	グラフの使い分けについてまとめる(60分)。
14	数学的な見方・考え方	一般化と拡張について、教科書の事例を調べる(60分)。
15	数学的な説明と証明	教科書で扱われている推論について調べる(60分)。

テキスト

文部科学省（著)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　算数編」日本文教出版 2018/2/28(生協で購入)

参考書・参考資料等

溝口達也・岩崎秀樹編著「小学校教師のための算数と数学15講」ミネルヴァ書房、2019

成績評価

振り返り	30%
課題(レポート)	20%
試験	50%

履修要件及び履修上の注意事項

テキストは毎回持参すること。ノート(ルーズリーフは不可)をつくること。30 分以上の遅刻を欠席、3 回の遅刻で欠席 1 回とみなす。5 回以上欠席の場合は単位を認めない。

小学校一種資格取得の際選択必修。

課題に対する指導

毎時間振り返りを行う。レポート等は Google Classroom を利用して課す。

オフィスアワー・連絡先

火曜日及び金曜日の午後、ただし、事前にメールにて予約すること。連絡先のメールアドレスは、最初の授業で伝える。

評価	満足できる状況
ア	数学がもつ 7 つの側面について、事例をあげて A4 用紙 1 枚にまとめることができる。
イ	幼稚園でのどのような体験が小学校算数の学びにつながっているかを A4 用紙 1 枚にまとめることができる。
ウ①	分数や小数の乗法・除法について、どのような指導展開となっているか A4 用紙 2 枚にまとめることができる。
ウ②	図形の面積・体積について、どのような指導展開になっているか A4 用紙 1 枚にまとめることができる。
エ	教科書にみられる数学的な見方・考え方について A4 用紙 1 枚にまとめることができる。
オ	3 つの数学的推論について、具体例を挙げて A4 用紙 1 枚にまとめることができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☐PBL（問題解決型学習） ☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☒ディスカッション、ディベート ☒プレゼンテーション ☐実習、フィールドワーク ☐その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☒双方向型授業に活用 ☒自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 「イマキク」を活用した授業の振り返り、Google Classroom を活用した課題(レポート)の提出及び採点を行う。

担当教員の実務経験の内容

高校、行政(国及び県)、大学(教員養成系)等を経験し、幼児教育、小学校(算数)及び中学校(数学)における指導内容・指導法の開発について研究した経験を授業展開に生かす。

科目名	理科内容論						学期	前期木曜3コマ
ナンバリング	K1-20-038	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	笠潤平	
科目の概要	小学校理科の目的・内容についての理解を深め、理科の授業の基礎となる科学的知識を身につけるとともに、授業の構成力を身に付けさせる。 小学校理科の目的・内容・方法を理解すると共に、その基礎となる科学的知識について学び、小学校理科の教材構成ができるように学習する。また、児童の「主体的・対話的で深い学び」への授業理解を育む。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	小学校学習指導要領に定められた理科の「目的・内容」を理解することができる。	
イ	小学校理科の内容の基礎となる科学的知識を身に付ける。	
ウ	「主体的・対話的で深い学び」を理解し、指導することができる。	

回	授業内容	授業外の学修
1	授業の進め方、評価方法、面白い理科の授業とは何か	事後課題:第1回授業の振り返りの課題
2	面白い理科の授業とつまらない理科の授業	事前課題:自己の学校経験を振り返るエッセイを書く
3	面白い理科の授業の例:仮説実験授業その1「ものとその重さ」	事後課題:授業「ものとその重さ」の振り返りの課題
4	面白い理科の授業の例:仮説実験授業その2「花と実」	事後課題:授業「花と実」の振り返りの課題
5	小学校理科「粒子」分野の内容:3年4年	事前課題:当該範囲の教科書内容の予習
6	小学校理科「粒子」分野の内容:5年6年	事前課題:当該範囲の教科書内容の予習(実習を含む)
7	小学校理科「粒子」分野の内容:授業観察	事後課題:観察した授業の振り返り
8	小学校理科「エネルギー」分野の内容:3年4年	事前課題:当該範囲の教科書内容の予習
9	小学校理科「エネルギー」分野の内容:5年6年	事前課題:当該範囲の教科書内容の予習(実習を含む)
10	小学校理科「エネルギー」分野の内容:授業観察	事後課題:観察した授業の振り返り
11	小学校理科「生命」分野の内容:3年4年	事前課題:当該範囲の教科書内容の予習
12	小学校理科「生命」分野の内容:5年6年	事前課題:当該範囲の教科書内容の予習(実習を含む)
13	小学校理科「地球」分野の内容:3年4年	事前課題:当該範囲の教科書内容の予習
14	小学校理科「地球」分野の内容:5年6年	事前課題:当該範囲の教科書内容の予習(実習を含む)
15	授業のまとめ、振り返り	事後課題:最終レポート

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成29 年告示)解説理科編」

参考書・参考資料等

板倉聖宣「仮説実験授業のABC」(仮説社)

成績評価

講義・授業中の討論への参加・意欲・態度(20%)、課題に対するレポート(40%)、最終レポート(40%)

履修要件及び履修上の注意事項

状況に応じ、オンライン授業で実施する場合がある。

小学校一種資格取得の際選択必修。

課題に対する指導 木曜4限	
オフィスアワー・連絡先 木曜4限(事前予約が望ましい) ryu.jumpei@kagawa-u.ac.jp	
評価	満足できる状況
ア	小学校理科の目的・内容についての理解を有している。
イ	小学校理科で学習する内容の知識が十分にあり、中学校以上の理科との関連を理解している。
ウ	すぐれた授業方法とはどのようなものかについて考え、提案することができる。
授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 オンライン授業で実施する際には、動画も視聴して考察や討論をしますので、動画視聴・Zoom での授業参加（受信だけでなく発言するなどの発信）が円滑にできる機器と通信環境を確保してください。
担当教員の実務経験の内容 高校での教員経験があります。理科の授業、担任、学年主任、教務主任ほか校務分掌もいろいろしました。中学校で授業をした経験、小学校で出前授業をした経験もあります。	

科目名	生活科内容論						学期	前期・木・3
ナンバリング	K2-20-039	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	善野八千子	
科目の概要	学習指導要領における生活科の内容やねらいに ついて指導要領に則して講義する。 子どもの身近な社会環境である学校、家庭、地域社会における具体的な活動や体験を通して、子どもの社会認識の発達について、空間認識、社会的スキル、コミュニケーション・スキルなど多様な観点から考察する。 小学校入門期である低学年では、自分のまわりの人々や社会や、季節の移り変わりといった自然環境の変化などに気づき、気づいたことを表現する力を身に付ける時期であると同時に、仲間と協同して活動に取り組み、学校での自己実現をはかる経験が求められる。生活にかかわる様々な体験活動から子どもの生活世界・内的世界を含めた具体的な姿を理解する。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連 DP
ア	学習指導要領における生活科の目標及び主な内容並びに全体構造と個別の指導上の留意点を理解している。	1-(1)a)
イ	生活科の学習評価の考え方を理解している。	1-(1)c)
ウ	小学校生活科の背景となる学問領域との関係を理解し,教材研究に活用できる。	1-(1)h)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション 授業の目的および内容説明、成績評価について理解する。	シラバスを事前に読んでおくこと。 復習:配布資料の確認(90 分) 予習:生活科誕生の経緯とこれからの生活科について調べる(90 分)
2	第 2 章 生活科誕生の経緯とこれからの生活科:生活科新設に伴い求めようとしたことを理解する。 ＊小学校学習指導要領生活 P1～22 第 1 章 総説、第 2 章 生活科の目標	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:小1プロブレム等の子供を取り巻く課題について調べる(90 分)
3	第1章 生活科の内容構成と教材の特色:子どもを取り巻く 昨今の社会情勢について知り、「小1プロブレム」に関連して、調べたことをまとめる。 ＊小学校学習指導要領生活 P23～28 第 3 章 生活科の内容 第 1 節 内容構成の考え方	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:架け橋期のカリキュラムについて調べる(90 分)
4	第 11 章 スタートカリキュラム:スタートカリキュラムの単元に於いて配慮すべき事遊びを通した学びについて理解する。第4章 栽培活動:達成感や成就感を感じさせる栽培方法の工夫について、理解する。 ＊小学校学習指導要領生活 P29～31 内容(1)学校と生活	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:おもちゃづくりで育む科学的な見方について調べる(90 分)
5	第6章 おもちゃづくりで育む科学的な見方を理解し、動くおもちゃ制作の準備をする。 ＊小学校学習指導要領生活 P41～43 内容(6)自然や物を使った遊び	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:動くおもちゃづくりを制作し、動画でアップする。(90 分)

6	第 13 章　豊かな言語活動:身近な道具や材料を使って遊びを創り、動画のプレゼンを通して豊かな言語活動について考察する。 ＊小学校学習指導要領生活 P46～48 内容(8)生活や出来事の交流	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:通学路と安全:低学年児童の認識の内容に関連してその特色について調べる(90 分)
7	第 9 章　通学路と安全:低学年児童の認識の内容に関連してその特色について理解する。 ＊小学校学習指導要領生活 P33～36 内容(3)地域と生活	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:ネイチャーゲームやビンゴゲームを通して、具体的な効果は何かについて調べる(90 分)
8	第 16 章　理科・社会科と生活科の違いについて理解する。 ネイチャーゲームやビンゴゲームを通して、具体的な効果は何かについて理解する。 ＊小学校学習指導要領生活 P38～41 内容(5)季節の変化と生活	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:理科の学習内容と生活科で扱う自然事象との違いについて調べる(90 分)
9	第3章　四季:理科の学習内容と生活科で扱う自然事象との違いを理解する。 ＊小学校学習指導要領生活 P38～41 内容(5)季節の変化と生活	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:公共物や公共施設を取りあげるねらいについて調べる(90 分)
10	第 10 章　公共物や公共施設:生活科のねらいとして公共物や公共施設を取りあげるねらいについて理解する。 ＊小学校学習指導要領生活 P36～38 内容(4)公共物や公共施設の利用	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:栽培活動において、子どもたちの達成感や成就感を強く深く感じさせるために工夫について調べる。(90 分)
11	第4章　栽培活動、第5章　動物飼育:子どもたちの達成感や成就感を強く深く感じさせるために工夫について理解する。 ＊小学校学習指導要領生活 P43～46 内容(7)動植物の飼育・栽培	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:家族単元について、特に他の単元と異なる点についてについて調べる(90 分)
12	第 15 章　家族単元:家族単元について、特に他の単元と異なる点について理解する。 ＊小学校学習指導要領生活 P31～33 内容 (2) 家庭と生活	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:成長への気付きの単元において、特に配慮すべきことについて調べる(90 分)
13	第 14 章自己成長：成長への気付きの単元において、特に配慮すべきことについて、理解する。 ＊小学校学習指導要領生活 P49～51 内容 (9) 自分の成長	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:学習指導要領解説　生活編の中から、大切にすることに着目して内容項目(1)～(9)について、総合的に調べる(90 分)
14	学習指導要領解説　生活編の中から、大切にすることに着目して内容項目(1)～(9)について、総合的に理解する。 ＊小学校学習指導要領生活 内容の取り扱い P67～72	復習:リフレクションシートの提出(90 分) 予習:学習指導要領解説　生活編の中から、大切にすることに着目して内容項目(1)～(9)について 「大切なこと」を抜粋する(90 分)
15	生活の理解とまとめ振り返り これまで身につけた知識をもとにし、子どものより良い発達を支える生活科について考察する。	復習:リフレクションシートの提出(90 分)

テキスト	成績評価
① 教科力シリーズ改訂第２版　小学校生活 玉川大学出版部　　寺本潔　編者 ISBN978-4-472-40609-6 C3337(生協で購入) ②小学校学習指導要領解説　生活編（平成 30 年改訂版）文部科学省（生協で購入） ③小学校生活科用　文部科学省検定済み教科書２　東書　生活 117 どきどきわくわく　新編　あたらしいせいかつ上　東京書籍　（2024 年度版）（生協で購入） ④小学校　生活科用　文部科学省検定済み教科書２　東書　生活 118 あしたへジャンプ　新編　新しい生活　下　東京書籍（2024 年度版）（生協で購入） ＊「生活科指導法」でも継続して使用するテキストは、上記の②③④	リフレクションシート、授業態度・理解　30% 予習課題、プレゼン発表の内容　　30% テストまたはレポートの総合的な理解　40%
参考書・参考資料等 教育フォーラム 60『深い学びのために-アクティブ・ラーニングの目指すもの-』「幼小接続期の深い学び－地域と未来につなぐ生活科の事例から－」金子書房(平成 29 年 8 月)編者：日本人間教育学会　共著者：梶田叡一、古川治、善野八千子、他	

履修要件及び履修上の注意事項

・初等教科教育科目である。

・毎回、各自が必ずPCまたはタブレットなどのICT機器を持参して、学修する。

課題に対する指導

・授業での振り返りシート(提出された課題も)に書いた疑問・意見については，コメントを個々に返すとともに，全体の学びにつながるものは，次の授業内で共有し深める。

オフィスアワー・連絡先

・原則、水曜日の２限目に研究室で対応する。事前の連絡で日時調整を可能とする。yzen@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア①	学習指導要領における生活科の目標及び主な内容を，現行生活科の背景と特質から説明できる。
ア②	「主体的・対話的で深い学び」の位置づけとこの学びの実現に必要なことを理解している。
イ	学習評価での大切な目的と，生活科の学習評価に関する課題が理解できている。
ウ	「自分との関わり」「社会との関わり」「自然との関わり」の学習理解ができており、今後の模擬授業等の実践に生かそうとしている。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング
	☑PBL（問題解決型学習）
	□反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業）
	☑ディスカッション、ディベート
	☑プレゼンテーション
	☑実習、フィールドワーク
	□その他

	その他アクティブ・ラーニングの内容 ・ICT 活用を踏まえて、主体的一人学びをペアワーク及びグループワークに生かし、探究的学びにつなげる。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ・Google Classroom などの授業支援システムの活用とデジタル教科書の活用の仕方を学ぶ。

担当教員の実務経験の内容

29 年間の小学校教員及び管理職、教育委員会事務局主任指導主事として、特に生活科移行期から幼小接続カリキュラム改善に着手し、教員の資質向上等の研究に取り組んできた。これらの現場経験を生かし、教科等の知をどのような活動を通して学校教育現場の実際の課題解決と合致させるか具体的な指導をする。

１点目は、ICT 活用して学校現場の実態やニュース等から情報を表出させ、自分ごととして課題解決する展開である。２点目は、新たな知を創出する場面において、自己の変容を言語化させ自覚化を図る必要性を実感させる。

とりわけ、小学校低学年の今日的な課題及びその課題解決のための授業づくりについて、アクティブ・ラーニングをもとに学修を深める。

科目名	音楽科内容論						学期	前期・木・1
ナンバリング	K1-20-040	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	寄 ゆかり	

科目の概要	・小学校における音楽科の教科内容について理解できるよう説明する。 ・小学校の音楽科の歴史的変遷を説明するとともに、教科の構成の理解を深められるようにする。 ・小学校歌唱教材の弾き歌いを、各学生に応じた演奏力に仕上げられるよう指導する。 ・音楽科で必要な音楽経験を実践し、発達に応じた指導を考えられるようにする。 ・演奏するために必要な音楽用語などについても実践を通して説明する。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	小学校音楽の教科の構成を理解できる	1-(1)a)
イ	児童が行う曲の演奏及び教師として弾き歌い伴奏ができる	1-(1)a)
ウ	児童が行う演奏曲を通して、理解やつまずきなどを考えることができる	1-(1)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション、小学校音楽の教科内容	資料の通読、及びシラバスにて全体の流れを復習(180分)
2	教科の構成	資料の通読(60分)
3	音楽科教育～幼小からの連携を通して～	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
4	歌唱①共通教材及び現代に導入されている楽曲	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
5	歌唱②わらべうたと日本音楽	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
6	歌唱③合唱曲を中心に	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
7	器楽①リコーダーの演奏を通してわかること	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
8	器楽②リコーダーの合奏とリコーダーミニテスト①	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
9	器楽③器楽合奏(身近な楽器で構成する)	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
10	器楽④器楽合奏(様々な楽器の奏法)	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
11	鑑賞①クラシック音楽や日本音楽の理解	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
12	鑑賞②現代における音楽ジャンルや構成、ICTを活用した音楽づくり	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
13	児童と音楽を楽しむための伴奏と弾き歌い	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
14	音楽を通して伝えること―楽しむこと、わかること、弾き歌い練習	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
15	ミニテスト②弾き歌い及び音楽理論テストとまとめ	これまでの授業まとめ及び実技試験曲の練習(180分)

テキスト

① 『小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説:音楽編』, 文部科学省, 平成29年(生協で購入)

② ソプラノリコーダー(持っていない人は各自で購入)

参考書・参考資料等

有本真紀他著『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法 2022年改訂版』, 教育芸術社, 2021年

成績評価

・授業での取り組む姿勢(30%)

・授業内ミニテスト(40%)

・授業内発表(30%)

履修要件及び履修上の注意事項

・30分以上の遅刻は欠席とみなす

・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・小学校一種資格取得の際必修。

課題に対する指導
・質問や意見については、毎回の授業内で対応する。

オフィスアワー・連絡先
・授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア	小学校音楽の教科の構成を理解できる
イ①	児童が行う曲の演奏ができる
イ②	簡易な伴奏でも教師として弾き歌い伴奏ができる
ウ	児童が行う演奏曲を通して、理解やつまずきなどに気付くことができる

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
・音楽教室において幼児・児童の指導にあたった経験より、音楽体験場面での児童への指導法を指導する。
・教員免許更新講習等にて現場で必要な音楽表現の指導を実施しており、これらの経験をもとに児童の音楽表現について指導する。

科目名	家庭科内容論						学期	前期・月・2
ナンバリング	K1-20-042	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	井出　康子	
科目の概要	小学校学習指導要領解説により家庭科の目標及び内容について理解し、各領域の専門的な理論を学び理解を深めることを目的とする。特に食生活領域の栄養についての知識、衣生活領域の手縫いの技術を習得したい。各領域間のつながりについても意識して進める。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	教科内容の背景にある理論を理解できる。	1-(1) a) j)　2-(1) c) (2) c)
イ	食衣生活領域の基本的な知識・技術を身につける。	1-(1) a)

回	授業内容	授業外の学修
1	ガイダンス　家庭科教育のめざすもの	シラバスを事前に読む(30分)講義内容の復習(60分)
2	小学校家庭科の理念・目的・学習内容	指導要領解説第1章を読む(180分)講義内容の復習(60分)
3	家族・家庭生活　家庭生活と仕事	指導要領解説第2章を読む(180分)講義内容の復習(60分)
4	衣生活　衣服の着用①　基本的技術について①	手縫い課題①(120分)講義内容の復習(60分)
5	衣生活　衣服の着用②　基本的技術について②	手縫い課題②(120分)講義内容の復習(60分)
6	衣生活　布を用いた製作　基本的技術について③	布を用いた作品(180分)講義内容の復習(60分)
7	衣生活　衣服の手入れ	講義内容の復習(60分)
8	食生活　食事の役割、調理の基礎	レポート実習計画(60分)講義内容の復習(60分)
9	食生活　伝統的な日本食(米飯みそ汁実習)	講義内容の復習(60分)
10	食生活　栄養を考えた食事①	講義内容の復習(60分)
11	食生活　栄養を考えた食事②、食品衛生	レポート食品衛生(60分)講義内容の復習(60分)
12	住生活　住まい方の工夫	講義内容の復習(60分)
13	住生活　整理・整頓	講義内容の復習(60分)
14	消費生活・環境　物や金銭の使い方と買物、環境に配慮した生活	講義内容の復習(60分)
15	家族・家庭生活　家族や地域の人々との関わり	最終レポート(180分)講義内容の復習(60分)

テキスト

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説家庭編」
文部科学省　東洋館出版社(生協で購入)
「文部科学省検定済教科書小学校家庭科用『わたしたちの家庭科』」
開隆堂(生協で購入)

参考書・参考資料等

「『家庭科』授業の腕があがる新法則」谷和樹　白石和子　他著
学芸みらい社

成績評価

小テスト　30%
提出物、レポート　50%
最終レポート　20%

履修要件及び履修上の注意事項 以下の物を準備しておく エプロン、三角巾　　裁縫用具(縫い針、糸切り用はさみ) 食物アレルギーがある場合は申し出ること 小学校一種資格取得の際選択必修	
課題に対する指導 提出されたレポートなどは添削し、次回授業時に返却する。	
オフィスアワー・連絡先 授業前後の時間に教室にて対応する。	
評価	満足できる状況
ア①	理解したことを自分のことばで説明することができる。
ア②	教科の特性を理解し、家族や地域の人々との関わり方を考え、関わろうとする。
イ	師範する力をつける。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 高等学校の教員を務めた。教育相談、特別支援教育コーディネーターの経験がある。	

科目名	体育科内容論						学期	後期
ナンバリング	K2-20-043	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	本山　司	
科目の概要	本授業では、小学校体育科の運動領域と保健領域の特性を理解し、具体的な授業実践と評価方法を学ぶ。新学習指導要領に基づき、体育科の目標と内容を解説し、運動領域（体つくり運動系、器械運動系、陸上運動系、水泳運動系、ボール運動系、表現運動系）および保健領域について深く理解する。さらに、体育授業の学習指導の展開方法について考察し、効果的な授業づくりに役立つ知識を深める。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	小学校体育科教育の内容を理解できる。	1-(1)a)
イ	小学校体育科教育の学年別目標と指導内容の関係性について理解できる。	1-(1)b)
ウ	体育科の内容に即した授業を実践するよう、知識や技術を身につけることができる。	1-(1)h)

回	授業内容	授業外の学修
1	授業目的と内容をシラバスに基づき説明	シラバスの確認、学習内容整理(90 分)。
2	小学校体育科の目標と内容、全体構造の理解	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
3	体つくりの運動遊び・体つくり運動	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
4	器械・器具を使っての運動遊び・器械運動	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
5	走・跳の運動遊び・走・跳の運動	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
6	陸上運動	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
7	水遊び・水泳運動	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
8	ゲーム	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
9	ボール運動①(ゴール型)	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
10	ボール運動②(ネット型)	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
11	ボール運動③(ベースボール型)	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
12	表現リズム遊び・表現運動	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
13	保健①(健康な生活、体の発育・発達)	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
14	保健②(心の健康、けがの防止、病気の予防)	授業内容をノートし、学習指導要領の該当箇所を確認(90 分)。
15	まとめ及び体育科の評価の考え方	

テキスト

『初等体育科教育』吉田武男監修、岡出美則編著、ミネルヴァ書房 2018

参考書・参考資料等

小学校指導要領解説　体育編(平成 29 年度　文部科学省)

成績評価

本試験(60%)、学習課題・提出物(20%)、実技の技術習得(20%)で総合的に評価する。

履修要件及び履修上の注意事項

毎回出席を取る。授業ではパワーポイント等のICT機器を使用し、実技を含むアクティブ・ラーニングを組み合わせて進める科目である。実技を行う際は、動きやすい服装と靴を準備することが求められる。また、天候等により授業内容が変更される場合があり、その際は学内メール等で連絡する。
小学校一種資格取得の際選択必修。

課題に対する指導
質問や意見、実技内容については講義内でフィードバックを行い、学習課題・提出物については次回の授業でフィードバックを行う。試験については個別にフィードバックを行う。

オフィスアワー・連絡先
水曜日のお昼休みに研究室で対応する。
メール:t_motoyama@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	小学校体育科教育の目標や内容を正確に理解している。
イ	各学年の発達段階に適した運動技能や学習内容を理解し、子どもたちの成長に合わせた次の指導内容を提案・調整している。
ウ	体育科の内容に基づいた授業計画を立て、適切な指導方法を提案できる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☐PBL（問題解決型学習） ☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☐プレゼンテーション ☐実習、フィールドワーク ☑その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク・実技
	授業でのICT活用 ☑双方向型授業に活用 ☐自主学習支援に活用
	その他ICT活用に関する特記事項 ロイロノートと用いて、体育授業で実技内容や振り返りをリアルタイムで共有し、迅速なフィードバックと双方向学習を支援する。

担当教員の実務経験の内容
中学校保健体育教員としての勤務経験を活かし、現代の子どもたちが抱える体力問題に着目しながら、実践的な教材を提供する。

科目名	初等英語科内容論						学期	前期
ナンバリング	K1-20-044	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	上村　政文	
科目の概要	小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用能力と英語に関する背景的な知識を身につけさせたい。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な背景的な知識を身につける。	1(1)a),b),c)
イ	外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用能力を身につける。	1(1)a),b)

回	授業内容	授業外の学修
1	英語教育と英語科教育学	事後：英語教育と英語科教育学についてまとめる。（90 分）
2	第二言語習得と英語教育	資料の通読と本時の内容のふりかえり（90 分）
3	小学校学習指導要領について	事前：小学校学習指導要領の熟読、Text Lesson1 の予習（90 分）
4	指導者の役割と資質（研究社 3 章）	資料の通読と復習（90 分）
5	英語の音声（聞くこと・話すこと）について	Text Lesson5・6 の通読及び問題の解答と復習と復習（90 分）
6	英語の文字（読むこと・書くこと）について	Text Lesson7・8 の通読及び問題の解答と復習と復習（90 分）
7	児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について	資料の通読と復習（90 分）
8	国際理解教育と異文化間コミュニケーション	資料の通読と復習（90 分）
9	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション	資料の通読と復習（90 分）
10	グループワーク、ペアワークの学習形態について	資料の通読と復習（90 分）
11	英語教材①	Text Lesson9/10 の通読及び問題の解答と復習（90 分）
12	英語教材②	Text Lesson12/13 の通読及び問題の解答と復習（90 分）
13	評価の意義と方法	Text Lesson14 の通読及び問題の解答と復習（90 分）
14	グループ討議（小学校英語教育について）	討論の事前準備を行う。本日の討論をレポートにまとめる。（180 分）
15	全体のまとめ	15 回の講義を振り返り、今後の課題をまとめる。（90 分）

テキスト

Let's have fun Teaching English (From Theory to Practice)

By 小原弥生/豊田典子/髙橋まり/Steven Rogers　NAN'UN-DO　2024

「生協で購入」

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領　文部科学省　平成 29 年

小学校学習指導要領解説　文部科学省　令和 4 年（第 4 版）

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　国立教育政策研究所　教育課程研究センター　令和 5 年（第 8 版）

小学校英語科教育法 －理論と実践－　金森強　成美堂　2024

成績評価

課題、レポートや小テスト（40%）

プレゼンテーション、ディスカッション（30%）

試験（30%）

新学習指導要領に基づく英語科教育法第3版　望月昭彦、久保田章、磐崎弘貞、卯城祐司　大修館　2020	

履修要件及び履修上の注意事項

・英和辞典等の辞書を準備すること。

・「30分以上の遅刻を欠席」、「3回の遅刻で欠席1回」とみなす。

・小学校一種資格取得の際選択必修。

課題に対する指導

・単元ごとに講義中に適宜実施する。

・毎回、授業の感想や授業への要望等を書くための用紙を配布、収集する。

オフィスアワー・連絡先

・質問等については授業の前後の時間に教室にて対応する。

・相談がある場合は事前に連絡をすること。

評価	満足できる状況
ア①	英語について基本的な事柄について理解している。
ア②	第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。
ア③	児童文学について理解している。
ア④	異文化理解に関する事柄について理解している。
イ①	授業実践に必要な聞く力、話す力を身につけている。
イ②	授業実践に必要な読む力、書く力を身につけている。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

高等学校英語教員、短期大学の英語講師、専門学校の英語講師としての指導経験がある。その経験を生かしてこの科目の指導に当たり、初等英語科の指導法を身につけさせる。

科目名	国語科指導法						学期	後期
ナンバリング	K2-20-045	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	村尾 聡	
科目の概要	国語科指導法の目的は、①国語科における物語教材、詩教材等の分析・解釈をふまえ、授業を組み立てる力をつける。②国語科における学習指導案を作成する力をつける。③学習指導案をふまえながら模擬授業を実施する力をつけることをめざす。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	物語教材、詩教材等の分析・解釈をふまえ、授業を組み立てることができる。	1-(1)b)
イ	必要な形式をふまえた学習指導案を作成することができる。	1-(1)b)
ウ	学習指導案をもとに模擬授業を行うことができる。	1-(1)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	模擬授業のしかた、教材分析のしかた	シラバスを事前に読んでおく(30分) 資料の通読と要点整理(90分)
2	詩の授業のしかた(低学年)	資料の通読と要点整理(90分)
3	詩の授業のしかた(中学年、高学年)	資料の通読と要点整理(90分)
4	物語の授業のしかた(「ごんぎつね」前半)	資料の通読と要点整理(90分)
5	物語の授業のしかた(「ごんぎつね」後半)	資料の通読と要点整理(90分)
6	教材分析、学習指導案作成(略案)	教材分析、学習指導案作成(90分)
7	学習指導案作成(略案)	教材分析、学習指導案作成(90分)
8	模擬授業(一人あたり約20～30分)	模擬授業準備(60分)、他の学生の模擬授業についてのまとめ(60分)
9	模擬授業(一人あたり約20～30分)	模擬授業準備(60分)、他の学生の模擬授業についてのまとめ(60分)
10	模擬授業(一人あたり約20～30分)	模擬授業準備(60分)、他の学生の模擬授業についてのまとめ(60分)
11	学習指導案(正案)の書き方	資料の通読と要点整理(60分)
12	学習指導案(正案)作成	学習指導案作成(60分)
13	学習指導案(正案)作成	学習指導案作成(60分)
14	学習指導案(正案)作成	学習指導案作成(60分)
15	国語科の学習指導について(講義のまとめ)	15回の学びの復習(90分)

テキスト

文部科学省『学習指導要領解説国語編』東洋館出版

小学校国語教科書『国語上かがやき』光村図書、令和6年

小学校国語教科書『国語下はばたき』光村図書、令和6年

参考書・参考資料等

奥葉子『おおきなかぶ』新読書社、2017年

辻恵子『一つの花』新読書社、2016年

成績評価

小レポート(10%)

模擬授業(30%)

学習指導案(30%)

大レポート(30%)

授業への参加態度(10%)

履修要件及び履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席、3回の遅刻で欠席1回とする。

・小学校一種資格取得の際必修。

課題に対する指導

小レポートに書かれた質問にはコメントを書いて返却する。全体の学びにつながるものは、次の授業のはじめに全員で共有する。

オフィスアワー・連絡先

前期水曜2限、後期月曜3限に対応する。相談がある場合は事前の連絡をお願いしたい。murao@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	物語教材、詩教材等の分析・解釈をふまえ、授業を組み立てることができる。
イ	必要な形式をふまえた学習指導案を作成することができる。
ウ	学習指導案をもとに模擬授業を行うことができる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

兵庫県神戸市の公立小学校で32年間勤務し、文芸教育研究協議会で国語教育について26年間、実践と研究を重ねてきた経験から、国語科教材をどのように分析し、解釈するのかを指導していきたい。

科目名	社会科指導法						学期	2年前期
ナンバリング	K2-20-046	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	奥田　修一郎	
科目の概要	・授業の概要：本講義では、小学校の社会科における授業において、発問や教材などをどのように考えつくるのかを検討し、さらに、模擬授業を行うことにより、実践的な力量を習得することを目的とする。学習指導案の作成や、模擬授業の準備を丁寧に行うことにより、教材研究の意義について考察する。受講者が、授業時間外に教材作成のためや、模擬授業のための準備を行う必要がある。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	子どもの実態を踏まえる大切さを理解して，小学校社会科の授業を，計画・実施できる。	1-(1)d), 1-(1)e)
イ	学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	1-(1)f), 1-(1)g),
ウ	模擬授業の実施とその振り返りを通して，授業改善の視点を身に付けている。	1-(1)k)

回	授業内容	授業外の学修
1	社会科教育ガイダンス，印象に残っている授業から考える。	シラバスを事前に読んでおくこと。配布資料の復習（90 分）
2	小学校学習指導要領・解説　から，なぜ問題解決型学習が重視されているかを考える。	学習指導要領及び解説を事前に熟読と用語調べ(180 分)・
3	社会科授業実践に学ぶ。教師の言葉に注目する。	事前に配布した資料を読み込む。(60 分)
4	協働的な学びについて授業実践から考える	事前に配布した資料を読み込み，気になったところを抜き出す(60 分)
5	社会科における UD 授業と授業支援ツール活用	教育支援システムの使い方を復習しておく。(90分)
6	思考ツール・ジグソー法の使い方を授業実践から学ぶ	事前に課題を調べておく。(60 分)
7	社会科で使われる指導法を理解する。(パフォーマンス評価，ゲームなど)	事前に課題を調べておく。(60 分)
8	学習指導案の作成と授業設計①　(書き方を中心に)	学習指導要領・解説及び教科書を読み込む。(90 分)
9	学習指導案の作成と授業設計②　(資料づくり中心に)	指定された参考資料から調べておく。(60 分)
10	第 3 学年の授業づくりと実践　模擬授業実施とグループでの授業検討	それぞれの模擬授業に向けて教材研究と準備，リハーサル(180 分)
11	第 4 学年の授業づくりと実践　模擬授業実施とグループでの授業検討	
12	第 5 学年の授業づくりと実践　模擬授業実施とグループでの授業検討	それぞれの模擬授業に向けて教材研究と準備，リハーサル(180 分)
13	第6学年の授業づくりと実践①　模擬授業実施とグループでの授業検討	
14	第6学年の授業づくりと実践②　模擬授業実施とグループでの授業検討　小テスト	小テストに向けての復習(90分)
15	模擬授業の総まとめ　評価の 3 観点について	15 回の学びを振り返り，次への課題をまとめる。(60 分)

テキスト

『小学校　学習指導要領(平成 29 年告示)解説　社会編』 日本文教出版(生協で購入)

参考書・参考資料等：井田仁康，唐木清志編著，『初等社会科教育』ミネルヴァ書房 2018，ISBN-13　978-4623083145

成績評価

レポート[作品も含む](30%)、小テスト(20%)、模擬授業と指導案(30%)、ワークシートの記述内容と授業での討論内容(20%)

履修要件及び履修上の注意事項

・初等教科教育科目である。

課題に対する指導

・授業での振り返りワークシート(提出された課題も)に書いた疑問・意見については，コメントを書き，個々に返すとともに，全体の学びにつながるものは，次の授業のはじめで共有し深めるようにする。また，模擬授業では授業記録を取り，優れていた点と改善点を考えられるような支援を行う。

オフィスアワー・連絡先

・月の3，4限目　研究室で対応する。相談がある場合，事前の連絡をお願いしたい。

評価	概ね満足できる状況
ア①	子どもの認識，思考，学力などの実態を踏まえることの大切さを意識しての学習目標の設定ができる。
ア②	子どもの興味・関心を引き起こしたり，協働的な学びを進めたりすることができる教材を選んでいる。
イ①	授業の中で，共有する発問，発展的な発問をつくり，授業が展開できる。
イ②	導入，展開，まとめの学習順序を踏まえての学習指導案作成ができる。
ウ	自分の授業を振り返り，これからの課題を見出すことができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 ・ペアワークとグループワークを行う。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ・ロイロノートなどの授業支援システムを模擬授業の活用の仕方を，授業の目標と内容と結びつけて学ぶ。

担当教員の実務経験の内容

中学校教員及び地域支援教育コーディネーターとして勤務した教員が，その経験を活かして，子どもが意欲的に学ぶ授業づくりができるように指導する。

科目名	算数科指導法						学期	前期
ナンバリング	K3-20-047	実務経験の有無		単位数	2	担当者	吉田　明史	

科目の概要	算数・数学を教えることに意味や意義についての理解を図るとともに、学習指導要領に示された算数科の目標及び内容を踏まえ、具体的な指導法について、実践的に理解を深めていく。 具体的には、領域ごとに指導のポイントとなる事項を確認させ、学習指導案を作成するとともに、学生による模擬授業(20 分程度を 12 回)を行う。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	小学校学習指導要領(算数)に示された目標について説明できる。	1-(1)b
イ	算数の指導内容について、領域ごとに 6 年間の大まかな流れを説明できる。	1-(1)a
ウ	指定された題材に関する学習指導案を作ることができる。	1-(1)d
エ	ある題材の本時案における主たる発問を適切に設定することができる。	1-(1)f

回	授業内容	授業外の学修
1	算数を教える意義・意味	各種の調査結果を調べる(60 分)。
2	今求められている算数・数学教育　①	算数・数学の現状と課題をまとめる(60 分)。
3	今求められている算数・数学教育　②	
4	算数科の授業設計の考え方と方法、模擬授業	本時の学習指導案の細案を完成する(90 分)。
5	算数科の授業設計(演習)、模擬授業	
6	領域「A　数と計算」の指導①、模擬授業	「A 数と計算」の指導の要点を整理する(180 分)。
7	領域「A　数と計算」の指導②、模擬授業	
8	領域「A　数と計算」の指導③、模擬授業	
9	領域「A　数と計算」の指導④、模擬授業	
10	領域「A　数と計算」の指導⑤、模擬授業	
11	領域「B　図形」の指導①、模擬授業	「B 図形」の指導の要点を整理する(90 分)。
12	領域「B　図形」の指導②、模擬授業	
13	領域「C　測定、変化と関係」の指導、模擬授業	「C 測定、変化と関係」の指導要点を整理する(60 分)。
14	領域「D　データの活用」の指導、模擬授業	「D データの活用」の指導要点を整理する(60 分)。
15	ICT 活用を活用した授業づくり、模擬授業	ICT の活用場面について、具体内容を提案する(60 分)。

テキスト

文部科学省（著)「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説　算数編」

日本文教出版 2018/2/28(生協で購入)

参考書・参考資料等

「授業力をみがく 実践編」～達人から学ぶ算数道場～(啓林館)

成績評価

振り返り	30%
課題(レポート)	20%
試験	50%

履修要件及び履修上の注意事項

テキストは毎回持参すること。ノート(ルーズリーフは不可)をつくること。30 分以上の遅刻を欠席、3 回の遅刻で欠席 1 回とみなす。5 回以上欠席の場合は単位を認めない。

小学校一種資格取得の際必修。

課題に対する指導

毎時間振り返りを行う。レポート等は Google Classroom を利用して課す。

オフィスアワー・連絡先

火曜日及び金曜日の午後、ただし、事前にメールにて予約すること。連絡先のメールアドレスは、最初の授業で伝える。

評価	満足できる状況
ア	今回の改定で、算数科目標の中で強調されている点を 3 点あげ、A4 用紙 1 枚にまとめることができる。
イ―①	数概念の獲得について子どもが学ぶプロセスを A4 用紙1枚にまとめることができる。
イ―②	図形について、子どもが学ぶプロセスを A4用紙1枚にまとめることができる。
イ―③	分数のわり算について、子どもが学ぶプロセスを A4用紙1枚にまとめることができる。
ウ	指定した題材について、目標と観点別評価の方法・場面及び基準について A4用紙1枚にまとめることができる。
エ	設定した題材について、主たる発問と予想される子どもの対応を A4用紙2枚にまとめることができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☐PBL（問題解決型学習）

☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業）

☒ディスカッション、ディベート

☒プレゼンテーション

☐実習、フィールドワーク

☐その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

授業での ICT 活用

☒双方向型授業に活用

☒自主学習支援に活用

その他 ICT 活用に関する特記事項

「イマキク」を活用した授業の振り返り、Google Classroom を活用した課題(レポート)の提出及び採点を行う。

担当教員の実務経験の内容：実務経験有

高校、行政(国及び県)、大学(教員養成系)等を経験し、幼児教育、小学校(算数)及び中学校(数学)における指導内容・指導法の開発について研究した経験を授業展開に生かす。

科目名	理科指導法						学期	後期木曜3コマ
ナンバリング	K2-20-048	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	笠潤平	

科目の概要	小学校理科の目的や必要性について、歴史的・多面的に考える力を養うとともに、理科の授業方法について、いくつかの優れた指導法を理解させる。理科の教材分析、授業準備、授業実践をする基本的な力を養う。そのうえで、「主体的、対話的で深い学び」を保証する理科の授業の指導法を理解させる。また、科学的な思考能力を伸ばす授業とはどのようなものか理解させる。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	小学校理科の目的や必要性について、歴史的・多面的に考えることができる。	
イ	小学校理科のすぐれた授業法の特徴について説明することができる。	
ウ	理科の教材分析、授業準備、授業実践をすることができる。	
エ	科学的な思考能力を伸ばす授業とはどのようなものか説明することができる。	

回	授業内容	授業外の学修
1	授業の進め方、評価方法、小学校理科の目的は何かを考える	事後課題:1回目の授業の振り返り課題
2	理科教育の目的について多面的に考える	事前課題:理科教育の目的についてのエッセイ
3	仮説実験授業の教材の検討1	事後課題:授業の振り返り
4	仮説実験授業の教材の検討2	事後課題:授業の振り返り
5	科学的な思考力を伸ばす:ピアジェの考えにもとづいた教材1	事後課題:授業の振り返り
6	科学的な思考力を伸ばす:ピアジェの考えにもとづいた教材2	事後課題:授業の振り返り
7	探究型の授業:ISLE授業の検討1	事後課題:授業の振り返り
8	探究型の授業:ISLE授業の検討2	事後課題:授業の振り返り
9	授業分析と指導案の書き方	事後課題:指導案の書き方tについてのf売り返り
10	授業分析と指導案の書き方	事前課題:指導案の完成
11	模擬授業1	事前課題:授業者～授業準備、事後課題:全員～振り返り
12	模擬授業2	事前課題:授業者～授業準備、事後課題:全員～振り返り
13	模擬授業3:	事前課題:授業者～授業準備、事後課題:全員～振り返り
14	模擬授業4	事前課題:授業者～授業準備、事後課題:全員～振り返り
15	まとめ	事後課題:最終レポート

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成29 年告示)解説理科編」

笠潤平、イギリス科学教育の豊かな可能性、岡本正志編著『今こそ教育！』(ミネルヴァ書房、第9章)

参考書・参考資料等

授業に活かす！理科教育法　中学校・高校編」(東京書籍)

成績評価

授業への参加度(20%)、毎週の課題レポート(40%)、最終レポート(40%)

履修要件及び履修上の注意事項
状況に応じ、オンライン授業で実施する場合がある。 小学校一種資格取得の際必修。
課題に対する指導
オフィスアワー・連絡先 毎週木曜4限(事前予約が望ましい)　ryu.jumpei@kagawa-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	現代の子ども・市民と自然、科学・技術との関係から小学校理科の目的や必要性について示すことができる。
イ	よい授業とは何かを議論でき、自ら具体的に提案することができる。
ウ	教材分析、授業準備、授業実践を的確に行うことができる。
エ	科学的な思考能力を伸ばす授業について、具体例を提示することができる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 オンライン授業で実施する際には、動画も視聴して考察や討論をしますので、動画視聴・Zoom での授業参加（受信だけでなく発言するなどの発信）が円滑にできる機器と通信環境を確保してください。

担当教員の実務経験の内容
高校での教員経験があります。理科の授業、担任、学年主任、教務主任ほか校務分掌もいろいろしました。中学校で授業をした経験、小学校で出前授業をした経験もあります。

科目名	生活科指導法						学期	後期・木・2
ナンバリング	K3-20-049	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	善野八千子	
科目の概要	小学校生活科の指導に必要な理論と実践的な指導法を学び、教育現場で実践できるようにすることが目的の講座である。 講義では学習指導要領にある小学校生活の特徴を捉え、学習者の実態を考慮した指導のあり方や指導技術、授業計画の組み立て方、学習指導案の書き方も学び、学生は模擬講義を行う。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	子どもの実態を踏まえる大切さを理解して,小学校生活科の授業を,計画・実施できる。	1-(1)d), 1-(1)e)
イ	学習指導案の構成を理解し,具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	1-(1)f), 1-(1)g)
ウ	模擬授業の実施とその振り返りを通して,授業改善の視点を身に付けている。	1-(1)k)

回	授業内容	授業外の学修
1	本授業の目的・概要、授業方針等を確認する。シラバスに沿って講義の内容及び評価方法予習方法を理解する	事前:シラバス及びテキスト通読および用語の確認(90 分) 事後:ふりかえりレポート提出(90 分)
2	生活科の指導計画(年間計画、単元計画等)、認識・思考と授業設計 について学ぶ	事前:テキスト通読および用語の確認(90 分) 事後:ふりかえりレポート提出(90 分)
3	生活科における UD 授業と教材研究について学ぶ	事前:テキスト通読および用語の確認(90 分) 事後:ふりかえりレポート提出(90 分)
4	生活科の「標と指導と評価の一体化」について学ぶ	事前:テキスト通読および用語の確認(90 分) 事後:ふりかえりレポート提出(90 分)
5	生活科の指導方法(活動場所の設定・実践の基礎基本、問題解決学習・個別学習と協働的な学びについて学ぶ	事前:学習指導要領・解説及び教科書を読み込む。(90 分) 事後:ふりかえりレポート提出(90 分)
6	指導案について理解し、各自作成する (指導観・児童観・指導計画)	事前:指導案例および用語の確認(90 分) 事後:各自の指導案作成(指定事項まで) (90 分)
7	指導案について理解し、各自作成する (本時の目標・本時の展開、評価規準、評価方法)	事前:指導案例および用語の確認(90 分) 事後:各自の指導案作成(指定事項まで) (90 分)
8	指導案について理解し、各自作成する (板書計画・ワークシート・ICT の活用)	事前:指導案例および用語の確認(90 分) 事後:各自の指導案作成(指定事項まで) (90 分)
9	指導案について理解し、各自作成する (育てたい資質能力から、各自の指導案を見直す)	事前:指導案例および用語の確認(90 分) 事後:各自の指導案作成(指定事項まで) (90 分)
10	模擬授業の実際及び相互評価	それぞれの模擬授業に向けて教材研究と準備,リハーサル(180 分)
11	模擬授業の実際及び相互評価	それぞれの模擬授業に向けて教材研究と準備,リハーサル(180 分)

12	模擬授業の実際及び相互評価	それぞれの模擬授業に向けて教材研究と準備,リハーサル (180 分)
13	模擬授業の実際及び相互評価	それぞれの模擬授業に向けて教材研究と準備,リハーサル (180 分)
14	生活科における学力のとらえ方と学習評価について見直す	模擬授業の総まとめを ICT を用いて発表の準備をする (180 分)
15	模擬授業の総まとめを ICT を用いて発表する。	15 回の学びを振り返り,、次への課題をまとめる。(60 分)

テキスト

① 小学校学習指導要領解説　生活編（平成 30 年改訂版）文部科学省（生協で購入）

② 小学校生活科用　文部科学省検定済み教科書２　東書　生活 117 どきどきわくわく新編あたらしいせいかつ上東京書籍（2024 年度版）（生協で購入）

② 小学校生活科用　文部科学省検定済み教科書２　東書　生活 118 あしたへジャンプ　新編　新しい生活　下　東京書籍（2024 年度版）（生協で購入）

＊「生活科内容論」で既に購入の場合は続けて使用する

参考書・参考資料等

教育フォーラム 61『各学習領域における基本的な見方・考え方ーアクティブ・ラーニングで鍛えられるもの-』「小学校低学年における＜基本的な見方・考え方＞金子書房（平成 30 年２月）編者：日本人間教育学会　共著者：梶田叡一、古川治、善野八千子、他

成績評価

リフレクションシート、授業態度・理解　30%
予習課題、プレゼン発表の内容　30%
テストまたはレポートの総合的な理解　40%

履修要件及び履修上の注意事項

・初等教科教育科目である。
・毎回、各自が必ず PC またはタブレットなどの ICT 機器を持参して、学修する。

課題に対する指導

・授業での振り返りシート（提出された課題も）に書いた疑問・意見については，コメントを個々に返すとともに，全体の学びにつながるものは，次の授業内で共有し深める。

オフィスアワー・連絡先

・原則、水曜日の２限目に研究室で対応する。事前の連絡で日時調整を可能とする。yzen@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア①	子どもの認識，思考，学力などの実態を踏まえることの大切さを意識しての学習目標の設定ができる。
ア②	子どもの興味・関心を引き出したり，協働的な学びを進めたりすることができる教材を選んでいる。
イ①	授業の中で，共有する発問，発展的な発問をつくり，授業が展開できる。
イ②	導入，展開，まとめの学習順序を踏まえての学習指導案作成ができる。
ウ	自分の授業を振り返り，これからの課題を見出すことができる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習）

	□反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 ・ICT 活用を踏まえて、主体的一人学びをペアワーク及びグループワークに生かし、探究的学びにつなげる。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ・Google Classroom などの授業支援システムの活用とデジタル教科書の活用の仕方を学ぶ。

担当教員の実務経験の内容

29 年間の小学校教員及び管理職、教育委員会事務局主任指導主事として、特に生活科移行期から幼小接続カリキュラム改善に着手し、教員の資質向上等の研究に取り組んできた。これらの現場経験を生かし、教科等の知をどのような活動を通して学校教育現場の実際の課題解決と合致させる具体的な指導をする。

１点目は、ICT 活用して学校現場の実態やニュース等から情報を表出させ、自分ごととして課題解決する展開である。２点目は、新たな知を創出する場面において、自己の変容を言語化させ自覚化を図る必要性を実感させる。

とりわけ、小学校低学年の今日的な課題及びその課題解決のための授業づくりについてアクティブ・ラーニングをもとに学修を深める。

科目名	音楽科指導法						学期	後期・木・1
ナンバリング	K2-20-050	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	寄　ゆかり	
科目の概要	・「小学校学習指導要領：音楽編」の目標と内容について理解できるようにする。 ・情報機器も用いた音楽科の学習指導案を作成できるよう指導する。 ・学習指導案をもとに模擬授業を行い、振り返ることにより、より良い指導案に改善できるようにする。 ・音楽基礎力も向上させながら自らも演奏に加わることのできる校内音楽会を企画し、発表できるようにする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	「小学校学習指導要領：音楽編」の目標と内容について理解できる	1−(1)a)
イ	情報機器も用いた音楽科の学習指導案を作成できる	1−(1)b), 1−(1)i)
ウ	学習指導要領に沿った指導案に改善するための理解ができる	1−(1)j), 1−(1)d)
エ	音楽科指導における指導案と評価の関係も理解できる	1−(1)a)

回	授業内容	授業外の学修
1	「小学校学習指導要領（音楽）」①目標と内容の構成	資料の通読、及びシラバスにて全体の流れを復習（180 分）
2	「小学校学習指導要領（音楽）」②学年別指導内容（1～3年）	資料の通読（60 分）
3	「小学校学習指導要領（音楽）」②学年別指導内容（4～6年）	資料の通読（60 分）
4	歌唱共通教材からみる「音楽をどう感じるか」	提示された課題の演奏練習及び復習（180 分）
5	器楽合奏の指導過程と到達目標	提示された課題の演奏練習及び復習（180 分）
6	音楽科の学習指導案作成①―その原理と形式―	提示された課題の演奏練習及び指導案構想（180 分）
7	音楽科の学習指導案作成②―指導内容と評価基準―	提示された課題の演奏練習及び指導案構想（180 分）
8	音楽科の学習指導案作成③―教材研究から模擬授業へ―	提示された課題の演奏練習及び復習（180 分）
9	模擬授業①―授業実践とその課題の相互理解（わらべうたなどから）―	提示された課題の演奏練習及び復習（180 分）
10	模擬授業②―授業実践とその課題の相互理解（現代曲から）―	提示された課題の演奏練習及び復習（180 分）
11	模擬授業の振り返りから学習指導案の改善（学生同士の討議による）	学習指導案の改善と修正（180 分）
12	クラス音楽会のために―聴衆を巻き込む音楽会の鑑賞―	演奏練習及び音楽会構想（180 分）
13	クラス音楽会の企画①―立案の討議と準備―	提示された課題の演奏練習及び復習（180 分）
14	クラス音楽会の企画②―練習と準備（振り返りと改善）―	提示された課題の演奏練習及び復習（180 分）
15	クラス音楽会の発表及びレポート作成	演奏の振り返り及びレポート作成（180 分）

テキスト

『小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説：音楽編』，文部科学省，平成29年（1年次に使用のものを引き続き使用）

参考書・参考資料等

有本真紀他著『新版　教員養成課程　小学校音楽科教育法　2022 年改訂版』，教育芸術社，2021 年

成績評価

・授業での取り組む姿勢（30%）
・授業内レポート（30%）
・クラス音楽会発表（40%）

履修要件及び履修上の注意事項

・30分以上の遅刻は欠席とみなす
・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・小学校一種資格取得の際必修。

課題に対する指導
・質問や意見については、毎回の授業内で対応する。

オフィスアワー・連絡先
・授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア	「小学校学習指導要領:音楽編」の目標と内容について理解できる
イ①	音楽科の学習指導案を作成できる
イ②	情報機器を用いた学習指導案が作成できる
ウ	指導案を学習指導要領に基づいて改善できる
エ	音楽科指導における指導案と評価の関係も理解できる

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
・音楽教室において幼児・児童の指導にあたった経験より、音楽体験場面での児童への指導法を指導する。
・教員免許更新講習等にて現場で必要な音楽表現の指導を実施しており、これらの経験をもとに児童の音楽表現について指導する。

科目名	家庭科指導法						学期	前期・月・4
ナンバリング	K3-20-052	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	井出　康子	
科目の概要	小学校学習指導要領により家庭科の目標及び内容、指導計画作成上の配慮事項を充分に理解した上で、指導法について学ぶ。家庭科教育の特性を踏まえ、学習指導計画、学習指導案、評価などを自ら作成、実施できるようになる。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	教科内容とその構成について理解できる。	1-(1) a)
イ	授業法を工夫し、いくつかのアプローチができる。	1-(1) h) j)

回	授業内容	授業外の学修
1	ガイダンス　小学校家庭科の歩み	シラバスを事前に読む(30分)講義内容の復習(60分)
2	小学校家庭科の目標と内容	学習指導要領解説を読む(120分)講義内容の復習(60分)
3	小学校家庭科の内容構成と事項の確認	学習指導要領解説を読む(120分)講義内容の復習(60分)
4	学習指導指導計画　学習指導案	学習指導要領解説を読む(120分)講義内容の復習(60分)
5	評価	事前に評価の定義を考える(60分)講義内容の復習(60分)
6	家族・家庭生活の指導　授業案の検討	家族・家庭生活の教材研究(120分)講義内容の復習(60分)
7	衣食住の生活(食領域)の指導　授業案の検討	食領域の教材研究(120分)講義内容の復習(60分)
8	衣食住の生活(衣領域)の指導　授業案の検討	衣領域の教材研究(120分)講義内容の復習(60分)
9	衣食住の生活(住領域)の指導　授業案の検討	住領域の教材研究(120分)講義内容の復習(60分)
10	消費生活・環境の指導　授業案の検討	消費生活・環境の教材研究(120分)講義内容の復習(60分)
11	模擬授業と授業観察・討議①	学習指導案の作成(120分)講義内容の復習(60分)
12	模擬授業と授業観察・討議②	教材研究(120分)講義内容の復習(60分)
13	模擬授業と授業観察・討議③	授業準備(120分)講義内容の復習(60分)
14	模擬授業のまとめ　指導案の見直し	観察した授業について(120分)講義内容の復習(60分)
15	観点別評価について　まとめ	評価について(60分)講義内容の復習(60分)

テキスト

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説家庭編」
文部科学省　東洋館出版社(生協で購入)
「文部科学省検定済教科書小学校家庭科用『わたしたちの家庭科』」
開隆堂(家庭科内容論で使用した教科書)

参考書・参考資料等

「『家庭科』授業の腕があがる新法則」谷和樹　白石和子　他著
学芸みらい社

成績評価

レポート　50%
模擬授業(プレゼン、提出)　25%
討論での発言等　5%
小テスト　20%

履修要件及び履修上の注意事項 小学校一種資格取得の際必修。
課題に対する指導 提出されたレポートなどは添削し、次回授業時に返却する。
オフィスアワー・連絡先 授業前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア	教科内容についてわかりやすく説明できる。
イ①	教材研究を積み重ねる。
イ②	適切に自分の意見をまとめる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容 高等学校の教員を務めた。教育相談、特別支援教育コーディネーターの経験がある。

科目名	体育科指導法						学期	前期
ナンバリング	K3-20-053	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	本山　司	
科目の概要	小学校体育科の目的・目標・内容、学習の指導方法・過程などの理論と実際について、指導案作成および模擬授業を通して、授業運営の方法を身に付けることを目的とする。授業では、小学校体育科の目標や内容、指導方法、集団・形態・過程について理解を深め、具体的な授業の内容や方法を学ぶ。小学校体育実技種目には体つくり運動、器械運動、陸上運動、水泳運動、ゲーム、ボール運動、表現運動などがあり、これらの学習指導計画を作成し、技能習得のための理解と実践を行い、教材研究や授業展開の実際を検証する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	小学校体育科教育の目的を理解できる。	1-(1)a)
イ	小学校体育科教育の諸理論や実践方法を学び、初等体育科教育における自分自身の考えを深めることができる。	1-(1)b)
ウ	小学校体育科の指導計画、授業実践及び授業評価を展開するための、知識や技術を身につけることができる。	1-(1)c)

回	授業内容	授業外の学修
1	授業目的・概要確認、シラバスに基づいた講義説明	シラバスの確認、学習内容整理(90 分)。
2	体育科指導計画(年間計画、単元計画、時間計画)と授業設計	指導計画作成方法調査、計画を振り返り改善案(180 分)。
3	体育科学習指導内容の理解	指導内容調査・理解、理解を整理し質問準備(120 分)。
4	体育科教材研究の方法	教材の種類と使用法調べ、使用教材の評価と改善(120 分)。
5	体育技術指導法①(場所設定、実践基礎)	場所設定の指導法調査、振り返り改善案(120 分)。
6	体育技術指導法②(問題解決型学習、個別・集団学習)	学習形態の指導法調査、振り返り評価(120 分)。
7	体育授業で使用する用具・場所について	用具の種類・安全管理の調査、評価・改善案(120 分)
8	小学校体育における保健授業の目的・内容・方法	体育と保健の関連調査、保健授業方法振り返り改善(120 分)
9	指導案作成方法	指導案構成方法調査、指導案見直し、修正案(180 分)。
10	低学年模擬授業	低学年向け授業準備、反省・改善点整理(180 分)。
11	中学年模擬授業	中学年向け授業準備、反省・改善点整理(180 分)。
12	高学年模擬授業	高学年向け授業準備、反省・改善点整理(180 分)。
13	保健模擬授業	保健授業内容準備、反省・改善点整理(180 分)。
14	体育・保健学力と学習評価	学力評価方法調査、評価・フィードバック(120 分)。
15	ICT を活用した学習のまとめと発表	ICT 活用準備、発表振り返り(180 分)。

テキスト

『初等体育科教育』吉田武男監修、岡出美則編著、ミネルヴァ書房 2018

参考書・参考資料等

小学校指導要領解説　体育編(平成 29 年度　文部科学省)

成績評価

授業への積極的参加(30%)、学習指導案(20%)、模擬授業(20%)、学期末レポート(30%)で総合的に評価する。

履修要件及び履修上の注意事項

毎回出席を取る。体育実技やアクティブ・ラーニングを行う授業では、必ず動ける服装と靴を準備すること。天候によって授業内容が変更される場合があり、その際は学内メール等で連絡する。
小学校一種資格取得の際必修。

課題に対する指導
質問や意見については授業内でフィードバックを行い、学習指導案と模擬授業についても授業内で評価を行う。内容によっては次回の授業でフィードバックを行い、学期末レポートは後日コメントを付けて返却する。

オフィスアワー・連絡先
水曜日のお昼休みに研究室で対応する。
メール:t_motoyama@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	小学校体育科の目的を明確に説明できる。
イ	理論と実践を結びつけた授業提案ができ、効果的な指導方法を実践できる。
ウ	授業実践を通じて、指導技術と評価方法を適切に活用できる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ☑その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 模擬授業を行う。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
中学校保健体育教員としての勤務経験を活かし、現代の子どもたちが抱える体力問題に着目しながら、実践的な教材を提供する。

科目名	初等英語科指導法						学期	後期
ナンバリング	K2-20-054	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	上村　政文	
科目の概要	小学校における外国語活動(中学年)・外国語(高学年)の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身につけさせたい。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	授業実践に必要な知識を身につけ、理解している。	1(2)a),b),
イ	授業実践の指導技術を身につけ、授業づくりができる。	1(2) a),b),c) ,f),g)

回	授業内容	授業外の学修
1	小学校における外国語活動・外国語科の現状	資料の通読と復習(90 分)
2	英語教授法	資料の通読と復習(90 分)
3	指導方法・指導技術	資料の通読と復習(90 分)
4	指導目標と年間指導計画の作成	資料の通読と復習(90 分)
5	教材研究①(児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動)	資料の通読と復習(90 分)
6	教材研究の実際①	具体的な活動の作成とプレセンテーションの準備をする。反省・課題をレポートにまとめる(100 分)
7	教材研究②(児童が創意工夫し、生き生きと英語を使う活動)	資料の通読と復習(90 分)
8	教材研究の実際②	具体的な活動の作成とプレセンテーションの準備をする。反省・課題をレポートにまとめる(100 分)
9	授業づくり(指導案の作成)	資料の通読と復習(90 分)
10	授業づくりの実際	具体的な指導案の作成とプレゼンテーションの準備をする。反省・課題をレポートにまとめる(100 分)
11	評価の在り方・進め方	資料の通読と及び内容理解と復習(90 分)
12	評価の実際	具体的な評価案の作成とプレゼンテーションの準備をする。反省・課題をレポートにまとめる(100 分)
13	模擬授業の実際	事前:模擬授業の準備をする。反省・課題をレポートにまとめる(100 分)
14	討議　小学校英語教育を考える	討議のための事前準備をする。反省・課題をレポートにまとめる(100 分)
15	全体のまとめ　豊かな小学校外国語教育を目指して	15 回の講義等を振り返り、次への課題をまとめる。(90 分)

テキスト（初等英語科内容論と同じテキストである。）

Let's have fun Teaching English (From Theory to Practice)

By 小原弥生/豊田典子/髙橋まり/Steven Rogers　NAN'UN-DO　2024

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領　文部科学省　平成 29 年

小学校学習指導要領解説　文部科学省　令和 4 年(4 版)

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　国立教育政策研究所　教育課程研究センター　令和 5 年(8 版)

小学校英語科教育法 -理論と実践-　金森強　成美堂　2024

成績評価

課題、レポートや小テスト(40%)

ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ(30%)

試験(30%)

新学習指導要領に基づく英語科教育法第3版　望月昭彦、久保田章、磐崎弘貞、卯城祐司　大修館　2020	

履修要件及び履修上の注意事項

・英和辞典等の辞書を準備すること。

・「30分以上の遅刻を欠席」、「3回の遅刻で欠席1回」とみなす。

・小学校一種資格取得の際必修。

課題に対する指導

・単元ごとに講義中に適宜実施する。

・毎回、授業の感想や授業への要望等を書くための用紙を配布、収集する。

オフィスアワー・連絡先

・質問等については講義の前後の時間に教室にて対応する。

・相談がある場合は事前に連絡をすること。

評価	満足できる状況
ア①	小学校外国語教育の変遷や小・中・高等学校の外国語科の目標、内容について理解している。
ア②	主教材の趣旨、構成、特徴について理解している。
ア③	受信から発信、音声から文字へと進むプロセスを理解し、指導に生かすことができる。
イ①	児童の発話につながるよう、効果的に英語で語りかけることができる。
イ②	題材の選定、教材研究の仕方について理解し、適切に題材選定・教材研究ができる。
イ③	学習到達目標に基づいた指導計画について理解し、学習指導案を立案することができる。
イ④	ALT等とのティームティーチングによる指導の在り方について理解している。
イ⑤	学習状況の評価について理解している。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート☑ ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業でのICT活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他ICT活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

高等学校英語教員、短期大学の英語講師、専門学校の英語講師としての指導経験がある。その経験を生かしてこの科目の指導に当たり、初等英語科の指導法を身につけさせる。

科目名	授業実践研究Ⅰ(初等教材開発)						学期	集中
ナンバリング	K2-20-055	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	笠潤平	
科目の概要	本講義は、小学校のアクティブ・ラーイング的な授業運営と創造的な教材開発について理解を深めることを目的とする。取り上げる例としては、理科分野における、①仮説実験授業、②児童の認知的発達の促進を目指す英国の授業プログラムの討を中心とする。その際、座学中心ではなく、ア)講師による模擬授業への参加と教材分析、イ)出版されている授業記録・授業報告の分析、ウ)受講者による模擬授業の実施と振り返りの討論などの能動的な活動を通じて、この目的を達成する。また、社会科等の教材例なども含める予定である。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	小学校の授業の目標と授業運営・教材の用い方について基本的な理解を得る	
イ	「仮説実験授業」の教材の特徴について理解する	
ウ	英国の認知的能力の発達の促進を目指す授業の教材の特徴について理解する	
エ	探究的な授業の教材について理解する	
オ	授業の設計・運営、教材の開発について基本的な理解を得る	

回	授業内容	授業外の学修
1	講義の主旨の紹介:授業の目標、構成、教材などについての導入	事後課題:授業の振り返り
2	講師による模擬授業の受講・観察:探究型の授業(例:「仮説実験授業」)	事後課題:授業の振り返り
3	前時の受講・観察にもとづく「仮説実験授業」の構造と授業書の役割の分析	事後課題:授業の振り返り
4	講師による模擬授業の受講・観察と分析:社会科の「仮説実験授業」	事後課題:授業の振り返り
5	授業観察と分析　その1	事後課題:授業の振り返り
6	授業観察と分析　その2	事後課題:授業の振り返り
7	科学的な説明の力を伸ばす:氷の融解	事後課題:授業の振り返り
8	探究型の授業:温泉たまご	事後課題:授業の振り返り
9	教材分析と実習	事後課題:教材分析
10	教材分析と実習	事後課題:教材分析
11	教材分析発表会	事前課題:発表準備　事後課題:振り返り
12	教材分析発表会	事前課題:発表準備　事後課題:振り返り
13	科学的なレポートの書き方:実習　パラグラフ・ライティング	事前課題:実習作業、事後課題:振り返り
14	科学的なレポートの書き方:実習　パラグラフ・ライティング	事前課題:実習作業、事後課題:振り返り
15	まとめ	事後課題:最終レポート

テキスト	成績評価
文部科学省「小学校学習指導要領(平成29 年告示)解説理科編」 笠潤平、イギリス科学教育の豊かな可能性、岡本正志編著『今こそ教育！』(ミネルヴァ書房、第9章)	授業への参加度(20%)、毎回のレポート(40%)、最終レポート(40%)

参考書・参考資料等	

履修要件及び履修上の注意事項

状況に応じ、オンライン授業で実施する場合がある。

課題に対する指導

オフィスアワー・連絡先

集中講義後随時(事前予約が必要)　ryu.jumpei@kagawa-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	小学校の授業の目標と授業運営・教材の用い方について理解している
イ	「仮説実験授業」の教材の特徴について理解し、説明できる
ウ	英国の認知的能力の発達の促進を目指す授業の教材の特徴について説明できる
エ	探究的な授業の教材について提示することができる
オ	授業の設計・運営、教材の開発について基本的な理解ができている

授業の特徴	
	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 オンライン授業で実施する際には、動画も視聴して考察や討論をしますので、動画視聴・Zoom での授業参加（受信だけでなく発言するなどの発信）が円滑にできる機器と通信環境を確保してください。

担当教員の実務経験の内容

高校での教員経験があります。理科の授業、担任、学年主任、教務主任ほか校務分掌もいろいろしました。中学校で授業をした経験、小学校で出前授業をした経験もあります。

科目名	音楽Ⅱ(表現技法)						学期	前期・金・3
ナンバリング		実務経験の有無	有	単位数		担当者	岡本文音	
科目の概要	小学校・幼稚園・保育所おいて子供たちと接するときに欠かせない、音楽能力を身に着けるため、実際に歌い、ピアノを弾くという実践を通じ、音楽の基礎・応用・表現力を習得する。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連DP
ア	基礎的な楽典(音楽理論)の知識が習得できる。	1-(1)a)
イ	正しい発声法および正確な音程で、表現力豊かに歌うことをできる。	1-(1)b)
ウ	簡単なピアノ曲を習得できる。	1-(1)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	音楽Ⅰの復習	課題曲(ピアノおよび歌唱)の復習と予習練習(180分)
2	楽典・ピアノ・歌唱1	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
3	楽典・ピアノ・歌唱2	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
4	楽典・ピアノ・歌唱3	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
5	中間テスト1　楽典・ピアノ・歌唱	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
6	楽典・ピアノ・歌唱4	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
7	楽典・ピアノ・歌唱5	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
8	楽典・ピアノ・歌唱6	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
9	楽典・ピアノ・歌唱7	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
10	中間テスト2　楽典・ピアノ・歌唱	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
11	楽典・ピアノ・歌唱8	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
12	楽典・ピアノ・歌唱9	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
13	楽典・ピアノ・歌唱10	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
14	楽典・ピアノ・歌唱11	音楽理論小テストの復習と課題曲(ピアノ・歌唱)の復習と予習(180分)
15	総まとめテス　楽典・ピアノ・歌唱	総まとめテストの復習(180分)

テキスト

バーナムピアノテクニック１（音楽之友社）

バイエルピアノ教則本（全音出版）

参考書・参考資料等

授業への取り組み（３０%）

中間テスト（３５%）

総まとめテスト（３５%）

履修要件及び履修上の注意事項

ピアノおよび歌唱の練習を毎日すること。

音楽理論の復習も欠かさずにすること。

課題に対する指導 フィードバックおよび課題に対する指導は、毎回の授業でおこなう。	
オフィスアワー・連絡先 授業の前後の時間に教室にて対応する。	
評価	満足できる状況
ア	基礎的な音楽理論を理解し、簡単な楽譜を正しく読むことができる。
イ	正しい発声法および正確な音程で表現力豊かに歌い、弾き歌いができる。
ウ	簡単な曲を初見演奏でき、弾き歌いができる。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
合唱指導とピアノの個人レッスンの実務経験を生かして、学生の個人個人の能力に合わせて教育指導する。	

科目名	幼児と人間関係						学期	後期
ナンバリング	K1-21-060	実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	①人との関わりに関する領域「人間関係」目指すもの、ねらい、内容の取り扱いについて学ぶ。 ②それぞれの年齢での子どもの発達がどのようなものか、保育者はどのように一人ひとりに関わって人との関わりを促していけばいいのかについて学ぶ。 ③子どもの自立心や共感力、道徳性・規範意識、コミュニケーション能力等を育成するための支援の方法について学ぶ。 ④人間関係の育ちを育む環境づくりについて考察できるようにする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	領域「人間関係」のねらいおよび内容について理解できる。	1-(1)l)
イ	子どもの発達とそれに対応した関わり方について理解できる。	1-(2)b)
ウ	人間関係を踏まえた子どもへの支援と環境のあり方について考えることができる。	1-(2)g)

回	授業内容	授業外の学修
1	領域「人間関係」の目指すものとは	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
2	領域「人間関係」のねらい、内容の取扱い	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
3	子どもを取り巻く社会の状況	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
4	3歳児の遊びと人間関係、子どもの考えの広がり	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
5	4歳児の遊びと人間関係　生活を通して学ぶ	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
6	5歳児の遊びと人間関係　5歳という立場とその発達	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
7	子どもの自立心をどう育むか	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
8	子どもたちのいざこざ・けんかなどのトラブルへの対応	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
9	子どもの遊びや生活に見られる共感や思いやり	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
10	道徳性・規範意識の芽生え　ルールやマナーとの関連性	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
11	道徳性・規範意識の芽生え　子どもと悪	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
12	コミュニケーション能力を育むための関わり	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
13	気になる子どもや多様な文化的背景に対応するための関わり	資料の通読およびレポートの情報収集(180分)
14	保護者や同僚との関係、チーム支援構築について	資料の通読およびレポートの情報収集(180分)
15	幼保小の連携、まとめ	資料の通読およびレポート執筆(180分)

テキスト
適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等
適宜紹介する。

成績評価
授業への参加の度合い（30%）
最終レポート（30%）
毎回提出する小レポート（40%）

履修要件及び履修上の注意事項
教員免許状（幼稚園）および保育士資格取得のための必修科目である。
授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。

課題に対する指導
毎回のリアクションペーパーの内容や質問について、次回授業の冒頭にコメントしたり追加の解説を行ったりする。

オフィスアワー・連絡先	
前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限	アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	領域「人間関係」のねらいや内容の取扱いについて理解し説明することができる。
イ	子どもの発達と人間関係を関連づけ、それを踏まえた関わり方について考えることができる。
ウ	人間関係を踏まえた子どもへの支援や環境の工夫へのアイデアを提示することができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
特になし。

科目名	幼児と環境						学期	集中
ナンバリング	K2-17-061	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	坂本 渉	
科目の概要	幼児期の保育・教育は環境を通して行うものである。領域「環境」のねらい及び内容について理解し、保育における子どもをとりまく環境とそのかかわりについて学ぶ。保育における環境の意味や重要性について考えるとともに、体験を通して環境への理解を深めることを目的とする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	領域「環境」のねらい及び内容について基礎的な理解ができる。	1-(1)a)
イ	保育における環境の意味や重要性について理解できる。	1-(1)a)
ウ	領域「環境」の特性及び子どもの体験との関連を考慮した教材の活用法や環境構成について理解することができる。	1-(1)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション：幼稚園教育の基本と領域	シラバスの内容を把握する、「領域」について調べる(90分)
2	子どもの遊びと領域「環境」	幼少期に経験した遊びを考える、授業内容の復習(180分)
3	領域「環境」の意義－ねらいと内容－	「ねらい」「内容」の意味を調べる、授業内容の復習(180分)
4	人とのかかわり①個と保育者との遊び	伝承遊びについて調べる、授業内容の復習(180分)
5	人とのかかわり②集団での遊び	集団遊びについて調べる、授業内容の復習(180分)
6	自然事象とのかかわり①生命の営みにふれる(飼育・栽培)	飼育・栽培の意義について考える、授業内容の復習(180分)
7	自然事象とのかかわり②風や空気を感じる遊び	テーマに沿った遊びを考える、授業内容の復習(180分)
8	自然事象とのかかわり③土や水に触れる遊び	テーマに沿った遊びを考える、授業内容の復習(180分)
9	ものや道具とのかかわり①身近な素材を使った遊び(面材)	テーマに沿った遊びを考える、授業内容の復習(180分)
10	ものや道具とのかかわり②身近な素材を使った遊び(線材)	テーマに沿った遊びを考える、授業内容の復習(180分)
11	ものや道具とのかかわり③身近な素材を使った遊び(塊材)	テーマに沿った遊びを考える、授業内容の復習(180分)
12	ものや道具とのかかわり④科学遊び	科学遊びの意義について考える、授業内容の復習(180分)
13	行事とのかかわり－保育における行事の意義－	年中行事について考える、授業内容の復習(180分)
14	子どもの発達と領域「環境」	各年齢の発達のポイントと関わり方について纏める(180分)
15	保育における環境の捉え方－環境構成の方法－	子どもが主体的に関われる環境について考える(180分)

テキスト

使用しない。適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

文部科学省編『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、平成30年

成績評価

最終レポート(40%)

授業内小レポート(20%)

積極的参加度〔発表、演習での制作物を含む〕(40%)

履修要件及び履修上の注意事項

演習授業においては、身近な素材や用具の準備を指示する場合がある。

幼稚園教諭・保育士資格取得の際必修。	
課題に対する指導 課題へのふりかえりや指導の方法は授業の中で指示する。	
オフィスアワー・連絡先 授業の前後の時間に教室にて対応する。	
評価	満足できる状況
ア	領域とは何か、また五領域の一つである「環境」のねらい及び内容について説明できる。
イ	環境を通して行う教育・保育とは何か、また保育における環境の重要性について説明できる。
ウ	さまざまな遊びを経験する中で、子どもに必要な環境構成について考えることができる。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 幼稚園主任教諭、また保育所保育士、施設長として勤務。これらの経験を活かし、保育の基本について指導する。	

科目名	幼児と言葉						学期	前期・木・1
ナンバリング	K2-17-062	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	香田健治	
科目の概要	言葉に対する感覚や、言葉で表現する力を養う幼児期の教育の在り方について、絵本や紙芝居の製作、読み聞かせなどを通して学修する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、身近な環境との関わりに関する領域「言葉」のねらい及び内容、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連や指導上の留意点を理解できる。	1-(1)d)
イ	話し言葉や書き言葉等の言葉の意義と機能について説明できる。	1-(1)a)
ウ	言葉に対する感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識・技能を身に付けている。	1-(1)e)
エ	絵本・物語・紙芝居等の児童文化財の意義について理解するとともに、実践について基礎的な知識・技能を身に付けている。	1-(1)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	幼児と言葉の内容とねらいについて(『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をテキストにして)	事前:テキスト通読および用語の確認(90 分)、事後:ふりかえり(90 分)
2	人間にとっての言葉の意味を考えながら保育内容(言葉)を捉える	事前:テキスト通読および用語の確認(90 分)、事後:ふりかえり(90 分)
3	幼児と文学(物語・絵本)、よい絵本とは何か	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
4	絵本の絵について(絵の役割、絵のイメージ)	テーマやキーワードの調べ学習(90 分)
5	絵本の世界を豊かに体験する	発表の準備(90 分)
6	反復と対比(絵本のイメージと意味)	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
7	絵本の読み聞かせについて	テーマやキーワードの調べ学習(90 分)
8	絵本の制作	事前:発表の準備(90 分)
9	制作した絵本の内容について(発表と検討)	発表の準備(90 分)、事後:発表・討議・ワークのふりかえりとまとめ(90 分)
10	物語絵本の解釈	テーマやキーワードの調べ学習(90 分)
11	物語絵本の分析　保育としての物語絵本を考える	テーマやキーワードの調べ学習(90 分)
12	物語絵本の読み聞かせについて	配付資料の要点整理(60 分)
13	こどもの発達と言葉	事前:テキスト通読および用語の確認(90 分)、事後:ふりかえり(90 分)
14	言葉の持つおもしろさ(ことばあそび)	テーマやキーワードの調べ学習(90 分)
15	領域「言葉」のふりかえりとまとめ	レポート提出(90 分)

テキスト	成績評価
・文部科学省『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、2018 年(生協で購入)。	・授業のふりかえり40% ・レポート課題40%

・厚生労働省『保育所保育指針解説』、フレーベル館、2018 年(生協で購入)。 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、フレーベル館、2018 年(生協で購入)。 ・福山多江子、伊澤永修、大澤洋美、生野金三編著『0～6 歳児「言葉を育てる」保育―よくあるギモン 40＆言葉あそび 20－』、東洋館出版社、2021 年(生協で購入)。	・試験20%
参考書・参考資料等 ・文部科学省『幼稚園教育要領』、フレーベル館、2018 年。 ・厚生労働省『保育所保育指針』、フレーベル館、2018 年。 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、フレーベル館、2018 年。	

履修要件及び履修上の注意事項

・30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

・遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。

・幼稚園教諭・保育士資格取得の際必修。

課題に対する指導

・質問や意見については、毎回の授業内でふりかえりを行う。

・課題へのふりかえりや指導の方法は授業の中で指示する。

・毎回、授業の感想や授業への要望等を書くための用紙を配布、収集する。

オフィスアワー・連絡先

評価	満足できる状況
ア	幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、身近な環境との関わりに関する領域「言葉」のねらい及び内容、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連や指導上の留意点を理解している。
イ	話し言葉や書き言葉等の言葉の意義と機能について説明できる。
ウ	言葉に対する感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識・技能を身に付けている。
エ	絵本・物語・紙芝居等の児童文化財の意義について理解するとともに、実践的指導力について基礎的な知識・技能を身に付けている。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☑PBL（問題解決型学習）

□反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業）

□ディスカッション、ディベート

☑プレゼンテーション

□実習、フィールドワーク

□その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

授業での ICT 活用

☑双方向型授業に活用

	□自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容	

科目名	幼児と表現						学期	前期・金・4
ナンバリング	K2-21-063	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	寄　ゆかり	
科目の概要	・保育５領域における領域「表現」でのそのねらいと内容を解説し、ディスカッションしながらともに「表現」を捉える。 ・他領域との関連とそれらが総合的jに関わり合うことによる保育の構成を説明する。 ・乳幼児の発達と「表現」の発展過程とその場面に応じた捉え方を具体的な展開を行いながら説明する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	領域「表現」のねらいとその内容が理解できる	1―(1)a)
イ	領域「表現」とその他の領域との関わりを総合的に捉えることができる	1―(1)a)
ウ	乳幼児の発達過程をふまえて領域「表現」の展開を理解できる	1―(1)b)
エ	領域「表現」を通して、自身とともに幼児の豊かな表現力を育成することができる	1―(1)l)

回	授業内容	授業外の学修
1	幼稚園教育要領等での領域「表現」のねらい、内容	資料の通読、及びシラバスにて全体の流れを復習（180 分）
2	幼児教育の中での表現	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
3	乳幼児の発達①発達過程からその表現の特性を知る	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
4	乳幼児の発達②音楽表現の展開	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
5	音楽活動を通した領域「表現」と他領域との関わり、ミニテスト①	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
6	幼児期までのこどもの育ちを考えた活動	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
7	遊びから学ぶ①環境から音の探求、音で遊ぶ、	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
8	遊びから学ぶ②ことばあそび、リズム遊び	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
9	遊びから学ぶ③小学校の音楽科との連携	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
10	子どもの表現に沿ったピアノ奏法、ミニテスト②	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
11	子どもの表現場面に応じた即興的な関わり	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
12	表現活動（造形、音楽、身体）の構成	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
13	ICT を活用した領域「表現」の保育活動	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
14	ICT を活用した領域「表現」の教材研究	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習（180 分）
15	授業内ミニテスト③及び領域「表現」のまとめ	音楽理論のまとめ及び弾き歌い試験曲の練習（180 分）

テキスト

石井玲子（編著）『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」−音遊びから音楽表現へ−』教育情報出版，2022 年（生協で購入）

参考書・参考資料等

チャイルド社（編集）『令和５年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』，チャイルド社，2024 年

成績評価

・授業での取り組む姿勢（30%）
・授業内ミニテスト（50%）
・授業内レポート（20%）

履修要件及び履修上の注意事項

・30分以上の遅刻は欠席とみなす。
・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・幼稚園教諭・保育資格取得の際必修。

課題に対する指導
・質問や意見については、毎回の授業内で対応する。

オフィスアワー・連絡先
・授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア	領域「表現」のねらいとその内容が理解しようとする。
イ	領域「表現」とその他の領域との関わりを総合的に捉えようとする。
ウ	乳幼児の発達過程をふまえた領域「表現」の展開を考えることができる。
エ①	自身の表現力を豊かにしようと努力する。
エ②	領域「表現」を通して、幼児の豊かな表現力を育成しようとする。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
・音楽教室において幼児の指導にあたった経験より、音楽体験場面での子どもへの指導法を指導する。
・幼稚園・保育所等において職員研修にて現場で必要な音楽表現の指導を実施しており、これらの経験をもとに乳幼児の音楽表現について指導する。

科目名	保育内容の指導法(健康)						学期	後期
ナンバリング	K3-21-064	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	本山　司	
科目の概要	この授業では、幼児の健康な心と体を育み、幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を培うために必要な教育方法を身につける。具体的には、幼稚園教育要領に基づいた教育のねらいや内容について理解を深め、幼児の発育・発達に関する基本的な知識を学ぶ。その上で、幼児の健康を守り促進するための指導方法や実践的なアプローチを習得する。また、幼児の健康に関連するさまざまな事象を学び、幼児が健康を獲得するための知識や技能を身につけ、実際の指導に活かせる力を養う。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、「健康」領域のねらい及び内容を理解する。	1-(1)a),1-(1)d)
イ	幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して、保育を構想する方法を身に付ける。	1-(1)b),1-(1)h)

回	授業内容	授業外の学修
1	本授業の目的・概要、授業計画をシラバスを基に確認	シラバスの確認、内容の復習と理解の確認(90分)。
2	幼児の発育、認識・思考、身体特性の理解	幼児の発育特性を調査、理解を整理してまとめる(120分)。
3	幼児の体力・運動能力についてのレクチャー	体力・運動能力を予習、理論を実践に結びつける(120分)。
4	幼児の体力・運動能力に関するグループ討議	体力・運動の力に関する事前調査、整理と反省(120分)。
5	幼児の運動遊びについてのレクチャー	運動遊びの理論調査、実践例を理解しまとめる(120分)。
6	幼児の運動遊びに関するグループ討議	運動遊びの事例研究と問題提起、整理と反省(120分)。
7	幼児期の運動指針内容についてレクチャーと討議	運動指針調査・理解、整理と反省(120分)。
8	基本的生活習慣の獲得を目指した保育計画と評価	生活習慣獲得の方法調査、指導計画作成(180分)。
9	基本的生活習慣獲得を目指した模擬保育実施	模擬保育準備、実施結果を評価・反省(180分)。
10	模擬保育の評価と改善点を振り返り(基本的生活習慣)	反省点を整理・準備、改善案を挙げ・振り返る(120分)。
11	運動遊び中心の保育計画と評価	運動遊びの方法調査、指導計画作成(180分)。
12	運動遊び中心の模擬保育実施	模擬保育準備、実施結果を評価・反省(180分)。
13	模擬保育の評価と改善点を振り返り(運動遊び)	反省点を整理・準備、改善案を挙げ・振り返る(120分)。
14	ICTを活用した保育構想と学習評価方法	ICT活用法調査、評価方法の整理(120分)。
15	授業のまとめ、保育実践の動向、小学校とのつながり	授業内容の振り返り、学習内容をまとめ、整理(120分)。

テキスト

『演習　保育内容　健康』川邉貴子，建帛社,2008

参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領解説書　平成29年度告示版』文部科学省『保育所保育指針解説書　平成29年度告示版』厚生労働省

成績評価

定期試験(60%)、レポート他の提出物(20%)、授業への積極的参加(20%)で総合的に評価する。

履修要件及び履修上の注意事項

毎回出席をとる。運動遊び・模擬保育等アクティブ・ラーニングを実施する場合は必ず動ける服装、靴を準備すること。メディア教材やICT教材を用いることがある。また天候により授業内容を変更する場合があり、学内メール等で連絡する。

幼稚園教諭・保育資格取得の際必修。

課題に対する指導

質問や意見については授業内、学習指導案と模擬授業は授業内、内容によっては次時にフィードバックを行う。レポートや定期試験は後日コメント書いて返却する。

オフィスアワー・連絡先

水曜日のお昼休みに研究室で対応する。

メール:t_motoyama@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア①	幼稚園教育要領に基づく「健康」領域の内容を正確に説明できる。
ア②	幼児の健康を促進するための指導案を作成し、その内容が「健康」領域のねらいや目標に適している。
イ①	幼児の発達段階を考慮して、具体的な指導場面における保育計画が適切に構築されている。
イ②	作成した指導案が実際に保育現場で実施可能であり、かつ創造的なアイデアが盛り込まれている。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ☑その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク、模擬保育を行う。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

科目名	保育内容の指導法(人間関係)						学期	前期
ナンバリング	K3-21-065	実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	①保育活動における「人間関係」領域の内容の取扱いについて、具体的な場面を想定しながら学ぶ。 ②保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 ③環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫について学ぶ。 ④保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	具体的な場面を想定しながら領域「人間関係」の取扱いについて説明できる。	1-(2)h)
イ	ICTも含め、環境の構成や教材・遊具の重要性について理解できる。	1-(2)c)
ウ	具体的な場面を想定しながら保育の過程の実際を理解できる。	1-(2)g)

回	授業内容	授業外の学修
1	領域「人間関係」のねらい、内容、他領域との関連	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
2	領域「人間関係」の基礎知識	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
3	保育者が関わりの中で留意・配慮すべき点について	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
4	指導案作成の意義　領域「人間関係」を中心に	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
5	保育の過程の実際　計画・実践・記録	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
6	保育の過程の実際　省察・評価・改善	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
7	環境構成の重要性、教材や遊具の活用と工夫	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
8	ICT機器の活用と工夫	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
9	指導案の作成、教材研究・準備①	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
10	指導案の作成、教材研究・準備②	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
11	模擬保育の実施	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
12	模擬授業の振り返り（評価と改善）	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
13	ICT を活用した保育構想と評価のあり方	資料の通読およびレポートの情報収集(180分)
14	保護者や多職種との関係の実際	資料の通読およびレポートの情報収集(180分)
15	まとめ・振り返り　保育現場における人間関係の多様性	資料の通読およびレポート執筆(180分)

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

成績評価

授業への参加の度合い（30%）

最終レポート（30%）

毎回提出する小レポート（40%）

履修要件及び履修上の注意事項

教員免許状（幼稚園）および保育士資格取得のための必修科目である。

授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。

課題に対する指導
毎回のリアクションペーパーの内容や質問について、次回授業の冒頭にコメントしたり追加の解説を行ったりする。
オフィスアワー・連絡先 前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	領域「人間関係」の内容に関して、実際の保育者の動きを提示しながら説明することができる。
イ	環境の構成や教材・遊具に配慮して指導案を作成することができる。
ウ	具体的な場面を想定し、保育の過程をふまえた関わり方の重要性を説明することができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
特になし。

科目名	保育内容の指導法(環境)						学期	集中
ナンバリング	K3-21-066	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	坂本 渉	
科目の概要	子どもをとりまく様々な環境において、それらを生活やあそびに取り入れていく力を育むための知識を実践的に学ぶとともに、幼児期の環境とのかかわりの実際と発達の特性を踏まえ、具体的な指導場面を想定した保育の構想や指導方法を身につけることを目的とする。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連DP
ア	領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めることができる。	1-(1)a)
イ	人的環境・物的環境及び空間的環境の構成について思考できる。	1-(1)e)
ウ	演習を通して環境構成及び再構成する力を身につけ、保育の構想に活用する方法を修得する。	1-(1)h)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション：領域「環境」のねらい及び内容を振り返る	シラバスの内容を把握する、「幼児と環境」を想起する(90分)
2	環境構成と保育者の役割	授業内容をふりかえり、疑問・質問をまとめる(180分)
3	子どもをとりまく人的環境－友だち・保育者－	授業内容を整理し、資料をまとめる(180分)
4	子どもをとりまく物的環境①保育室・園庭・遊具	授業内容を整理し、資料をまとめる(180分)
5	子どもをとりまく物的環境②身近な素材の特性に気づく	「身近な素材」とは何かを考える、授業内容をまとめる(180分)
6	子どもをとりまく物的環境③人工物と自然物	授業内容をふりかえり、疑問・質問をまとめる(180分)
7	子どもをとりまく自然環境－自然を感じとる力－	授業内容を整理し、資料をまとめる(180分)
8	子どもをとりまく社会環境－地域社会とのかかわり	授業内容を整理し、資料をまとめる(180分)
9	数量・図形とのかかわりについて考える	授業内容を整理し、資料をまとめる(180分)
10	標識・文字とのかかわりについて考える	授業内容を整理し、資料をまとめる(180分)
11	子どもの安全環境について考える	授業内容を整理し、資料をまとめる(180分)
12	領域「環境」と保育の展開①指導計画の立案	指導計画の立案に向けて教材研究を行う(180分)
13	領域「環境」と保育の展開②指導計画の実践とふりかえり	指導計画の実践に向けて教材研究と準備を行う(180分)
14	小学校との連携・接続－保育と教育の連続性－	授業内容を整理し、資料をまとめる(180分)
15	領域「環境」にかかわる現代的課題とまとめ	全回の授業内容をふりかえり、疑問・質問をまとめる(180分)

テキスト

使用しない。適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

文部科学省編『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、平成30年

成績評価

最終レポート(40%)

授業内小レポート(20%)

積極的参加度〔発表、演習での制作物を含む〕(40%)

履修要件及び履修上の注意事項

演習授業においては、身近な素材や用具の準備を指示する場合がある。

幼稚園教諭・保育士資格取得の際必修。	
課題に対する指導 課題へのふりかえりや指導の方法は授業の中で指示する。	
オフィスアワー・連絡先 授業の前後の時間に教室にて対応する。	
評価	満足できる状況
ア	領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、説明することができる。
イ	領域「環境」の特性及び子どもの体験との関連を考慮した教材の活用法について理解し、保育の構想に活用することができる。
ウ	実践の中で子どもの興味・関心や育ちを引き出すための環境構成や、遊びに応じて環境を変化させていく力を身につけ、具体的な場面を想定した保育を展開する方法を考えることができる。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 幼稚園主任教諭、また保育所保育士、施設長として勤務。これらの経験を活かし、保育の基本について指導する。	

科目名	保育内容の指導法(言葉)						学期	前期・木・2
ナンバリング	K3-21-067	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	香田健治	
科目の概要	幼児教育において育みたい資質・能力について理解し、幼児期にふさわしい、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた指導場面を構想するとともに、模擬保育実践をする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	養護及び教育に関わる保育の内容の関連性を理解し、総合的に展開していくための知識・技術・判断力を習得できる。	1-(1)e)
イ	保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、1 歳以上 3 歳未満児及び 3 歳以上児の保育の5つの領域を通して子どもの発達を捉え、理解できる。	1-(1)a)
ウ	領域「言葉」についての保育の内容と指導法を具体的に理解できる。	1-(1)b)
エ	発達過程に即した保育場面を想定しながら、環境の構成や教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解できる。	1-(1)h)

回	授業内容	授業外の学修
1	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における「言葉教育」のねらいと内容およびその指導法	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
2	童話と絵本の与え方	配付資料の要点整理(60 分)
3	人形劇を考える	テーマやキーワードの調べ学習(90 分)
4	紙芝居と言葉	配付資料の要点整理(60 分)
5	エプロンシアターとは	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
6	絵本の読み聞かせ(模擬保育)	発表の準備(90 分)
7	「絵本を作ってみよう」(指導案の作成<ICT の活用>)	テーマやキーワードの調べ学習(90 分)
8	指導案の検討と評価について	発表・討議・ワークのふりかえりとまとめ(90 分)
9	幼児にユーモア文学を与える意味(ユーモアとは何か)	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
10	紙芝居をつくる	テーマやキーワードの調べ学習(90 分)
11	紙芝居の発表会(模擬保育)	事前:発表の準備(90 分)、事後:発表・討議・ワークのふりかえりとまとめ(90 分)
12	発達と個人の特性を踏まえた指導とは	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
13	保育者として言葉領域の内容と学習評価の考え方を検討する	発表・討議・ワークのふりかえりとまとめ(90 分)
14	ICT を活用した保育構想と小学校との連携に配慮した保育実践について	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
15	今後の幼児教育の動向と課題　まとめ	レポート提出(90 分)

テキスト	成績評価

・文部科学省『幼稚園教育要領』、フレーベル館、2018 年(生協で購入)。 ・厚生労働省『保育所保育指針』、フレーベル館、2018 年(生協で購入)。 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、フレーベル館、2018 年(生協で購入)。	・リフレクションペーパー40% ・指導案の作成 30% ・模擬保育30%
参考書・参考資料等 ・文部科学省『幼稚園教育要領』、フレーベル館、2018 年。 ・厚生労働省『保育所保育指針』、フレーベル館、2018 年。 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、フレーベル館、2018 年。	

履修要件及び履修上の注意事項

・30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

・遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。

・幼稚園教諭・保育士資格取得の際必修。

課題に対する指導

・質問や意見については、毎回の授業内でふりかえりを行う。

・課題へのふりかえりや指導の方法は授業の中で指示する。

・毎回、授業の感想や授業への要望等を書くための用紙を配布、収集する。

オフィスアワー・連絡先

評価	満足できる状況
ア	養護及び教育に関わる保育の内容の関連性を理解し、総合的に展開していくための知識・技能を習得し、活用できる。
イ	保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、1 歳以上 3 歳未満児及び 3 歳以上児の保育の5つの領域を通して子どもの発達を捉え、理解できる。
ウ	領域「言葉」についての保育の内容と主体的・対話的で深い学びのための指導法を具体的に理解できる。
エ	発達過程に即した保育場面を想定しながら、環境の構成や教材の開発や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解できる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☑PBL（問題解決型学習）

☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業）

☐ディスカッション、ディベート

☑プレゼンテーション

☐実習、フィールドワーク

☐その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

授業での ICT 活用

☑双方向型授業に活用

	□自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容	

科目名	保育内容の指導法(造形表現)							学期	後期
副題	幼児の造形活動を指導する方法について学ぶ				授業方法	演習	担当者	原田昌幸	
ナンバリング	K3-21-068	実務経験の有無	無	関連DP	1.2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
幼児の絵画について、発達段階を理解し、年齢に応じた適切な指導を行えるよう基礎知識を学ぶ。身近な素材をもとに、幼児の素朴な造形活動を体験し、保育指導案を作成することで実践的な保育能力を獲得する。

授業の到達目標
幼児における絵画、造形制作の有意性を理解し、状況に応じた指導を工夫し実践していく能力を身につけることができる。子どもの発達に則した、造形教育の題材開発ができるようになる。

授業計画
1. 領域「表現」のねらい及び内容の取扱いを総合的に理解する
2. 幼児期における描画の発達段階1　なぐり描き期
3. 幼児期における描画の発達段階2　象徴期
4. 幼児期における描画の発達段階3　図式期
5. 色彩の学習　②身近な素材で色相環を作成する
6. 色彩の学習　①色彩の基礎を理解する
7. 身近な環境への意識　フロッタージュから
8. 乳幼児のおもちゃ制作―感じるおもちゃ
9. 乳幼児のおもちゃ制作―操作するおもちゃ
10. 身近な素材から造形活動を考える－①素材を感じる
11. 身体表現、台詞を用いたとしての表現活動の実際
12. 身近な素材から造形活動を考える　③指導案の目的を考える
13. 身近な素材から造形活動を考える　④指導案の展開を考え完成させる
14. 模擬保育の実践（保育場面での情報機器の活用を含む）
15. 模擬保育の振り返りと表現活動の学習のまとめ

準備学習(予習・復習)・時間
事後学習として、毎回の内容をファイルにまとめておくこと（60分）
課題によっては必要な素材を準備する。(60分)

テキスト
文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(生協で購入)

参考書・参考資料等
適宜プリント等配布

学生に対する評価
毎回の学びのミニレポート（３０％）、学習のまとめの発表内容及び成果（７０％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）実施した課題内容を理解し、指導案を作成できている。
（B）実施した課題内容を理解し、指導案を作成できている。指導案に従って実践が行えている。
（A）課題内容を充分に理解したうえで、実際の保育に活かせるように指導案が作成されている。作成した市指導案をもとに実践が出来ている。
（S）課題内容を完全に理解したうえで、実際の保育に活かせるよう、独自の工夫が加えられて実践できている。

課題に対するフィードバックの方法
提出された課題やレポートは添削し、次回授業時に返却する

その他
基本的には個人での道具・材料は必要ないが、課題によっては事前に準備が必要な場合がある。その際には事前に予告する。アクティブ・ラーニングの手法を用いた作品制作や、メディア教材やICT教材を用いた授業を行うことがある。

科目名	保育内容の指導法(音楽表現)						学期	後期・金・3
ナンバリング	K3-21-069	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	寄 ゆかり	
科目の概要	幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、 ・幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びとその環境構成について実践的に解説する。 ・鍵盤演奏力の向上及び様々な楽器を用いた合奏法を展開するための実技指導を行う。 ・情報機器を用いた保育計画の立案について学び、よりよい保育計画案に改善できるよう説明する。 ・演奏を修得する上で必要な音楽理論も解説する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	領域「表現」のねらいに基づいた表現遊びが展開できる	1-(1)b)
イ	現場で展開される音楽表現に必要な演奏力を身に付ける	1-(1)a)
ウ	合奏も含めた幼児への音楽指導力を身に付ける	1-(1)e)
エ	ねらいをふまえた保育計画案が立案できる	1-(1)d)
オ	合奏では、協力し合って作り上げることができる	1-(2)c)

回	授業内容	授業外の学修
1	領域「表現」のねらい及び内容の取扱いにおける音楽表現の捉え方	資料の通読、及びシラバスにて全体の流れを復習(180分)
2	様々な楽器の奏法①とその教材活用法～幼児教育現場で用いる楽器～	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
3	様々な楽器の奏法②～いい音色を出すには、バランスと奏法～	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
4	様々な楽器の奏法③～ラテンパーカッションを知る～	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
5	様々な楽器を用いた幼児への合奏指導、合奏小テスト	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
6	歌唱指導①～子どもとともに歌うために～	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
7	歌唱指導②～指導のポイントを考える～、合唱小テスト	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
8	リトミック～その伴奏とこどもの動き～	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
9	子どもの音楽表現～わらべうたあそび～	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
10	子どもの音楽表現～手遊びから、からだあそび～	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
11	音楽表現の一方法～ボディパーカッション～	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
12	子どもができるボディパーカッションの作成と小テスト	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
13	様々な楽器の奏法④～ハンドベル(コードとメロディー)～	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
14	音楽表現を中心とした指導案の構成及びその作成	提示された課題の演奏練習及び復習(180分)
15	実技試験及び幼小連携をふまえた保育内容の展開	これまでの授業まとめ及び実技試験曲の練習(180分)

テキスト

木村鈴代(編著),『新たのしい子どものうたあそび 第二版(第二刷)』, 同文書院, 2022年(2年次のものを引き続き使用)

参考書・参考資料等

チャイルド社(編集)『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』, チャイルド社, 2024年

成績評価

授業での取り組む姿勢(20%)
授業時に実施する小テスト(30%)
指導案提出とその内容(30%)
実技試験(20%)

履修要件及び履修上の注意事項
・30分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・幼稚園教諭・保育資格取得の際必修。
課題に対する指導
・質問や意見については、毎回の授業内で対応する。
オフィスアワー・連絡先
・授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア	領域「表現」のねらいに基づいた表現遊びを理解する。
イ	現場で展開される音楽表現に必要な演奏力を身に付けるための研鑽を積んでいる。
ウ	合奏も含めた幼児への音楽指導方法を理解する。
エ	ねらいをふまえた保育計画案を立案するための努力を行っている。
オ	合奏では、協力し合って作り上げようと努力している。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業でのICT活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他ICT活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
・音楽教室において幼児の指導にあたった経験より、音楽体験場面での子どもへの指導法を指導する。 ・幼稚園・保育所等において職員研修にて現場で必要な音楽表現の指導を実施しており、これらの経験をもとに乳幼児の音楽表現について指導する。

科目名	地域体験基礎						学期	1年前期
ナンバリング	K1-19-070	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	奥田 修一郎	

科目の概要	・地域体験は、本学のもっとも特徴的な体験学習であり、教職につく者はもちろん、たとえ教職以外の道に進んだとしても、この学習で得るものは大きい。そうした地域体験の意義、そこで習得できる資質・能力(非認知能力)などについて、本質的で基本的な観点を学習する。授業は、課題解決型の形式で行い、調査、グループ討論やプレゼンなど、学習者主体の講義となる。また，地域の方とのフィールドワークや話し合いも行う。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	地域の文化及び自然，社会環境の特色と地域の課題及び地域での活動のあり方を理解できる。	2-(1)a)
イ	地域体験の意味を，非認知能力と関連させて理解できる。	1-(2)b)
ウ	地域の人々との交流・協働を通して，積極的にコミュニケーションをとることができる。	2-(2)c)

回	授業内容	授業外の学修
1	地域体験の学びとは何だろうか。	地域体験ハンドブックをよく事前に読んでおく。(90分)
2	連携団体からの説明，説明文の書き方を学ぶ。	事後に学んで考えたことを日誌にまとめる。(90分)
3	地域体験はなぜ必要なのかを非認知能力から考える。	事前配布の資料を読み込み，疑問点を整理する(90分)
4	非認知能力の理解を深める。(教育経済学の視点から)	ある物語から非認知能力をとらえるようにする。(90分)
5	発表に向けてのスライドづくり①	事前にスライドづくりの準備ための原稿・写真を整えておく。(180分)
6	発表に向けてのスライドづくり②	
7	自分たちの町の魅力と課題を紹介する。	事前に住んでいる町のことを調べておく。(180分)
8	小山田まちづくりの会の活動を知る。	事後にレポートとしてまとめる。(60分)
9	小山田地区のフィールドワーク ①（農園）	事前に地図などを使い，歩くコースを調べておく。(90分)
10	小山田地区のフィールドワーク ② （福祉施設）	質問を事前に考え，事後にまとめるようにする。(90分)
11	世界かんがい遺産を知る。①	世界かんがい遺産について調べる。(90分)
12	世界かんがい遺産を知る。②	聞き取ったことをまとめる。(90分)
13	発表会に向けた準備を行う。	発表会のリハーサルを何度か行うようにする。(180分)
14	会場での発表会本番	振り返りを行い，最終レポートにまとめる。(180分)
15	まちづくりの会の皆さんと町の課題と解決策を考える。	広報に載せる原稿を書く。(180分)

テキスト

授業中に適宜，資料を配布する。

参考書・参考資料等

山下祐介，2020，『地域学をはじめよう』岩波ジュニア新書

成績評価

・レポート(授業ごとのレポート，最終レポート)(70%)

・授業での討論の内容と発表の内容(20%)

・プレゼンでの表現(10%)

履修要件及び履修上の注意事項

・この授業の半分は小山田まちづくりの会のみなさんとの活動や学習になる。

・卒業必修科目である。

課題に対する指導

・毎回の授業での振り返りワークシートに書いた疑問・意見については，コメントを書き，個々に返すとともに，全体の学びにつながるものは，次の授業のはじめで共有し深めるようにする。

オフィスアワー・連絡先

・月の3，4限目　研究室で対応する。相談がある場合，事前の連絡をお願いしたい。

評価	概ね満足できる状況
ア①	地域の良さと課題を自分の住んでいる町との比較から理解できる。
ア②	まちづくりの会の活動について理解できる。
イ	地域体験の意味を，実際の体験活動の中で非認知能力と関連させて理解できる。
ウ	地域の人々との交流・協働を通して，積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 ・地域の方とのグループでの話し合いと提案活動がある。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ・ Google Classroom での課題提出と発表スライドづくりが求められる。

担当教員の実務経験の内容

コミュニティスクールの地域教育支援コーディネーターとしての勤務経験や中学校教員として校内の総合的な学習の時間を担当し，かつ地域コーディネーターや学校運営協議会，社会教育委員の役割を担った経験を活かして，地域の現状・課題をつかみ、地域と学校がつながる上で何が大切かを理解させる。また，連携団体の活動から，真正な学びとは何かを考察し，かつ，非認知能力の育成の大切さに気づかせ，授業やこれからの生活にいかせるようにする。

科目名	文学						学期	前期
ナンバリング	K1-20-075	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	村尾 聡	
科目の概要	本科目は、小学校の教科書に掲載されている文学作品、詩、俳句、短歌、絵本（主に国語科内容論で取り上げなかった作品）などを教材として取り上げ、文芸学理論の基礎的理解を図りながら、教職をめざす学生の人間観・世界観を広げ、深めていくことを目的とする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	文芸学の基本的な用語を説明することができる。	1-(1)a)
イ	教材を文芸学(教育的認識論)の理論を使って分析・解釈できる。	1-(1)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	講義の進め方、文学作品の読み方(低学年)	シラバスを事前に読んでおく(30分) 資料の通読と要点整理(90分)
2	文学作品の読み方(中学年)	資料の通読と要点整理(90分)
3	文学作品の読み方(高学年)	資料の通読と要点整理(90分)
4	「おおきなかぶ」の分析・解釈	資料の通読と要点整理(90分)
5	「お手紙」の分析・解釈	資料の通読と要点整理(90分)
6	「ちいちゃんのかげおくり」の分析・解釈	資料の通読と要点整理(90分)
7	「モチモチの木」の分析・解釈	資料の通読と要点整理(90分)
8	「だからわるい」「わたしのいもうと」の分析・解釈	資料の通読と要点整理(90分)
9	「わらぐつの中の神様」(前半)の分析・解釈	資料の通読と要点整理(90分)
10	「わらぐつの中の神様」(後半)の分析・解釈	資料の通読と要点整理(90分)
11	「海の命」(前半)の分析・解釈	資料の通読と要点整理(90分)
12	「「海の命」(後半)の分析・解釈	資料の通読と要点整理(90分)
13	「やまなし」(前半)の分析・解釈	資料の通読と要点整理(90分)
14	「やまなし」(後半)の分析・解釈	資料の通読と要点整理(90分)
15	文学作品の読み方について(講義のまとめ)	15回の学びの復習(90分)

テキスト

授業中に資料を配付する

参考書・参考資料等

西郷竹彦『名詩の世界　西郷文芸学入門講座』光村図書、2005年

村尾聡『文学教育論』ブイツーソリューション、2014年

成績評価

小レポート(40%)

大レポート(50%)

授業への参加態度(10%)

履修要件及び履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席、3回の遅刻で欠席1回とする

課題に対する指導

小レポートに書かれた質問にはコメントを書いて返却する。全体の学びにつながるものは、次の授業のはじめに全員で共有する。

オフィスアワー・連絡先	
前期水曜2限、後期月曜3限に対応する。相談がある場合は事前の連絡をお願いしたい。murao@koyasan-u.ac.jp	
評価	満足できる状況
ア	文芸学の基本的な用語を説明することができる。
イ	教材を文芸学(教育的認識論)の理論を使って分析・解釈できる。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 模擬授業形式で授業を実施
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 兵庫県神戸市の公立小学校で32年間勤務し、文芸教育研究協議会で国語教育について26年間、実践と研究を重ねてきた経験から、文学作品をどのように分析し、解釈するのかを指導していきたい。	

科目名	日本文化(茶道)						学期	後期・木・4
ナンバリング	K1-26-077	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	岡本文音	

科目の概要	日本の伝統的な文化の一つである茶の湯の理解を深めることを目的とする。 ・初釜などの茶会を経験し、実際に基本的な所作や点前を習得する。 ・その上で受講生自らが茶会を企画実践し、亭主側と客側とを体験する。 ・こ☑らを通して、茶の湯の精神や美意識について考える。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	茶の湯（茶道）における、礼の仕方・歩き方、茶のいただき方などの基本的な所作ができる。	1-(2)a),1-(2)b),1-(2)c),1-(2)d)
イ	初歩の点前（盆略点前）ができるようになる。	1-(2)a),1-(2)b),1-(2)c),1-(2)d)
ウ	茶の湯（茶道）の歴史・文化について知ることができる。	1-(2)a),1-(2)b),1-(2)c),1-(2)d)
エ	茶の湯（茶道）の思想や美意識について考察できるようになる。	1-(2)a),1-(2)b),1-(2)c),1-(2)d)
オ	茶会を企画実践することができる。	1-(2)a),1-(2)b),1-(2)c),1-(2)d)

回	授業内容	授業外の学修
1	講義　茶道概説　茶事（茶会）のなが☑	事後:ふりかえり(60 分)
2	実習　客の所作と心得１　お茶のいただき方（薄茶）	実習体験の内容と課題のふりかえり(60 分)
3	実習　客の所作と心得２　席入りの仕方	実習体験の内容と課題のふりかえり(60 分)
4	講義　茶の湯の文化１　茶道史　茶の湯以前	配付資料の要点整理(60 分)
5	実習　盆略点前１　割稽古	実習体験の内容と課題のふりかえり(60 分)
6	実習　盆略点前２　割稽古	実習体験の内容と課題のふりかえり(60 分)
7	講義　茶の湯の文化２　茶道史　草創期の茶の湯	配付資料の要点整理(60 分)
8	実習　盆略点前３　割稽古	実習体験の内容と課題のふりかえり(60 分)
9	実習　盆略点前４　割稽古	実習体験の内容と課題のふりかえり(60 分)
10	講義　茶の湯の文化３　茶道具について	配付資料の要点整理(60 分)
11	実習　盆略点前５　通し稽古	実習体験の内容と課題のふりかえり(60 分)
12	盆略点前６　通し稽古	実習体験の内容と課題のふりかえり(60 分)
13	茶杓削り	実習体験の内容と課題のふりかえり(60 分)
14	茶会の企画と実践	実習体験の内容と課題のふりかえり(60 分)
15	実習　茶会体験　初釜	実習体験の内容と課題のふりかえり(60 分)

テキスト 使用しない

授業中に適宜,配布する。

参考書・参考資料等

① 谷端昭夫著『よくわかる茶道の歴史』淡交社 2007 年

② 谷晃著『わかりやすい茶の湯の文化』淡交社 2005 年

成績評価

授業時に随時課す提出物（30%）茶会の企画と実践（35%）

期末試験（35%）

履修要件及び履修上の注意事項
実習の費用（茶・菓子・炭）として 3,500 円、および茶杓削りの材料費として約 1,000 円が必要である。
課題に対する指導
課題へのふりかえりや指導の方法は授業の中で指示する。
オフィスアワー・連絡先
授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア	基本的な所作の型を覚え、実践することができる。
イ	盆略点前の点前手順を覚え、点前することができる。
ウ	伝統的な文化への理解力を身に着ける。
エ	茶の湯（茶道）の思想や美意識について考察することによって、多文化への理解力を深める。
オ	茶会の実践により、コミュニケーション能力や協働性を発揮することができる

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☐PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク ☐その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☐自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
茶道教授者としての実務経験により、学生の個人能力に合わせて教育指導をする。

科目名	書学入門(書道)						学期	後期・木・1
ナンバリング	K1-06-078	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	野田悟	

科目の概要	
	1、小学校国語科書写の実技と理論に関して学習する。その基礎・基本となる理論の理解、技能書写力の向上を目指す。 2、小学校教員としての執筆法を含めた手書き文字の認識、さらに発展的に、東洋思想の根幹を占めるのが「表意文字」としての漢字であることを理解し、唐代楷書を通して理論を含めた実践から焦点を当てる。 3、本講座は基本的に古典臨書を根底とし、形臨、背臨を経て、学生同士で切磋琢磨し、最後は個々に作品制作を行う。 4、授業では「尚古思想」を原点に常用漢字に至る漢字の成り立ちを理解する為旧漢字にて板書する。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	執筆姿勢(筆鋒、筆順、を含む)を正しくし、精神的に落ち着いた状態でゆっくり運筆する。	1-(2)d)
イ	法帖をよく観察し、漢字やかなの線質及び余白における美学を認識する。筆文字の正しさと活字文字の違いを確認する。	1-(1)a)
ウ	児童(のご父兄も含め)に対し、文字を手書きする模範を示す意識を向上させる。	1-(2)g)、1-(2)h)
エ	日本古来の仏教精神に触れ、誤字・脱字の無い「般若心経」作品を作り上げる。	1-(2)d)
オ	作品を展示し、自身の作品を機約款的に見る意識を高め、地域の文化や価値観を尊重する。	1-(2)h)、2-(2)a)

回	授業内容	授業外の学修
1	ガイダンス：表意文字としての漢字と文房四宝	硬筆課題(60分～)
2	小学校国語科書写の実技と理論、指導案について	硬筆課題及び古典臨模(180分)
3	臨書入門：顔真卿「多寶塔碑」or 褚遂良「雁塔聖教序」①導入	硬筆課題及び古典臨模(180分)
4	臨書入門：顔真卿「多寶塔碑」or 褚遂良「雁塔聖教序」②起筆と収筆	硬筆課題及び古典臨模(180分)
5	臨書入門：顔真卿「多寶塔碑」or 褚遂良「雁塔聖教序」③提按	硬筆課題及び古典臨模(180分)
6	臨書入門：顔真卿「多寶塔碑」or 褚遂良「雁塔聖教序」④線質	硬筆課題及び古典臨模(180分)
7	臨書入門：顔真卿「多寶塔碑」or 褚遂良「雁塔聖教序」⑤結構	硬筆課題及び古典臨模(180分)
8	臨書入門：顔真卿「多寶塔碑」or 褚遂良「雁塔聖教序」⑥余白	硬筆課題及び古典臨模(180分)
9	前半の半紙臨書作品の提出及び鑑賞	硬筆課題及び古典臨模(180分)
10	臨書入門：顔真卿「多寶塔碑」or 褚遂良「雁塔聖教序」⑦背臨	硬筆課題及び古典臨模(180分)
11	創作に向けた練習	硬筆課題及び古典臨模(180分)
12	般若心経作品創作① 導入	硬筆課題と心経作品(180分～)
13	般若心経作品創作② 線質等	硬筆課題と心経作品(180分～)
14	般若心経作品創作③ 結構や余白等	硬筆課題と心経作品(180分～)
15	般若心経作品創作④ 仕上げと合評	硬筆課題と心経作品(180分～)

テキスト	成績評価
・中国法書選 ４０ 顔真卿「多寶塔碑」又は３４褚遂良「雁塔聖教序」：二玄社 ・書道字典を持っている方が望ましい。	・基本的に数度の提出作品及び授業態度や授業外での各々の鍛錬による評価。

・その他、必要に応じてプリントを配布する。・技術的に高いレベルの学生は、個々に別課題を課す。	・欠席が、各学期 1/3 を超えた場合その時点で失格とする。(欠席各－3点、遅刻各－1点)
参考文献 『説文解字』(中華書局等)、『聾瞽指帰』・『篆隷万象名義』等(高野山大学蔵)、江守賢治『漢字筆順ハンドブック』(三省堂)、『新書源』(二玄社)等々 「小学校学習指導要領解説　国語」、文部科学省、H29	

履修要件及び履修上の注意事項

・筆(太筆・細筆)、墨(原則として墨汁は許可しない)、文鎮、半紙、反切は個々に準備の事〔ガイダンス時に詳しく説明する〕。

・書道実技(アクティブ・ラーニング)の講座として、毎回、課題が課され、授業以外での自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。課題は反切画宣紙を使用する。

・休み時間のうちに全ての準備を済ませ、授業に臨むこと。

・授業の理解度や学生の努力度、能力により、予定が変更される場合有り。展覧会出品も考えている。その場合の表具代は自己負担となる。

・できるだけ自身で美術館、博物館に足を運び、良い作品を多く鑑賞する。

・小学校一種資格取得の際選択必修。

課題に対する指導

・休み時間中に毎回の課題を貼ってもらい、授業の導入部分で批評しながら、フィードバックを行う。

・毎回の課題は作品(レポート)として再提出事前に返却し、すべて纏めて各自自身の向上を確認し提出する。

オフィスアワー・連絡先

講義後にて教室で対応

評価	満足できる状況
ア	執筆姿勢(筆鋒、筆順、を含む)を正しくし、精神的に落ち着いた状態でゆっくり運筆できる。
イ	法帖をよく観察し、漢字やかなの線質及び余白における美学を認識する。手書き文字の理解における活字文字との違いを説明できる。
ウ	手書き文字による①児童への手書き文字の示範、②学校へ掲示する連絡事項の書式、③学級新聞等の家庭連絡が問題なくできる。
エ	尚古思想を根幹に「般若心経」作品を誤字・脱字なく創作できる。
オ	細筆での「般若心経」作品を誤字・脱字なく創作し、表装後展示する水準に達している。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☑PBL(問題解決型学習)

□反転授業(知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業)

□ディスカッション、ディベート

□プレゼンテーション

☑実習、フィールドワーク

□その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

授業の中で課題に対する相互批評を行い、各々が次の目標を定める。

授業での ICT 活用

□双方向型授業に活用

	□自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容	

科目名	地域体験特論						学期	2年後期
ナンバリング	K2-19-079	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	奥田　修一郎	
科目の概要	・地域体験は、本学のもっとも特徴的な体験学習であり、教職につく者はもちろん、たとえ教職以外の道に進んだとしても、この学習で得るものは大きい。そうした地域体験の意義を基礎では，非認知能力に着目したが，本講義では，まちの課題を知るだけではなく，解決に向けて何が必要かを，地域の方との出会いと協働の中で考察していく。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	地域の特性を，食と農，福祉，子どもの居場所づくりの面から理解できる。	2-(1)a)
イ	地域の人との出会いと協働を通して，地域の課題解決を考えることができる。	2-(2)b)
ウ	地域の人々と様々な活動の場面で主体的に関わることができる。	2-(2)a),

回	授業内容	授業外の学修
1	地域体験特論での学び，オリエンテーション	シラバスをよく事前に読んでおく。(90 分)
2	地域の企業からの学び(福祉・地域づくり)	聞き取ったことをまとめる。(90 分)
3	地域での活動を調べる。	事前配布の資料を読み込み，疑問点を整理する(90 分)
4	地域の企業に取材したことをもとに活動計画をつくる。	取材したことをレポートにまとめ，計画を立てる。(90 分)
5	小山田地区を訪ねて：小山田まちづくりの会①	事前配布の資料を読み込み，疑問点を整理する(90 分)
6	小山田地区を訪ねて：小山田まちづくりの会②	体験・取材したことをレポートにまとめる。(90 分)
7	地域のイベントへの参加①	イベント参加の準備を事前に行う。(180分)
8	地域のイベントへの参加②	体験したことをまとめる。(90 分)
9	子ども食堂への参加①	事前に全国や地域の子ども食堂について調べておく。(180 分)
10	子ども食堂への参加②	体験したことをまとめる。(90 分)
11	オーガニック給食チームとともに，食と農のつながりを学ぶ。	質問を事前に考え，事後にまとめるようにする。(90 分)
12	子どもイベントの準備	事前配布資料を読み込む。(90分)
13	地域の企業見学と話し合い，または子どもイベント参加 ①	準備物を整える(90 分)
14	地域の企業見学と話し合い，または子どもイベント参加 ②	見学や体験したことをまとめる。(90 分)
15	まちづくりの会の皆さんと町の課題と解決策を考え発信する。	発信する原稿を書く。(180分)

テキスト：授業中に適宜，資料を配布する。

参考書・参考資料等：

除本　理史，2022，『きみのまちに未来はあるか？』

岩波ジュニア新書

成績評価

・レポート(授業ごとのレポート，最終レポート)(70%)

・授業での討論の内容と発表の内容(20%)

・プレゼンでの表現(10%)

履修要件及び履修上の注意事項

・この授業では，フィールドワークや取材活動，体験活動学習が多い。特に，計画にある「子ども食堂への参加」と「地域や子どもイベント」は土または日曜日に行われるので，参加できるようにしておくことがもとめられる。

課題に対する指導

・毎回の授業での振り返りワークシートに書いた疑問・意見については，コメントを書き，個々に返すとともに，全体の学びにつながるものは，次の授業のはじめで共有し深めるようにする。

オフィスアワー・連絡先

・月の３，４限目　研究室で対応する。相談がある場合，事前の連絡をお願いしたい。

評価	概ね満足できる状況
ア	地域の特性を，食と農，福祉，子どもの居場所づくりの面から，具体的な実例から説明できる。
イ	地域の課題を見つけ解決するための提案を考えることができる。
ウ	地域の人々と様々な活動の場面で，コミュニケーションをとりながら，主体的に関わることができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 ・地域の方とのグループでの話し合いと提案活動がある。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

コミュニティスクールの地域教育支援コーディネーターとしての勤務経験や中学校教員として校内の総合的な学習の時間を担当し，かつ地域コーディネーターや学校運営協議会，社会教育委員の役割を担った経験を活かして，地域の現状・課題をつかみ、地域と学校がつながる上で何が大切かを理解させる。また，連携団体の活動から，真正な学びとは何かを考察し，かつ，非認知能力の育成の大切さに気づかせ，授業やこれからの生活にいかせるようにする。

科目名	学校現場体験Ⅰ						学期	後期
ナンバリング		実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	村尾　聡	
科目の概要	学校現場体験の内容は 、児童の登校指導補助、朝の会補助、授業の見学、授業の簡単な補助、給食指導見学、清掃活動の補助、終わりの会補助、下校指導補助その他小学校の校務の補助活動などである。 学校現場体験前には、小学校とのオリエンテーションを行い、体験後には学びの発表会を行う。小学校現場で指導の工夫がどのように行われているのか、大学での学びと現場体験とを関連付けながら学びを深めることが目的である。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	小学校における児童の学習活動、学習内容、その他の活動内容を理解できる。	1-(1)a)
イ	小学校教員の児童への学習活動(主に授業)における指導内容を理解できる。	1-(1)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	学校現場体験の目的、内容	「学校現場体験ハンドブック」を事前に読んでおく(60分) 「個人カルテ」作成(90分)
2	小学校でのオリエンテーション	「オリエンテーション」記録作成(60分)
3	小学校現場体験1日目(登校指導、朝の会補助)	学校現場体験持ち物準備、事前の目標確認(60分)
4	小学校現場体験1日目(授業見学、授業補助活動)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
5	小学校現場体験1日目(給食指導補助、清掃活動補助)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
6	小学校現場体験1日目(授業見学、授業補助活動)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
7	小学校現場体験(その他校務補助活動)	「学校現場体験日誌」作成(90分)

テキスト	成績評価
「学校現場体験ハンドブック」	学校現場体験日誌(40%) 発表会(30%) まとめのレポート(30%)
参考書・参考資料等	

履修要件及び履修上の注意事項

学校現場体験欠席の場合は、小学校と協議の上別日に学校現場体験を行う。

卒業必修科目。

課題に対する指導

学校現場体験日誌には、担当教員がコメントを書いて返却する。

オフィスアワー・連絡先

前期水曜2限、後期月曜3限に対応する。相談がある場合は事前の連絡をお願いしたい。murao@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	小学校における児童の学習活動、学習内容、その他の活動内容を理解できている。
イ	小学校教員の児童への学習活動(主に授業)における指導内容を理解できている。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート

	☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務してきた経験から、小学校教員の指導内容、指導方法がどのようなものかを指導していきたい。	

科目名	学校・保育現場体験Ⅱ						学期	後期
ナンバリング	K2-17-081	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	村尾 聡	
科目の概要	学校現場体験の内容は 、児童の登校指導補助、朝の会補助、授業の見学、授業の簡単な補助、給食指導見学、清掃活動の補助、終わりの会補助、下校指導補助その他小学校の校務の補助活動などである。 学校現場体験前には、小学校とのオリエンテーションを行い、体験後には学びの発表会を行う。小学校現場で指導の工夫がどのように行われているのか、大学での学びと現場体験とを関連付けながら学びを深めることが目的である。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	小学校における児童の学習活動、学習内容、その他の活動内容を理解できる。	1-(1)a)
イ	小学校教員の児童への学習活動(主に授業)における指導内容を理解できる。	1-(1)b)
ウ	体験を通して学んだことを振り返り、発表できる。	1-(2)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	小学校現場体験２日目(登校指導、朝の会補助)	学校現場体験持ち物準備、事前の目標確認(60分)
2	小学校現場体験２日目(授業見学、授業補助活動)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
3	小学校現場体験２日目(給食指導補助、清掃活動補助)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
4	小学校現場体験２日目(授業見学、授業補助活動)	「学校現場体験日誌」作成(90分)
5	発表会準備(発表資料作成)	発表資料作成準備(90分～
6	発表会準備(発表練習)	発表原稿作成(90分)
7	学校現場体験発表会	発表会練習(60分)
8	学校現場体験全体の振り返り	学校現場体験の復習(90 分)

テキスト	成績評価
「学校現場体験ハンドブック」	学校現場体験日誌(40%) 発表会(30%) まとめのレポート(30%)
参考書・参考資料等	

履修要件及び履修上の注意事項

学校現場体験欠席の場合は、小学校と協議の上別日に学校現場体験を行う。

卒業必修科目。

課題に対する指導

学校現場体験日誌には、担当教員がコメントを書いて返却する。

オフィスアワー・連絡先

前期水曜２限、後期月曜３限に対応する。相談がある場合は事前の連絡をお願いしたい。murao@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	小学校における児童の学習活動、学習内容、その他の活動内容を理解できている。
イ	小学校教員の児童への学習活動(主に授業)における指導内容を理解できている。
ウ	体験を通して学んだことを振り返り、学校現場体験で学んだことを発表、表現できる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング

	□PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務してきた経験から、小学校教員の指導内容、指導方法がどのようなものかを指導していきたい。	

科目名	地域体験Ⅰ						学期	前期(1年次)
ナンバリング	K1-19-082	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	本山　司	
科目の概要	大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅰ・Ⅱは、1年次で行う。農業・栽培に関する体験プログラムに参加する。 連携先の方や、支援していただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	農業や栽培に関する基本的な知識と技術を実際の体験を通じて習得し、教育現場で活用できる基礎力を養う。	1-(1)a)
イ	地域の人々と協力し合って活動を進めていける力を高める。	2-(2)b)
ウ	児童(幼児)に対して栽培の方法や楽しさを教え、指導できる力を身につけ、教育現場で実践的に活かせる能力を高める。	1-(1)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション(自己紹介)、体験活動①(雑草抜き)	体験の内容と課題の振り返り(60分)。
2	体験活動②(農園の視察)	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
3	体験活動③(肥料について)・振り返り①	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
4	体験活動④(日本の農業の現状と課題)	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
5	体験活動⑤(さつまいも・かぼちゃの苗植え)	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
6	体験活動⑥(そら豆・ニンニクの芽の収穫)・振り返り②	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
7	体験活動⑦(農業経営、農地に関する法律の学習、雑草抜き)	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
8	体験活動⑧(イチゴ・玉ねぎの収穫、畝立て)	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
9	体験活動⑨(レモンの木観察、耕運機体験)・振り返り③	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
10	体験活動⑩(農業と教育について、苦土石灰撒き)	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
11	体験活動⑪(地域の居場所の必要性、水田での田植え準備)	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
12	体験活動⑫(ジャガイモ収穫、夏野菜準備)・振り返り④	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
13	体験活動⑬(多年草・球根の植え付け)	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
14	体験活動⑭(トラクター運転体験、発表会準備)・振り返り⑤	日誌の確認(60分)、体験の内容と課題の振り返り(90分)。
15	発表会	発表の準備(90分)、振り返りまとめ(90分)。

テキスト
参考資料配布

参考書・参考資料等
適宜指示する。

成績評価
体験日誌および発表会(プレゼンテーション、発表資料)を基に評価する(100%)。

履修要件及び履修上の注意事項
地域体験授業では、安全確保、地域住民との協力、環境への配慮、時間厳守、学びの記録、体調管理、服装・持ち物の確認が重要です。これらを守り、地域社会との良好な関係を築き、有意義な学びを深めることが求められる。

卒業必修科目。	
課題に対する指導 各回の栽培日誌を点検し、毎回の授業内でフィードバックを行う。	
オフィスアワー・連絡先 授業開始後に伝える。	
評価	満足できる状況
ア	農業や栽培に関する知識・技術を実践的に活用し、教育現場での指導に必要な基礎力を習得できた。
イ	地域の人々と積極的に関わり、活動に対して協力的な態度を示し、協働作業ができている。
ウ	児童・幼児に栽培の方法や楽しさを効果的に教えるための指導内容を考え、教育現場で実践できる方法を提案できる。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 活動内容を適宜写真に残し、日誌の作成に活かす。
担当教員の実務経験の内容 特になし。	

科目名	地域体験Ⅲ・Ⅳ						学期	2年前期
ナンバリング	K2-20-084 K2-19-085	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	奥田 修一郎	
科目の概要	・地域体験Ⅲ・Ⅳ(Ⅱ)では文化体験活動(舞台づくり活動体験)に参加する。この授業の前半では，舞台づくりに必要な基礎技術(脚本構想，練習計画，演出，照明，大道具など)を理解するとともに，表現方法を学ぶ。また，後半は，自分達の力で舞台づくりができるよう，話し合いとそれぞれが工夫できる時間を多く設けていく。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	一つのものを創り上げるには，いろんな仕事があり様々な人の支えがあることを，舞台づくりを通じて理解できる。	2-(1)a)
イ	舞台づくりに必要な他者とのコミュニケーションといった非認知能力を高める。	2-(1)b),
ウ	行事に参加する子ども達の思いに寄り添う共感力を高める。	1-(1)l)

回	授業内容	授業外の学修
1	実際の舞台の鑑賞と演出家からの聞き取りを行う。①	鑑賞の感想と聞き取りから考えたことをレポートにまとめる。(90分)
2	実際の舞台の鑑賞と演出家からの聞き取りを行う。②	
3	舞台づくりの意味を考える。演劇エチュードを通して表現の仕方を学ぶ。①	今日の活動をレポートにまとめる。(60分)
4	発声練習や身のこなし方を学ぶ。演劇エチュードを通して表現の仕方を学ぶ。②	発声や基礎的な動きを練習」する。(90分)
5	ダンスを通して自分の身体を意識する。	発声や基礎的な動きを練習」する。(90分)
6	プロの演劇から学ぶ。	今日の活動をレポートにまとめる。(60分)
7	裏方の仕事を学ぶ。(大道具，小道具，音響，照明，衣装，舞台監督，演出など)	今日の活動をレポートにまとめる。(60分)
8	脚本を選び(または脚本づくり)。	脚本を調べ読み込んでおく。(90 分)
9	読み合わせ　演出の方法を学ぶ。	今日の活動をレポートにまとめる。(60分)
10	パートに分かれて練習，裏方の仕事(道具や衣装づくり，音響)の準備	自分のセリフを覚える。(180 分)
11	自分達で工夫して演出を行う。	今日の活動をレポートにまとめる。(60分)
12	リハーサルを行う。	自分のセリフを覚え，動きを工夫する。(180 分)
13	ゲネプロを行う(本番さながらの練習)。	今日の活動をレポートにまとめる。(60分)
14	舞台で表現する。	事前に裏方の仕事を準備・確認をしておく。(90 分)
15	活動を振り返る。	15 回の学びを振り返り，レポートにまとめる。(90 分)

テキスト：授業中に適宜，資料を配布する。

参考書・参考資料等：

鴻上尚史，2023，『演劇ワークショップのレッスン』白水社

成績評価

・レポート[活動ごとのレポート，最終レポート](60%)

・授業での討論の内容と発表の内容(20%)

・舞台での表現(20%)

履修要件及び履修上の注意事項

・この体験活動には，長年，演劇教育に携わってきている方を講師として招いている。

・与えられた課題をこなすのではなく，自分たちで創っていく姿勢がもとめられる。

・卒業必修科目である。

課題に対する指導：
毎回の授業での振り返りワークシートに書いた疑問・意見については，コメントを書き，個々に返すとともに，全体の学びにつながるものは，次の授業のはじめで共有し深めるようにする。

オフィスアワー・連絡先
・月の3，4限目　研究室で対応する。相談がある場合，事前の連絡をお願いしたい。

評価	概ね満足できる状況
ア	いろんな仕事があり，様々な人の支えがあることを具体的なことがら・出来事を通して理解できる。
イ	活動の中で，他者とのコミュニケーションを意識して行動ができる。また，レポートの中で，振り返りとして，記述することができる。
ウ	日々のレポートや最終レポートの中で，自分の体験をもとに行事に参加する子ども達の気持ちを想像し表現することができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング
☐PBL（問題解決型学習）
☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業）
☑ディスカッション、ディベート
☑プレゼンテーション
☑実習、フィールドワーク
☐その他

その他アクティブ・ラーニングの内容
・この授業の前半は，基礎的なことを学ぶことが多いが，後半は，グループでの話し合いを多く持ち自分たちで問題を解決していくことを目的としている。

授業での ICT 活用
☑双方向型授業に活用
☐自主学習支援に活用

その他 ICT 活用に関する特記事項
・立ち稽古になってからは，活動をビデオに撮り，振り返りとして使う。

担当教員の実務経験の内容
地域の中高生の舞台活動に携わってきた担当者が体験を多面的にサポートする。

科目名	教職実践演習(幼・小)						学期	前期
ナンバリング	K4-17-160	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	村尾 聡	
科目の概要	教職実践演習は、教職（小学校・幼稚園）に関する学修の集大成としての実践的授業である。教職課程のすべての学びを振り返り、ディスカッションや指導案作成、模擬授業等の演習を通して、さらに教員としての資質・能力を深めることを目的とする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	学級づくりにおける手だてを考え、自分なりの計画を立てることができる。	1-(1)m)
イ	生徒指導の事例研究において、自分なりの考えを持つことができる。	1-(3)b)
ウ	形式をふまえた学習指導案を作成することができる。	1-(1)b)
エ	学習指導案をもとに模擬授業を実施することができる。	1-(1)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	教育実習の振り返り(幼稚園と小学校の違い)	シラバスを事前に読んでおく(30 分) 授業内容の要点整理(90 分)
2	学級づくり(学習集団、学習規律、学級だより)	資料の通読と要点整理(90 分)
3	幼児理解についてのグループ討議	資料の通読と要点整理(90 分)
4	学級づくり(学級目標、座席、係活動、清掃活動)	資料の通読と要点整理(90 分)
5	幼稚園学習発表会等の企画・立案について	資料の通読と要点整理(90 分)
6	学級づくり(学級経営案作成)	資料の通読と要点整理(90 分)
7	幼児理解における事例研究	資料の通読と要点整理(90 分)
8	生徒指導事例研究	資料の通読と要点整理(90 分)
9	幼児の指導におけるロールプレイ	資料の通読と要点整理(90 分)
10	学習指導案作成(児童観、教材観、指導観)	学習指導案作成準備(90分)
11	学習指導案作成(展開、板書計画)	学習指導案作成準備(90分)
12	模擬授業準備(発問計画、教材作成)	学習指導案作成準備(90分)
13	模擬授業①	模擬授業の記録作成(60分)
14	模擬授業②	模擬授業の記録作成(60分)
15	模擬授業③	まとめのレポート作成(90分)

テキスト	成績評価
授業中に資料を配付する	授業への参加(10%) 小レポート(学級経営案を含む)(20%) 学習指導案(20%) 模擬授業(20%) まとめのレポート(30%)
参考書・参考資料等	

履修要件及び履修上の注意事項

30 分以上の遅刻は欠席、3 回の遅刻で欠席 1 回とする

小学校教員免許状および幼稚園教員免許状取得の際必修。

課題に対する指導
小レポートに書かれた質問にはコメントを書いて返却する。全体の学びにつながるものは、次の授業のはじめに全員で共有する。
オフィスアワー・連絡先 前期水曜 2 限、後期月曜 3 限に対応する。相談がある場合は事前の連絡をお願いしたい。murao@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	学級づくりにおける手だてを考え、自分なりの計画を立てることができる。
イ	生徒指導の事例研究において、自分なりの考えを持つことができる。
ウ	形式をふまえた学習指導案を作成することができる。
エ	学習指導案をもとに模擬授業を実施することができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ☑その他（模擬授業）
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
兵庫県神戸市の公立小学校で 32 年間勤務してきた経験から、小学校教員の指導内容、指導方法がどのようなものかを指導していきたい。

科目名	保育実践演習						学期	後期
ナンバリング		実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	これまでの履修科目や実習等での学びのふりかえりを通して、自身の保育観・子ども観を明確にする。その上で、子どもの育ちや教育における現代的課題の現状を分析しとりまとめていく。さらに、それらの課題への対応と考え、その解決に貢献しようとする力の習得を目指す。これらの学びを通し、実践現場で保育を行う者としての価値観や倫理・知識・技術のさらなる涵養をはかる。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	自身の保育観・子ども観が確立され、他者に伝えることができる。	1-(2)h)
イ	子どもを取り巻く課題について考え、解決のアイデアを示すことができる。	2-(1)a)
ウ	今後に向け、自らの現状を俯瞰的に把握できる。	1-(2)d)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
2	保育の学びへのふりかえり 各科目での学び 1～2年次	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
3	保育の学びへのふりかえり 各科目での学び 3～4年次	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
4	保育の学びへのふりかえり 実習	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
5	保育に求められる価値観・倫理についてのディスカッション	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
6	保育に求められる知識についてのディスカッション	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
7	保育に求められる技術についてのディスカッション	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
8	保育における多職種との連携についてのディスカッション	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
9	保育における家族との連携についてのディスカッション	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
10	保育における地域や行政との連携についてのディスカッション	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
11	子どもを取り巻く諸状況についてのふりかえりと調べ学習	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
12	子どもを取り巻く諸状況についての発表	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
13	保幼小連携について	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
14	職をもつこと、働くことの意味について再度考える	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)
15	今後求められる力とは 4年間のふりかえり	ワークシートへの記入と課題の発見、今後への展望(180分)

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

成績評価

授業への参加の度合い（30%）

最終レポート（30%）

毎回提出する小レポート（40%）

履修要件及び履修上の注意事項

保育士資格取得のための必修科目である。

授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。

課題に対する指導

毎回のリアクションペーパーの内容や質問について、次回授業の冒頭にコメントしたり追加の解説を行ったりする。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	自分の子ども観・保育観についてこれまでの経験と関連づけながら他者に説明することができる。
イ	子どもを取り巻く状況に関するトピックを見つけ、自分なりの見解を述べることができる。
ウ	自分に足りないものや、自分が今後目指すべきものがなにかを明確にできている。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☑PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	体育の理論と実技						学期	後期
ナンバリング	K1-17-095	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	本山　司	
科目の概要	「運動不足」「体力の低下」が問題視され、「運動嫌い」「スポーツが苦手」な子どもが増え、運動を指導するだけではなく、楽しさを伝える指導力が重要である。この体育実技では、体力強化、身体づくりとともに、運動やスポーツの楽しさを体感し、技能面を高めたり、楽しさを味わったりできるような練習やゲームの進め方を考えながら進めていく。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	ボール運動における基本的な技術（パス、シュート、ドリブルなど）を身につけ、個々の動きや操作技術を向上させる。	1-(1)a),1-(1)j)
イ	チーム内での役割を理解し、協力し合いながら集団としての動きや戦術を高め、チームワークを強化できる。	1-(2)b)
ウ	体力維持・増進に取り組み、運動技能の向上が実感できるよう努力している。	1-(2)e)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション　授業の進め方、成績評価の説明、今後の予定、簡単なボール運動を行う。	シラバスの確認、学習内容整理(90 分)。
2	ドッジボール(さまざまな形式のドッジボール)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
3	パスゲーム①(ドリブルを使わずに、簡単なルールで行う)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
4	パスゲーム②(チームの戦術を考える)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
5	バスケットボール①(3on3 バスケットボール)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
6	バスケットボール②(チームの戦術を考える)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
7	プレルボール①(基本技能の向上をめざす)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
8	プレルボール②(チームの戦術を考える)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
9	バレーボール①(基本技能の向上をめざす)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
10	バレーボール②(チームの戦術を考える)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
11	フラッグフットボール①(攻撃と守備の人数を変えて行う)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
12	フラッグフットボール②(チームの戦術を考える)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
13	フットサル①(基本技能の向上をめざす)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
14	フットサル②(チームの戦術を考える)	内容の調査と理解(60 分)、学習内容整理(60 分)。
15	授業のまとめ、振り返り	15 回を振り返り、レポートにまとめる(180 分)。

テキスト	成績評価
適宜資料を配布する。	授業への積極的な参加(40%)、レポート(40%)、実技能力(20%)で総合的に評価する。
参考書・参考資料等 小学校体育科学習指導要領解説　体育編	

履修要件及び履修上の注意事項

アクティブ・ラーニングを活用した実技授業では、運動しやすい服装と指定の靴を準備し、授業に臨むこと。授業中の安全を確保するため、貴金属類(指輪やネックレスなど)は必ず外し、着用しない。安全面に配慮した準備が求められるため、事前に確認して授業に参加すること。
小学校・幼稚園・保育士資格を取得する際の指定科目。

課題に対する指導
質問や意見等に対しては授業内で対応する。オフィス・アワーでも対応する。

オフィスアワー・連絡先
水曜日のお昼休みに研究室で対応する。
メール:t_motoyama@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア①	基本的技術を理解し、説明することができる。
ア②	基本技術を習得し、実践で効果的に活用できる。
イ	協力して集団としての動きを高め、戦術を活かしたプレーができる。
ウ	体力維持・増進に継続的に取り組み、運動技能の向上が見られる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング
☑PBL (問題解決型学習)
□反転授業 (知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業)
☑ディスカッション、ディベート
□プレゼンテーション
□実習、フィールドワーク
☑その他

その他アクティブ・ラーニングの内容
チーム戦略についてグループディスカッションを行い、パートナーと技術練習(ペア)を行い、他の学生の技術やパフォーマンスを観察してフィードバックを交換する(ピアレビュー)。

授業での ICT 活用
☑双方向型授業に活用
□自主学習支援に活用

その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
中学校の保健体育教員としての勤務経験を活かし、学校現場で実践できる運動指導を行い、さらに自身の体力維持・増進方法についても指導する。

科目名	世界遺産と観光							学期	集中
副題	世界遺産を体験する文化観光の学び				授業方法	演習	担当者	宗田好史	
ナンバリング	K1-11-097	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4, 5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

高野・吉野・熊野という“紀伊山地の三霊場と参詣道”がUNESCOの世界文化遺産に登録され18年がたつ。また、日本政府が世界遺産条約を批准して30年、世界遺産条約が締結され50年となり、コロナの時代を経て、世界遺産の意味も観光の形態も大転換している。その中で、高野山は弘法大師の教えを伝える信仰の地であり続ける。信仰の歴史に接する観光客の態度は、UNWTO（国連観光機関）が提唱する持続可能な観光の姿である。講義では、特に聖地巡礼を通じて信仰の歴史を知り、世界遺産を体験する文化観光を学ぶ。文化財保護の制度を学び、世界と日本の様々な観光の形を理解し、世界各地の多様な信仰を知る。また、文化遺産を取巻く各地の宗教紛争を知り、信仰が文化となり、観光がその交流を促進する可能性と、その教育的意義を探る.

授業の到達目標

世界遺産が観光資源になるという誤解を解き、観光に経済効果があるという間違った思い込みを改める。そのため地域経済の仕組みを理解し、産業連関と経済構造を把握する術を身につける。また、地方税収の資料から観光の経済効果を自治体財政の上で分析し、世界遺産を取巻く住民、事業者、行政関係者に正しい理解を図るための具体的説明能力を習得できる。

授業計画

【前期】

1. 世界遺産の意味を知る？世界遺産条約（1972年採択）までの50年とその後の50年、文化遺産の変遷
2. ヨーロッパの文化遺産、記念物、建造物群、遺跡、そして歴史都市、文化的景観、産業遺産、無形文化遺産
3. 東アジアの文化遺産、日中韓の戦後史と文化財保護の政治的意味、世界文化遺産委員会での議論
4. 東南アジア、中南米の世界文化遺産、キリスト教と植民地と先住民族の歴史と遺産を伝える
5. 文化遺産保存の歴史と ICOMOS（国際記念物遺産会議）の取組み、国際機関、UNESCOの役割の変遷
6. 近代日本の文化財保護制度、古社寺保存法から史蹟名勝、国宝保存法へ、近代史国際比較の視点ら
7. 戦後日本の文化財保護制度、保護法制定とその後の改正、文化財の変遷、そして世界遺産条約へ
8. 世界遺産の変遷、世界遺産委員会での1990年代の議論から、不均衡問題、文化的多様性、真正性へ
9. 国際社会と文化遺産、国際協力と文化的権威主義、文化遺産の政治的利用、民主国家の限界、日韓の争点
10. 文化遺産と観光、戦後の日本観光史、修学旅行から世界遺産観光へ、観光行動の変化と文化遺産の消費
11. UNWTO持続可能な観光、国際観光市場拡大と観光公害、コロナ禍とインバウンド、消滅と再生
12. 紀伊山地の霊場と参詣道、登録の取組みと登録後16年の軌跡、地元理解と世界の評価、将来展望
13. 信仰の世界遺産、三大宗教にみる文化遺産への対応、宗教離れへの対応、消滅可能自治体と寺院消滅
14. 観光の経済効果を知る．観光事業のビジネスモデル、地方税収から財政構造を知る、観光公害と地域政策
15. まとめ、世界遺産と観光、文化遺産による国際理解の促進と平和教育の取組み、UNESCOの教育理念を知る

【後期】

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

準備学習(予習・復習)・時間
予習・復習のために授業日ごとに前日の振り返りをし、次の授業の理解を深める。授業の一連の流れを知り、習ったことを再現できるように反復する（90分)。

テキスト
宗田好史『インバウンド再生：コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社、2020年
宗田好史『創造都市のための観光振興ー小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社、2009年

参考書・参考資料等
宗田好史『町家再生の論理ー創造的まちづくりへの方途』学芸出版社、2009 年 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのかー市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社、2012 年 宗田好史『京都観光学のススメ』、人文書院、2005年

学生に対する評価
授業日ごとの課題と出席（50%）と最終レポート（50%）で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）授業の目的に記された内容について合格と認められる最低限の成績である。
（B）授業の目的に記された内容について合格と認められる成績である。
（A）授業の目的に記された内容について優れた成績である。
（S）授業の目的に記された内容について特に優れた成績である。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見を常に受けつけ、授業で細かく対応する。

その他
授業内容に関するグループディスカッションや事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。その場合は、ICT を活用し、より広い理解の促進を図る。特に、チャット等を活用して課題や質問、意見へのフィードバックを進める。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

科目名	死生観							学期	集中
副題	死に関する諸問題について知見を深める				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	K3-10-098	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4, 5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
「私たちはどこからきて、どこに行くのか」、「なぜ、私たちは生まれ、死ぬのか」という問いは、人類が抱く大きな問いです。宗教はこの問いに答えようとしますし、社会はこの問いと向き合うための一定のルール(死の判定や安楽死など)を作り、文化はこの問いを受け入れるための習慣(葬送儀礼やお宮参りなど)を形作ります。この講義では、死と生にまつわる人類の思索に触れ、自身の死生観を涵養します。

授業の到達目標
日本文化における死生観についての理解を深めると同時に、自身の死生観を見つめ、培うことができる。

授業計画

【前期】	【後期】
1. ガイダンス：死生観とは	1.
2. 個々人の死生観①(グループワーク)	2.
3. 死生学と死生観	3.
4. 仏教における死生観① 概説と歴史	4.
5. 仏教における死生観② 具体的な実践	5.
6. キリスト教における死生観① 概説と歴史	6.
7. キリスト教における死生観② 具体的な実践	7.
8. 神道における死生観	8.
9. その他の宗教における死生観	9.
10. 日本文化における死生観	10.
11. 緩和ケア・ホスピスと死生観	11.
12. 安楽死と尊厳死① 概説と歴史	12.
13. 安楽死と尊厳死② 具体的な実践	13.
14. いのちの尊厳と人権	14.
15. まとめ：個々人の死生観②(グループワーク)	15.

準備学習(予習・復習)・時間
事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと (90 分)

テキスト
講師作成の資料を配布する。

参考書・参考資料等
脇本平也『宗教学入門』講談社、1997 年。その他、適時紹介する。

学生に対する評価
レポートによる評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 死生観に関する基本的な概念 (宗教的な知識) について理解をしている。
(B) 死生観に関する基本的な概念 (宗教的な知識) について理解をし、他者に説明することができる。
(A) 日本文化における死生観についての理解を深めると同時に、自身の死生観について意識することができる。
(S) 日本文化における死生観についての理解を深めると同時に、自身の死生観について他者に語り、また、他者の死生観についても受容することができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他
授業内容に関するグループディスカッションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。状況によっては、ICT 機器を用いた遠隔授業で実施する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師 (指導) として実務経験を持つ専任教員により、学校現場で生じる種々の問題への対応について視点や姿勢を講義する。

科目名	ダンス入門						学期	後期・金・1
ナンバリング		実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	範 衍麗	
科目の概要	本授業では身体表現の豊かさの年齢的特徴やリズミカルな動きの発達などの知識を学ぶ。また、フォークダンス、身近な素材を使った身体表現、動物や乗り物などの題材の特徴をとらえて、そのものになりきって表現する遊び、劇遊び、触れ合い遊び、即興的な身体表現、日本の舞踊などを演習する。そして、ダンスを創作する知識や基本ステップを学び、グループごとにダンスを創作し、発表する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	・ダンスやリズム遊び、表現遊びを体得し、身体表現の知識・技能を教育現場で活用することができる。	1－(1)b)
イ	・自らの役割を理解し、積極的に行動する力を身に付けることができる。	1－(2)b)
ウ	・グループや全体の中で、自分の役割が理解でき、他者との連携を取りながら、身体で表現することができる。	1－(2)c)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション・豊かな身体表現とは	世界のダンスを調べ、パタパタの動画を鑑賞する。(60 分)
2	世界のダンス(パタパタ)	パタパタダンスを練習する。(60 分)
3	身近な素材を使った身体表現1ポンポン、傘袋などを使った身体表現	タオルや新聞紙などを使っての遊びについて調べる。(60 分)
4	身近な素材を使った身体表現 2 タオル、新聞紙、スカーフなどを使った身体表現	身近な素材を使った表現遊びの感想をまとめる。(60 分)
5	絵本から身体表現への展開	絵本を調べ、劇遊びへ展開できそうな絵本を決める。(60 分)
6	絵本から劇遊びへの展開	伝承遊びについて調べておく。(60 分)
7	身体表現を取り入れた伝承遊び	盆踊りの動画を鑑賞する。(60 分)
8	日本の舞踊(盆踊り)	ソーラン節の動画を鑑賞する。(60 分)
9	日本の舞踊(ソーラン節)	盆踊りを練習する。(60 分)
10	触れ合い遊び	ソーラン節を練習する。(60 分)
11	即興的な身体表現	日常生活の中で動作を観察し、表現する。(60 分)
12	ダンスの創作 1 ダンス創作の知識や基本ステップ	創作ダンス用の音源を調べ、決める。(60 分)
13	ダンスの創作 2 グループごとでダンスを創作する	創作ダンスを練習する。(60 分)
14	ダンスの創作 3 創作ダンスの練習と発表	ダンスを創作し、発表した感想をまとめる。(60 分)
15	授業の振り返り・授業内試験	15 回の学びを振り返り、レポートにまとめる。(90 分)

テキスト

指定しない。適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

岡澤哲子・遠藤晶 2024『コンパス 身体表現－動画で学ぶ表現遊びの魅力－』建帛社

成績評価

授業参加の積極性(30%)、
授業内発表(30%)、提出物(10%)、
創作ダンスの発表(30%)

履修要件及び履修上の注意事項

体育館シューズと動きやすい服装を着用すること。

課題に対する指導 毎回授業のワークシートに書かれた質問や意見については、次の授業内でフィードバックを行う。		
オフィスアワー・連絡先 授業の前後の時間に教室にて対応する。		
評価	満足できる状況	
ア	自分なりに身体で表現することができる。	
イ	メンバーと協力して自分なりに身体で表現することができる。	
ウ	積極的に授業に参加し、メンバーと協力して活動ができる。身体で豊かに表現することができる。	
授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ☑その他	
	その他アクティブ・ラーニングの内容 ペアワーク、グループワークを行う。	
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用	
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ・表現活動をビデオに撮り、振り返りとして使う。	
担当教員の実務経験の内容		

科目名	教育課程論							学 期	後 期
副 題	カリキュラムの意義・内容について解説する					授業方法	講義	担当者	鈴木晴久
ナンバリング	G1-17	実務経験の有無	有	関連DP	－	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

教育課程の意義と今日的課題、カリキュラムの変遷と教育課程の類型・特徴、学習指導要領の改訂の歴史と内容及び社会的背景、教育課程改革と新学習指導要領、社会に開かれた教育課程の役割と機能、カリキュラム・マネジメントとアクティブラーニング、教科等横断的なカリキュラム編成と方法及び指導計画の作成、キャリア教育と学校改善、教育課程の評価と改善等について、学校現場での事例を紹介しながら解説する。

授業の到達目標

・教育課程の意義、カリキュラムの類型と特徴、学習指導要領の変遷及び性格と位置付け、教育課程の社会的役割や機能について理解する。・「主体的・対話的で深い学び」を育む教育課程編成の原理と方法、カリキュラム・マネジメントの意義と重要性、アクティブラーニングついて理解する。・教科等横断的な教育内容の選択と配列、カリキュラム・マネジメントの視点に立つ長期的指導計画の作成、カリキュラム評価と改善について理解する。

授業計画

1. 学校における今日的課題と教育課程の意義と役割・機能について説明する。
2. カリキュラムの歴史的変遷と教育課程の類型・特徴について説明する。
3. 我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。（明治～昭和）
4. 我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。（平成～現在）
5. 学習指導要領の性格及び位置付け、関連する法令について説明する。
6. 中央教育審議会答申が示す教育課程改革の構造及び特徴について説明する。
7. 学習指導要領改訂の特徴と改善の方向性について説明する。
8. 学習指導要領の枠組みと『総則』に示す改訂のポイントについて説明する。
9. カリキュラム・マネジメントの意義と重要性及び３つの側面、方法について説明する。
10. カリキュラム・マネジメントと教育課程のＰＤＣＡサイクルについて説明する。
11. 「主体的・対話的で深い学び」のアクティブラーニングについて説明する。
12. 育成を目指す資質・能力から教科等横断的な教育内容の選択・配列について説明する。
13. 教科等横断的な視点からのカリキュラム編成と指導計画の作成について説明する。
14. 保護者及び地域と協働したキャリア教育の推進と学校改善について説明する。
15. チェックリストを活用した教育課程の評価と改善について説明する。定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

①毎回の授業で講義内容と各種資料を配布するので、要点をノートに整理する。（60分）②教育課程関連法令や各種調査資料、通知・通達等を配布するので、事前・事後の学習で熟読する。（60分）③授業で行う振り返り小テストや小レポートの提出に向けて、要点整理と課題研究をする。（60分）

テキスト

『教育課程論のフロンティア』2019.3改訂版（大津実他著晃陽書房）

参考書・参考資料等

・『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（文部科学省）・授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。

（B）教育課程の意義や編成原理、学習指導要領の内容について、テキストを見ながら説明できる。

（A）カリキュラム・マネジメントの視点からの教育課程のＰＤＣＡサイクル、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、テキスト等を見ながら自分の言葉で説明できる。

（S）教科等横断的な視点に立ったキャリア教育推進の年間計画の策定やカリキュラムづくりの留意点について説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。・振り返り小テスト及び小テストを実施した場合は、次の授業で解説を行う。

その他

・教育基本法等の学校教育関連法令については、十分な学習に努めて欲しい。・学校教育や教育行政、子供に係る事故・調査報告、各種報道等については、意欲・関心を持って「マイ資料集」を作成し収集・保管に努めて欲しい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持っているか、どのような授業内容か）

公立学校教員及び管理職、教育行政等の勤務経験のある教員が、学校現場での学習指導・生徒指導等の教育実践や学校経営、教育行政の所管する教育課程等に係る資料の編成や教職員研修、教員採用試験担当等の経験を活かして、実践的な立場からの講義と情報提供に努め授業の展開を図る。

科目名	保育教育課程論							学期	前期
副題	カリキュラム・マネジメントの意義とプロセス				授業方法	講義	担当者	八木英二	
ナンバリング	K2-17-107	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
保育・教育の実践の VTR 記録を用いて、保育・教育課程の役割・機能・意義を深めながら、保育・教育課程編成の基本原理と、各施設の保育実践に即した保育・教育課程の編成の具体的な在り方を理解できるようにする（遊びと生活の年齢別・季節毎の違いを含む）。

授業の到達目標
幼稚園教育要領等を基準として各施設で編成される教育・保育課程について、その意義や編成の方法についてカリキュラム・マネジメントを含めて理解できる。

授業計画
1. 保育・教育課程の歴史的経緯
2. 保育所や認定子ども園における指導計画の意味(保育内容と領域の理解)
3. 幼稚園における保育・教育課程の意味(保育内容と領域の理解)
4. 保育・教育課程づくりの前提となる子どもの遊び活動と子ども理解
5. 乳幼児期のあそびと学びの理解
6. 低年齢の遊びと保育・教育課程
7. 年度当初・入園当初の保育・教育課程
8. 春の遊びと保育・教育課程
9. 夏の遊びと保育・教育課程
10. 秋の遊びと保育・教育課程
11. 冬の遊びと保育・教育課程
12. 年間のまとめの指導計画　一行事、地域との連携を活かす保育・教育課程
13. 「困っている」子どもの保育・教育課程
14. 小学校との連携(幼・保から小学校への接続にかかわる取組)
15. 保育の質を高める計画と評価・カリキュラム・マネジメント

準備学習(予習・復習)・時間
事後学習として講義内容の感想提出を求める（15 分)。反転授業を行う時には事前の宿題を課すこともある（60 分)。

テキスト
テキストは用いないが、各回で講義プリントを配布し、VTR 記録を使用する。

参考書・参考資料等
幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)

学生に対する評価
各回の授業内で提示する VTR 記録の感想提出（50%)、期末リポート（50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)
（C）講義内容について基礎レベルの習得が認められる水準
（B）講義内容について平均的な理解に達していると判断される水準
（A）求められる課題についての理解が優れていると認められる水準
（S）自身の独創的な考えも加えつつ講義内容についての発展的な理解を示すことが出来る水準

課題に対するフィードバックの方法
課題の結果について全体状況は授業内で対応するが、個々の状況は個別対応も行う

その他
授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション、反転授業、授業内容に関する事例検討と PBL など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材や ICT 教材を用いることがある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)
教育現場での実務経験を活かし、現場に関与した参与観察記録等を授業内容（VTR 記録や口頭説明）で用いて、具体的かつ実践的な理解に寄与することができる。

科目名	道徳教育指導論							学 期	後 期
副 題	道徳の理論及び指導法					授業方法	講義	担当者	岡田英作
ナンバリング	G2-17	実務経験の有無	有	関連DP	1，2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

(1) 道徳の意義と本質、(2) 学校教育における道徳教育、(3) 道徳科指導法について学んだ後、受講者全員が模擬授業を行い、それぞれの模擬授業について全員で総括する。

授業の到達目標

道徳の意義と本質や、学校教育全体における道徳教育の意義を理解し、その中核となる道徳科目標・内容を学んで、道徳教育における実践的指導力を身につけることで、「特別の教科　道徳」の授業ができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の概要と授業計画の説明）／道徳とは何か
2. 道徳教育とは何か
3. 道徳を支える思想
4. 道徳を支える価値
5. 道徳の発達についての理解
6. 道徳教育の歴史Ⅰ―明治期～昭和初期―
7. 道徳教育の歴史Ⅱ―第二次大戦後―
8. 道徳教育と現代的な課題
9. 道徳科の教材とその活用
10. 道徳科の指導法／道徳教育の計画
11. 道徳科指導案の作成
12. 学生による模擬授業①
13. 学生による模擬授業②
14. 模擬授業の振り返りと授業改善の方法の検討／道徳科の学習評価の解説
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、授業で用いる資料を読む。道徳教育の読み物資料等について、生徒に伝えたいこと、自分の考えをまとめておく（90分）。事後学修として、配布資料を読み直し、ノートに整理してまとめる。指定した参考文献を読んでおく（90分）。

テキスト

走井洋一編著『道徳教育の理論と方法』ミネルヴァ書房、2020（小堀南岳堂書店で購入）。上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

①文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』2017、②文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』2017、③田沼茂紀（編著）『道徳科重要用語辞典』明治図書、2021。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

模擬授業など授業参加の積極性（40%）、定期試験（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）道徳的価値を6つ以上言える。
（B）集団や社会生活において重視される道徳的価値を説明できる。
（A）生命や自然、崇高なものを敬う気持ちの大切さを理解している。
（S）国際理解と道徳の関連性を理解し、生徒に指導する方法を身につけている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①テキストは初回までに必ず購入すること。②20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。③いかなる理由であれ模擬授業を行わなかった場合は失格とする。④学生によるプレゼンテーション（模擬授業）を取り入れた科目で、受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持っているか、どのような授業内容か）

高校にて「道徳」に代わる教科「宗教」の担当教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、「特別の教科　道徳」の授業内容・方法について具体的に指導する。

科目名	総合的な学習の時間の指導法						学期	3年前期
ナンバリング	K3-K-109	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	奥田 修一郎	
科目の概要	・本講義では，まず，「総合的な学習の時間」の創設の趣旨等，基本的な考え方を学ぶ。また，全体計画・年間指導計画の在り方，学習指導方法，評価の在り方など，学習活動を具体的に進めるための基本を，先行実践・研究をもとに考察するともに自ら構想できるようにする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	総合的な学習の目標や意義，各学校での目標・内容を決める際の考え方を理解できる。	1-(1)a)
イ	総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し，その実現のために必要な基礎的な力を身に付ける。	1-(1)b)
ウ	主体的・対話的で深い学びを実現するような単元計画を作成することの大切さを理解する。	1-(1)d)
エ	総合的な学習の時間の評価の考え方及び実践上の留意点を理解する。	1-(1)c)

回	授業内容	授業外の学修
1	総合的な学習の時間とは何か。小中高時での「総合的な学習」時間を振り返る。	総合的な学習の経験について振り返る。(90 分)
2	「総合的な学習の時間」の目標及び内容　ねらいと意義	総合的な学習の時間誕生までの経緯についてまとめる。(90 分)
3	目指す生徒の姿と育てたい資質と能力の態度　総合的な学習を進めていく上での難しさを考える。実践の現状把握　問いをつくること	事前に配布した資料を読み込む。(60 分)
4	教育課程上の位置づけ、各教科等との関連　小学校の実践からの分析	事前に配布した資料を読み込み，気になったところを抜き出す(60 分)
5	各学校における全体計画、年間指導計画，中学校の実践から(キャリア教育)	年間指導計画に求められるものについて解説からまとめる。(60 分)
6	個別最適化な学びと協働的な学びの一体的な充実について考える。プログラミン思考と総合的な学習の時間　①	事前に課題を調べておく。事後に動画を観ること。(120 分)
7	プログラミング思考と総合的な学習　②	事前配布の資料を読み込む。(60 分)
8	地域連携体制をどう構築していくか。　歴史・まちづくり	聞き取り・取材したことを事後にレポートにまとめる。(90分)
9	教材と教育環境の充実をはかるには？防災教育や食農教育からのアプローチ	聞き取り・取材したことを事後にレポートにまとめる。(90分)
10	総合的な学習の時間の実際①(課題設定)　単元指導計画	それぞれの発表に向けての教材研究と準備，リハーサル(180 分)
11	総合的な学習の時間の実際②(情報の収集・整理・分析)	
12	総合的な学習の時間の実際③(まとめ・表現)，カリキュラム・マネジメント	それぞれの発表に向けての教材研究と準備，リハーサル(180 分)
13	単元指導計画案の発表	
14	評価方法ー学びに向かう力を中心にー，単元指導計画案の発表　小テスト	小テストに向けての復習(90分)
15	目指す「総合的な学習の時間」とそれに向けての課題，まとめと振り返り	15 回の学びを振り返り，次への課題をまとめる。(60 分)

テキスト：『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説　総合的な学習の時間編』　東洋館出版社（生協で購入）	成績評価 レポート[単元計画，学習指導案、作品も含む](50%)、小テスト(20%)、授業でのワークシート記述（20%)、授業での討論内容及び発表の内容(10%)
参考書・参考資料等：大学テキスト開発プロジェクト，『総合的な学習の時間の指導法』日本文教出版 2018，ISBN　978-4-536-60106-1	

履修要件及び履修上の注意事項

・初等教科教育科目である。

課題に対する指導

・授業での振り返りワークシート(提出された課題も)に書いた疑問・意見については，コメントを書き，個々に返すとともに，全体の学びにつながるものは，次の授業のはじめで共有し深めるようにする。また，単元計画作成課題に対しては，適宜，実践記録などの資料を提示する。

オフィスアワー・連絡先

・月の3，4限目　研究室で対応する。相談がある場合，事前の連絡をお願いしたい。

評価	概ね満足できる状況
ア	総合的な学習の意義，教育課程において果たす役割を，事例を使って説明できる。
イ	探究的な学習の過程と，総合的な学習の時間に必要な環境整備や外部との連携を理解できている。
ウ	児童の興味・関心に視点をあて，いろんな人の協働的な学びを取り入れることの大切さを理解している。
エ	探究的な学習における児童の学習の姿を評価する上での留意点を理解できている。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 ・ペアワークとグループワークを行う。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ・プログラミング思考を育成するためのヒントになる教材活用

担当教員の実務経験の内容

中学校教員及び地域支援教育コーディネーターとして勤務した教員が，その経験を活かして，地域とつながり子ども達が意欲的に探究できる単元構成・授業づくりができるように指導する。そのために，まず本大学の地域体験の学びを振り返る。また，目標やそれを実現のための探究課題の設定の仕方とカリキュラム・マネジメントの意味を，具体的な実践例から理解できるようにする。さらに，問いをつくるための手法や思考ツールの意義を考えるとともに，具体的な単元指導計画を自分で書けるように指導する。

科目名	特別活動の指導法						学期	前期・金・3
ナンバリング	K3-17-110	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	松田忠喜	
科目の概要	1. 教科外活動としての特別活動が、集団や社会の形成者としての見方や考え方をはぐくむ自主的、実践的な活動であることや、特別活動で育成すべき資質・能力について理解することを目的とする。 2. 特別活動は、小・中・高・支援学校すべての教師が指導に当たらなければならないことを踏まえ、特別活動の方法原理である「なすことによって学ぶ」を体験するために、授業の中で3分間スピーチやディスカッション、学級会、集会活動などを取り入れる。 3. 小学校教員、校長等としての経験や特別活動における研究実践(大阪府小中学校特別活動研究会長や全国大会発表など)を生かしながら、特別活動をどのように指導・支援していけばいいのかを実践事例等を踏まえながら授業を進める。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連DP
ア	特別活動の目標や特質・教育的意義を踏まえ、特別活動で育成すべき資質・能力について理解することができる。	1-(1)a)
イ	特別活動の内容、指導法について理解し、特別活動の実践に必要なスキルを身につけることができる。	1-(1)b)
ウ	自主的、主体的に取り組み、コミュニケーション能力や協働する力を身につける。	1-(2)b), 1-(2)c)

回	授業内容	授業外の学修
1	教育課程における特別活動の位置づけと教育的意義及び各教科等との関連	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(180分)
2	特別活動の歴史と特別活動の果たす役割	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(180分)
3	特別活動に関わる指導理論と方法原理	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(180分)
4	特別活動の目標と内容「学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事」	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。復習、課題1「特別活動の目標と各内容をまとめる」(180分)
5	学級・ホームルーム活動の指導のあり方(1) ・事前の指導　・学級活動の議題作成	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。復習、課題2「学級活動の年間計画を作成する」(180分)
6	学級・ホームルーム活動の指導のあり方(2) ・話合い活動指導のポイント	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(180分)
7	学級・ホームルーム活動の指導のあり方(3) ・相互評価	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(180分)
8	学級・ホームルーム活動の活動内容の指導1 ・学習指導案作成	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。復習、課題3「学習指導案作成」(180分)
9	学級・ホームルーム活動の活動内容の指導2 ・模擬授業(学級会:話合い活動)	テキストの講義範囲や配布の資料を事前に読み、学級活動プリントをもとに自分なりに意見をもっておく。(180分)
10	児童会・生徒会活動の目標・内容と指導上の留意点	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。復習、課題4「児童会、生徒会活動計画を立てよう」(180分)

11	学校行事の目標・内容と指導上の留意点	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。 復習、課題5「学校行事の児童生徒の自発的な活動」(180分)
12	クラブ活動の目標・内容と指導上の留意点	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。 復習、課題6「今後のクラブ活動のあり方を考えよう」(180分)
13	特別活動と生徒指導、キャリア教育	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。 復習、課題7「いじめを予防するための方法を考えよう」(180分)
14	道徳と特別活動の関連、他教科等との関連	テキストの講義範囲を事前に読み、自分なりに理解しておく。 復習、課題8「よりよい集団作りと学級経営を考えよう」(180分)
15	特別活動を生かした学級経営と家庭・地域・関係諸機関	復習、最終レポートの作成(180分)

テキスト

中園大三郎・松田修(編著)『21世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む特別活動の理論と実践』第3版　学術研究出版社(2023)　(生協で購入)

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領　特別活動編』<最新版>
文部科学省『中学校学習指導要領　特別活動編』<最新版>
文部科学省『高等学校学習指導要領　特別活動編』<最新版>
杉田　洋　　『よりよい人間関係を築く特別活動』図書文化(2009)

成績評価

・課題や小レポート(40%)
・毎回提出する振り返り(30%)
・発表やディスカッションなどの主体的な態度(10%)
・期末レポート(20%)

履修要件及び履修上の注意事項

教職科目である。

課題に対する指導

一人一人コメントをつけて返却する。また、毎回授業の終わりに記入して提出する「振り返り」は、評価とコメントをつけて次回に返却するとともに、みんなで共有することが望ましい内容等については、次の授業資料に掲載して知らせる。

オフィスアワー・連絡先

授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア	特別活動の目標や特質・教育的意義を踏まえ、特別活動で育成すべき資質・能力について理解することができる。
イ①	特別活動の内容、指導法について理解し、特別活動の実践に必要なスキルを主体的に身につけることができる。
イ②	実際に行う学級会(学級活動における話合い活動・集会活動)などの体験を通して、特別活動で育成すべき望ましい集団の在り方がわかり、実践的な指導力を身につけることができる。
ウ	自主的、主体的に取り組み、コミュニケーション能力や協働する態度を身につけるとともに、多様性の大切さを理解できる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL(問題解決型学習) □反転授業(知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業) ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	☑その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 模擬授業（学級会、集会活動）、3分間スピーチ
	授業でのICT活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他ICT活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 小学校教員として、教諭(特別活動主任も経験)、首席、教頭、校長を務める。 教諭時代から大阪府小中学校の特別活動研究会に所属し、その計画・運営に携わり、書記・副会長(5年間)、会長(5年間)を務めるとともに、近畿の各特別活動の研究会及び全国大会にも関わり、実践発表や指導助言を行う。	

科目名	生徒指導論						学期	2年後期
ナンバリング	K2-17-111	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	今西　幸蔵	
科目の概要	1　学校における児童・生徒指導のあり方や進め方について理論的に理解する。 2　生徒指導が、教科指導と並ぶ学校教育の重要な柱であることを認識する。 3　授業においては、理論だけでなく実例を学ぶことをとおして臨床的に学修する。 4　学校としての組織的な児童・生徒指導のあり方と個人指導の進め方について理解する。 5　児童・生徒の内面に関わる課題について知り、教員としてどう取り組むかを学修する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	学校における児童・生徒に対する指導の意義と原理を理解している。	1-(1)a)・b)
イ	児童・生徒の発達段階における特性を知り、それに対応した指導ができる。	1-(1)c)
ウ	組織的な指導と個別指導のあり方や進め方について理解し、現場の状況に適した指導ができる。	1-(1)d)・e)・m)
エ	不登校や問題行動を起こす児童・生徒の内面を理解し、個人に見合った指導を可能とする力量を身につける。	1-(1)L)・f), 1-(3)a)・b)
オ	児童・生徒を支援する地域ネットワークづくりに参画する力を養う。	2-(1)・(2)

回	授業内容	授業外の学修
1	学校における児童・生徒の指導の意義について考える。	シラバスを事前に読んでおく。講義ノートを整理し、課題レポートを作成する(90分)
2	児童・生徒指導に関わる方法原理について学ぶ。	教科書を読み、配付資料で復習する。(90分)
3	教育課程における生徒指導のあり方、進め方について知る。	教科書を読み、配付資料で復習する。(90分)
4	児童期の特性について知り、どう指導するか考える。	与えられた課題について予習・復習を行う。(120分)
5	生徒期の特性について知り、どう指導するか考える。	与えられた課題について予習・復習を行う。(120分)
6	児童・生徒指導に関わる校務分掌としての役割分担について学ぶ。	与えられた課題について予習・復習を行う。(120分)
7	学校において児童・生徒を組織的にどう指導するかを考える。	事前に課題について調べておく。(90分)
8	教育法規について学び、「校則」等に見られる規範について考える。	講義ノートを整理し、配付資料で復習する。(90分)
9	カウンセリングマインドの意味を理解し、指導における視点を考える。	発表するための準備と授業後の課題をする。(120分)
10	教育相談を必要とする児童・生徒について考え、対応できる力を養う。	教科書を読み、配付資料で復習する。(90分)
11	学校行事と学級指導の進め方について考える。	グループ討議をするための準備をする。(90分)
12	個々の児童・生徒への指導と支援１（問題行動）	発表するための準備をする。(120分)
13	個々の児童・生徒への指導と支援２（不登校）	発表するための準備をする。(120分)
14	個々の児童・生徒への指導と支援３（発達障害）	発表するための準備をする。(120分)
15	学校と家庭・地域社会との連携・協力について考える。	与えられた課題レポートを作成する。(120分)

テキスト：今西幸蔵編著『生徒指導・進路指導の理論と実践』法律文化社、毎時資料を配付。	成績評価：課題小レポート(70%)、最終レポート(30%)
参考書・参考資料等：文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』ジアース教育新社	
履修要件及び履修上の注意事項	

教員免許法で定められた必修科目。１年生前期（入学直後）の学生が対象であり、教職課程全体について理解するための科目である。教育実習を履修するための必須科目でもある。	
課題についてはすべて評価の対象とする。課題小レポートは適時実施し、その後の授業でふりかえる。	
オフィスアワー・連絡先：金曜日（前期は午後・後期は午前）出校しており、教室にて対応する。急ぎの相談その他がある場合は次のアドレスに連絡すること。yiu68461@nifty.com	
評価	満足できる状況
ア	教職とは何か、その意味と意義を理解し、具体的に教員養成の仕組みについて理解している。
イ	教員として求められている資質・能力について認識している。自らの理想とする教員像を作ることができ、目標に向かって努力する意欲を持っている。
ウ	学校や教員が社会的制度に基づいて成り立っていることや、関係する法規などについて理解するとともに、社会に開かれた学校であることについて考え、説明することができる。
エ	発達心理学に基づいた児童・生徒理解に努め、根底に生命維持と人権があることを認識し、教員として適切な言動をすることができる。
オ	学校教育の核である授業を大切にし、教員として必要とされる学習指導や生徒指導に取り組むための自己研修力がある。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング☑ ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ☑その他：アクティブ・ラーニングの内容：ディベートやグループワークを実施する。
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項：授業において視聴覚教材を使用する。
担当教員の実務経験：高等学校教員 16 年間、中学校教員 3 年間、教育委員会事務局主任指導主事の職を 8 年間務めた。高等学校においては、教頭と生徒指導部員を経験している。	

科目名	進路指導・キャリア教育						学期	前期・金・4
ナンバリング	K2-17-113	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	松田忠喜	
科目の概要	・キャリアに関わる諸要素や事例等について講義する中で、児童の「生きる力」の育成や「自己実現」をめざすキャリア教育・進路指導の意義や原理を理解する。 ・学校と地域や関係機関との連携についての重要性について理解するとともに、具体的な内容について調べたり、討議したりしながら内容を深めていく。また、これらの内容を生かしながら、キャリア教育を志向した教育課程づくりについて考察する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	キャリア教育・進路指導についての意義や原理を知り、具体的な指導につながるような力量を身につけることができる。	1-(1)b)
イ	キャリア教育・進路指導についての歴史的な背景や変遷を知ることで、期待されるキャリア教育のありかたについて考察し、理解を深めることができる。	1-(1)e)
ウ	学校と地域や関係機関との連携の重要性を理解し、具体的な連携や取り組みについて調べ検討し、教育課程づくりに生かすことができるようにする。	2-(2)a)

回	授業内容	授業外の学修
1	進路指導とは、キャリア教育の定義	配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(90 分)
2	「キャリア教育」の必要性と意義	「キャリア教育」の必要性、意義、内容をまとめる。(60 分)
3	社会人、職業人として必要な資質・能力とは	社会人、職業人として必要な資質・能力をまとめる。(60 分)
4	キャリア発達の諸要素と職業観・勤労観の育成	配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(90 分)
5	日本における職業教育・進路指導	配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(90 分)
6	進路指導のさらなる推進としてのキャリア教育	配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(90 分)
7	「キャリア教育」の現代の課題	キャリア教育推進の視点から現代の課題をまとめる。(60 分)
8	学校における「キャリア教育」とキャリア・パスポート	キャリア・パスポートの果たす役割、活用法を考える。(90 分)
9	小学校における「キャリア発達」	小学校を振り返り、「キャリア教育」のあり方をまとめる。(90 分)
10	教育課程における「キャリア教育」	配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(90 分)
11	「キャリア教育」の要としての特別活動	「キャリア教育」をどのように進めるべきかをまとめる。(90 分)
12	学級活動における「キャリア教育」	配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(90 分)
13	教科指導における「キャリア教育」	配布された資料をもとに復習し、要点を整理する。(90 分)
14	「キャリア教育」の実践の工夫	「キャリア教育」の指導計画案の作成(180 分)
15	これからの「キャリア教育」	最終レポートの作成(180 分)

テキスト	成績評価
必要な資料は授業中に配布する。	・課題や小レポート(40%) ・毎回提出する振り返り(30%) ・発表やディスカッションなどの主体的な態度(10%)
参考書・参考資料等 文部科学省　改訂版『小学校キャリア教育の手引き』 教育出版	

経済産業省『キャリア教育 ガイドブック』学事出版 文部科学省『生徒指導提要』文部科学省ホームページ(2023年12月)	・期末レポート(20%)

履修要件及び履修上の注意事項

教職科目である。

課題に対する指導

一人一人コメントをつけて返却する。また、毎回授業の終わりに記入して提出する「振り返り」は、評価とコメントをつけて次回に返却するとともに、みんなで共有することが望ましい内容等については、次の授業資料に掲載して知らせる。

オフィスアワー・連絡先

授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア①	キャリア教育・進路指導についての意義や原理を理解し、具体的な指導につながるような力量を身につけることができる。
ア②	キャリア教育を志向した教育課程づくりができる。
イ	キャリア教育・進路指導についての歴史的な背景や変遷を知ることで、期待されるキャリア教育のありかたについて考察し、理解を深めることができる。
ウ	学校と地域や関係機関との連携の重要性を理解し、具体的な連携や取り組みについて調べ検討し、教育課程づくりに生かすことができるようにする。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☐PBL（問題解決型学習） ☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☐プレゼンテーション ☐実習、フィールドワーク ☐その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☐双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

小学校の教員、管理職としての実務経験を生かして実際の教育実践に対応した内容や事例を講義内容として提供する。その中に進路指導・キャリア教育、特別活動、総合的な学習の時間を指導してきた経験も踏まえる。

科目名	教師力養成特講Ⅰ(HRマネジメント)						学期	前期・木・3
ナンバリング	K3-17-114	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	大西誠子	
科目の概要	学級づくりは、学校教育の基盤である。学級づくりの意義及び学級担任の役割についての理解を図る。また、学級づくりの基礎的な知識や指導の在り方を実践的に学び、学級担任に求められる資質・能力ついて理解を深める。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	学級づくりの意義及び学級担任の役割を理解することができる。	1－(1)m)
イ	実践的な学修を通して、学級づくりの基礎的な知識や指導の在り方を説明することができる。	1－(1)l), 1－(1)m)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション(HRマネジメントとは)	シラバスを確認。復習(60分)
2	学級づくりの意義(学級開き等)	課題の調べ学習と復習(60分)
3	学級担任の役割(担任の一日等をとおして)	課題の調べ学習と復習(60分)
4	学級づくりと環境設定(1)ルールづくり・生活環境	課題の調べ学習と復習(60分)
5	学級づくりと環境設定(2)係活動・当番活動等	課題の調べ学習と復習(60分)
6	学級づくりと環境設定(3)生活班・学習班等	課題の調べ学習と復習(90分)
7	認め合う学級づくり(1)学習活動をとおして	課題の調べ学習と復習(60分)
8	認め合う学級づくり(2)話し合い活動をとおして	課題の調べ学習と復習(60分)
9	学級づくり(1)子ども理解	課題の調べ学習と復習(60分)
10	学級づくり(2)問題行動への対応	課題の調べ学習と復習(60分)
11	学級づくり(3)集団づくり	課題の調べ学習と復習(90分)
12	学級づくり(4)行事・児童による活動の運営	課題の調べ学習と復習(60分)
13	学級づくり(5)学年とのつながり	課題の調べ学習と復習(60分)
14	学級づくり(6)保護者等とのつながり	最終レポートに向けての復習(90分)
15	まとめと総括	15回の学びの振り返り(60分)

テキスト
文部科学省(2018)小学校学習指導要領解説(平成29年告示)
特別活動編　東洋館出版

参考書・参考資料等
文部科学省/国立教育政策研究所教育課程研究センター(2019)特別活動指導資料
みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)　文溪堂

成績評価
授業への取り組み(40%)
小レポート(40%)
最終レポート(20%)

履修要件及び履修上の注意事項
小レポート(課題等)をもとに授業内容を深めていく。

<table>
<tr><td colspan="3">課題に対する指導
レポートや発表等に対して、適宜フィードバックを行う。</td></tr>
<tr><td colspan="3">オフィスアワー・連絡先
授業の前後の時間に教室にて対応する。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td colspan="2">満足できる状況</td></tr>
<tr><td>ア</td><td colspan="2">学級づくりの意義及び学級担任の役割を理解している。</td></tr>
<tr><td>イ</td><td colspan="2">実践的な学修を通して、学級づくりの基礎的な知識や指導の在り方を理解し、児童の実態を考え学級づくりについて説明できている。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">授業の特徴</td><td colspan="2">授業で実践するアクティブ・ラーニング
□PBL（問題解決型学習）
□反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業）
☑ディスカッション、ディベート
□プレゼンテーション
□実習、フィールドワーク
☑その他</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他アクティブ・ラーニングの内容
ペア学習・グループワークや発表等を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業での ICT 活用
☑双方向型授業に活用
□自主学習支援に活用</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他 ICT 活用に関する特記事項</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="3">担当教員の実務経験の内容
公立小学校教員としての実務経験をいかして、学級の様々な場面をとりあげ、具体的に想定し、学級づくりについて授業する。</td></tr>
</table>

科目名	保育原理							学期	前期
副題	保育・教育の現場をよりよくするために				授業方法	講義	担当者	石上浩美	
ナンバリング	K2-21-117	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

[授業の目的・ねらい]　1.保育の意義及び目的について理解する。 2.保育に関する法令及び制度を理解する。 3.保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4.保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5.保育の現状と課題について理解する。 [授業全体の内容の概要]　1.保育の意義及び目的 2.保育に関する法令及び制度 3.保育所保育指針における保育の基本 4.保育の思想と歴史的変遷 5.保育の現状と課題

授業の到達目標

1. 保育・教育の理念,西洋・日本の教育思想史に関する基礎知識をふまえた論述ができる。 2. 幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容について論述ができる。 3. 子どもの発達過程と教育の関係について論述ができる。 4. 現代社会における保育・教育の位置づけと課題について論述ができる。

授業計画

1.オリエンテーション　授業の目的・目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明
2.西洋の保育・教育1（古代）
3.西洋の保育・教育2（中世）
4.西洋の保育・教育3（近代1）
5.西洋の保育・教育4（近代2）
6.西洋の保育・教育5（現代）
7.日本の保育・教育1（縄文時代から平安時代まで）
8.日本の保育・教育2（鎌倉時代から室町時代まで）
9.日本の保育・教育3（江戸時代）
10.日本の保育・教育4（明治時代から第二次世界大戦前まで）
11.日本の保育・教育5（第二次世界大戦から現代まで）
12.現代の教育課題1（幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の変遷）
13.現代の教育課題2（子どもの権利条約・虐待・貧困）
14.現代の教育課題3（保幼小連携において求められる保育者）
15.保育原理まとめ　西洋と日本の幼児教育について

準備学習（予習・復習）・時間

予習：シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60分) 復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題(60分) ※授業資料・課題提出はGoogle Classroomを活用する。

テキスト

石上浩美編著（2018)『教育原理ー保育・教育の現場をよりよくするためにー』　嵯峨野書院（ISBN：978478230574)

参考書・参考資料等

・文部科学省編　幼稚園教育要領解説（平成30年3月）　フレーベル館(ISBM9784577814475)　264円 ・厚生労働省編　保育所保育指針解説（平成30年3月）　フレーベル館(ISBM9784577814482)　352円 その他適宜指示する。

学生に対する評価

筆記試験：50%　知識・理解の習熟度合いについて 毎回のミニレポート（Google Form）内容：30%　思考・判断について 口頭発表：20%　表現・独創性について

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）保育に関わる基本的な理念や思想について理解できる。
（B）保育に関わる基本的な理念や思想についての理解をもとに要約し自らの言葉で説明できる。
（A）保育に関わる基本的な理念や思想についての理解をもとに現代的課題と関連づけることができる。
（S）保育に関わる基本的な理念や思想についての理解をもとに、現代的課題について問いと仮説をたて多角的に考察できる。

課題に対するフィードバックの方法

・授業時全体アナウンス　・Google Classroomコメント

その他

反転授業（授業外にテキスト精読を行い、知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）など、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材やICT教材を用いることがある。 事前に指定されたテキストページの精読（予習）を前提とした授業内ディスカッションへの参加を重視する。

科目名	子ども家庭福祉						学期	後期
ナンバリング	K2-21-118	実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について説明し、それらを支える子どもの最善の利益の尊重と子どもの人権擁護の重要性について学ぶ機会とする。さらに、子ども家庭福祉の制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、展望についても考えていく。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連 DP
ア	子どもと社会のかかわりの歴史を理解できる。	2-(1)a)
イ	現代の子どもと家庭がおかれた状況と今後の見通しについて理解できる。	2-(1)d)
ウ	子どもと家庭を支える制度や実践について理解できる。	2-(2)e)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション　現代社会における子ども家庭福祉	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
2	子ども家庭福祉の理念と概念	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
3	子ども家庭福祉の歴史的変遷と国際動向	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
4	子ども観の変化と歴史	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
5	現代における子どもの権利擁護	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
6	子ども家庭福祉を支える制度	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
7	子ども家庭福祉と関連領域の法体系	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
8	子ども家庭福祉を担う行政機関	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
9	子ども家庭福祉を担う施設とサービス及びその費用	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
10	子ども家庭福祉を担う専門職と地域の社会資源	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
11	少子化と子育て支援、母子保健、多様な保育ニーズ	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
12	障がいのある子どもへの支援、少年非行への対応	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
13	子ども虐待や DV の防止、社会的養護	資料の通読およびレポートの情報収集(180 分)
14	ひとり親・貧困・外国籍の子ども家庭福祉	資料の通読およびレポートの情報収集(180 分)
15	動向と展望　地域共生社会における子ども家庭福祉　まとめ	資料の通読およびレポート執筆(180 分)

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

一般社団法人全国保育士養成協議会監修、宮島清・山縣文治編『ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2025』、中央法規、2024 年。ISBN:9784824301482

福祉・保育小六法編集委員会編『福祉・保育小六法　2025 年度版』、みらい、2025 年。ISBN: 9784860156497

その他、適宜紹介します。

成績評価

授業への参加の度合い（30%）

最終レポート（30%）

毎回提出する小レポート（40%）

履修要件及び履修上の注意事項

保育士資格取得のための必修科目、社会福祉主事任用資格取得指定科目である。

授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材や ICT 教材を用いることがある。

課題に対する指導

毎回のリアクションペーパーの内容や質問について、次回授業の冒頭にコメントしたり追加の解説を行ったりする。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	社会における子どもの位置づけについて、歴史も踏まえて説明することができる。
イ	現代における子どもと家庭の状況について自らのこととして考え、説明することができる。
ウ	子ども家庭福祉の現状とサービス等について説明することができる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	社会福祉論						学期	1年後期
ナンバリング	K1-21-119	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	溝渕　淳	

科目の概要	
	1.現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷を知る。 2.社会福祉の制度や実施体系を学ぶ。 3.社会福祉における相談援助の位置づけと役割を知る。 4.社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5.社会福祉の動向と課題について考える。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	現代における社会福祉の意義や理念について認識できる	2-(1)a)
イ	現代社会の「生きづらさ」について理解できる	2-(1)d)
ウ	社会福祉の実践と具体的な方法について理解できる	2-(2)b), 2-(2)c)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション、保育と社会福祉の関係	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
2	社会福祉の歴史的変遷	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
3	海外における社会福祉の動向	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
4	社会で暮らす人びとの生活課題と制度①貧困	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
5	社会で暮らす人びとの生活課題と制度②高齢者	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
6	社会で暮らす人びとの生活課題と制度③障がいのある人	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
7	社会で暮らす人びとの生活課題と制度④子ども	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
8	日本における社会福祉の特徴:家族の取り扱いを中心に	資料の通読および小レポート作成(180分)
9	社会福祉を担う行政機関と社会福祉の財政	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
10	社会福祉の施設とそこでの運営	資料の通読および地域の調べ学習(180分)
11	社会福祉における権利擁護とサービスの質保証	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
12	社会福祉における相談援助①相談援助を支える考え方	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
13	社会福祉における相談援助②相談援助の対象理解	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
14	社会福祉における相談援助④相談援助の方法と技術	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
15	今後の社会福祉の動向と課題 地域共生社会 まとめ	資料の通読および小レポート作成(180分)

テキスト

使用しない。適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

一般社団法人全国保育士養成協議会監修

『ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック2025』(中央法規、2024)。

成績評価

授業への参加の度合い(30%)

最終レポート(30%)

毎回提出する小レポート(40%)

履修要件及び履修上の注意事項

社会福祉主事任用資格指定科目である。

課題に対する指導

毎回、前回提出された小レポートに対してコメントする。15 回目の授業で、最終レポートに関するふりかえりを行う。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア①	歴史的な特性も踏まえながら、現代における社会福祉の意義と体系について説明できる。
ア②	社会福祉の中心となる理念及び保育や教育との関連について説明できる。
イ	現代社会を取り巻く「生きづらさ」を「自分ごと」として認識し、その原因を考えることができる。
ウ①	保育における地域を視野に入れた支援の必要性について理解できる。
ウ②	保育で活用される相談援助の技術や方法の必要性について理解できる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	子ども家庭支援論						学期	前期
ナンバリング	K3-21-120	実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	子どもを中心として、家庭（保護者）や地域社会への広がりを意識した上で、保育士が、保育や福祉の専門的な知識や技術を修得した上で、子育て支援にどのように活用していくのかについて考える機会とする。また、多様な家庭(及び地域)の状況に対する工夫や配慮についても学んでいく。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連DP
ア	子育て家庭が抱える生活上の課題について理解できる。	2-(1)d)
イ	子ども家庭支援の意義と目的、現状と課題について理解できる。	2-(2)d)
ウ	保育士を中心とした子ども家庭支援の体制や地域での取り組みについて理解できる。	2-(2)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション　子ども家庭支援の意義と必要性	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
2	子ども家庭支援の目的と機能	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
3	子ども家庭支援の視点と方法	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
4	保育の専門性を活かした子ども家庭支援	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
5	保育の専門性を活かした地域への働きかけと連携	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
6	保育士に求められる基本的な態度、保護者への関わり	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
7	保育士に求められる情報の提供方法、家庭の状況に応じた関わり	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
8	子育て家庭支援のための法制度	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
9	子育て家庭支援のための具体的なサービス	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
10	子育て家庭支援のための社会資源	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
11	保育所等を利用する子育て家庭への支援	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
12	地域における子育て家庭への支援	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
13	障がいのある子ども、要保護児童の家庭への支援	資料の通読およびレポートの情報収集(180分)
14	ひとり親、外国籍の子どもの家庭、病児への支援	資料の通読およびレポートの情報収集(180分)
15	子ども家庭支援の現状と課題、今後の展望　まとめ	資料の通読およびレポート執筆(180分)

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

一般社団法人全国保育士養成協議会監修、宮島清・山縣文治編『ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック2025』、中央法規、2024年。ISBN:9784824301482

成績評価

授業への参加の度合い（30%）

最終レポート（30%）

毎回提出する小レポート（40%）

福祉・保育小六法編集委員会編『福祉・保育小六法 2025年度版』、みらい、2025年。ISBN: 9784860156497 その他、適宜紹介します。	

履修要件及び履修上の注意事項

保育士資格取得のための必修科目である。

授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。

課題に対する指導

毎回のリアクションペーパーの内容や質問について、次回授業の冒頭にコメントしたり追加の解説を行ったりする。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	子育て家庭の抱える課題を「自分ごと」として考えることができる。
イ①	子ども家庭支援の意義と目的について説明することができる。
イ②	子ども家庭支援の現状を踏まえ、その今後を自分なりに展望することができる。
ウ	子ども家庭支援の体制と、そこでの保育者の位置づけ・協力のあり方について自覚し、説明することができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業でのICT活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他ICT活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	社会的養護Ⅰ						学期	前期
ナンバリング	K3-22-121	実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	子どもの育ちに関して社会全体が責任を負っていることへの理解を深めた上で、社会的な支えが必要な子どもをとりまく現状や課題、それらに対する制度や支援および担い手について理解していく。事例や映像教材なども用い、社会的養護について、「自らのこととして考える」態度の醸成も目指す。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	社会的養護の意義・現状・課題・展望について、歴史的流れ・国際的な動きを踏まえて理解できる。	2-(1)a)
イ	社会的養護が必要な子どもの現状や生活上の課題について理解できる。	2-(1)d)
ウ	社会的養護の制度とその実施体系について理解できる。	2-(2)b)
エ	社会的養護の形態、それらを担う専門職について理解できる。	2-(2)d)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション　社会全体で子どもを育む必要性	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
2	社会的養護の理念と概念	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
3	社会的養護の歴史的変遷	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
4	社会的養護の国際比較	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
5	子どもを取り巻く課題～虐待を中心に～	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
6	社会的養護の基本原則　子どもの権利擁護と社会的養護	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
7	社会的養護の制度と法体系	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
8	社会的養護のしくみと実施体系	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
9	社会的養護における保育士等各専門職の倫理および責務	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
10	社会的養護とファミリー・ソーシャルワーク	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
11	社会的養護の対象と支援の実際(1)施設養護とその担い手	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
12	社会的養護の対象と支援の実際(2)家庭養護とその担い手	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
13	社会的養護に携わる各専門機関とその運営管理	資料の通読およびレポートの情報収集(180分)
14	被措置児童等への虐待防止、障がい児と社会的養護	資料の通読およびレポートの情報収集(180分)
15	地域福祉と社会的養護の連動、今後の課題　まとめ	資料の通読およびレポート執筆(180分)

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

一般社団法人全国保育士養成協議会監修、宮島清・山縣文治編『ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック2025』、中央法規、2024年。ISBN:9784824301482

福祉・保育小六法編集委員会編『福祉・保育小六法　2025年度版』、みらい、2025年。ISBN: 9784860156497

その他、適宜紹介します。

成績評価

授業への参加の度合い（30%）、最終レポート（30%）、毎回提出する小レポート（40%）

履修要件及び履修上の注意事項
保育士資格取得のための必修科目である。 授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材や ICT 教材を用いることがある。
課題に対する指導
毎回のリアクションペーパーの内容や質問について、次回授業の冒頭にコメントしたり追加の解説を行ったりする。
オフィスアワー・連絡先
前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	社会的養護の意義・現状・課題・展望について、歴史的・国際的視点から説明できる。
イ	社会的養護が必要な子どもの現状や生活上の課題を「自分ごと」として考えることができる。
ウ・エ	社会的養護の制度とその実施体系、具体的な支援の場や専門職の関わりと役割について説明できる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
特になし。

科目名	保育の心理学						学期	集中
ナンバリング	K1-21-123	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	佐々木 聡	

科目の概要	保育実践に関わる発達心理学等の知見をもとに、発達を捉える視点や子どもの発達の過程について説明する。さらに、乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について説明し、保育における人との関わりや体験、環境の意義についての理解を深めさせる。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	発達を捉える心理学的な視点を理解できる。	1－(1) l)
イ	子どもの発達過程について理解できる。	1－(1) l)
ウ	子どもの学びについて理解し、人・体験・環境の意義について認識できる。	1－(1) m)

回	授業内容	授業外の学修
1	子どもの発達を理解することの意義	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
2	子どもの発達と環境	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
3	発達理論と子ども観・保育観	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
4	社会情動的発達①自己と感情	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
5	社会情動的発達②他者理解	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
6	社会情動的発達③他者とのかかわり	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
7	身体的機能と運動機能の発達	事前:テキストの通読(90 分)、事後:小レポート作成(90 分)
8	認知の発達①認識の基礎	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
9	認知の発達②数と形	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
10	言語の発達	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
11	乳幼児期の学びに関わる理論	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
12	乳幼児期の学びの過程と特性①認知的学び	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
13	乳幼児期の学びの過程と特性②社会情動的学び	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
14	乳幼児期の学びを支える保育	事前:テキストの通読(90 分)、事後:ノートまとめ(90 分)
15	子どもの発達と現代的課題	事後:最終レポートの作成(180 分)

テキスト

本郷一夫・飯島典子(編著)『シードブック　保育の心理学』、建帛社、2019 年(生協で購入)。

参考書・参考資料等

厚生労働省「保育所保育指針」、2017 年。

厚生労働省「保育所保育指針解説」、2018 年。

成績評価

授業中のディスカッションへの取組(30%)

小レポート(20%)

最終レポート(50%)

履修要件及び履修上の注意事項

・30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・保育士資格取得の際必修。

課題に対する指導
・質問や意見については、毎回の授業内で振り返りを行う。

オフィスアワー・連絡先
・授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア	保育に関する心理学の基礎的な理論の概要について説明できる。
イ	各発達段階における子どもの姿について説明できる。
ウ	子どもにとっての人・体験・環境の意義を踏まえて、保育実践を提案できる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
公認心理師資格を有する担当教員が、幼児の保護者にカウンセリングを行った実務経験などを踏まえて、実際の保育場面における子どもの姿を心理学の理論を通じて捉えることについて、受講者が理解を深めることのできる授業を行う。

科目名	子ども家庭支援の心理学						学期	集中
ナンバリング	K2-21-124	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	佐々木 聡	
科目の概要	生涯を通した人の発達段階について説明する。その上で、親子関係・家族関係のライフコースや、子育て家庭に関する諸問題について説明し、考えを深めさせる。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得している。	1－(1) l)
イ	初期経験の重要性や発達課題等を理解できる。	1－(1) l)
ウ	親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解できる。	1－(1) l)
エ	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できる。	1－(3) b)
オ	子どもの精神保健とその課題について理解できる。	1－(1) l)

回	授業内容	授業外の学修
1	乳児期の発達	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
2	幼児期の発達	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
3	学童期の発達	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
4	青年期の発達	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
5	成人期・中年期の発達	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
6	高齢期の発達	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
7	家族・家庭の意義と機能	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
8	家族関係・親子関係の理解	事前:テキストの通読(90分)、事後:小レポート作成(90分)
9	子育ての経験と親としての育ち	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
10	子育てを取り巻く社会的状況	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
11	ライフコースと仕事・子育て	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
12	多様な家庭とその理解	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
13	特別な配慮を要する家庭	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
14	子どもの生活・生育環境とその影響	事前:テキストの通読(90分)、事後:ノートまとめ(90分)
15	子どものこころの健康にかかわる問題	事後:最終レポートの作成(180分)

テキスト

公益財団法人児童育成協会(監修)白川佳子・福丸由佳(編集)『新・基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学』、中央法規出版、2020年(生協で購入)。

参考書・参考資料等

杉崎雅子『スギ先生と考える 子ども家庭支援の心理学』、萌文書林、2021年

成績評価

授業中のディスカッションへの取組(30%)

小レポート(20%)

最終レポート(50%)

履修要件及び履修上の注意事項
・30 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。 ・保育士資格取得の際必修。
課題に対する指導
・質問や意見については、毎回の授業内で振り返りを行う。
オフィスアワー・連絡先
・授業の前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア	生涯発達の過程の概略について説明できる。
イ	初期経験の重要性や各時期の発達課題等について説明できる。
ウ	親子関係や家族関係等が発達するとはどういうことか説明できる。
エ	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況について理解し、課題意識を持つことができる。
オ	子どもの精神保健にまつわる課題について説明できる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
教員（中学・高校）およびスクールカウンセラーとして児童生徒・保護者の支援を行ってきた実務経験を踏まえて、子育て家庭をめぐる課題と支援について具体的に扱う。

科目名	子どもの食と栄養						学期	前期・月・3
ナンバリング	K3-21-126	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	井出　康子	
科目の概要	私たちはバランスのよい食生活を営むことで、健康を維持・増進することができる。中でも子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康の基礎を形成し、その後の心と身体の健康を左右するものである。また子どもの栄養と食生活は、大人の食生活のあり方に強く影響を受けるものである。これを踏まえて食生活や栄養について理論的・体系的に学び、保育者としての食育の実践力をつける。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	栄養に関する基礎的知識を身につける。	1-(1) a) b)
イ	食事バランスガイドについて知り、使えるようになる。	1-(1) e)
ウ	食育について理解し、保育者として対応することができる。	1-(2) b)

回	授業内容	授業外の学修
1	ガイダンス　「子どもの食と栄養」で学ぶ範囲と目的	シラバスを事前に読む(60分)授業で出す課題について意見をまとめる(150分)
2	日本人の食生活の現状と課題	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
3	栄養に関する基本的知識①	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
4	栄養に関する基本的知識②	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
5	栄養に関する基本的知識③	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
6	食事摂取基準と食事バランスガイド	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
7	食事バランスガイドの活用	食事を記録する(30分)事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
8	子どもの発育・発達と食生活	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
9	妊婦の食生活　乳児期の栄養	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
10	離乳期の栄養	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
11	幼児期の栄養　食品衛生	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
12	食育の基本と内容	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
13	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
14	持病および体調不良の子どもへの対応	事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)
15	食物アレルギーのある子どもへの対応	最終レポート(180分)事前にテキストを読む(120分)講義内容の復習(60分)

テキスト
「子どもの食と栄養」　堤ちはる・土井正子　編著
萌文書林　（生協で購入）

参考書・参考資料等
「食事バランスガイド」について　厚生労働省、農林水産省
「基礎栄養学」　田地陽一　著　羊土社

成績評価

小テスト　40%
小レポート　30%
最終レポート　30%

履修要件及び履修上の注意事項 保育士資格取得の際必修。
課題に対する指導 提出されたレポートなどは添削し、次回授業時に返却する。
オフィスアワー・連絡先 授業前後の時間に教室にて対応する。

評価	満足できる状況
ア	食事と健康の関係を理解し説明できる。
イ	年齢に応じた食事のバランスを判断できる。
ウ	多様な場面で起こる事象に知識を駆使して対応することができる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容 高等学校の教員を務めた。教育相談、特別支援教育コーディネーターの経験がある。

科目名	保育内容総論						学期	前期・木・2
ナンバリング	K2-21-127	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	明神規子	
科目の概要	・保育所・幼稚園等就学前教育における子ども理解、保育の計画、環境の構成、援助の実際について知識や理解を深め、保育者として保育を構想する力や実践力を身につける。保育内容を総論的にとらえる視点を身につけ、保育所保育指針及び幼稚園教育要領等の示す保育の基本及び保育内容の考え方や指導法について理解する。							

目標(この科目を通して獲得をさせたい力)		関連 DP
ア	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等の趣旨を踏まえて、保育所や幼稚園等において求められる保育内容について考える	1-(1)a)
イ	保育内容の歴史的変遷と社会の状況との関連について学ぶ	1-(1)a)
ウ	保育所や幼稚園等における子どもの生活と保育内容について、具体的な実践例を通して学ぶ	1-(2)b)
エ	子どもの発達と遊びの特質を踏まえ、保育の計画とその展開について、教材研究や指導計画の立案などを通して学ぶ	1-(1)f), 1-(1)g)

回	授業内容	授業外の学修
1	保育の基本と保育内容	シラバスを事前に読んでおく。(90 分)
2	成熟社会のなかでの子どもと保育・教育	事前にテキストをよく読んでおく(120 分)
3	教育及び保育の内容の考え方	事前にテキストよく読んでおく(120 分)
4	遊びを通した総合的な指導	事前にテキストをよく読んでおく(90 分)
5	幼児期の教育と小学校の接続	事前に課題をよく読んでおく(90 分)
6	保育内容の変遷	事前に課題をよく読んでおく(90 分)
7	子ども理解に基づく保育の展開	事前にテキストをよく読み(60 分)
8	保育の計画の考え方	事前テキストをよく読み(60 分)
9	指導計画作成の考え方と作成の実際	指定された参考資料を読んでおく(60 分)
10	指導計画の評価・改善と保育者の役割	指定された参考資料を読んでおく(60 分)
11	園行事の考え方と指導	指定された課題を調べておく(90 分)
12	ものや人との関わりを深める環境の構成と教材研究	指定された課題を調べておく(90 分)
13	保育記録を書くことの意義と実際	指定された課題を調べておく(90 分)
14	障がいのある子どもの指導	指定された課題を調べておく(90 分)
15	模擬保育の実際・保育内容の現状と課題	模擬保育に向けて指導案の作成と教材の準備(90 分)

テキスト	成績評価
神長美津子・津金美智子・田代幸代編著『保育内容総論』光生館	課題レポート[作品も含む](20%)、発表(30%)、試験 50%
参考書・参考資等 内閣府・文部科学省・厚生労働省・『平成 29 年度 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』	

履修要件及び履修上の注意事項
30 分以上の遅刻を欠席、3 回の遅刻で欠席 1 回 保育士資格取得の際必修。
課題に対する指導
質問や意見については、毎回の授業内で振り返りを行う。
オフィスアワー・連絡先
授業の前後の時間に教室にて対応する

評価	満足できる状況
ア	保育に関する基礎的な用語を説明することができる
イ	保育内容の歴史的変遷と社会状況の関連について理解することができる。
ウ	保育所や幼稚園等における子どもの生活と保育内容について、自らの言葉で説明できる
エ	子どもの発達と遊びの特質を踏まえ、保育の計画や指導計画の立案ができる

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
① 保育所での経験を活かして、幼児教育の基本や保育内容とその具体的な方法について指導する。 ② 保護者等に対する子育て支援の手法について指導する。

科目名	乳児保育Ⅰ						学期	前期・木・3
ナンバリング	K2-21-128	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	明神規子	
科目の概要	保育所、乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状課題について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の実践をどのように進めていくのかについて、理解を深め実践できる力を身に着けることを目指す。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	乳児保育の意義・役割や、歴史的背景についての知識を深める	1-(1)a, 1-(1)e
イ	3歳未満児の発達を踏まえた保育の在り方についての視点を得る	1-(1)b, 1-(1)e
ウ	職員間の・協働及び保護者や地域・関係機関との連携にについて理解する	1-(2)b

回	授業内容	授業外の学修
1	社会における乳児保育―歴史的歩みとこれからの役割	シラバスを事前に読んでおく。(90分)
2	乳児保育の現状とこれからの役割	事前にテキストを読んでおく(90分)
3	乳児保育の魅力・子どもの最善の利益とは	事前にテキストを読んでおく(120分)
4	3つの資質・能力と乳児期の保育内容	事前にテキストを読んでおく(90分)
5	子ども・子育て支援制度と乳児保育	事前にテキストを読んでおく(90分)
6	新制度による保育施設	事前にテキストを読んでおく(120分)
7	0歳児の保育ポイント	事前に参考書を読んでおく(90分)
8	生活と環境、遊びと環境、保育者の援助	事前に参考書を読んでおく(90分)
9	1歳児の保育のポイント	事前に参考書を読んでおく(90分)
10	生活と環境、遊びと環境、保育者の援助	事前に参考書を読んでおく(90分)
11	2歳児の保育のポイント	事前に参考書を読んでおく(90分)
12	生活と環境、遊びと環境、保育者の援助	事前に参考書を読んでおく(90分)
13	健康・安全管理―子どもの生命を守り健康を育む	事前にテキストを読んでおく(90分)
14	乳児保育に求められる連携・協働―多面的な協働・連携	事前にテキストを読んでおく(90分)
15	乳児保育の今後の課題	事前にテキストを読んでおく(120)分

テキスト

健やかな育ちを支える乳児保育Ⅰ　Ⅱ高内正子・豊田和子・梶　美保　編著

建帛社

参考書・参考資料等

厚生労働省編　保育所保育指針

成績評価

課題レポート[作品も含む](20%)、

発表(30%)、試験50%

履修要件及び履修上の注意事項

30分以上の遅刻を欠席、3回の遅刻で欠席1回

保育士資格取得の際必修。

課題に対する指導 質問や意見については、毎回の授業内で振り返りを行う。	
オフィスアワー・連絡先 授業の前後の時間に教室にて対応する	
評価	満足できる状況
ア	乳児保育の意義・役割や歴史的背景について認識できる
イ	3歳未満の発達を踏まえた保育の在り方について、自らの言葉で説明できる
ウ	職員間の・協働及び保護者や地域・関係機関との連携について理解することができる
授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 ① 大阪市の保育所での経験を活かして、幼児教育の基本や保育内容とその具体的な方法について指導する。 ② 保護者等に対する子育て支援の手法について指導する。	

科目名	乳児保育Ⅱ						学期	後期・木・3
ナンバリング	K2-21-129	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	明神規子	
科目の概要	乳児保育Ⅰで学んだことをさらに具体的・実践的に学ぶために演習形式で授業を実施する。特に援助や配慮のといった子どもへのかかわり方や乳児期の遊びや体験を通して学ぶことの意味、発達を保障するための保育の計画などの実際を学ぶ。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	3歳未満児の・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する	1-(1)a
イ	乳児の生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。	1-(1)a, 1-(1)h
ウ	乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。	1-(1)b

回	授業内容	授業外の学修
1	乳児保育の一日(0.1.2歳児の1日)	シラバスを事前に読んでおく(90分)
2	乳児保育の一日(0.1.2歳児の1日)	事前にテキストを読んでおく(90分)
3	乳児保育の生活援助・生活および養護技術の援助	事前にテキストを読んでおく(90分)
4	乳児保育の環境	事前にテキストを読んでおく(90分)
5	事例から学ぶ保育者と子どもの関係(愛着を育む関わり)	事前にテキストを読んでおく(90分)
6	保育者の受容的・応答的な関わり・信頼関係を築く	事前にテキストを読んでおく(90分)
7	事例から学ぶ子どもの主体性の尊重と自己の育ち	事前に参考書を読んでおく(90分)
8	自我の芽生え・遊びの楽しさ・学びの芽生え	事前に参考書を読んでおく(90分)
9	遊びの指導・援助―乳児保育にふさわしい遊び	事前に参考書を読んでおく(90分)
10	遊びと発達の特徴・遊びの紹介	事前に参考書を読んでおく(90分)
11	乳児保育における言葉の指導・援助―言葉の発達	事前に参考書を読んでおく(90分)
12	乳児保育における言葉の指導・援助―絵本の紹介―言葉遊び	事前に参考書を読んでおく(90分)
13	乳児保育における指導計画(長期と短期)	事前にテキストを読んでおく(90分)
14	個別と集団の事例(月齢・年齢)・記録と評価(振り返り)	事前にテキストを読んでおく(90分)
15	保護者との連絡の方法	事前にテキストを読んで、課題を調べておく

テキスト
健やかな育ちを支える乳児保育Ⅰ　Ⅱ
髙内正子・豊田和子・梶　美保編編著　建帛社

参考書・参考資料等
厚生労働省編　保育所保育指針

成績評価
課題レポート[作品も含む](20%)、
発表(30%)、試験50%

履修要件及び履修上の注意事項
30分以上の遅刻を欠席、3回の遅刻で欠席1回
保育士資格取得の際必修。

課題に対する指導 質問や意見については、毎回の授業内で振り返りを行う。	
オフィスアワー・連絡先 授業の前後の時間に教室にて対応する	
評価	満足できる状況
ア	3 未満児の発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明することができる。
イ	養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法について理解できる。
ウ	乳児保育における配慮の実際について、自らの言葉で説明できる。
授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 ① 大阪市の保育所での経験を活かして、幼児教育の基本や保育内容とその具体的な方法について指導する。 ② 保護者等に対する子育て支援の手法について指導する。	

科目名	子どもの健康と安全						学期	後期
ナンバリング	K2-21-130	実務経験の有無		単位数	2	担当者	本山　司	
科目の概要	この授業では、子どもの健康と安全を守るために必要な保育環境の整備と支援方法を学ぶ。保育施設内で清潔で安全な環境を維持する方法や、子どもの発達に応じた適切な支援を行う方法を習得し、日々の健康チェックや衛生指導の重要性を理解する。また、事故を防ぐための対策や、体調不良や異常に対する適切な対応方法も学ぶ。感染症対策として、手洗いや消毒、換気を徹底する方法を習得し、保育者として柔軟に健康問題に対応できる力を養う。さらに、保護者と連携しながら子どもの健康をサポートする方法を学び、施設内での健康管理体制を整え、スタッフ全員で協力して子どもの健康と安全を守るための実践的な知識を身につける。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	保健的観点に基づく保育環境整備、衛生管理、事故防止、危機・災害対策について説明できる。	1-(1)a)
イ	子どもの体調不良や発達に応じた保健対応法を理解し、感染症対策の具体的な対応策を説明できる。	1-(1)j)
ウ	子どもの健康管理の組織的取り組みや評価方法を理解している。	1-(1)c)

回	授業内容	授業外の学修
1	ガイダンス、子どもの健康と保育環境の管理（個人・集団）	シラバスの確認、内容の復習と理解の確認（90分）。
2	保育における衛生管理	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
3	保育における事故防止及び安全対策	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
4	保育における危機管理	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
5	災害への備え	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
6	体調不良や傷害への対応	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
7	応急手当の基本	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
8	救急処置及び心肺蘇生法	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
9	感染症対策と予防	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
10	保育における保健的対応	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
11	3歳未満児への対応	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
12	個別的配慮が必要な子どもへの対応	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
13	障害のある子どもへの対応	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
14	保育における保健活動の計画と評価	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。
15	健康と安全の管理体制	授業テーマ・用語の確認（60分）、授業の復習・整理（60分）。

テキスト

「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月厚生労働省）

参考書・参考資料等

・「2012年改訂版　保育所における感染症対策ガイドライン」（平成24年11月厚生労働省）

・「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

成績評価

授業への取り組み（20%）授業内の小レポート・小課題・小テスト（50%）、学期末レポート（30%）で総合的に評価する。

履修要件及び履修上の注意事項
毎回出席を取る。テーマに基づいた調べ学習やグループディスカッションなど、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業が行われる。また、メディア教材や ICT 教材を使用することがあるため、これらに対応できるよう準備を整えることが求められる。積極的に授業に参加し、学びを深めることが求められる。 保育士資格取得の際必修。
課題に対する指導
各課題提出後に個別でコメントを提供し、授業中に解説する。学期末レポートには全体的な評価と改善点を記載し返却する。
オフィスアワー・連絡先
水曜日のお昼休みに研究室で対応する。 メール:t_motoyama@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	保育環境整備や衛生管理、事故防止、災害対策の基本を理解し、実践に活かせる。
イ	子どもの体調不良や発達段階に応じた保健対応法を正確に理解し、適切な対処法を説明できる。
ウ	健康管理の成果を評価するための方法を理解し、実践的に活用できる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

科目名	社会的養護Ⅱ						学期	後期
ナンバリング	K3-22-132	実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	社会的養護を実践する際の 5W1H（いつ・どこで・だれが・なにを・なぜ・どのように）について、各項目の多様性もあわせて理解していく。また、特に「どのように」に焦点を当て、個別・集団への支援技術、さらには地域社会を視野に入れた支援技術について、事例検討やワークを実施し、体験を通して修得していく。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連 DP
ア	施設養護と家庭養護の具体的な支援内容について理解できる。	2-(1) a)
イ	支援計画の作成や記録・評価の方法について理解できる。	2-(2) c)
ウ	社会的養護の文脈から家庭支援や虐待防止、地域福祉の必要性を考えることができる。	2-(2) d)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション　子どもの権利擁護について考える	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
2	社会的養護における子どもの生活環境への理解	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
3	社会的養護における子どもの課題への理解	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
4	日常生活支援の実際	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
5	心理的支援と身体面でのケアの実際	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
6	自立と居場所の意味について考える	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
7	施設養護の実際(1)乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
8	施設養護の実際(2)障がい児施設	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
9	家庭養護の実際	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
10	アセスメントと記録	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
11	個別支援計画の作成と評価	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
12	社会的養護における保育の専門知識・技術	資料の通読および用語の確認と復習(180 分)
13	社会的養護における個別支援の専門知識・技術	資料の通読およびレポートの情報収集(180 分)
14	社会的養護における外在化とつながりづくりの技術	資料の通読およびレポートの情報収集(180 分)
15	家庭支援の取り組み　地域を視野に入れた社会的養護　まとめ	資料の通読およびレポート執筆(180 分)

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

一般社団法人全国保育士養成協議会監修、宮島清・山縣文治編『ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2025』、中央法規、2024 年。ISBN:9784824301482

福祉・保育小六法編集委員会編『福祉・保育小六法　2025 年度版』、みらい、2025 年。ISBN: 9784860156497

その他、適宜紹介します。

成績評価

授業への参加の度合い（30%）

最終レポート（30%）

毎回提出する小レポート（40%）

履修要件及び履修上の注意事項
保育士資格取得のための必修科目である。 授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。
課題に対する指導
毎回のリアクションペーパーの内容や質問について、次回授業の冒頭にコメントしたり追加の解説を行ったりする。
オフィスアワー・連絡先
前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	施設養護と家庭養護の具体的な支援内容について説明できる。
イ	支援計画の作成や記録・評価の方法について説明できる。
ウ	事例を見て、社会的養護の文脈から家庭支援や虐待防止、地域福祉の必要性に言及することができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業でのICT活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他ICT活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
特になし。

科目名	子育て支援						学期	後期
ナンバリング	K3-22-133	実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	保育の専門性の一端を形成する社会福祉実践の知見を活かし、保護者や子ども、専門職者に対する相談や助言、情報提供等の技術を修得する。また、映像教材等を用いて事例検討を行うなどし、①多様化する状況や対象にどう向き合うのか、②どのように課題を理解するのか、③どのように支援を展開するのかについて、個人およびグループで協力しながら考え、実践できる力の修得を目指す。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	保育相談支援の意義を理解できる。	1-(3)b)
イ	保育相談支援における具体的な活動内容について理解できる。	1-(3)a)
ウ	相談支援を実践する際の技術や技法を修得し活用できる。	2-(2)c)
エ	子育てに関する課題を多面的に検討し、適切な支援を考えることができる。	2-(2)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション　保護者等への支援の必要性について	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
2	保護者等との相互理解と信頼関係 (1)価値観の多様性	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
3	保護者等との相互理解と信頼関係 (2)コミュニケーション技法	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
4	保護者や家庭の生活上の課題に対する多面的な理解	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
5	地域・社会を視野に入れた、生活上の課題への理解	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
6	ケースの発見、インテーク・アウトリーチ・リファーラル	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
7	アセスメント、図像化の技法(マッピングなど)	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
8	支援計画の作成とカンファランス	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
9	支援体制のコーディネート	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
10	支援の実施とモニタリング・評価	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
11	支援のふりかえりと引き継ぎ、記録の重要性	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
12	職員間および他職種との連携と協働、社会資源の活用・開発	資料の通読および用語の確認と復習(180分)
13	保育所・地域・多様なニーズ(外国人等)の事例から学ぶ	資料の通読およびレポートの情報収集(180分)
14	障害のある子ども・特別な配慮を要する子どもの事例から学ぶ	資料の通読およびレポートの情報収集(180分)
15	虐待・要保護児童・病児の事例から学ぶ	資料の通読およびレポート執筆(180分)

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

一般社団法人全国保育士養成協議会監修、宮島清・山縣文治編『ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック2025』、中央法規、2024年。ISBN:9784824301482

福祉・保育小六法編集委員会編『福祉・保育小六法　2025年度版』、みらい、2025年。ISBN: 9784860156497

その他、適宜紹介します。

成績評価

授業への参加の度合い（30%）

最終レポート（30%）

毎回提出する小レポート（40%）

履修要件及び履修上の注意事項

保育士資格取得のための必修科目である。

授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。

課題に対する指導

毎回のリアクションペーパーの内容や質問について、次回授業の冒頭にコメントしたり追加の解説を行ったりする。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	保育相談支援の意義について説明することができる。
イ	保育相談支援における具体的な活動内容について、事例に当てはめて考えることができる。
ウ	現場での活用を想定し、相談支援を実践する際の技術や技法を修得している。
エ	子育てを取り巻く課題に対して、適切な支援の方法を提示することができる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業でのICT活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他ICT活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	表現技術(ピアノ)						学期	後期・金・4
ナンバリング	K2-21-134	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	寄　ゆかり	
科目の概要	幼児の様々な音楽表現方法を豊かにするための表現遊びや歌唱、弾き歌いのための伴奏方法、またそれに必要な音楽理論などを総合的に解説する。 また、ピアノの基本的な演奏法を学び、その技術を向上させることにより、保育で活用できる演奏(主に幼児教育現場での「弾き歌い」ができる)力を身につけられるよう指導する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	幼児教育に必要なピアノ等、鍵盤楽器の演奏力を身に付ける。	1-(1)a)
イ	幼児教育現場で用いられる幼児曲を知り、コードによる弾き歌いができる。	1-(1)a)
ウ	弾き歌いに必要な音楽理論が理解できる。	1-(1)a)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション、幼児教育現場での音楽表現	資料の通読、及びシラバスにて全体の流れを復習(180 分)
2	音名とコードネームの関係、ベース音を導く、カデンツ奏	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
3	弾き歌いに用いるコード(C:カデンツ)と様々な伴奏形	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
4	様々な弾き歌いの伴奏方法と表現豊かに歌を伝える	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
5	季節(春)の弾き歌い(C:)/イントロの作成方法	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
6	曲想に応じた伴奏形/弾き歌い(春)小テスト	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
7	コード(G:カデンツ)による季節(夏)弾き歌い	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
8	曲想に応じた伴奏形とエンディングの工夫/弾き歌い(夏)小テスト	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
9	コード(F:カデンツ)による季節(秋・冬)弾き歌い	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
10	イントロ、エンディングを付けた弾き歌い(秋・冬)小テスト	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
11	メロディー(一段)譜へのコード付け/C:F:G:カデンツ小テスト	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
12	弾き歌いに必要な音楽理論のまとめとc:カデンツ	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
13	季節の限定されない弾き歌い曲ーテンポのある曲ー	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
14	季節の限定されない弾き歌い曲ーストーリー性のある曲ー	提示された課題の演奏練習及び音楽理論復習(180 分)
15	音楽理論及び弾き歌い(自由曲)試験及び弾き歌いの発展を考える	音楽理論のまとめ及び弾き歌い試験曲の練習(180 分)

テキスト：ピアノ演奏経験により異なるため、授業内で説明する。

参考書・参考資料等

編著:木村鈴代,『新たのしい子どものうたあそび　第二版(第二刷)』, 同文書院, 2022 年

成績評価

授業での取り組む姿勢(30%)

授業時に実施する小テスト(30%)

最終試験(音楽理論・弾き歌い)(40%)

履修要件及び履修上の注意事項

・30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

・遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。

・幼稚園教諭・保育資格取得の際必修。	
課題に対する指導 ・質問や意見については、毎回の授業内で対応する。	
オフィスアワー・連絡先 ・授業の前後の時間に教室にて対応する。	
評価	満足できる状況
ア	弾き歌いを行うためのピアノ等、鍵盤楽器の演奏が流れを止めないでできる。
イ	幼児教育現場に用いる曲を多く知り、その曲の弾き歌いができる。
ウ	弾き歌いを行うための音楽理論を理解した上で演奏できる。
授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 ・音楽教室において幼児の指導にあたった経験より、音楽体験場面での子どもへの指導法を指導する。 ・幼稚園・保育所等において職員研修にて現場で必要な音楽表現の指導を実施しており、これらの経験をもとに乳幼児の音楽表現について指導する。	

科目名	表現技術(造形)							学期	後期
副 題	幼児の造形の基礎を実習を通して学ぶ				授業方法	演習	担当者	原田昌幸	
ナンバリング	K2-21-135	実務経験の有無	無	関連DP	1,2,3	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要
領域「表現」に関わる総計の表現技術として、造形の基礎的な技法を学ぶ。絵の具やクレパスなどを用いたモダンテクニックを体験し、幼児の造形理解へと結びつける。また身近な素材や環境を用いた造形あそびを体験し、柔軟な保育を実践する力を身につける。

授業の到達目標
造形の知識や様々な技法を、演習を通して学び、保育に繋がる表現力を身につけることができる。 絵の具や、クレパスなどの造形的知識と使用法を理解するなど、基礎技能を身につけることができる。造形活動を通して基礎技能を高めようとする意識を持ち、造形的な思考の習慣と力を身につけることができる。

授業計画
1.描く活動　人物クロッキー
2.描く活動　イラストの基礎
3.モダンテクニック(クレパスによる基礎技法　スクラッチ、ステンシル、バチック)
4.モダンテクニック(絵の具による基礎技法　デカルコマニー、ステンシル)
5.モダンテクニック(絵の具による基礎技法　ドリッピング、流し絵、にじみ絵)
6.モダンテクニック(絵の具による基礎技法　糸を使って、ストローを使って)
7.色彩の基礎知識(色と分類と属性)
8.色彩の基礎知識(色彩構成と色の混合)
9.粘土の造形　①触覚教材として体験する
10.粘土の造形　②造形素材として体験する
11.造形あそび―新聞紙で立体を作る
12.造形あそび―作成した立体で遊ぶことで、幼児の造形活動を理解する
13.造形あそび―廃材での工作
14.造形あそび―廃材での工作を完成させる
15.授業の振り返りとまとめ　乳幼児の造形活動について、授業内容をもとに理解する

準備学習(予習・復習)・時間
事後学習として、毎回の内容をファイルにまとめておくこと (60 分)　課題によっては必要な素材を準備する。(60 分)

テキスト
適宜、プリント配布する。

参考書・参考資料等
適宜、プリント配布する。

学生に対する評価
学習を反映させた作品 50%、自己評価からみる課題レポート 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)
(C) 課題内容の範囲で作品化できている。 実施した課題内容を理解しまとめられている。
(B) 課題内容を理解して作品化できている。 実施した課題内容を理解したうえで、自分の気付きも加えてまとめられている。
(A) 課題内容を理解したうえで自分なりに工夫を加えて作品化できている。 実施した課題内容を理解したうえで、自分の気付きや発展も加えてまとめられている。
(S) 課題の想定を超えた理解や工夫が加えられている。 実施した課題内容をだけでなく、それらを生かして実際の保育も想定しまとめられている

課題に対するフィードバックの方法
提出された課題やレポートは添削し、次回授業時に返却する

その他
基本的には個人での道具・材料は必要ないが、課題によっては事前に準備が必要な場合がある。その際には事前に予告する。アクティブ・ラーニングの手法を用いた作品制作や、メディア教材や ICT 教材を用いた授業を行うことがある。

科目名	教育実習Ⅰ(小)						学期	通年
ナンバリング	K3-17-141	実務経験の有無	有	単位数	4	担当者	村尾 聡	
科目の概要	本科目は、小学校での実習を行う。教育実習生として授業をはじめ、学校の全教育活動に参加し、教育活動の特色を理解する。学級経営や学習指導などの基本を身につけると共に、教員としての愛情や使命感を深めることを目的とする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	授業をはじめ、小学校教育の全教育活動に参加し、その内容を理解できる。	1-(1)a)
イ	学習指導案を作成し、各教科の授業を行うことができる。	1-(1)b)
ウ	児童の実態をふまえながら、教員として接することができる。	1-(2)b)

1	オリエンテーション、学校目標、生徒指導等の講話	実習日誌記録、講話記録作成(90分)
2	各教科の授業見学、給食指導補助、清掃活動補助等	実習日誌記録、授業記録作成(90分)
3	各教科の授業見学、給食指導補助、清掃活動補助等	実習日誌記録、授業記録作成(90分)
4	各教科の授業見学、給食指導補助、清掃活動補助等	実習日誌記録、授業記録作成(90分)
5	各教科の授業実施	実習日誌記録、指導略案作成(90分)授業反省記入(30分)
6	各教科の授業実施	実習日誌記録、指導略案作成(90分)授業反省記入(30分)
7	各教科の授業実施	実習日誌記録、指導略案作成(90分)授業反省記入(30分)
8	各教科の授業実施	実習日誌記録、指導略案作成(90分)授業反省記入(30分)
9	各教科の授業実施	実習日誌記録、指導略案作成(90分)授業反省記入(30分)
10	各教科の授業実施	実習日誌記録、指導略案作成(90分)授業反省記入(30分)
11	研究授業指導案作成にむけての研修	実習日誌記録、学習指導案作成(90分)
12	研究授業指導案作成	実習日誌記録、学習指導案作成(90分)
13	研究授業準備	実習日誌記録、板書計画、授業準備物作成(90分)
14	研究授業実施	実習日誌記録、研究授業反省記録作成(90分)
15	研究授業研究協議会、教育実習の振り返り	実習の振り返り記録作成(90分)

テキスト

「教育実習ハンドブック」

参考書・参考資料等

成績評価

実習校の評価(70%)

研究授業指導案(15%)

教育実習日誌(15%)

履修要件及び履修上の注意事項

教育実習を欠席した場合は、実習校および実習担当教員と協議し、振替日を設定する。

小学校一種資格取得の際必修。

課題に対する指導

教育実習日誌には毎日、指導教員(小学校)にコメントを記入してもらう。教育実習担当教員(大学)は実習生と相談し、実習校を訪問指導する。

オフィスアワー・連絡先 前期水曜2限、後期月曜3限に対応する。相談がある場合は事前の連絡をお願いしたい。murao@koyasan-u.ac.jp	
評価	満足できる状況
ア	小学校教育に関わる教員の指導を体験し、授業やその他の教育活動を行うことができる。
イ	教材の特質、児童の実態をふまえながら学習指導案を作成することができる。
ウ	教育実習に関わる記録を作成し、授業やその他の児童の指導に関する振り返りを行うことができる。
授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 兵庫県神戸市の公立小学校で32年間勤務してきた経験から、小学校教員の指導内容、指導方法がどのようなものかを指導していきたい。	

科目名	教育実習の研究Ⅰ(小)						学期	通年・水・3
ナンバリング	K3-17-149	実務経験の有無	有	単位数	1	担当者	善野八千子	
科目の概要	小学校教育実習の目的や内容を理解する。学習指導案を作成し、それをもとに模擬授業を実施する。教育実習後は、実習で学んだことの報告会を実施する。 事前指導では、教育実習の意義や目的を理解し、実習へ向けての心構えを持つことができるよう、小学校教員の役割や責任、生徒指導、地域との関わり、授業づくりなどについて具体例をふまえながら学ぶ。 事後指導では、実習で得た成果と課題を今後の教育実践に役立てることができるように、実習で学んだことに依拠しながら実習で得た自らの課題を解決する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	小学校教育実習の目的や内容が理解できる。	1-(2)b), 1-(2)c)
イ	教材の特質や学年の発達段階をふまえ、教材を分析し、学習指導案を作成することができる。 学習指導案をもとに、模擬授業を行うことができる。	1-(1)d), 1-(1)e)
ウ	学習指導案をもとに、模擬授業を行うことができる。	1-(1)i), 1-(1)k)
エ	教育実習で学んだことを適切に発表することができる。	1-(1)g), 1-(1)h)

回	授業内容	授業外の学修
1	【事前指導】教育実習の意義と目的 (「実習ハンドブック」(高野山大学)を使用) ○教育実習の意義と目的の確認、 講義全体の流れと諸手続きの理解 教育実習の意義と目的,臨むに当たっての心構えと諸注意 実習記録の書き方, 個人情報の取り扱い方	事前に「実習ハンドブック」(高野山大学)を確認すること 復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90 分) 予習:次回の学修内容条件とした取り組みを課す(90 分)
2	【事前指導】教育実習の実際についての理解(1) (「実習ハンドブック」(高野山大学)を使用) (1)教育実習の実際についての理解(「学校運営・学級運営」等) (教育実習ガイダンス等シートを含む) (2)「教育実習のマナーと心得」 (3)「授業づくりについて」 (4)「指導案の作成」 ・授業に関すること (指導案作成、教材分析、授業実践とその評価等)	復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90 分) 予習:次回の学修内容条件とした取り組みを課す(90 分)
3	【事前指導】教育実習の実際についての理解(1) (「実習ハンドブック」(高野山大学)」を使用) ○教育実習の実際についての理解(「現代の学校の課題」等)	復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90 分) 予習:次回の学修内容条件とした取り組みを課す(90 分)
4	【事前指導】模擬授業と模擬授業後の討議① ○模擬授業①:「実習ハンドブック」(高野山大学)に基づく指導	復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90 分) 予習:次回の学修内容条件とした取り組みを課す(90 分)

5	【事前指導】模擬授業と模擬授業後の討議② ○模擬授業②:「実習ハンドブック」(高野山大学)に基づく指導	復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90分) 予習:次回の学修内容条件とした取り組みを課す(90分)
6	【事前指導】模擬授業と模擬授業後の討議③ ○模擬授業③:「実習ハンドブック」(高野山大学)に基づく指導	復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90分) 予習:次回の学修内容条件とした取り組みを課す(90分)
7	【事前指導】模擬授業と模擬授業後の討議④ ○模擬授業④:「実習ハンドブック」(高野山大学)に基づく指導	復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90分) 予習:次回の学修内容条件とした取り組みを課す(90分)
8	【事前指導】模擬授業と模擬授業後の討議⑤ ○模擬授業⑤:「実習ハンドブック」(高野山大学)に基づく指導	復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90分) 予習:次回の学修内容条件とした取り組みを課す(90分)
9	【事前指導】再 (1)「現代の学校の課題」(2)「学校安全について」	復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90分) 予習:次回の学修内容条件とした取り組みを課す(90分)
10	【事前指導】再 (3)「特別な配慮を要する児童の支援」について	復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90分) 予習:次回の学修内容条件とした取り組みを課す(90分)
11	【事前指導】再 (4)「教育実習の手引きについて」(お礼状の書き方を含む)	復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90分) 予習:次回の学修内容条件としたPPスライド資料作成を課す(90分)
12	【事後指導】教育実習報告会(1)前期 ※5～7月教育実習経験者が、その成果と課題について報告する・PPスライド資料発表と討議(レポート)	復習:講話や模擬授業を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90分) 予習:次回の学修内容条件としたPPスライド資料作成を課す(90分)
13	【事後指導】教育実習報告会(2):後期 ※8～11月教育実習経験者が、その成果と課題について報告する・PPスライド資料発表と討議(レポート)	復習:教育実習を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90分) 予習:次回の学修内容条件としたPPスライド資料作成を課す(90分)
14	【事後指導】実習の振り返り　実習経験と今後の課題発表と討議	復習:教育実習を体験した後、レポート学習への取り組みを課す(90分) 予習:次回の学修内容条件とした取り組みを課す(90分)
15	【事後指導】実習の振り返り　全体発表と総括(全体会) ○発表及び総括(最終レポート「教育実習で学んだことを基にして、めざす教師像についてまとめる」)。	復習:他者の学びから自己の深い学びにつなげる(90分)

テキスト 「実習ハンドブック」(高野山大学) 授業中に適宜，資料を配布する。	成績評価 リフレクションシート、授業態度・理解　30% 予習課題、プレゼン発表の内容　30%

参考書・参考資料等	テストまたはレポートの総合的な理解　40%
・「インターネット上の人権侵害の解消のための『低学年の絵本教材』の制作」『みんななかよし』	

履修要件及び履修上の注意事項

・小学校一種資格取得の際必修。対外的な見通しを持った事前準備がもとめられる。

・毎回、各自が必ずPCまたはタブレットなどのICT機器を持参して、学修する。

課題に対する指導

・随時、日門を受け付ける。

・授業での振り返りシート(提出された課題も)に書いた疑問・意見については,コメントを個々に返すとともに,全体の学びにつながるものは,次の授業内で共有し深める。

オフィスアワー・連絡先

・原則、水曜日の2限目に研究室で対応する。事前の連絡で日時調整を可能とする。yzen@koyasan-u.ac.jp

・緊急時に備えて、随時連絡体制が必要であるため、個別に連絡確認する。

評価	満足できる状況
ア	＜事前指導＞教育実習に臨むことができる知識とスキルを身に付けることができる。 ・授業に関すること(指導案作成、教材分析、授業実践とその評価等)
イ	＜事前指導＞教育実習に臨むことができる知識とスキルを身に付けることができる。 ・生徒指導に関すること(いじめ、保護者対応等)
ウ	＜事前指導＞教育実習に臨むことができる知識とスキルを身に付けることができる。 ・教師の役割に関すること(学級経営、校務分掌、安全指導等)
エ	＜事後指導＞ ・今後の教育実践に通用する知識とスキルを身に付けることができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☑PBL（問題解決型学習）

☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業）

☑ディスカッション、ディベート

☑プレゼンテーション

☑実習、フィールドワーク

☐その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

・ICT活用を踏まえて、主体的一人学びをペアワーク及びグループワークに生かし、探究的学びにつなげる。

授業でのICT活用

☑双方向型授業に活用

☑自主学習支援に活用

	その他 ICT 活用に関する特記事項 ・Google Classroom などの授業支援システムの活用とデジタル教科書の活用の仕方を学ぶ。

担当教員の実務経験の内容

29 年間の小学校教員及び管理職、教育委員会事務局主任指導主事として、教員の資質向上等の研究に取り組んできた。これらの現場経験を生かし、学校教育現場の実際の課題解決と合致させるかの具体的な指導をする。

１点目は、ICT 活用して学校現場の実態やニュース等から情報を表出させ、自分ごととして課題解決する展開である。２点目は、新たな知を創出する場面において、自己の変容を言語化させ自覚化を図る必要性を実感させる。

とりわけ、今日的な課題及びその課題解決のためにアクティブ・ラーニングをもとに学修を深める。

科目名	教育実習の研究Ⅰ(幼・小)						学期	通年
ナンバリング	K3-17-149	実務経験の有無	有	単位数	1	担当者	村尾 聡	
科目の概要	教育実習の研究Ⅰは、小学校教育実習の事前、事後指導を行う。内容は、①小学校教育実習の目的や内容を理解する。 ②学習指導案を作成し、それをもとに模擬授業を実施する。 ③教育実習後は、実習で学んだことの報告会を実施する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	小学校教育実習の目的と内容を理解できる。	1-(1)a),1-(1)b)
イ	学習指導案を作成し、模擬授業を実施できる。	1-(1)b)
ウ	教育実習で学んだことを報告会において報告できる。	1-(2)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	教育実習の目的と内容	「教育実習ハンドブック」を事前に読んでおく(60分)
2	授業記録の書き方①	授業記録作成(60分)
3	授業記録の書き方②	授業記録作成(60分)
4	学習指導案の書き方	資料の通読と要点整理(60分)
5	学習指導案の作成(児童観、教材観、指導観)	学習指導案作成(60分)
6	学習指導案の作成(本時の展開)	学習指導案作成(60分)
7	学習指導案の作成(板書計画、準備物作成)	模擬授業準備物作成(60分)
8	模擬授業①	模擬授業の記録作成(60分)
9	模擬授業②	模擬授業の記録作成(60分)
10	模擬授業③	模擬授業の記録作成(60分)
11	実習日誌の書き方、お礼状の書き方	資料の通読と要点整理(60分)
12	報告会準備①	報告会の準備資料作成(60分)
13	報告会準備②	報告会の準備資料作成(60分)
14	教育実習報告会①	報告会の記録作成(60分)
15	教育実習報告会②	まとめのレポート作成(90分)

テキスト	成績評価
「教育実習ハンドブック」	授業記録(10%) 学習指導案(20%) 模擬授業(20%) 報告会(20%) まとめのレポート(20%) 授業への取り組み(10%)
参考書・参考資料等	

履修要件及び履修上の注意事項

教育実習の研究Ⅰの授業出席状況が悪い場合（4回以上の欠席）は、実習参加を認めない。

小学校一種資格取得の際必修。

課題に対する指導

質問や意見については、授業内で振り返りを行う。

オフィスアワー・連絡先	
前期水曜2限、後期月曜3限に対応する。相談がある場合は事前の連絡をお願いしたい。murao@koyasan-u.ac.jp	
評価	満足できる状況
ア	模擬授業を参観し、授業記録を作成することができる。
イ	形式をふまえた学習指導案を作成することができる。
ウ	学習指導案をもとに模擬授業を実施することができる。
エ	教育実習で学んだこと、反省点等を報告会で報告することができる。
授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 兵庫県神戸市の公立小学校で32年間勤務してきた経験から、小学校教員の指導内容、指導方法がどのようなものかを指導していきたい。	

科目名	教育実習Ⅱ(幼1)						学期	通年
ナンバリング	K3-17-142	実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	本実習は、幼稚園での実習の最初であり、幼稚園における保育活動の実際をよく理解し、その上で教育実習生として幼稚園の保育活動に参加し、園児への対応、組織の一員としてのふるまい、専門職に求められる諸技能などの基本を身につけるとともに、教員としての愛情や使命感を深めることを目的とする。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連DP
ア	幼稚園教諭に求められる倫理や視点、知識が理解できる。	1-(2)h)
イ	幼稚園教諭に求められる諸技能が理解できる。	1-(1)b)
ウ	組織の一員としての自覚をもつことができる。	1-(2)g)

回	授業内容	授業外の学修
	期間中に、実習担当教員、教職センターが委託施設等を訪問・参観・指導にあたる。 2週間の実習のうち、1週間の実習終了後、担当教員と共に振り返りを行う。振り返りでは、実習での課題がどこまで達成できたのかについて綿密なふりかえりを行い、問題があればその解決に向けた方策を考えて行く。また、職業人としての意識の涵養を図っていく。 実習では、以下の点について指導が行われる。 ①園内見学と実習内容に関する説明 ②保育参観 ③保育の実際に関する説明 ④指導案の作成 ⑤保育実習 ⑥園内活動への参加 ⑦園児指導、教育相談等への参加 ⑧実習研究授業(特定日の保育実習をもってこれにあてる) ⑨実習研究座談会(最終日の午後に行なう)	実習そのものが学びであるため、授業外の学修は本来設定されないが、実習を実施する上で必要な書類等の準備が必要となる。また、毎日実習記録を書くことになる。実習後にも「まとめ」の記入等が必要となる。 日々の取り組みが極めて重要となるため、心に留めておくこと。

テキスト	成績評価
小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子著『改訂版　幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』、わかば社、2023年。	提出物および実習への取り組みの姿勢、巡回指導での様子、実習先からの評価を踏まえ総合的に判断する。
参考書・参考資料等	

『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、チャイルド本社、2017年。 その他適宜紹介する。	

履修要件及び履修上の注意事項

幼稚園教員免許状取得のための必修科目である。 「要覧」の実習要件を必ず確認すること。

事前オリエンテーション・実習園への遅刻、早退、欠席、提出物の遅延、連絡遅延等がある場合は、実習を中止することがある。

課題に対する指導

実習前後の実習指導および巡回指導において実習先の指導者等を交えた面談を行う。記録等については都度コメントし、共同作業する中で課題に取り組む。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	幼稚園教諭に求められる倫理観や使命、視点、知識を理解し、修得しようとしている。
イ	子どもとの関わりや記録など、幼稚園教育に求められる諸技能を理解し、修得しようとしている。
ウ	組織の一員としての自覚を持ち、組織の中で自らを活かそうとしている。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)						学期	通年
ナンバリング	K3-21-150	実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	実習に向け、幼稚園教諭としての倫理や態度、基礎的な知識や技術を学ぶことができるよう、実習前に周到な準備を行うことができるよう指導する。実習の意義や進行について概説した後、学生自身が目標を定め、それを実現するための教材準備を促す。実習後は、実習日誌等を基に振り返りをすることで、次の実習に向けて課題を見いだせるよう指導する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	実習に向けての心がけや態度を修得することができる。	1-(2)g)
イ	実習に向けて求められる基礎的な知識や技術を理解することができる。	1-(1)l)
ウ	自らの課題に向き合い、その解決に取り組もうとする姿勢を身につける。	1-(2)h)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
2	実習計画書の記入とその他の書類の確認・記入	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
3	実習先と幼児への理解	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
4	実習における観察・記録・評価等について	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
5	指導案の作成と模擬保育	指導案に関する資料等の収集(180分)
6	実習直前の指導(マナー等)及び守秘義務等の確認	ふりかえりと実習先に関する資料の収集(180分)
7	実習のふりかえり 実習全般と専門性	実習のふりかえりとワークシートの作成、事例の選定(180分)
8	実習のふりかえり 課題の確認と事例検討	実習のふりかえりと今後の課題の明確化(180分)

テキスト

小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子著『改訂版　幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』、わかば社、2023年。

※実習と同じ

参考書・参考資料等

『平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、チャイルド本社、2017年。

その他適宜紹介する。

成績評価

授業への参加の度合い（30%）

提出物及び実習ノート（70%）

履修要件及び履修上の注意事項

幼稚園教員免許状取得のための必修科目である。

授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。

課題に対する指導

自身の実習課題に関連する準備物等、個別に対応して指示する。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	実習に向けての心がけや態度が身についており、実習で活用できている。
イ	実習に向けて求められる基礎的な知識や技術を理解し、実習で活用できている。
ウ	実習での体験をもとに自らの課題に向き合い、その解決に取り組もうとすることができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	教育実習Ⅲ(幼2)						学期	通年
ナンバリング		実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	本実習は、前回の実習を踏まえ、明確な課題意識のもと、責任実習、さらには全日実習を行うことが目指される。幼稚園での指導に加え、教員による訪問指導も実施する。実習前半では、学級や子どもの成長と生活の実態把握、実習後半は、保育内容の構成と具体的な指導を実践した上で学ぶこととなる。継続的かつ繰り返しの関わりを通した実践力の定着が求められる。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	幼稚園教諭の役割や機能をより具体的に理解することができる	2-(1)a)
イ	子どもと家庭・幼稚園での生活についての理解を深めることができる。	2-(1)d)
ウ	教育活動とそこで用いられる技術について理解し、実践することができる。	2-(2)e)

回	授業内容	授業外の学修
	期間中に、実習担当教員、教職センターが委託施設等を訪問・参観・指導にあたる。 2週間の実習のうち、1週間の実習終了後、担当教員と共に振り返りを行う。振り返りでは、実習での課題がどこまで達成できたのかについて綿密なふりかえりを行い、問題があればその解決に向けた方策を考えて行く。また、職業人としての意識の涵養を図っていく。 実習では、以下の点について指導が行われる。 ①実習内容に関する説明 ②保育の実際に関する説明 ③指導案の作成 ④保育実習 ⑤園内活動への参加 ⑥園児指導、教育相談等への参加 ⑦実習研究授業(特定日の保育実習をもってこれにあてる) ⑧保護者対応・地域との関わりに関する説明 ⑨実習研究座談会(最終日の午後に行なう)	実習そのものが学びであるため、授業外の学修は本来設定されないが、実習を実施する上で必要な書類等の準備が必要となる。また、毎日実習記録を書くことになる。実習後にも「まとめ」の記入等が必要となる。 日々の取り組みが極めて重要となるため、心に留めておくこと。

テキスト	成績評価
適宜資料を配付する。	提出物および実習への取り組みの姿勢、巡回指導での様子、指導案の内容と実施状況、実習先からの評価を踏まえ総合的に判断する。
参考書・参考資料等 適宜紹介する。	

履修要件及び履修上の注意事項

幼稚園教員免許状取得のための必修科目である。 「要覧」の実習要件を必ず確認すること。
事前オリエンテーション・実習園への遅刻、早退、欠席、提出物の遅延、連絡遅延等がある場合は、実習を中止することがある。

課題に対する指導

実習前後の実習指導および巡回指導において実習先の指導者等を交えた面談を行う。記録等については都度コメントし、共同作業する中で課題に取り組む。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	幼稚園教諭の役割や機能について、具体的な場面を挙げ説明することができる。
イ	子どもとその生活を理解するにあたっての認識の枠組みを確立できている。
ウ	幼稚園教育要領への理解に基づき、適切な指導案を作成・展開することができる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)						学期	通年
ナンバリング		実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	事前指導では、先の教育実習Ⅱにおける学びと課題をもとに、教育実習Ⅲの目標を確認する。その後、実習時期に応じた幼稚園での生活環境や子どもの様子を想定した指導計画の準備や教材研究などを通して、実践力の底上げをはかる。事後指導では、報告や討論、事例検討、自己評価等を通してふりかえりを行い、学びの定着をはかるとともに、今後の学習課題を明確にしていく。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	前回の実習における学びを活かした課題設定ができる。	1-(2)g)
イ	適切な指導計画の準備や教材研究ができる。	1-(1)m)
ウ	現場経験を踏まえ、常に自らの課題を見いだすことのできる力が身につく。	1-(2)h)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
2	実習計画書の記入とその他の書類の確認・記入	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
3	実習計画書の内容に関する質疑応答とグループワーク	実習課題に関する資料の収集(180分)
4	指導案の立案と資料収集	指導案作成に関する資料の収集・とりまとめ(180分)
5	指導案の実施と相互評価	指導案実施のふりかえりと課題の深化(180分)
6	実習直前の指導(マナー等)及び職業倫理等の確認	ふりかえりと職業倫理の再確認(180分)
7	実習のふりかえり 実習全般と専門性、職業人としての姿勢	実習のふりかえりとワークシートの作成、事例の選定(180分)
8	実習のふりかえり 課題の達成度評価と事例検討	実習のふりかえりと今後の課題の明確化(180分)

テキスト

適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

成績評価

授業への参加の度合い（30%）

提出物及び指導案、実習ノート（70%）

履修要件及び履修上の注意事項

幼稚園教員免許状取得のための必修科目である。

授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。

課題に対する指導

自身の実習課題に関連する準備物等、個別に対応して指示する。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況

ア	前回の実習における学びを活かした課題設定ができる。
イ	適切な指導計画の準備や教材研究ができる。
ウ	現場経験を踏まえ、常に自らの課題を見いだすことのできる力が身につく。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	保育実習Ⅰ(保育所)						学期	通年
ナンバリング	K3-21-145	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	本山　司	
科目の概要	本授業は、保育士資格を取得するために必要な実習科目である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、保育士として必要な資質を向上させることを目的としている。 保育実習Ⅰ(保育所)では、保育士としての保育活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	保育所の役割や機能を具体的に理解することができる。	1-(1)a)
イ	観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができる。	1-(1)l)
ウ	既修得の授業科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保育者への支援について総合的に理解することができる。	1-(3)b)
エ	保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解することができる。	1-(1)c)
オ	保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる。	1-(1)m)

回	授業内容	授業外の学修
1	実習期間中に、実習担当教員、教職センターが委託校を訪問・参観・指導にあたる。	【事前学習】実習施設のオリエンテーション内容を理解して準備し実習に臨むこと。実習事前指導の内容をよく理解し、課題を明確にして日々の実習に臨むこと(90分)。 【事後学習】日々の実習について振り返り、実習日誌に記録する。実習施設での反省会、保育士からの助言、実習担当教員からの指導を受け、自己の課題を明確にする(90分)。
2	2週間の実習のうち、1週間の実習終了後、担当教員と共に振り返りを行う。振り返りでは、実習での様子や問題点を明らかにし、問題があれば解決をはかる。また、実習参加に際して、持っていた教育学的課題について議論し、解決された場合には新たな課題を設定して次の実習に参加する。	
3	[実習内容]	
4	1　保育所の役割と機能	
5	2　子どもの理解	
6	3　保育内容・保育環境	
7	4　保育の計画・観察・記録	
8	5　専門職としての保育士の役割と職業倫理	

テキスト
・『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社
・「実習ハンドブック」(高野山大学作成)

参考書・参考資料等
適宜、プリントで配布

成績評価
実習評価(50%)、実習日誌(25%)、実習報告(実習報告書、実習報告会での内容)(25%)で総合的に評価する。

履修要件及び履修上の注意事項

実習およびアクティブ・ラーニングの内容の配分・順序は実習をする保育所の状況によって異なる。事前オリエンテーション、保育所実習の遅刻、早退、欠席、提出物の遅延、連絡遅延等がある場合は、実習を中止することがある。適宜、質疑に対応し指導助言を行う。
保育士資格取得の際必修。

課題に対する指導
2 週間の実習のうち、1 週間の実習終了後、振り返りを行う。実習終了後に個別面談を実施し、実習先からの評価を通知するとともに、実習日誌、実習報告の内容を踏まえて全体実習に対する講評・助言を行う。

オフィスアワー・連絡先
水曜日のお昼休みに研究室で対応する。
メール:t_motoyama@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	子どもたちの安全を最優先に考え、衛生面や環境面での管理が適切に行えていた。
イ	子どもとの関わりを通じて得た気づきを振り返り、より良い支援方法を模索して改善に取り組んでいる。
ウ	既に学んだ理論や知識を実際の保育現場に適用し、子どもや保育者への支援に活かしている。
エ	子どもの行動や発達の様子を観察し、その情報を的確に記録に反映させる能力がある、またその記録が保育の改善に活用されている。
オ	保育士としての役割や責任を明確に理解し、日々の保育業務においてその業務内容を適切に実践できている。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☐PBL（問題解決型学習） ☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク ☐その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☐自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容
特になし。

科目名	保育実習指導Ⅰ(保育所)						学期	通年
ナンバリング	K3-21-153	実務経験の有無	無	単位数	1	担当者	本山　司	
科目の概要	本授業は、保育実習Ⅰ(保育所)に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習等で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び保育所の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。保育所の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	保育実習の意義と目的を理解し、実習の重要性を認識することができる。	1-(1)a)
イ	実習内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。	1-(1)b)
ウ	子どもの人権、最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務など、実習施設での倫理的配慮を理解することができる。	1-(2)g)
エ	実習の計画・実践・観察・記録・評価について理解し、事後指導を通じて総括と自己評価を行い、今後の課題や目標を設定することができる。	1-(1)c)
オ		

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション(実習目的の理解、実習目的を基にした実習手続きと実習カードの指導、記入)	予習・復習とも60分以上取り組むこと。
2	実習先の制度等の理解、実習目的に基づく自己課題を明確にする	予習・復習とも60分以上取り組むこと。
3	実習記録の書き方　①目的とねらいを理解する、②子どもの動きと保育者の動き	予習・復習とも60分以上取り組むこと。
4	保育計画指導案の立て方　①ねらいをもった指導案作成について	予習・復習とも60分以上取り組むこと。
5	実習に関わる演習　①ソーシャルスキルに関わる演習、②手遊び、③絵本の読み聞かせ	予習・復習とも60分以上取り組むこと。
6	実習直前の指導(マナー、一日の流れ等)	予習・復習とも60分以上取り組むこと。
7	実習の振り返りによる自己課題を明確にする	予習・復習とも60分以上取り組むこと。
8	実習報告会、まとめ	予習・復習とも60分以上取り組むこと。

『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社(生協で購入)「実習ハンドブック」(高野山大学作成)

参考書・参考資料等

適宜、プリントで配布

成績評価

事前準備(20%)、課題提出・到達状況(40%)、実習後の振り返り・まとめ・報告(40%)で総合的に評価する。

履修要件及び履修上の注意事項

授業においては、誠実かつ意欲的に取り組み、遅刻や欠席を避け、課題や提出物の期限を厳守する。保育者として必要な職業意識・倫理観を養い、社会人としての基本的マナーを身に付けることが目標である。また、授業内容にはグループディス

カッションやプレゼンテーションを取り入れたアクティブ・ラーニングを多く実施し、メディア教材やICT教材を活用することがあるため、積極的に参加してすること。
保育士資格取得の際必修。

課題に対する指導
各課題については適宜フィードバックを行う。

オフィスアワー・連絡先
水曜日のお昼休みに研究室で対応する。
メール:t_motoyama@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	保育実習の意義と目的を理解し、学びの重要性を認識した上で、自己成長にどう活かすかを具体的に説明できる。
イ	実習内容をしっかりと理解し、自分の課題を具体的に明確化し、それに対してどのように取り組むかを計画できる。
ウ	子どもの人権、最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務について、倫理的な判断を行うことができる。
エ	実習の計画・実践・観察・記録・評価を理解し、事後指導を通じて自己評価し、今後の課題や目標を設定できる。

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業でのICT活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他ICT活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

科目名	保育実習Ⅰ(福祉施設)						学期	通年
ナンバリング	K3-21-146	実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	保育士資格を取得するために必要な実習科目である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、保育士として必要な資質を向上させることを目的としている。 保育実習Ⅰ(福祉施設)では、福祉施設の活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。							

	目標(この科目を通して獲得をさせたい力)	関連DP
ア	福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる	2-(1)a)
イ	観察や直接的な関わりを通して対象者への理解を深めることができる。	2-(1)d)
ウ	保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解することができる。	2-(1)b)
エ	保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる。	2-(2)d)

回	授業内容	授業外の学修
	期間中に、実習担当教員、教職センターが委託施設等を訪問・参観・指導にあたる。 2週間の実習のうち、1週間の実習終了後、担当教員と共に振り返りを行う。振り返りでは、実習での様子や問題点を明らかにし、問題があれば解決をはかる。また、実習参加に際して自らの課題について議論し、解決された場合には新たな課題を設定して次の実習に参加する。 実習では以下のことを学ぶ。 ①施設の役割と機能 ②対象者の理解 ③施設における対象者の生活と環境 ④計画と記録 ⑤専門職としての保育士の役割と倫理	実習そのものが学びであるため、授業外の学修は本来設定されないが、実習を実施する上で必要な書類等の準備が必要となる。また、毎日実習記録を書くことになる。実習後にも「まとめ」の記入等が必要となる。 日々の取り組みが極めて重要となるため、心に留めておくこと。

テキスト	成績評価
守 巧・小櫃 智子・二宮 祐子・佐藤 恵著『改訂版　施設実習パーフェクトガイド』、わかば社、2023年。　※実習指導と同じ。	提出物および実習への取り組みの姿勢、巡回指導での様子、実習先からの評価を踏まえ総合的に判断する。
参考書・参考資料等 適宜紹介する。	

履修要件及び履修上の注意事項
保育士資格取得のための必修科目である。　「要覧」の実習要件を必ず確認すること。

事前オリエンテーション、福祉施設実習の遅刻、早退、欠席、提出物の遅延、連絡遅延等がある場合は、実習を中止することがある。

課題に対する指導

実習前後の実習指導および巡回指導において実習先の指導者等を交えた面談を行う。記録等については都度コメントし、共同作業する中で課題に取り組む。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	福祉施設等の役割や機能について、実習を踏まえて説明することができる。
イ	対象者への理解に関して、個別の事例を通して深めることができている。
ウ	保育の計画・観察・記録及び自己評価等について、体験を踏まえて実施することができる。
エ	保育士の業務内容や職業倫理について、体験を通して修得することができている。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☐PBL（問題解決型学習）
☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業）
☐ディスカッション、ディベート
☐プレゼンテーション
☑実習、フィールドワーク
☐その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

授業での ICT 活用

☐双方向型授業に活用
☑自主学習支援に活用

その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	保育実習指導Ⅰ(福祉施設)						学期	通年
ナンバリング	K3-21-154	実務経験の有無		単位数	1	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	本授業は、保育実習Ⅰ(福祉施設)に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習等で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、対象者理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び福祉施設を取り巻く環境を理解することを目的としている。福祉施設の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。							

目標(この科目を通して獲得をさせたい力)		関連DP
ア	実習の意義・目的を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。	2-(1)c)
イ	対象者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができる。	2-(2)d)
ウ	実習の計画・実践・観察・記録・評価について具体的に理解することができる。	2-(2)e)
エ	実習のふりかえりを通し、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができる。	2-(1)d)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
2	実習計画書の記入とその他の書類の確認・記入	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
3	実習先と対象者への理解	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
4	実習先利用のためのサービス等への理解	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
5	実習における観察・記録・評価等について	ふりかえりと実習先に関する資料の収集(180分)
6	実習直前の指導(マナー等)及び守秘義務等の確認	ふりかえりと実習先に関する資料の収集(180分)
7	実習のふりかえり 実習全般と専門性	実習のふりかえりとワークシートの作成、事例の選定(180分)
8	実習のふりかえり 課題の確認と事例検討	実習のふりかえりと今後の課題の明確化(180分)

テキスト

守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵著『改訂版　施設実習パーフェクトガイド』、わかば社、2023年。

小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子著『改訂版　実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』、わかば社、2023年。

※実習と同じ。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

成績評価

授業への参加の度合い（30%）

提出物及び実習ノート（70%）

履修要件及び履修上の注意事項

保育士資格取得のための必修科目である。

授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。

課題に対する指導

自身の実習課題に関連する準備物等、個別に対応して指示する。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	実習の課題やその理由、課題をクリアする方法が明確で、口頭で説明できる。
イ	実習における専門職の倫理とそれに伴うふるまいの大切さについて自覚している。
ウ	実習の学びのプロセスを理解し、そのときどきにおける自らの「立ち位置」が理解できている。
エ	自らと向き合い、常に課題を見いだしクリアしていこうとする姿勢が見られる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☐PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☐プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク ☐その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 介護技術演習の実施
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	保育実習Ⅱ						学期	通年
ナンバリング		実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	保育実習Ⅰ（保育所)の学びをより深め、かつ、将来に繋げていくための実習を行う。実習指導者の指導のもと、自らの課題意識をより明確にした形で、継続的な関わりやより踏み込んだ関わりを通して、保育の専門性の本質を学ぶ。また、現場で働く保育士に求められる倫理や知識、技術をより具体的なものとしていく。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連 DP
ア	保育所等で働く保育士の役割や機能を具体的に理解することができる	2-(1)a)
イ	子どもと家庭・保育所での生活についての理解を深めることができる。	2-(1)d)
ウ	保育活動とそこで用いられる技術について具体的に理解することができる。	2-(2)e)
エ	保育士の職業倫理についてより深く理解することができる。	2-(2)d)

回	授業内容	授業外の学修
	期間中に、実習担当教員、教職センターが委託施設等を訪問・参観・指導にあたる。 2週間の実習のうち、1週間の実習終了後、担当教員と共に振り返りを行う。振り返りでは、実習での課題がどこまで達成できたのかについて綿密なふりかえりを行い、問題があればその解決に向けた方策を考えて行く。また、職業人としての意識の涵養を図っていく。 実習では以下のことを学ぶ。 ①保育士の役割と機能 ②子どもの生活理解 ③保育指針への理解と具体的な技術 ④指導案の実施とふりかえり、記録 ⑤専門職としての保育士の役割と倫理	実習そのものが学びであるため、授業外の学修は本来設定されないが、実習を実施する上で必要な書類等の準備が必要となる。また、毎日実習記録を書くことになる。実習後にも「まとめ」の記入等が必要となる。 日々の取り組みが極めて重要となるため、心に留めておくこと。

テキスト	成績評価
適宜資料を配付する。	提出物および実習への取り組みの姿勢、巡回指導での様子、指導案の内容と実施状況、実習先からの評価を踏まえ総合的に判断する。
参考書・参考資料等 適宜紹介する。	

履修要件及び履修上の注意事項
保育士資格取得のための必修科目である。　「要覧」の実習要件を必ず確認すること。

事前オリエンテーション・実習園への遅刻、早退、欠席、提出物の遅延、連絡遅延等がある場合は、実習を中止することがある。

課題に対する指導

実習前後の実習指導および巡回指導において実習先の指導者等を交えた面談を行う。記録等については都度コメントし、共同作業する中で課題に取り組む。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	保育所で働く専門職の役割や機能について、具体的な場面を挙げ説明することができる。
イ	子どもとその生活を理解するにあたっての認識の枠組みを確立できている。
ウ	保育指針への理解に基づき、適切な指導案を作成・展開することができる。
エ	保育士の職業倫理について修得し、自らのふるまいや態度に示すことができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

□PBL（問題解決型学習）
□反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業）
□ディスカッション、ディベート
□プレゼンテーション
☑実習、フィールドワーク
□その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

授業での ICT 活用

□双方向型授業に活用
☑自主学習支援に活用

その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	保育実習指導Ⅱ						学期	通年
ナンバリング		実務経験の有無		単位数	1	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	本授業は、保育実習Ⅱに参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。 実習Ⅰでの課題を踏まえ、それらをどのような形で深めていくのか、また、卒業後の就職を見据えた形でどのような実習を行うのかを考え、一人ひとりが自主的に自らの課題に取り組み、より充実した実習を行うための準備を行う。また、実習後は、保育所における保育士の役割や専門性について改めて考えつつ、専門職としての自覚と展望を明確なものとしていく。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連DP
ア	実習Ⅰを踏まえ、自らの実習の課題を明確にすることができる。	2-(1)c)
イ	自らの課題を踏まえ、適切な情報収集を行うことができる。	2-(2)d)
ウ	実習に必要な実践力を修得しようとする姿勢を身につけることができる。	2-(2)e)
エ	実習のふりかえりを通し、将来に向けた課題や目標を明確にすることができる。	2-(1)d)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
2	実習計画書の記入とその他の書類の確認・記入	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
3	実習計画書の内容に関する質疑応答とグループワーク	実習課題に関する資料の収集(180分)
4	指導案の立案と資料収集	指導案作成に関する資料の収集・とりまとめ(180分)
5	指導案の実施と相互評価	指導案実施のふりかえりと課題の深化(180分)
6	実習直前の指導(マナー等)及び職業倫理等の確認	ふりかえりと職業倫理の再確認(180分)
7	実習のふりかえり 実習全般と専門性、職業人としての姿勢	実習のふりかえりとワークシートの作成、事例の選定(180分)
8	実習のふりかえり 課題の達成度評価と事例検討	実習のふりかえりと今後の課題の明確化(180分)

テキスト

適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

成績評価

授業への参加の度合い（30%）

提出物及び指導案、実習ノート（70%）

履修要件及び履修上の注意事項

保育士資格取得のための必修科目である。

授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。

課題に対する指導

自身の実習課題に関連する準備物等、個別に対応して指示する。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	実習の課題やその理由、課題をクリアする方法が明確で、口頭で説明できる。
イ	自らに足りないことを解決するための資料収集や具体的な取り組みの内容を自覚している。
ウ	日常的な実践や態度の中に、日々の行動を通して自らの課題に取り組もうとする姿勢が見て取れる。
エ	常に自らと向き合い、向上させていこうとする姿勢が見られる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 介護技術演習の実施
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	保育実習Ⅲ						学期	通年
ナンバリング		実務経験の有無		単位数	2	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	保育実習保育実習Ⅰ(福祉施設)の学びをより深め、かつ、将来に繋げていくための実習を行う。実習指導者の指導のもと、自らの課題意識をより明確にした形で、継続的な関わりやより踏み込んだ関わりを通して、対人支援の本質を学ぶ。また、現場で働く専門職に求められる倫理や知識、技術をより具体的なものとしていく。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	福祉施設等で働く専門職の役割や機能を具体的に理解することができる	2-(1)a)
イ	対象者とその生活についての理解を深めることができる。	2-(1)d)
ウ	支援の過程とそこで用いられる技術について具体的に理解することができる。	2-(2)e)
エ	専門職の職業倫理についてより深く理解することができる。	2-(2)d)

回	授業内容	授業外の学修
	期間中に、実習担当教員、教職センターが委託施設等を訪問・参観・指導にあたる。 2週間の実習のうち、1週間の実習終了後、担当教員と共に振り返りを行う。振り返りでは、実習での課題がどこまで達成できたのかについて綿密なふりかえりを行い、問題があればその解決に向けた方策を考えて行く。また、職業人としての意識の涵養を図っていく。 実習では以下のことを学ぶ。 ①専門職の役割と機能 ②対象者の生活理解 ③支援の家庭と具体的な技術 ④支援計画と記録 ⑤専門職としての保育士の役割と倫理	実習そのものが学びであるため、授業外の学修は本来設定されないが、実習を実施する上で必要な書類等の準備が必要となる。また、毎日実習記録を書くことになる。実習後にも「まとめ」の記入等が必要となる。 日々の取り組みが極めて重要となるため、心に留めておくこと。

テキスト	成績評価
適宜資料を配付する。	提出物および実習への取り組みの姿勢、巡回指導での様子、実習先からの評価を踏まえ総合的に判断する。
参考書・参考資料等 適宜紹介する。	

履修要件及び履修上の注意事項

保育士資格取得のための必修科目である。 「要覧」の実習要件を必ず確認すること。

事前オリエンテーション、福祉施設実習の遅刻、早退、欠席、提出物の遅延、連絡遅延等がある場合は、実習を中

止することがある。

課題に対する指導

実習前後の実習指導および巡回指導において実習先の指導者等を交えた面談を行う。記録等については都度コメントし、共同作業する中で課題に取り組む。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	福祉施設等で働く専門職の役割や機能について、具体的な場面を挙げ説明することができる。
イ	対象者とその生活を理解するにあたっての認識の枠組みを確立できている。
ウ	支援の過程への理解に基づき、適切な技術を模索することができる。
エ	専門職の職業倫理について修得し、自らのふるまいや態度に示すことができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	保育実習指導Ⅲ						学期	通年
ナンバリング		実務経験の有無		単位数	1	担当者	溝渕 淳	
科目の概要	本授業は、保育実習Ⅲに参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。 実習Ⅰでの課題を踏まえ、それらをどのような形で深めていくのか、また、卒業後の就職を見据えた形でどのような実習を行うのかを考え、一人ひとりが自主的に自らの課題に取り組み、より充実した実習を行うための準備を行う。また、実習後は、福祉施設における保育士の役割や専門性について改めて考えつつ、専門職としての自覚と展望を明確なものとしていく。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	実習Ⅰを踏まえ、自らの実習の課題を明確にすることができる。	2-(1)c)
イ	自らの課題を踏まえ、適切な情報収集を行うことができる。	2-(2)d)
ウ	実習に必要な実践力を修得しようとする姿勢を身につけることができる。	2-(2)e)
エ	実習のふりかえりを通し、将来に向けた課題や目標を明確にすることができる。	2-(1)d)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
2	実習計画書の記入とその他の書類の確認・記入	書類等の作成と実習先に関する資料の収集(180分)
3	実習計画書の内容に関する質疑応答とグループワーク	実習課題に関する資料の収集(180分)
4	実習の課題に関するテーマ学習、資料収集	実習課題に関する資料の収集・とりまとめ(180分)
5	実習の課題に関するテーマ報告	実習に関する資料の収集と課題の深化(180分)
6	実習直前の指導(マナー等)及び職業倫理等の確認	ふりかえりと職業倫理の再確認(180分)
7	実習のふりかえり 実習全般と専門性、職業人としての姿勢	実習のふりかえりとワークシートの作成、事例の選定(180分)
8	実習のふりかえり 課題の達成度評価と事例検討	実習のふりかえりと今後の課題の明確化(180分)

テキスト

適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

成績評価

授業への参加の度合い（30%）

提出物及び実習ノート（70%）

履修要件及び履修上の注意事項

保育士資格取得のための必修科目である。

授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながらメディア教材やICT教材を用いることがある。

課題に対する指導

自身の実習課題に関連する準備物等、個別に対応して指示する。

オフィスアワー・連絡先

前期:木曜午後、後期:月曜1限・金曜3限　　アドレス　mizobuchi@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	実習の課題やその理由、課題をクリアする方法が明確で、口頭で説明できる。
イ	自らに足りないことを解決するための資料収集や具体的な取り組みの内容を自覚している。
ウ	日常的な実践や態度の中に、日々の行動を通して自らの課題に取り組もうとする姿勢が見て取れる。
エ	常に自らと向き合い、向上させていこうとする姿勢が見られる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☐PBL（問題解決型学習） ☑反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☐プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク ☐その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 介護技術演習の実施
	授業での ICT 活用 ☐双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

特になし。

科目名	学校・保育現場ボランティア						学期	集中
ナンバリング	K3-17-157	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	村尾　聡	
科目の概要	学校・保育現場でのボランティア活動。学校現場体験Ⅰ・Ⅱと同様に、週一回、学校・保育園等に出かける。これまで培った体験を一層活かし、小学校教員としてより高い資質・能力形成を行うため小学校、幼稚園、放課後子ども教室などにボランティアとして参加する活動を行う。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	各施設、小学校における幼児、児童の活動内容、幼児、児童の実態を理解できる。	1-(1)a),1-(1)l)
イ	各施設の職員、小学校教員の幼児、児童への指導内容を理解できる。	1-(1)b)
ウ	体験を通して学んだことを振り返り、表現できる。	1-(2)b)

回	授業内容	授業外の学修
1	学校・保育現場体験ボランティアの目的、内容、計画作成	シラバスを事前に読んでおく(30分) 学校・保育現場体験計画書作成(60分)
2	活動施設、小学校でのオリエンテーション(活動内容、活動日時等の確認)	オリエンテーションの内容をまとめる(60分)
3	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(1回目)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
4	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(1回目)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
5	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(1回目)	ボランティア活動日誌の作成(90分)
6	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(2回目)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
7	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(2回目)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
8	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(2回目)	ボランティア活動日誌の作成(90分)
9	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(3回目)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
10	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(3回目)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
11	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(3回目)	ボランティア活動日誌の作成(90分)
12	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(4回目)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
13	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(4回目)	活動内容のまとめ、気づいたこと(メモ)の整理(60分)
14	小学校または幼児・児童教育関連施設での体験(4回目)	ボランティア活動日誌の作成(90分)
15	活動体験の報告と振り返り	まとめのレポート作成(90分)

テキスト

参考書・参考資料等

成績評価

活動体験日誌(70%)

まとめのレポート(30%)

修要件及び履修上の注意事項

活動内容、活動日時等は、各施設、小学校との協議によって決定する。

課題に対する指導

現場体験日誌には、担当教員がコメントを書いて返却する。

オフィスアワー・連絡先	
前期水曜2限、後期月曜3限に対応する。相談がある場合は事前の連絡をお願いしたい。murao@koyasan-u.ac.jp	
評価	満足できる状況
ア	各施設、小学校における幼児、児童の活動内容、幼児、児童の実態を理解できている。
イ	各施設の職員、小学校教員の幼児、児童への指導内容を理解できている。
ウ	体験を通して学んだことを振り返り、表現できる。
授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項
担当教員の実務経験の内容 兵庫県神戸市の公立小学校で32年間勤務してきた経験から、小学校、幼児・児童関連施がどのようなものかを指導していきたい。	

科目名	地域体験ボランティア						学期	集中
ナンバリング	K3-19-158	実務経験の有無	無	単位数	1	担当者	本山　司	
科目の概要	体験活動Ⅰ～Ⅳで獲得した知識や技能、資質・能力を一層高めたいと思うものが選択する科目であり、地域社会との連携を深め、地域の課題解決に貢献するためのボランティア活動を通じて、実践的な学びを得ることを目的としている。学生は地域のさまざまな団体や施設での体験活動を通じて、地域社会の構造や課題、住民との協力方法を理解し、社会的責任を果たす重要性を学ぶ。また、活動を通じて、問題解決能力やコミュニケーション能力、チームワークを向上させ、地域貢献の意識を高める。ボランティア活動後には振り返りを行い、学びを深め、今後のキャリアに生かせるスキルを習得する。							

	目標（この科目を通して獲得をさせたい力）	関連DP
ア	地域体験ボランティア活動を通じて、地域社会の課題を認識し、自ら考えた解決策を提案できる能力を養う。	2-(1)a)
イ	地域の住民やボランティアとの円滑なコミュニケーションを実践し、振り返りを通じて自己成長を促進できる。	2-(2)a), 2-(1)b),2-(2)c), 2-(1)e)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション・ボランティア活動の意義	ボランティア意義調査(60分)、意義の整理と振り返り(60分)。
2	ボランティア活動の計画と目標設定	活動リサーチ(90分)、目標設定の確認(90分)。
3	ボランティア先の調査・連絡	ボランティア先調査(90分)、連絡結果確認(90分)。
4	ボランティア先との打ち合わせて	打ち合わせ準備(60分)、事前確認内容整理(60分)。
5	ボランティア活動の準備と確認	活動準備・知識調査(90分)、活動準備確認(90分)
6	ボランティア活動1回目①(活動前の準備と確認)	活動準備確認(60分)、活動後改善点整理(60分)。
7	ボランティア活動1回目②(活動実施)	活動準備確認(60分)、活動振り返り記録(60分)。
8	ボランティア活動1回目③(振り返りと学びの整理)	活動準備確認(60分)、学びの整理と振り返り(60分)。
9	ボランティア活動の中間報告	中間報告内容整理(90分)、報告結果確認(90分)
10	ボランティア活動2回目①(活動前の準備と確認)	活動準備確認(60分)、活動後改善点整理(60分)。
11	ボランティア活動2回目②(活動実施)	活動準備確認(60分)、活動振り返り記録(60分)。
12	ボランティア活動2回目③(振り返りと学びの整理)	活動準備確認(60分)、学びの整理と振り返り(60分)。
13	地域住民との対話とフィードバック	地域情報調査(60分)、フィードバック内容整理(60分)。
14	最終報告書の作成と発表準備	報告書作成準備(60分)、最終報告書作成(120分)。
15	最終発表と総括	発表資料準備(120分)、発表内容確認(60分)。

テキスト
資料を配布する。

参考書・参考資料等
適宜指示する。

成績評価
活動報告書(30%)、最終レポート(40%)および発表(30%)で総合的に評価する。

履修要件及び履修上の注意事項
毎回の作業や活動には、体力を要するので、前日からの体調管理を行うこと。 作業に適した服装、持ち物を準備すること。体験内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーションなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。また、メディア教材やICT教材を用いることがある。

課題に対する指導
提出された報告書とレポートは、担当教員がコメント書き返却する。
オフィスアワー・連絡先 水曜日のお昼休みに研究室で対応する。 メール:t_motoyama@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	地域社会の課題を具体的に認識し、深い理解を示している。
イ①	地域の住民やボランティアとの関わりにおいて、自ら積極的にコミュニケーションを取り、協力の機会を創出する姿勢を見せられる。
イ②	他者と協力しながら、地域の活動やボランティア活動の目的を達成するために、チームとしての一体感を大切にし、共通の目標に向かって取り組めた。
イ③	地域住民やボランティアとの対話において、相手の意見やニーズをしっかりと聴き、適切な言葉で自分の考えを伝え、円滑な関係を築けた。
イ④	異なる価値観や文化背景を持つ住民やボランティアと接する中で、柔軟に対応し、変化する状況に適応して、効果的にコミュニケーションを取れた。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☐PBL（問題解決型学習） ☐反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション ☑実習、フィールドワーク ☐その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☐自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

科目名	海外留学体験						学期	集中(後期)
ナンバリング	K2-07-159	実務経験の有無	有	単位数	4	担当者	門田 修平	
科目の概要	本授業では、海外(米国)留学の前の準備として、留学に際して不可欠な留学先の生活や文化について、異文化コミュニケーション(Intercultural Communication)の観点からさまざまな情報を学ぶ。また、英語力のトレーニングとしては、米国留学に関連した英語素材をもとにした、リスニング、シャドーイング、スピーキングの音声コミュニケーションのタスクを実施する。留学期間を終えた後期には、各自の留学体験をもとにして個別に、英語の音声コミュニケーション能力のさらなる向上をめざして、より高度な素材をもとにしたリスニング、シャドーイング、スピーキングのトレーニングを行い、加えて、米国をはじめとする海外の生活・文化に対して、現在の国際情勢を踏まえて、そのルーツから考える能力を育成する。							

目標(この科目を通して獲得をさせたい力)		関連DP
ア	留学前には、英語面では、米国関連の英語素材をもとに、留学に必要な音声コミュニケーション能力を身に付ける。	1－(2)b)
イ	留学前には、異文化コミュニケーションの観点からは、留学に不可欠な滞在先の生活・文化について学び、自身の文化的背景と対照させつつ、異文化を受容できる力を獲得する。	1－(2)a)・f)
ウ	留学後は、英語面では、各自の実際の留学体験を踏まえて、個別対応した高度な英語音声コミュニケーション能力を修得する。	1－(2)b)
エ	留学後は海外で培った経験をもとに、異文化コミュニケーションについて、様々な資料を使用して自らの考えを英語でプレゼンする能力を身に付ける。	1－(2)a)・f)

回	授業内容	授業外の学修
1	会話文のリスニング(ディクテーション)および文化的多様性関連配布プリント(前半)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(前半)の予習(内容理解) 事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(前半)の復習:表現の理解と記憶 (計180分)
2	会話文のリスニング(ディクテーション)および文化的多様性関連配布プリント(後半)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(後半)の予習(内容理解) 事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(後半)の復習:表現の理解と記憶 (計180分)
3	会話文のリスニング(ディクテーション)および海外留学体験を通じて何を得たか、PPTを使いつつ英語でプレゼンを行う。	事前:英語プレゼンの準備・リハーサル(PPT作成を含む) 事後:実施済のリスニング素材の復習 (計180分)
4	会話文のリスニング(ディクテーション)およびカルチャーショック関連配布プリント(前半)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(前半)の予習(内容理解) 事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(前半)の復習:表現の理解と記憶 (計180分)
5	会話文のリスニング(ディクテーション)およびカルチャーショック関連配布プリント(後半)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(後半)の予習(内容理解) 事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(後半)の復習:表現の理解と記憶 (計180分)
6	会話文のリスニング(ディクテーション)およびノンバーバルコミュニケーション関連配布プリント(前半)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(前半)の予習(内容理解) 事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(前半)の復習:表現の理解と記憶 (計180分)
7	会話文のリスニング(ディクテーション)および文化とその変遷関連配布プリント(後半)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(後半)の予習(内容理解)

		事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(後半)の復習:表現の理解と記憶 (計 180 分)
8	会話文のリスニング(ディクテーション)および文化とその変遷関連配布プリント(前半)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(前半)の予習(内容理解) 事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(前半)の復習:表現の理解と記憶 (計 180 分)
9	会話文のリスニング(ディクテーション)および文化とその変遷関連配布プリント(後半)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(後半)の予習(内容理解) 事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(後半)の復習:表現の理解と記憶 (計 180 分)
10	会話文のリスニング(ディクテーション)およびグローバルな世界人関連配布プリント(前半)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(前半)の予習(内容理解) 事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(前半)の復習:表現の理解と記憶 (計 180 分)
11	会話文のリスニング(ディクテーション)およびグローバルな世界人関連配布プリント(後半)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(後半)の予習(内容理解) 事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(後半)の復習:表現の理解と記憶 (計 180 分)
12	会話文のリスニング(ディクテーション)および現代世界の諸問題関連配布プリント(アジア)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(アジア)の予習(内容理解) 事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(アジア)の復習:表現の理解と記憶 (計 180 分)
13	会話文のリスニング(ディクテーション)および現代世界の諸問題関連配布プリント(欧州)の内容をもとに演習を行う	事前:配布プリント素材(欧州)の予習(内容理解) 事後:実施済のリスニング素材の復習、配布プリント素材(欧州)の復習:表現の理解と記憶 (計 180 分)
14	授業内最終試験	事前:授業内最終試験準備 事後:不要 (計 180 分)
15	授業内最終試験の解答と解説、フィードバック	事前:不要 事後:不要

テキスト

教科書は指定せず、異文化コミュニケーションに関連した、留学に不可欠な滞在先の生活・文化に関する、事前および事後演習に必要なプリントを作成・配布する。

参考書・参考資料等

門田修平ほか(2024)『話すための進化系英語シャドーイング』コスモピア

門田修平・監修(2022)『言語学者と考えた中学英語が 1 番身につく本』学研

成績評価

授業内最終試験(30%)、英語プレゼン評価(30%)、リスニング(ディクテーション)のパフォーマンス評価(30%)、 その他(10%)

履修要件及び履修上の注意事項

授業への 30 分以上の遅刻を欠席とし、3 回の遅刻で欠席 1 回とみなす。

中・高一種(英語)資格取得の際選択必修。

課題に対する指導

実施した課題(プレゼンなど)にはその都度、さらに小テストには、次の授業時にて、解説等を行う。

14 回目に実施した最終試験の総評を 15 回目に行い、復習すべき点、および多くの学生が不正解であった問題を中心に解説する。

オフィスアワー・連絡先

水曜 11:30～13:00(個人研究室) ※前日中に、shuheikadota@gmail.com までメール連絡にてアポイントをとること。	
評価	概ね満足できる状況
ア	基本的な音声英語のリスニング(ディクテーション)ができるようになる。
イ	異文化コミュニケーションなどの関連テーマの英文のリーディングができるようになる。
ウ	リスニングおよびリーディングを通じて得た内容のリテリングができるようになる。
エ	異文化コミュニケーションなどの関連テーマについて英語でプレゼンができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☑PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ☑その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 ペアでの双方向的な英語の学習活動を、授業内タスクの一部として導入する。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ChatGPT との、双方向的な英語音声インタラクションの活動も含める。

担当教員の実務経験の内容

大学教員として、および英語コーチング企業の顧問としての勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、英語コミュニケーション能力育成への対応を指導する。

科目名	第二言語習得論						学期	後期
ナンバリング	K2-07-031	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	門田　修平	
科目の概要	英語など第二言語の学習・教育の基礎となる、ことばの認知科学（理解・産出・獲得）の仕組みを学び、英語など外国語の教育に応用できるようになることを目指す。より具体的には、ことばの理解・産出・獲得に関連する学問分野のこれまでの研究成果をもとにして、英語学習が、頭の中のどのような認知的・社会的仕組みをもとに、いかにして達成されるかについて、解説する。そして、シャドーイング・音読を含めた認知的、社会認知的トレーニングにより、英語など第二言語の学習にどのような効果が期待できるか、これまでの研究成果をもとに考察して、実際の外国語学習・教育に応用できるようにする。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	母語（第一言語）以後の第二言語習得について理解できるようになる。	1－(1)a)・b)・c)
イ	英語など第二言語の学習・教育に関わるメタ認知能力を形成できる。	1－(1)d)・g)・i)・j)
ウ	形成したメタ認知能力を実践に生かす方法について具体的に理解できる。	1－(1)j)・k)
エ	以上のアイウについて、PPT を用いて自身のことばで説明できる。	1－(1)i)・k)

回	授業内容	授業外の学修
1	本授業の概要、目標、成績評価法等について解説・周知するとともに、用法基盤モデルの観点からの母語習得過程についてのビデオ視聴とディスカッション	事前：不要 事後：用法基盤モデルが明らかにする、母語（第一言語）獲得プロセスに関して理解した概要を復習し、その中身についての展望を得る。（計 180 分）
2	生成文法の観点からの母語習得過程についてのビデオ視聴とディスカッション	事前：不要 事後：生成文法が明らかにする、母語（第一言語）獲得プロセスに関して理解した概要を復習し、その中身についての展望を得る。（計 180 分）
3	幼児の母語の獲得プロセスは、英語（外国語）の学習にいかなる示唆を与えるかについての講義とディスカッション	事前：第一言語獲得と第二言語学習の類似点・相違点について予めインターネット検索をしてあらましの理解に努める。 事後：第一言語獲得についての対立するモデルから、第二言語習得についてそれぞれどのような示唆が得られるか考察する。（計 180 分）
4	なぜわたしたちは外国語をうまく話せないのか？	事前：教科書序章の内容を理解し、PPT にまとめる。 事後：PPT を用いて発表した内容を復習し、中身についての展望を得る。（計 180 分）
5	教科書の内容にもとづく発表とディスカッション：シャドーイングのインプット処理効果：リスニングをのばす仕組み	事前：教科書第 1 章の前半の内容を理解し、PPT にまとめる。 事後：PPT を用いて発表した内容を復習し、中身についての展望を得る。（計 180 分）
6	教科書の内容にもとづく発表とディスカッション：シャドーイングのインプット処理効果：理論的背景	事前：教科書第 1 章の後半の内容を理解し、PPT にまとめる。 事後：PPT を用いて発表した内容を復習し、中身についての展望を得る。（計 180 分）
7	教科書の内容にもとづく発表とディスカッション：記憶の仕組みとワーキングメモリ	事前：教科書第 2 章の前半の内容を理解し、PPT にまとめる。

		事後:PPT を用いて発表した内容を復習し、中身についての展望を得る。(計 180 分)
8	教科書の内容にもとづく発表とディスカッション:シャドーイングのプラクティス効果	事前:教科書第 2 章の後半の内容を理解し、PPT にまとめる。 事後:PPT を用いて発表した内容を復習し、中身についての展望を得る。(計 180 分)
9	教科書の内容にもとづく発表とディスカッション:スピーキングに必要なプロセス	事前:教科書第 3 章の内容を理解し、PPT にまとめる。 事後:PPT を用いて発表した内容を復習し、中身についての展望を得る。(計 180 分)
10	教科書の内容にもとづく発表とディスカッション:シャドーイングのアウトプット効果と進化系英語シャドーイング学習の方法と留意点	事前:教科書第 4 章の内容を理解し、PPT にまとめる。 事後:PPT を用いて発表した内容を復習し、中身についての展望を得る。(計 180 分)
11	教科書の内容にもとづく発表とディスカッション: モニタリングの重要性とシャドーイングの効果	事前:教科書第 5 章の内容を理解し、PPT にまとめる。 事後:PPT を用いて発表した内容を復習し、中身についての展望を得る。(計 180 分)
12	教科書の内容にもとづく発表とディスカッション:シャドーイングの実践方法と 100 万語シャドーイングすすめ	事前:教科書第 6 章の内容を理解し、PPT にまとめる。 事後:PPT を用いて発表した内容を復習し、中身についての展望を得る。(計 180 分)
13	認知学習システムから社会認知システムを活かした学習・教育への転換:メンタライジングについての解説とディスカッション	事前:人の脳内の社会脳ネットワークの役割についてネット等で調べる。 事後:授業における解説とディスカッションの内容を復習し、英語習得における社会脳インタラクションについて展望を得る。(計 180 分)
14	認知学習システムから社会認知システムを活かした学習・教育への転換:ミラーリングと共同注意についての解説とディスカッション、期末レポートの提出	事前:授業内最終試験準備 事後:不要(計 180 分)
15	授業内最終試験の解答と解説、フィードバック	事前:不要 事後:不要

テキスト

門田修平(2018)『外国語を話せるようになるしくみ:シャドーイングが言語習得を促進するメカニズム』SB クリエイティブ

参考書・参考資料等

門田修平(2023)『社会脳インタラクションを活かした英語の学習・教育:やり取りの力を伸ばす』大修館書店

成績評価

期末レポート(30%)、教科書の内容にもとづく、PPT を用いたプレゼンのパフォーマンス評価(30%)、授業中のディスカッション(30%)、その他(10%)

履修要件及び履修上の注意事項

受講生には、教科書各章の内容発表をこなしつつ、関連情報を、関連書籍やインターネットを参照しつつ収集することが必要になる。

中・高一種(英語)資格取得の際必修。

課題に対する指導

PPT を使った教科書確証の内容発表に関するパフォーマンスには、その都度評価・解説等を行う。

14 回目に提出してもらった期末レポートの総評を 15 回目に行い、復習すべき点、および多くの学生の理解が不十分であった内容を中心に再度解説する。

オフィスアワー・連絡先

水曜 11:30～13:00(個人研究室) ※前日中に、shuheikadota@gmail.com までメール連絡にてアポイントをとること。

評価	概ね満足できる状況
ア	母語(第一言語)以後の第二言語習得について理解できるようになる。
イ	英語など第二言語の学習・教育に関わるメタ認知能力を形成できる。
ウ	形成したメタ認知能力を実践に生かす方法について具体的に理解できる。
エ	以上について、PPT を用いて自身のことばで他者に説明できる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** ☑PBL (問題解決型学習) □反転授業 (知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業) ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 授業で担当した発表に関連させ、さらに内容を肉付けしたレポートの提出を求める。
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 第二言語習得研究の学習に必要な補助ツール (ChatGPT など生成 AI を含む) の活用を積極的に推進する。

担当教員の実務経験の内容

大学教員として、および英語コーチング企業の顧問としての勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、英語コミュニケーション能力育成への対応を指導する。

科目名	Phonetics in Education						学期	後期
ナンバリング	K1-07-024	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	門田 修平	
科目の概要	英語の学習・教育に必要な英語の音声(発音)の仕組みについて学び、その知識を自身の発音能力向上および学習者への発音指導に生かせることを目指す。具体的には、英語の個々の母音および子音の調音方法を学び、日本語と対比させつつ、英語の音節構造、強勢・ピッチ・ポーズ、リズムなどプロソディ、音の連結・脱落・同化など音変化について学習する。その上でどのようにして、自身の発音向上や学習者への発音指導に実践するか検討する。							

目標(この科目を通して獲得をさせたい力)		関連DP
ア	母音・子音など英語の分節音の調音方法を具体的に把握できる。	1−(1)a)・b)・c)
イ	日本語と対比させつつ、英語の音節構造、強勢・ピッチ・ポーズ、リズムなどプロソディ(韻律)についてその仕組みを把握できる。	1−(1)a)・b)・c)
ウ	英語の音声連結・脱落・同化など英語発音変化についてその概要を把握できる。	1−(1)a)・b)・c)
エ	授業で得た英語音声学の知識をいかにして自身の発音能力向上や学習者へに指導に応用するかその方法を把握できる。	1−(1)a)・b)・c)

回	授業内容	授業外の学修
1	本授業の概要、目標、成績評価法等について解説・周知するとともに、教科書および配布プリントをもとに、英語の分節音、プロソディ、音変化等について解説し、実際に発音演習を行う。	事前:不要 事後:英語の分節音、プロソディ、音変化等についてその概要を復習し、実際に発音トレーニングを行う。(計 180 分)
2	教科書および配布プリントをもとに、英語の母音(前舌母音・中舌母音)について解説し、実際に発音演習を行う。	事前:教科書をもとに、英語の母音(前舌母音・中舌母音)についてその内容の概要を把握する。 事後:英語の母音(前舌母音・中舌母音)についてその内容を復習し、実際に発音トレーニングを行う。(計 180 分)
3	教科書および配布プリントをもとに、英語の母音(後舌母音・二重母音)について解説し、実際に発音演習を行う。	事前:教科書をもとに、英語の母音(後舌母音・二重母音)についてその内容の概要を把握する。 事後:英語の母音(後舌母音・二重母音)についてその内容を復習し、実際に発音トレーニングを行う。(計 180 分)
4	教科書および配布プリントをもとに、英語の子音(破裂音・摩擦音・側音)について解説し、実際に発音演習を行う。	事前:教科書をもとに、英語の子音(破裂音・摩擦音・側音)についてその内容の概要を把握する。 事後:英語の子音(破裂音・摩擦音・側音)についてその内容を復習し、実際に発音トレーニングを行う。(計 180 分)
5	教科書および配布プリントをもとに、英語の子音(破擦音・鼻音・半母音)について解説し、実際に発音演習を行う。	事前:教科書をもとに、英語の子音(破擦音・鼻音・半母音)についてその内容の概要を把握する。 事後:英語の子音(破擦音・鼻音・半母音)についてその内容を復習し、実際に発音トレーニングを行う。(計 180 分)
6	教科書および配布プリントをもとに、英語の音節構造について、日本語と対比させつつ解説し、実際に発音演習を行う。	事前:教科書をもとに、英語の音節構造について、その内容の概要を把握する。

		事後:英語の音節構造についてその内容の概要を復習し、実際に発音トレーニングを行う。(計 180 分)
7	教科書および配布プリントをもとに、英語のプロソディ(強勢、ピッチ、リズム等)について、日本語と対比させつつ解説し、実際に発音演習を行う。	事前:教科書をもとに、英語のプロソディ(強勢、ピッチ、リズム等)についてその内容の概要を把握する。 事後:英語のプロソディ(強勢、ピッチ、リズム等)についてその内容を復習し、実際に発音トレーニングを行う。(計 180 分)
8	教科書および配布プリントをもとに、英語のプロソディ(イントネーション、ポーズ等)について、日本語と対比させつつ解説し、実際に発音演習を行う。	事前:教科書をもとに、英語のプロソディ(イントネーション、ポーズ等)についてその内容の概要を把握する。 事後:英語のプロソディ(イントネーション、ポーズ等)についてその内容を復習し、実際に発音トレーニングを行う。(計 180 分)
9	教科書および配布プリントをもとに、英語音の連結・脱落・同化など音声変化について、日本語と対比させつつ解説し、実際に発音演習を行う。	事前:教科書をもとに、英語音の連結・脱落・同化など音声変化についてその内容の概要を把握する。 事後:英語音の連結・脱落・同化など音声変化についてその内容を復習し、実際に発音トレーニングを行う。(計 180 分)
10	代表的な音声編集ソフト(Audacity)などをインストールして、音声分析前提となる音声編集方法を解説する。	事前:音声編集ソフト(Audacity)をダウンロードして、その使い方についてネットで調べる。 事後:音声編集ソフト(Audacity)の活用法を復習し、実際に音声編集のトレーニングを行う。(計 180 分)
11	代表的な音声分析ソフト(Praat)などをインストールして、実際の音声分析にいかに活用するか解説する。	事前:音声編集ソフト(Praat)をダウンロードして、その使い方についてネットで調べる。 事後:音声編集ソフト(Praat)の活用法を復習し、実際に音声分析のトレーニングを行う。(計 180 分)
12	インストールした音声編集ソフト(Audacity)、音声分析ソフト(Praat)などを活用して、実際にいかにして音読・シャドーイングなどの音声分析に活用するか解説し、実習する。。	事前:Audacity および Praat を使って編集・分析予定の音声を準備する。 事後:Audacity および Praat を使って編集・分析する方法を復習し、実際に音声編集と分析のトレーニングを行う。(計 180 分)
13	音声編集ソフト(Audacity)、音声分析ソフト(Praat)などを使って、いかにして実際に学習者音声(音読・シャドーイング音声など)の分析・指導・評価に活用するか解説し、実習する。	事前:Audacity および Praat を使って実際に教室でいかに英語の音声学習に活用するか、その Teaching Plan を作成する。 事後:作成した Teaching Plan をもとに具体的にどのように音読・シャドーイング学習に応用するか検討する。(計 180 分)
14	授業内最終試験	事前:授業内最終試験準備 事後:不要 (計 180 分)
15	授業内最終試験の解答と解説、フィードバック	事前:不要 事後:不要

テキスト 今井由美子ほか(2018)『英語音声学への扉(Sounds Make Perfect)』<改訂版>英宝社 各種プリントを作成して配布する。	成績評価 授業内最終試験(30%)、英語調音・発音指導・発音のパフォーマンス評価(30%)、 音声指導 Teaching Plan(30%)、その他(10%)

参考書・参考資料等	
東谷岩人(1985)『米会話発音教本』南雲堂 深澤俊昭(2024)『新装版・英語の発音パーフェクト学習事典』アルク	

履修要件及び履修上の注意事項

授業への 30 分以上の遅刻を欠席とし、3 回の遅刻で欠席 1 回とみなす。

中・高一種(英語)資格取得の際必修。

課題に対する指導

実施した課題(Teaching Plan 作成など)や英語調音・発音指導・発音のパフォーマンスにはその都度解説等を行う。

14 回目に実施した最終試験の総評を 15 回目に行い、復習すべき点、および多くの学生が不正解であった問題を中心に解説する。

オフィスアワー・連絡先

水曜 11:30～13:00(個人研究室) ※前日中に、shuheikadota@gmail.com までメール連絡にてアポイントをとること。

評価	概ね満足できる状況
ア	英語の音声、音節構造、強勢・ピッチ・ポーズ、リズムなどプロソディ、音の連結・脱落・同化など音変化についての概要が把握できている。
イ	英語の音声、音節構造、強勢・ピッチ・ポーズ、リズムなどプロソディ、音の連結・脱落・同化など音変化についての概要を把握し、その上で自身の発音向上や学習者への発音指導にいかに応用するか把握している。
ウ・エ	代表的な音声編集ソフトや音声分析ソフトをインストールして、実際の学習者音声の分析・指導・評価にいかに活用するかその概要を把握している。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☑PBL (問題解決型学習)

☐反転授業 (知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業)

☐ディスカッション、ディベート

☑プレゼンテーション

☑実習、フィールドワーク

☐その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

音声編集ソフトや音声分析ソフトを使って英語音声指導にどのように役立てるか検討する。

授業での ICT 活用

☑双方向型授業に活用

☑自主学習支援に活用

その他 ICT 活用に関する特記事項

英語音声の学習・指導に必要なツール (Audacity、Praat など) の活用を積極的に推進する。

担当教員の実務経験の内容

大学教員として、および英語コーチング企業の顧問としての勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、英語コミュニケーション能力育成への対応を指導する。

科目名	Intensive Reading						学期	前期
ナンバリング	K2-07-025	実務経験の有無		単位数	2	担当者	上村 政文	
科目の概要	日本のポップカルチャーを通して「考える英語力」(比較的思考、批判的思考等)を養う授業である。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	日本の文化についての知識をつける。	1(1)a)
イ	日本の文化と他国の文化を比較しその特徴を理解する力を身につける。	1 (1) a)
ウ	与えられた課題について理由を挙げて自分の考えを述べる力を身につける。	1 (2) a), b)
エ	与えられた課題について、パートナーやグループ内で議論できる力を身につける。	1 (2) a), b)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション(授業の進め方、評価の仕方等)	事後:資料の復習。(60 分)
2	Unit 1 The Eyes of Manga Characters	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
3	Unit 2 Japanese Rituals and Food for the Gods	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
4	Unit3 Animation in Japan	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
5	Unit 4 Popular Fiction and Changing Ways of Reading	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
6	Unit 5 Japanese Cuisine Goes Global	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
7	Unit 6 The Development of Relationships Between Humans and Animals	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
8	中間までのまとめと試験	Japanese Popular Culture について自分の感想をまとめる。(90 分)
9	Unit 7 Changing Forms of Celebrity in Japan	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
10	Unit 8 Popular Culture in Food	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
11	Unit 9 Cats and Their Powerful Influence on Japanese Culture	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
12	Unit 10 Language and Japanese Media	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
13	Unit 11 Human Right and Japanese `Pop Culture	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
14	Unit 12 Cuteness	事前:当該 Unit の予習 事後:Global Context の音読 5 回以上、Extension activities のレポートを書き、次回に提出。(90 分)
15	まとめと終講試験	12 回の乃講義を受講し、自分の「考える英語力」についてレポートを書く。(180 分)

テキスト	成績評価
Japanese Popular Culture in English Discussions and Critical Thinking	課題、レポートや小テスト(40%)

NAN'UN-DO　Robert Sheridan, Kathryn M. Tanaka, Jeanette M Kobayashi　2024 (生協で購入)	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ・ディスカッション(30%) 試験(30%)
参考書・参考資料等 Skills for Better Writing(Basic)　NAN'UN-DO 資料等は講義中に紹介また配布する。	

履修要件及び履修上の注意事項

・英和辞典等の辞書を準備すること。

・「30 分以上の遅刻を欠席」、「3 回の遅刻で欠席 1 回」とみなす。

・中・高一種(英語)資格取得の際必修。

課題に対する指導

・単元ごとに講義中に適宜実施する。

・毎回、授業の感想や授業への要望等を書くための用紙を配布、収集する。

オフィスアワー・連絡先

・質問等については授業の前後の時間に教室にて対応する。

・相談がある場合は事前に連絡をすること。

評価	満足できる状況
ア	日本文化を理解することができる
イ	日本の文化と他国の文化を比較しその特徴を理解することができる。
ウ	与えられた課題について理由を挙げて自分の考えを述べることができる。
エ	与えられた課題について、パートナーやグループ内で議論できる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

高等学校英語教員、短期大学の英語講師、専門学校の英語講師としての指導経験がある。その経験を生かしてこの科目の指導に当たり、学生の批判的思考ができる「考える英語力」をつけさせる。

科目名	Critical Thinking and Creative Writing						学期	後期
ナンバリング	K1-07-028	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	上村 政文	
科目の概要	基本的に正しい英文を書くことができ、論理的に英文をまとめることができる技術を身につける講義である。基礎基本の知識を習得し、批判的思考を身につけながら自分の考えや意見を段階的に英文でかけるようになることを目指す。 英語での効果的な発表や発信ができるようになるように、プレゼンテーションや討議をしながら伝える力を身につけることができる講義にしたい。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	ライティング時に必要な基礎文法事項を理解できる。	1(1)a)
イ	エッセイを読みその内容構成を理解できる。	1(1)a)
ウ	批判的思考を身につけ、自分の考えや意見をまとめることができる。	1(1)a)
エ	間違いのない英文で、正しく文書構成されたエッセイを書くことができる。	1(1)a)
オ	英語で効果的なプレゼンテーションができる。	1 (2) b)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション(講義概要等の説明)	高校時の自分のライティング力を振り返り何が足りないのか考える。(60 分)
2	Chapter 1 Meeting New People at College (Definite and indefinite articles)	本時の内容を踏まえ与えられた課題を完成させる。(90 分)
3	Chapter 2 Attending Classes (Passive, subject-verb agreement)	自分の専攻についての考えをまとめ、課題を完成させる。(90 分)
4	Chapter 3 Pastimes (Tense, aspect)	本日の学習内容を振り返り、課題を完成させる。(90 分)
5	Chapter 4 Volunteer Activities (Modal auxiliaries)	ボランティア、について調べ、課題を完成させる。(90 分)
6	Chapter 5 Environmental Problems (Infinitives and gerunds)	環境問題の 1 つを取り上げ、身近な問題と絡めてプレゼンテーションの準備をする。(90 分)
7	Chapter 6 Cultural Differences (Relative clauses)	日本文化とはどのようなものかまとめ、発表できるようにする。(90 分)
8	まとめ 中間定期試験	試験に向けての復習(90 分)
9	Chapter 7 Studying Abroad (Noun clauses)	パラグラフに一貫性のあるように文の論理性、や順序を考え課題を完成する。(90 分)
10	Chapter 8 Part-Time Jobs (Negation)	第 8 章の内容を理解しておく。(60 分)
11	Chapter 9 Youth and Politics (Participial phrases)	与えられた課題を文の構成に注意しながら、正しい文章にする。(90 分)
12	Chapter 10 Spending Holidays Abroad (Comparatives and superlatives)	留学についての自分の考えを英文でまとめる。(90 分)
13	Chapter 11 Job Hunting (Causative verbs)	働くことについての意味を考え、そのことについての自分の考えを英文でまとめる。(90 分)
14	Chapter 12 Information Technology (Adverb clauses of conditions and conditional mood)	E-mail や line などで使われている文章の構成や言葉の使われ方についてまとめ、分析し発表する。(90 分)
15	まとめ 定期試験	試験に向けての復習。(90 分)

テキスト	成績評価
Improving Your Writing NAN'UN-DO、2021 年 By Yasushi Sato/J.Kevin Varden/Hiromi Sato (生協で購入)	課題、レポートや小テスト(40%) プレゼンテーション、ディスカッション(30%) 試験(30%)

参考書・参考資料等	
Skills for Better Writing(Basic)　NAN'UN-DO 資料等は講義中に紹介また配布する。	

履修要件及び履修上の注意事項

・英和辞典等の辞書を準備すること。

・「30 分以上の遅刻を欠席」、「3 回の遅刻で欠席 1 回」とみなす。

・中・高一種(英語)資格取得の際必修。

課題に対する指導

・単元ごとに講義中に適宜実施する。

・毎回、授業の感想や授業への要望等を書くための用紙を配布、収集する。

オフィスアワー・連絡先

・質問等については授業の前後の時間に教室にて対応する。

・相談がある場合は事前に連絡をすること。

評価	満足できる状況
ア	ライティング時に必要な基礎文法事項を理解している。
イ	エッセイを読みその内容構成を理解できる。
ウ	批判的思考を身につけ、自分の考えや意見を 200words にまとめることができる。
エ	間違いのない英文で、正しく文書構成されたエッセイを書くことができる。
オ	英語で効果的なプレゼンテーションができる。

授業の特徴	
	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート ☑プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 **・ペアワークやグループワークを行う。**
	授業での ICT 活用 □双方向型授業に活用 ☑自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項

担当教員の実務経験の内容

高等学校英語教員、短期大学の英語講師、専門学校の英語講師としての指導経験がある。その経験を生かしてこの科目の指導に当たり、学生の Critical Thinking and Creative Writing の能力をつけさせる。

科目名	British Literature						学期	前期・集中
ナンバリング	K1-07-026	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	松田正貴	
科目の概要	授業で配布する教材に沿って、イギリス文学を歴史的に概観する。各時代の社会的背景を踏まえながら、それぞれの作家が何を表現しようとしたのかを検証する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	各文学作品の内容を把握できる	1-(1)a)
イ	歴史の流れに沿って文学作品を位置付けることができる。	1-(1)a)
ウ	独自の見解を文章化することができる。	1-(1)a)
エ	問題点を見出すことができる。	1-(1)f)
オ	問題点を見出し、それに対する答えを自分の言葉で文章化できる。	1-(1)f)

回	授業内容	授業外の学修
1	ガイダンス（シラバスの確認、本講義の内容を簡単に説明する）	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
2	トマス・モア『ユートピア』とヘンリー8 世の時代	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
3	ウィリアム・シェイクスピア『テンペスト』とエリザベス 1 世・ジェイムズ 1 世の時代	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
4	映画『テンペスト』: ここまでの議論の総括・ディスカッション	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
5	ダニエル・デフォー『モル・フランダーズ』とイギリス資本主義	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
6	メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』とラッダイト運動	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
7	チャールズ・ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』とチャーチスト運動	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
8	映画『どん底作家の人生に幸あれ』: ここまでの議論の総括・ディスカッション	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
9	ウィリアム・ブレイク『無垢の歌』と黒人表象	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
10	ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』とモダニズム芸術	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
11	D・H・ロレンス『チャタレイ夫人の恋人』と炭鉱労働者	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
12	映画『オルランド』: ここまでの議論の総括・ディスカッション	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
13	アガサ・クリスティと大英帝国	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
14	カズオ・イシグロ『浮世の画家』と第二次世界大戦	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
15	まとめ	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)

テキスト

教材は授業中に配布する。

参考書・参考資料等

トマス・モア『ユートピア』(岩波文庫、1957 年)、ウィリアム・シェイクスピア『テンペスト』(ちくま文庫、2000 年)、カズオ・イシグロ『浮世の画家』(ハヤカワ epi 文庫、2019 年)

成績評価

授業への参加の度合い(30%)

毎回提出する小レポート(70%)

履修要件及び履修上の注意事項

・中・高一種（英語）資格取得の際必修。

課題に対する指導

提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。

オフィスアワー・連絡先

授業の前後

評価	満足できる状況
ア	各文学作品の内容を把握し、説明することができる。
イ	歴史の流れに沿いながら、各文学作品を位置付けることができる。
ウ	自らの文学作品に対する独自の見解を文章化し、伝えることができる。
エ	各作品の中に問題点を見出すことができる。
オ	問題点に対する答えを自分の言葉で文章化し、伝えることができる。

授業の特徴	**授業で実践するアクティブ・ラーニング** □PBL（問題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） ☑ディスカッション、ディベート □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他
	その他アクティブ・ラーニングの内容 授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション
	授業での ICT 活用 ☑双方向型授業に活用 □自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 メディア教材や ICT 教材を用いる。

担当教員の実務経験の内容

科目名	American Literature						学期	後期･集中
ナンバリング	K1-07-027	実務経験の有無	無	単位数	2	担当者	松田正貴	
科目の概要	テキストの流れに沿って、アメリカ文学を歴史的に概観する。各時代の社会的背景を踏まえながら、それぞれの作家が何を表現しようとしたのかを検証する。							

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	各文学作品の内容を把握できる	1-(1)a)
イ	歴史の流れに沿って文学作品を位置付けることができる。	1-(1)a)
ウ	独自の見解を文章化することができる。	1-(1)a)
エ	問題点を見出すことができる。	1-(1)f)
オ	問題点を見出し、それに対する答えを自分の言葉で文章化できる。	1-(1)f)

回	授業内容	授業外の学修
1	ガイダンス（シラバスの確認、本講義の内容を簡単に説明する）	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
2	アン・ブラッドストリート『最近アメリカにあらわれた十番目の詩神』とピューリタン	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
3	ズィトカラ＝シャ：アメリカインディアンの物語	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
4	映画『ウインド・リバー』：ここまでの総括・ディスカッション	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
5	ハーマン・メルヴィル『白鯨』と日本の開国	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
6	ウォルト・ホイットマン『草の葉』と南北戦争	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
7	エミリー・ディキンソン『詩集』とアメリカ現代詩	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
8	映画『グローリー』：ここまでの総括・ディスカッション	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
9	スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』と 1920 年代アメリカ	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
10	ラングストン・ヒューズ『詩集』とハーレム・ルネッサンス	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
11	カール・サンドバーグ『シカゴ暴動』と人種問題	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
12	映画『私はあなたのニグロではない』：ここまでの総括・ディスカッション	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
13	ロン・コーヴィック『7 月 4 日に生まれて』とヴェトナム戦争	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
14	アレン・ギンズバーグ『リアリティ・サンドイッチ』と 1960 年代アメリカ	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)
15	まとめ	資料の通読および用語の確認と復習(60 分)

テキスト

教材は授業中に配布する。

参考書・参考資料等

ハーマン・メルヴィル『白鯨 上・下』（岩波文庫、2004 年）、ウォルト・ホイットマン『おれにはアメリカの歌声が聞こえる』（光文社古

成績評価

授業への参加の度合い(30%)

毎回提出する小レポート(70%)

典新訳文庫)、スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』(中央公論新社、2006年)	

履修要件及び履修上の注意事項

・中・高一種(英語)資格取得の際必修。

課題に対する指導

提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。

オフィスアワー・連絡先

授業の前後

評価	満足できる状況
ア	各文学作品の内容を把握し、説明することができる。
イ	歴史の流れに沿いながら、各文学作品を位置付けることができる。
ウ	自らの文学作品に対する独自の見解を文章化し、伝えることができる。
エ	各作品の中に問題点を見出すことができる。
オ	問題点に対する答えを自分の言葉で文章化し、伝えることができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☐PBL(問題解決型学習)
☐反転授業(知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業)
☑ディスカッション、ディベート
☐プレゼンテーション
☐実習、フィールドワーク
☐その他

その他アクティブ・ラーニングの内容

授業内容に関するグループディスカッションやプレゼンテーション

授業での ICT 活用

☑双方向型授業に活用
☐自主学習支援に活用

その他 ICT 活用に関する特記事項

メディア教材や ICT 教材を用いる。

担当教員の実務経験の内容

科目名	異文化理解Ⅰ						学期	前期
ナンバリング	K1-07-029	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	佐藤 雅之	

科目の概要	【目的】異文化への気づきと異文化理解に関する基礎的基本的理解の獲得 ○ 日本に生きる自己の在り方・生き方を見つめながら，文化や言語，価値観の異なる，外国人を含む全ての人との共生・協働に必要な異文化コミュニケーションの知識・技能を身に付けるとともに，それらを現代社会に生きていく上で活用・実践していくために，具体的にどのように行動していったらよいか，について考察することをねらいとする。 ○ 主として，テキスト『異文化理解入門』を用いて，講義や演習（発表・討議等）、学習者相互の学び合いや議論をとおして，異文化コミュニケーションの理論に基づく，文化や言語の異なる人々との共生・協働のための資質能力を段階的かつスパイラルに学ぶ。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	異文化理解のための基礎的基本的な知識・技能を理解・習得する。	1-1) a), 1-2) a)
イ	日本に生きる自らの生き方・在り方を見つめる態度 及び 異文化への気づきができる豊かな感性を持つ。	1-2) h), f), 2-1) d)
ウ	異文化を寛容的に認識し，自文化と照らし合わせながら受容することができる。	1-2) a), f), 2-1) d), 2-2) e)
エ	身に付けた知識・技能や態度を活用し，より良い異文化交流の在り方を探ることができる。	1-2) b), 2-1) b), c)
オ	異文化交流を実際に計画・実践する行動力を身につける。	2-2) a), b), c)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション 「異文化理解とは？」 ① text P.17 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
2	「異文化理解とは？」 ② text P.17 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
3	「文化とは？（その１）」 text P.27 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
4	「文化とは？（その２）」 ① text P.39 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
5	「文化とは？（その２）」 ② text P.39 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
6	「自分を知る」 ① text P.153 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
7	「自分を知る」 ② text P.153 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
8	中間 振り返り・まとめ テスト「ここまでの振り返り・まとめ」	前半授業の総復習 及び 英文・和文レポート作成（120分）
9	「世界の価値観」 ① text P.115 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
10	「世界の価値観」 ② text P.115 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
11	「非言語コミュニケーション」 ① text P.167 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
12	「非言語コミュニケーション」 ② text P.167 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
13	「アサーティブ・コミュニケーション」 ① text P.179 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
14	「アサーティブ・コミュニケーション」 ② text P.179 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
15	期末 振り返り・まとめテスト「異文化理解Ⅰの振り返り・まとめ、異文化理解Ⅱへの展望」	後半半授業の総復習 及び 英文・和文レポート作成（120分）

テキスト

原沢伊都夫 著 『異文化理解入門』 2013年 （研究社）

テキスト ISBN 番号 978-4-327-37734-2 ［生協で購入］

※ 適宜，補助資料を配布する。

参考書・参考資料等 ＊ 岩波新書より

成績評価

発表・討議 20%，省察レポート 20%

中間・期末 振り返りテスト 30%

Ice break，小テスト等 15%

講義への双方向性のある参加度合い 15%

青木 保 著　『異文化理解』『多文化世界』 鳥飼 玖美子 著　『異文化コミュニケーション学』 本田 創造 著　『アメリカ黒人の歴史 新版』 田中 宏　『在日外国人 第三版―法の壁, 心の溝』 ※　その他，授業中に適宜紹介する。	

履修要件及び履修上の注意事項

・外国語(英語)コアカリキュラムに位置付けられた，中等英語科教員免許取得に欠かせない必修科目です。

・「英語が使われている国や地域の文化を通じて，英語による表現力への理解を深め，中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける」という視点に立って，多文化共生・国際理解にかかわる，実践的な知識・技能・態度の獲得，人権擁護に対する識見の深化に向けて学習に取り組んでください。

課題に対する指導

・授業において課す課題全て（発表・討議，中間・期末 振り返り・まとめテスト，省察レポート等）は，当該授業の達成目標に照らして作成する。「何を学んだか（何を理解し・何ができるようになったか)」のみならず，その学びを受けて「考察したこと，自らの学びにとって新たな課題となったこと」についての考察を必ず盛り込むこと。省察レポートは，和文のみならず英文でも作成する。

・授業での振り返りにおいて出来した疑問・意見については，指導者は必ずコメントを述べたり記述したりして，フィードバックを個々の学習者に返すとともに，受講者全体の学びにつながるものは，次の授業の冒頭，その内容・データ等を共有し，学びを深めるようにする。

オフィスアワー・連絡先

研究室にて，毎週（木）の３・４限いずれかで対応します。

面談・質問等の希望がある場合，Ｇメールにて必ず事前にアポを取ってください。　［アドレス］：m_sato@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	異文化理解のための知識・技能を，具体的な事例を示しながら説明できる。
イ	日本に生きる自らの生き方・在り方を日常生活の観点に立って説明し，異文化への気づきの場面や状態を具体的に説明できる。
ウ	自文化と比較対照しながら異文化の肯定的側面を具体的に説明し，それを受容した場合の具体的なメリットを説明できる。
エ	異文化交流の具体的な在り方を提起しそれに照らして，具体的な原因・成果を上げながら，より良い在り方を探ることができる。
オ	具体的な異文化交流の現場を想定し，自分とのかかわりや自らの役割を定めて計画・実践することができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☑ PBL（問題解決型学習）
☑ 反転授業（知識習得を教室外，知識確認等を教室で行う授業）
☑ ディスカッション，ディベート
☑ プレゼンテーション
☐ 実習，フィールドワーク
☑ その他（課題等の配信・解答・フィードバック）

その他アクティブ・ラーニングの内容

「文化や言語，価値観の異なる外国人を含む全ての人との共生・協働に必要な異文化コミュニケーション の知識・技能を身に付け，それを現代社会に生きていく上で活用する態度を身に付ける」という視点から，学習者には，異文化への気づき，異文化に対する自らの在り方を深く見つめ直しながら，広い視野と好奇心をもって，積極的で活発なやり取りのある討議へ参画するよう促す。

	授業での ICT 活用 ☑ 双方向型授業に活用 ☑ 自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ○ 設定した Google Classroom 上で，授業の概要，演習，課題やテストの配信・解答，フィードバックなど，双方向型授業を行う。 ○ Web 検索並びに生成 AI アプリの使用が可能なラップトップ PC，電子辞書を必ず持参すること。

担当教員の実務経験の内容

① 奈良県での 36 年間の勤務において，高等学校での教職経験・授業研究並びに県教育委員会での指導助言・教育支援の経験に基づき，異文化理解教育の指導を行う。

② 教員の実務経験として，36 年間の内，現場では，文部科学省指定の外国語指導主事とのティーム・ティーチングの指導法の研究，並びに，自律的な読み手の育成をねらいとした SELHi（スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール）のリーディンング指導の研究開発に従事するとともに，教育研究所の英語の学習指導に関する指定研究員を務めた。

また，長らく初任者研修に携わるとともに，管理職５年間に初任者や若手常勤講師の指導力向上に取り組んだ。

更に，学校現場で，実際に当該関係生徒との交流を通じて，人権教育・外国人児童生徒の教育の推進向上にも努めた。

③ 奈良県教育委員会では，３年間，学習情報（教育放送制作）の指導主事，８年間を中学校・高等学校英語科の指導主事として，小学校・中学校・高等学校現場の英語教育・異文化理解教育の改善並びに JET プログラムの運営（外国語指導助手事業の管理運営・指導支援）に従事した。

科目名	異文化理解Ⅱ						学期	後期
ナンバリング	K1-07-030	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	佐藤 雅之	

科目の概要	【目的】多文化共生の視点を基盤にした，多文化共生社会の一員としての実践力の育成 ○ 日本に生きる人としてのアイデンティティを基盤にして，文化や言語，価値観の異なる，外国人を含む全ての人との共生・協働に必要な異文化コミュニケーションの知識・技能を活かしながら，国際社会における異文化交流・多文化共生の実践力を身に付けることをねらいとする。 ○ 主として，テキスト『異文化理解入門』を用いて，講義や演習（発表・討議等）、学習者相互の学び合いや議論をとおして，異文化コミュニケーションの理論に基づく，文化や言語の異なる人々との共生・協働のための効果的な企画・実践の方途について複合的かつ多元的に学ぶ。

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連DP
ア	異文化理解のための知識・技能が定着し、活用できる。	1-1) a), d) 1-2) a)
イ	日本に生きる人としてのアイデンティティに基づく，不合理・矛盾を的確に指摘する感性をもつ。	1-2) h), f), 2-1) d)
ウ	異文化を肯定的に認識し，自文化との比較対照しながらそれを取り入れることができる。	1-2) a), f), 1-3) a), 2-1) d), 2-2) e)
エ	身に付けた知識・技能や態度を活用し，より良い多文化共生の在り方を探ることができる。	1-2) b), 2-1) b),c)
オ	多文化共生の現場を設定し，異文化交流を実際に計画・実践することができる。	2-1) a) 2-2) a), b), c),e)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション 「異文化適応」 ① text P.55 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
2	「異文化適応」② text P.55 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
3	「違いに気づく」① text P.77 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
4	「違いに気づく」② text P.77 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
5	「異文化の認識」① text P.91 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
6	「異文化の認識」② text P.91 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
7	「シミュレーション」 text P.69 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
8	中間 振り返り・まとめ テスト「ここまでの振り返り・まとめ」	前半授業の総復習 及び 英文・和文レポート作成（120分）
9	「差別を考える」① text P.103 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
10	「差別を考える」② text P.103 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
11	「異文化トレーニング」① text P.129 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
12	「異文化トレーニング」② text P.129 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
13	「異文化受容」 text P.141 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
14	「多文化共生社会の実現に向けて」 text P.191 ～	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
15	期末 振り返り・まとめ テスト「異文化理解Ⅱの振り返り・まとめ、多文化共生社会への展望」	後半半授業の総復習 及び 英文・和文レポート作成（120分）

テキスト

原沢伊都夫 著 『異文化理解入門』 2013年 （研究社）

テキスト ISBN 番号 978-4-327-37734-2 ※ 前期Ⅰで購入済

※ 適宜，補助資料を配布する。

参考書・参考資料等 ＊ 岩波新書より

成績評価

発表・討議 20%

中間・期末 振り返りテスト 30%

省察レポート 20%

Ice break，小テスト等 15%

講義への双方向性のある参加度合い 15%

青木 保 著　『異文化理解』『多文化世界』 鳥飼 玖美子 著　『異文化コミュニケーション学』 本田 創造 著　『アメリカ黒人の歴史 新版』 田中 宏　『在日外国人 第三版―法の壁, 心の溝』 ※　その他，授業中に適宜紹介する。	

履修要件及び履修上の注意事項

・外国語(英語)コアカリキュラムに位置付けられた，中等英語科教員免許取得の際の選択必修科目です。

・「英語が使われている国や地域の文化を通じて，英語による表現力への理解を深め，中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける」という視点に立って，多文化共生・国際理解にかかわる実践的な知識・技能・態度の獲得，人権擁護に対する識見の深化に向け学習に取り組んでください。

課題に対する指導

・授業において課す課題全て（発表・討議，中間・期末 振り返り・まとめテスト，省察レポート等）は，当該授業の達成目標に照らして作成する。「何を学んだか（何を理解し・何ができるようになったか)」のみならず，その学びを受けて「考察したこと，自らの学びにとって新たな課題となったこと」についての考察を必ず盛り込むこと。省察レポートは，和文のみならず英文でも作成する。

・授業での振り返りにおいて出来した疑問・意見については，指導者は必ずコメントを述べたり記述したりして，フィードバックを個々の学習者に返すとともに，受講者全体の学びにつながるものは，次の授業の冒頭，その内容・データ等を共有し，学びを深めるようにする。

オフィスアワー・連絡先

研究室にて，毎週（木）の３・４限いずれかで対応します。

面談・質問等の希望がある場合，Ｇメールにて必ず事前にアポを取ってください。　［アドレス］：m_sato@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	異文化理解のための知識・技能を，その活用法まで含めて具体的な事例を示しながら説明できる。
イ	自分のアイデンティティを日々の生活や将来展望の視点に立って，個々の事例の不合理・矛盾を的確に指摘することができる。
ウ	自文化と比較対照しながら異文化の肯定的側面を説明し，それを適用した場合の具体的な状態を説明できる。
エ	多文化共生の具体的な在り方を提起しそれに照らして，具体的な原因・成果を上げながら，より良い在り方を探ることができる。
オ	具体的な多文化共生の現場を想定し，自分とのかかわりや自らの役割を定めて計画・実践することができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☑ PBL（問題解決型学習）
☑ 反転授業（知識習得を教室外，知識確認等を教室で行う授業）
☑ ディスカッション，ディベート
☑ プレゼンテーション
☐ 実習，フィールドワーク
☑ その他（課題等の配信・解答・フィードバック）

その他アクティブ・ラーニングの内容

「多文化共生の視点に立ち，多文化共生社会の担い手として，外国人を含む全ての人との共生・協働に必要な異文化コミュニケーシ ョンの知識・技能を基盤にして，国際社会における異文化交流に活躍できる人材育成を目指す」という視点から，学習者が異文化交流・多文化共生の現場に参画していくよう，積極的で活発なやり取りのある討議へ参画するよう促す。

	授業での ICT 活用 ☑ 双方向型授業に活用 ☑ 自主学習支援に活用
	その他 ICT 活用に関する特記事項 ○ 設定した Google Classroom 上で，授業の概要，演習，課題やテストの配信・解答，フィードバックなど，双方向型授業を行う。 ○ Web 検索並びに生成 AI アプリの使用が可能なラップトップ PC，電子辞書を必ず持参すること。

担当教員の実務経験の内容

① 奈良県での 36 年間の勤務において，高等学校での教職経験・授業研究並びに県教育委員会での指導助言・教育支援の経験に基づき，異文化理解教育の指導を行う。

② 教員の実務経験として，36 年間の内，現場では，文部科学省指定の外国語指導主事とのティーム・ティーチングの指導法の研究，並びに，自律的な読み手の育成をねらいとした SELHi（スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール）のリーディンング指導の研究開発に従事するとともに，教育研究所の英語の学習指導に関する指定研究員を務めた。

また，長らく初任者研修に携わるとともに，管理職５年間に初任者や若手常勤講師の指導力向上に取り組んだ。

更に，学校現場で，実際に当該関係生徒との交流を通じて，人権教育・外国人児童生徒の教育の推進向上にも努めた。

③ 奈良県教育委員会では，３年間，学習情報（教育放送制作）の指導主事，８年間を中学校・高等学校英語科の指導主事として，小学校・中学校・高等学校現場の英語教育・異文化理解教育の改善並びに JET プログラムの運営（外国語指導助手事業の管理運営・指導支援）に従事した。

科目名	英語科指導法Ⅰ						学期	前期
ナンバリング	K1-07-032	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	佐藤 雅之	

科目の概要

【目的】中学校・高等学校における英語の学習・指導に関する知識と授業指導の基礎を身に付ける。

【授業の概要】

(1) カリキュラム／シラバス

・中・高の英語教育の基軸となる学習指導要領及について理解するとともに，学習到達目標及び各時間の指導計画について理解する。コミュニケーション能力の育成に関する見方・考え方に対する最新の動向について学ぶ。

・学習項目： 学習指導要領（目標，見方・考え方），英語教育で指導すべき内容

(2) 生徒の資質・能力を高める指導

・中・高における４技能・「５領域」の指導及び各領域を支える言語材料の指導について基本的な知識と技能を身に付ける。

・学習項目： 学習指導要領，教科用図書 ③目標設定・指導計画

(3) 授業づくり

・中・高の学習到達目標に基づく各学年や科目（高等学校）の各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに，学習指導案（略案）の作成方法を身に付ける。クラスルームイングリッシュ（C・E）の使用についても学ぶ。

・学習項目： 教材研究・授業研究の仕方，ICT 機器の活用，授業場面に応じたクラスルームイングリッシュ

(4) 第二言語習得

・学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解する。現代の国際社会における英語という言語の位置付けについて学ぶ。

・学習項目： 言語習得理論の変遷と最近の動向，現代の国際社会に占める英語という言語の役割

【授業形態】

① 講義 及び 講義内容に基づくやり取り・討議・発表

② 授業観察：授業映像の視聴や授業の参観

③ 授業体験：授業担当教員等の実演を生徒の立場から体験

④ 模擬授業：授業の特定のステージ・言語活動を取り出した模擬授業の実施

［手順］ （模擬授業の）計画→準備→実施→振り返り→改善→再計画（繰り返す）

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	中・高の外国語（英語）の学習指導要領について理解している。	1-1) b)
イ	第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解している。	1-1) a)
ウ	４技能・「５領域」の指導 及び 言語材料の指導について基本的な知識と技能を身に付けている。	1-1) b), 1-1) d) g)
エ	1コマの授業の組み立てに応じた，短い授業展開の略案を作成し，それに沿った授業展開ができる。	1-1) f), i)
オ	基本的なクラスルームイングリッシュを使用して，授業を進行することができる。	1-1) b), j), 1-2) b), 1-3) a)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション 「英語教員の要件とは？」 ①	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90 分）
2	学習指導要領入門 ① ： 枠組みと[解説]	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90 分）
3	学習指導要領入門 ② ： 目標と見方・考え方	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90 分）

4	4技能･5領域の指導 ① : reception と production	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成 (90分)
5	4技能･5領域の指導 ② :「話す」ことの2つの領域	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成 (90分)
6	言語材料の指導	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成 (90分)
7	教材(プリント)・教具の作成, クラスルームイングリッシュ入門	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成 (90分)
8	中間 振り返り・まとめ テスト「ここまでの振り返り・まとめ」	前半授業の総復習 及び 英文・和文レポート作成 (120分)
9	第2言語習得理論	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成 (90分)
10	英語という言語の位置付け	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成 (90分)
11	略案の作成＋[導入] 授業実践 ①	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成 (90分)
12	略案の作成＋[導入] 授業実践 ②	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成 (90分)
13	略案の作成＋[導入] 授業実践 ③	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成 (90分)
14	授業実践の振り返り, 教材研究の仕方	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成 (90分)
15	期末 振り返り・まとめテスト「英語科指導法Ⅰの振り返り・まとめ、指導法Ⅱへの展望」	後半半授業の総復習 及び 英文・和文レポート作成 (120分)

テキスト

○ 中学校外国語科用 文部科学省検定済教科書 (東京書籍)

NEW HORIZON English Course 1 ISBN-13 テキスト番号 978-4487123919 2020年

NEW HORIZON English Course 2 ISBN-13 テキスト番号 978-4487123926 2020年

NEW HORIZON English Course 3 ISBN-13 テキスト番号 978-4487123933 2020年

※ 後期Ⅱで購入する

○ 『実践的英語科教育法』 2018年 (大修館)

テキスト ISBN-13 テキスト番号 978-4469246223 [生協で購入]

※ 適宜, 補助資料を配布する。

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説 (外国語編･外国語活動編)』

『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 (外国語編)』

『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 (外国語編) (英語編)』

※ その他, 授業中に適宜紹介する。

成績評価

発表 (模擬授業)・討議 30%

中間・期末 振り返りテスト 20%

省察レポート 20%

Warm-up, 小テスト等 15%

講義への双方向性のある参加度合い 15%

履修要件及び履修上の注意事項

・外国語(英語)コアカリキュラムに位置付けられた, 中等英語科教員免許取得に欠かせない必修科目です。

・「中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書(教科書)について理解するとともに, 学習到達目標及び年間指導計画, 単元計画, 各時間の指導計画等, 英語科教員として身に付けておくべき実践的かつ広範な知識･技能･資質を身に付ける」という視点に立って, 学習に取り組んでください。

・本年度前期のⅠ, 後期のⅡに引き続き, 次年度の前期Ⅲ, 後期のⅣと段階性と順番性のある科目ですので, 着実な学習への取組によって一つ一つ履修･修得を果たしていってください。

課題に対する指導

・授業において課す課題全て (発表・討議, 中間・期末 振り返り・まとめテスト, 省察レポート等) は, 当該授業の達成目標に照らして作成する。「何を学んだか (何を理解し・何ができるようになったか)」のみならず, その学びを受けて「考察したこと, 自らの学びにとって新たな課題となったこと」についての考察を必ず盛り込むこと。省察レポートは, 和文のみならず英文でも作成する。

・授業での振り返りにおいて出来した疑問・意見については，指導者は必ずコメントを述べたり記述したりして，フィードバックを個々の学習者に返すとともに，受講者全体の学びにつながるものは，次の授業の冒頭，その内容・データ等を共有し，学びを深めるようにする。

オフィスアワー・連絡先

研究室にて，毎週（木）の３・４限いずれかで対応します。

面談・質問等の希望がある場合，Ｇメールにて必ず事前にアポを取ってください。［アドレス］：m_sato@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	中・高の外国語（英語）の学習指導要領のポイント・キーワードについて説明できる。
イ	第二言語・外国語を習得するプロセスについて，ポイント・キーワードを示しながら説明できる。
ウ	４技能・「５領域」の指導 及び 言語材料の指導についてポイントを説明できるとともに，授業の中で試してみることができる。
エ	1コマの授業の組み立てに応じた，短い授業展開の略案を作成し，それに沿った授業展開ができる。
オ	授業場面に応じたクラスルームイングリッシュを使用し，授業をスムーズに進行することができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☑ PBL（問題解決型学習）

☑ 反転授業（知識習得を教室外，知識確認等を教室で行う授業）

☑ ディスカッション，ディベート　☑ プレゼンテーション，模擬授業

☐ 実習，フィールドワーク　☑ その他（課題等の配信・解答・フィードバック）

その他アクティブ・ラーニングの内容

英語科の授業実践・授業を重視し，とりわけ，模擬授業の実施と，それに伴う指導案の作成及び授業の事後研究に重点を置いて取り組む。

授業での ICT 活用

☑ 双方向型授業に活用　☑ 自主学習支援に活用

その他 ICT 活用に関する特記事項

○ 設定した Google Classroom 上で，授業の概要，演習，課題やテストの配信・解答，フィードバックなど，双方向型授業を行う。

○ Web 検索並びに生成 AI アプリの使用が可能なラップトップ PC，電子辞書を必ず持参すること。

担当教員の実務経験の内容

① 奈良県での 36 年間の勤務において，高等学校での教職経験・授業研究並びに県教育委員会での指導助言・教育支援の経験に基づき，英語科指導法の指導を行う。

② 教員の実務経験として，36 年間の内，現場では，文部科学省指定の外国語指導主事とのティーム・ティーチングの指導法の研究，並びに，自律的な読み手の育成をねらいとした SELHi（スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール）のリーディンング指導の研究開発に従事するとともに，教育研究所の英語の学習指導に関する指定研究員を務めた。

③ 奈良県教育委員会では，３年間，学習情報（教育放送制作）の指導主事，８年間を中学校・高等学校英語科の指導主事として，小学校・中学校・高等学校現場の英語教育・異文化理解教育の改善並びに JET プログラムの運営（外国語指導助手事業の管理運営・指導支援）に従事した。

科目名	英語科指導法Ⅱ						学期	前期
ナンバリング	K1-07-033	実務経験の有無	有	単位数	2	担当者	佐藤 雅之	

科目の概要

【目的】中・高における英語の学習・指導に関する知識・技能に基づく，授業の実践力を身に付ける。

【授業の概要】

(1) カリキュラム／シラバス

・中・高の英語教育の基軸となる学習指導要領［解説］について理解するとともに，学習到達目標及び各時間の指導計画について理解する。新しい言語学理論に基づく英語力の構成要素の詳細について学ぶ。

・学習項目： 学習指導要領の要点の実践，学習到達目標（ねらいとめあて）の設定，教科用図書， CEFR に基づく言語教育の新しい展開

(2) 生徒の資質・能力を高める指導

・中・高における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」（「聞く」「読む」「話す［やり取り］」「話す［発表］」及び「書く」こと）の指導及び各領域を支える言語材料の指導について基本的な知識と技能を身に付ける。

・学習項目：４技能・５領域の指導，とりわけ「話すこと［やり取り］」の指導，言語材料の説明・練習のテクニック（教材・教具の工夫）

(3) 授業づくり

・中・高の学習到達目標に基づく各学年や科目（高等学校）の各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに，教科書の言語活動を焦点化した学習指導案（略案）の作成方法を身に付ける。クラスルームイングリッシュの実際の活用についても学ぶ。

・学習項目： Activity に特化した授業展開，指導目的ごとの指導案（略）の作成，指導場面に応じたクラスルームイングリッシュの活用と工夫

(4) 第二言語習得

・学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスを実際の学習指導に活用する。英語という言語を通じた，異文化理解の方途について学ぶ。

・学習項目：・第二言語指導理論の応用，英語と日本語の違い（文法，文型，語彙等）

【授業形態】

① 講義 及び 講義内容に基づくやり取り・討議・発表

② 授業観察：授業映像の視聴や授業の参観

③ 授業体験：授業担当教員等の実演を生徒の立場から体験

④ 模擬授業：授業の特定のステージ・言語活動を取り出した模擬授業の実施

［手順］ （模擬授業の）計画→準備→実施→振り返り→改善→再計画（繰り返す）

目標（この科目を通して獲得をさせたい力）		関連 DP
ア	中･高の外国語(英語)の学習指導要領「解説」について理解している。	1-1) b)
イ	第二言語・外国語を習得するプロセス理論の幾つかを選択し，実際の授業に応用することができる。	1-1) a)
ウ	思考・判断・表現の能力を踏まえた「聞く」「読む」「話す［やり取り］」「話す［発表］」及び「書く」こと）の指導 及び 言語材料の指導について実践的な知識と技能を身に付けている。	1-1) b), 1-1) d) g)

エ	1コマの授業の組み立てに応じた，説明・練習・コミュニケーションの段階に応じた授業展開の略案を作成し，それに沿った授業展開ができる。	1-1) f), i)
オ	クラス全体もしくは個々人に指示・支援するために，的確なクラスルームイングリッシュを使用して，授業を進行することができる。	1-1) b), j), 1-2) b), 1-3) a)

回	授業内容	授業外の学修
1	オリエンテーション　「良い英語授業の要件とは？」	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
2	教科書の活用 ①	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
3	教科書の活用 ②	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
4	指導計画及び授業の組み立て ①	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
5	指導計画及び授業の組み立て ②	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
6	4技能・5領域の指導(reception)	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
7	4技能・5領域の指導(production)	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
8	中間 振り返り・まとめ テスト「ここまでの振り返り・まとめ」	前半授業の総復習 及び 英文・和文レポート作成（120分）
9	教材・教具の活用，ICT機器等の活用	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
10	英語と日本語の違い	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
11	略案の作成＋Activity授業実践 ①	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
12	略案の作成＋Activity授業実践 ②	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
13	略案の作成＋Activity授業実践 ③	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
14	授業実践の振り返り，授業研究の仕方	テキスト該当頁の通読・授業内容の復習 及び 省察作成（90分）
15	期末 振り返り・まとめテスト「英語科指導法Ⅰの振り返り・まとめ、指導法Ⅱへの展望」	後半半授業の総復習 及び 英文・和文レポート作成（120分）

テキスト

○　中学校外国語科用 文部科学省検定済教科書（東京書籍）

NEW HORIZON English Course 1 ISBN-13 テキスト番号 978-4487123919　2020年

NEW HORIZON English Course 2 ISBN-13 テキスト番号 978-4487123926　2020年

NEW HORIZON English Course 3 ISBN-13 テキスト番号 978-4487123933　2020年

［生協で購入］

○　『実践的英語科教育法』　2018年　（大修館）

テキスト ISBN-13 テキスト番号 978-4469246223　※ 前期Ⅰで購入済

※　適宜，補助資料を配布する。

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説（外国語編・外国語活動編）』

『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説（外国語編）』

『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説（外国語編）（英語編）』

※　その他，授業中に適宜紹介する。

成績評価

発表（模擬授業）・討議 30%

中間・期末 振り返りテスト 20%

省察レポート 20%

Warm-up，小テスト等 15%

講義への双方向性のある参加度合い 15%

履修要件及び履修上の注意事項

・外国語(英語)コアカリキュラムに位置付けられた，中等英語科教員免許取得に欠かせない必修科目です。

・「中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書(教科書)について理解するとともに，学習到達目標及び年間指導計画，単元計画，各時間の指導計画等，英語科教員として身に付けておくべき実践的かつ広範な知識・技能・資質を身に付ける」という視点に立って，学習に取り組んでください。

・本年度前期のⅠ，後期のⅡに引き続き，次年度の前期Ⅲ，後期のⅣと段階性と順番性のある科目ですので，着実な学習への取組によって一つ一つ履修・修得を果たしていってください。

課題に対する指導

・授業において課す課題全て（発表・討議，中間・期末 振り返り・まとめテスト，省察レポート等）は，当該授業の達成目標に照らして作成する。「何を学んだか（何を理解し・何ができるようになったか）」のみならず，その学びを受けて「考察したこと，自らの学びにとって新たな課題となったこと」についての考察を必ず盛り込むこと。省察レポートは，和文のみならず英文でも作成する。

・授業での振り返りにおいて出来した疑問・意見については，指導者は必ずコメントを述べたり記述したりして，フィードバックを個々の学習者に返すとともに，受講者全体の学びにつながるものは，次の授業の冒頭，その内容・データ等を共有し，学びを深めるようにする。

オフィスアワー・連絡先

研究室にて，毎週（木）の３・４限いずれかで対応します。

面談・質問等の希望がある場合，Ｇメールにて必ず事前にアポを取ってください。　［アドレス］：m_sato@koyasan-u.ac.jp

評価	満足できる状況
ア	中・高の外国語(英語)の学習指導要領「解説」について，ポイントやキーワードを示しながら説明できる。
イ	第二言語・外国語を習得するプロセス理論から一つ選択し，実際の授業の流れに当てはめ活用することができる。
ウ	思考・判断・表現の能力を踏まえた「聞く」「読む」「話す［やり取り］」「話す［発表］」及び「書く」こと）の指導 及び 言語材料の指導のある授業展開ができる。
エ	1コマの授業の組み立てに応じた，説明・練習・コミュニケーションの段階に応じた授業展開の略案を作成し，それに沿ったスムーズな授業展開ができる。
オ	授業場面に応じた，クラス全体もしくは個々人に指示・支援するクラスルームイングリッシュでやり取りしながらfgx，授業をスムーズに進行することができる。

授業の特徴

授業で実践するアクティブ・ラーニング

☑ PBL（問題解決型学習）

☑ 反転授業（知識習得を教室外，知識確認等を教室で行う授業）

☑ ディスカッション，ディベート　　☑ プレゼンテーション，模擬授業

☐ 実習，フィールドワーク

☑ その他（課題等の配信・解答・フィードバック）

その他アクティブ・ラーニングの内容

英語科の授業実践・授業を重視し，とりわけ，模擬授業の実施と，それに伴う指導案の作成及び授業の事後研究に重点を置いて取り組む。

授業での ICT 活用

☑ 双方向型授業に活用　　☑ 自主学習支援に活用

その他 ICT 活用に関する特記事項

○　設定した Google Classroom 上で，授業の概要，演習，課題やテストの配信・解答，フィードバックなど，双方向型授業を行う。

○　Web 検索並びに生成 AI アプリの使用が可能なラップトップ PC，電子辞書を必ず持参すること。

担当教員の実務経験の内容

① 奈良県での36年間の勤務において，高等学校での教職経験・授業研究並びに県教育委員会での指導助言・教育支援の経験に基づき，英語科指導法の指導を行う。

② 教員の実務経験として，36年間の内，現場では，文部科学省指定の外国語指導主事とのティーム・ティーチングの指導法の研究，並びに，自律的な読み手の育成をねらいとしたSELHi（スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール）のリーディンング指導の研究開発に従事するとともに，教育研究所の英語の学習指導に関する指定研究員を務めた。

また，長らく初任者研修に携わるとともに，管理職5年間に初任者や若手常勤講師の指導力向上に取り組んだ。

更に，学校現場で，実際に当該関係生徒との交流を通じて，人権教育・外国人児童生徒の教育の推進向上にも努めた。

③ 奈良県教育委員会では，3年間，学習情報（教育放送制作）の指導主事，8年間を中学校・高等学校英語科の指導主事として，小学校・中学校・高等学校現場の英語教育・異文化理解教育の改善並びにJETプログラムの運営（外国語指導助手事業の管理運営・指導支援）に従事した。